長池キタノハシ遺跡

野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書II

2000

石川県野々市町教育委員会
野々市町御経塚第二土地区画整理組合

長池キタノハシ遺跡

野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係る

埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

2000

石川県野々市町教育委員会

野々市町御経塚第二土地区画整理組合

例　　言

1　本書は石川県石川郡野々市町長池町に所在する長池キタノハシ遺跡の発掘調査報告書である。遺跡名は発見時に字地名の聞き取りにより長池キタバシ遺跡としたが、「皇国地誌」では北橋（キタノハシ）と記され、今後は長池キタノハシ遺跡と呼称するものである。

2　調査原因は野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係るもので、野々市町御経塚第二土地区画整理組合の委託を受け、野々市町教育委員会が平成２年度（第１次）、平成３年度（第２次）にわたり発掘調査を実施した。第１次調査は平成２年５月17日から12月13日にかけて実施した。第２次調査は平成３年10月29日から12月16日にかけて実施した。調査面積は4420m²である。発掘調査は吉田淳（野々市町教育委員会）が担当し、横山貴広（野々市町教育委員会）・田村昌宏（現石川県埋蔵文化財センター）の補佐を受けた。

3　発掘調査にあたっては御経塚第二土地区画整理組合理事長　塚崎吉信、副理事長　杉林敏信、塚崎昭夫をはじめ組合員各位、長池町各位、野々市町都市計画課の協力を得た。

4　発掘調査の現地作業は次の方々に参加して頂いた。
伊藤忠行、猪又邦子、大村導子、尾崎義雄、北和子、倉由樹子、小松義一、小柳幹男、三納友吉、高出マチ子、谷口珠江、塚本千代子、塚本友枝、塚本房子、塚本美和子、遠塚一豊、長田外美子、橋本富代子、長谷川啓子、浜野光蔵、早崎長三、半村美紀子、東猛、本田喜代美、本田典子、宮野渡　山口恵子、吉田邦一

5　本書の執筆編集は吉田が担当し、遺物の写真撮影を永野勝章（野々市町教育委員会）が行った。遺構の検討は布尾和史（現野々市町教育委員会）の補佐を受けた。出土品の整理作業は次の方々に参加して頂いた。
市村美知栄、大杉　幸江、長谷川啓子

6　発掘調査及び本書の執筆にあたっては下記の方々から御教示・指導を得た。記して感謝申し上げたい。
垣内光次郎、木越隆三、出越茂和、橋本澄夫、藤田邦雄、増山　仁、南　久和、山本直人、湯尻修平（敬称略）

8　本書の各図・写真図版の指示は以下のとおりである。
(1) 本書での遺構・地図等の方位はすべて真北を表示する。
(2) 水平基準は海抜高であり、（m）で表示する。
(3) 各図の縮尺は以下のとおりである。
遺構１／２５０、１／２００、１／１２０、１／８０、１／６０
土器１／３、石器その他１／２、１／３、１／５
(4) 出土遺物実測図中の番号は、遺構図出土位置及び遺物一覧表並びに及び写真図版中の番号に対応する。
(5) 遺構名の略号は以下のとおりである。
竪穴建物（ＳＩ）、掘立柱建物（ＳＢ）、柵列（ＳＡ）、井戸（ＳＥ）、竪穴状遺構（ＳＸ）、土坑（ＳＫ）溝（ＳＤ）、ピット（ＳＰ）、道（ＳＳ）、橋（ＳＧ）

9　本遺跡の出土遺物、記録資料は野々市町教育委員会が一括保管している。

目　　次

第１章　位置と環境 …… 1

第１節　地理的環境と遺跡の位置 …… 1

第２節　周辺の遺跡 …… 1

第２章　調査の経緯と経過 …… 2

第３章 遺構と遺物 …… 9

第１節　概要と土層 …… 10

第２節 古代以前の遺構と遺物 …… 10

1　竪穴建物 …… 10

2　遺物 …… 11

第３節　中世以降の遺構と遺物 …… 14

1　地区の設定 …… 15

2　Ｎ２区 …… 15

3　Ｎ１区 …… 29

4　Ｓ１区 …… 55

5　Ｓ２区 …… 67

6　Ｓ３区 …… 100

7　耕作区 …… 111

遺物一覧表 …… 116

第４章　まとめ …… 120

第１節　出土陶磁器類の組成 …… 120

第２節　土師質土器の分類 …… 121

第３節　中世後期における遺構変遷と集落構造 …… 121

写真図版

第１章　位置と環境

第１節　地理的環境と遺跡の位置

古来より暴れ川として知られる手取川は鶴来町で流路を北より急激に西に向きを変え日本海にそそぐが、氾濫のたびに流れを南遷し現在にいたっている。この手取川によって形成された扇状地は鶴来町を扇頂として扇径約12km、展開度約110度の規模をもち勾配は扇央1/170、扇端1/200を測る。東側では富樫山地の低い急崖と接し、北東端では同山地からの伏見川の形成する泉野扇状地と重なり不鮮明となる。

石川県石川郡野々市町はこの手取川扇状地北東部の扇央から扇端部にかけて南北、6.7km東西4.5km、面積13.56km²の町域を有している。石川県のほぼ中央に位置し、北及び東は県都金沢市、西は松任市、南は鶴来町に接する。

都市近郊の農業地帯として経済基盤を確かなものとしてきたこの地域は、1970年代後半に田園を市街化する目的の土地区画整理事業の開始とともに、農村と新興住宅街が混在する地域と移り変わっていった。しかも近年の人口集中と農業衰退が加わり都市開発は急激に進行を速め、旧来の景観を失い商業地、住宅地へと一変した。

第１図　野々市町位置図

長池キタノハシ遺跡は野々市町北西部の長池町に所在する。ＪＲ野々市駅の西北西200mに位置し、郷用水分流の大塚川と安原川に挟まれる海抜13mの微高地上に立地する。扇状地の端部は河川や小支流が入り組み起伏の複雑な地形であるが、現在は近世及び明治大正期の耕地整理にいたる開発を経て平坦な地形となっている。周辺の調査では東西にほぼ100m前後の距離をおき河道跡や低湿地を確認しており、遺跡の多くはこの低地間南北方向の微高地上に展開している。

第２節　周辺の遺跡

本遺跡の所在する手取川扇状地北端部周辺は遺跡の密集する地域として知られ、縄文時代から中近世にわたり注目する遺跡も多い。多岐にわたる開発に伴う遺跡の発見が相次いでいる地域でもある。

古代以前　縄文時代前期末より中期初頭の土器が出土した上安原遺跡(01047)がもっとも古い時期であり、中期中葉の古府ヒビタ遺跡(01078)、後葉の北塚遺跡(01088)、後期前葉の押野大塚遺跡(16038)が存在する。後期中葉以降遺跡は増加し、馬替遺跡(01400)、米泉遺跡(01125)、御経塚遺跡(16027)、新保本町チカモリ遺跡(01064)、中屋遺跡(01050)、中屋サワ遺跡(01052)、長竹遺跡(08044)、乾町遺跡(08045)など標識遺跡をはじめ注目される遺跡が集中する生活基盤の安定した地域である。

弥生時代では扇端部の八田中遺跡(08128)、御経塚遺跡、扇央部では前述の乾町遺跡で最古の弥生土器が出土している。中期になるとⅡ様式の良好な資料が出土した八木ジワリ遺跡(01059)が北方に位置するが散発的な様相である。後期には安定した稲作を背景とする人口の増加とともに集落の形成が活発化し遺跡は急激に増加する。横江古屋敷遺跡(08142)、御経塚シンデン遺跡(16030)、御経塚遺跡(ツカダ・デト地区)、二日市イシバチ遺跡(16024)、長池ニシタンボ遺跡(16026)が近在し、東方では押野タチナカ遺跡(16036)、押野ウマワタリ遺跡(16037)などが形成される。

古墳時代にはいると遺跡は減少し、前期の集落では上荒屋遺跡(01053)、旭遺跡群の宮永遺跡(08121)、旭小学校遺跡(08123)が見られ、一塚墳墓・古墳群(08126)、御経塚シンデン古墳群(16031)、横江古屋敷遺跡では地域統合を物語る初期の前方後方墳を含む古墳群が出現する。しかし、これ以降集落の拡散により遺跡は減少しその後の営みは７世紀以降を待たなければならない。

奈良・平安時代には扇央部で政治勢力を背景とした開発が着手される。一定の権力を有する首長の存在を象徴する白鳳の大寺院末松廃寺(16013)をはじめ、三浦遺跡(08034)や近年調査された上林新庄遺跡など大規模な基幹遺跡が増加し、８世紀には扇端部で初期荘園の横江荘遺跡(08135)と上荒屋遺跡が出現する。

中世以降　律令制の崩壊とともに手取川扇状地の再開発に取り組んだ在地領主の林・富樫氏は、藤原利仁の末裔と称する加賀斎藤氏の有力な武士団である。両氏とも「和名類聚抄」に載る石川郡の郷名を名字の地とし、林氏は野々市町南部から鶴来町にかけての拝師郷、富樫氏は高橋川中流域の富樫郷をこの地とする。承久の乱で朝廷側につき没落した林氏に対し、幕府側についた富樫氏は守護北条一門の下で勢力を発展させ在地領主の棟梁としての地位を確かなものとし

ていった。建武２年(1335)足利尊氏が冨樫高家を加賀守護に補任した後冨樫氏は守護所を野市に置いたとされ、14～15世紀には野市が加賀の政治・経済の中心となる。しかし、長享２年(1488)冨樫政親が加賀一向一揆の攻撃により滅亡し、天文15年(1546)の金沢御堂建立以後は中心を金沢に明渡すこととなった。この守護所とされる冨樫館跡(16039)が野々市町本町・住吉町地内に所在し薬研掘りの堀が確認されている。野々市町押野町には冨樫氏庶流押野氏の居館である押野館跡(16035)が所在し、館を巡る掘跡、掘立柱建物などの検出や14～15世紀代の遺物が出土している。

中世後期を主体とする本遺跡の南300mには14世紀後半頃の散居村的景観を有する二日市イシバチ遺跡(16024)、北北東400mには14～15世紀の御経塚遺跡デト地区、西500mの松任市横江町には林氏系横江氏が居を構えたとされる14世紀後半～16世紀頃の横江館跡(08137)が存在する。またＪＲ北陸本線南側の野々市町二日市・三日市地内では野々市町北西部土地区画整理事業開始に伴う分布調査において大規模な中世の遺跡が確認されている。

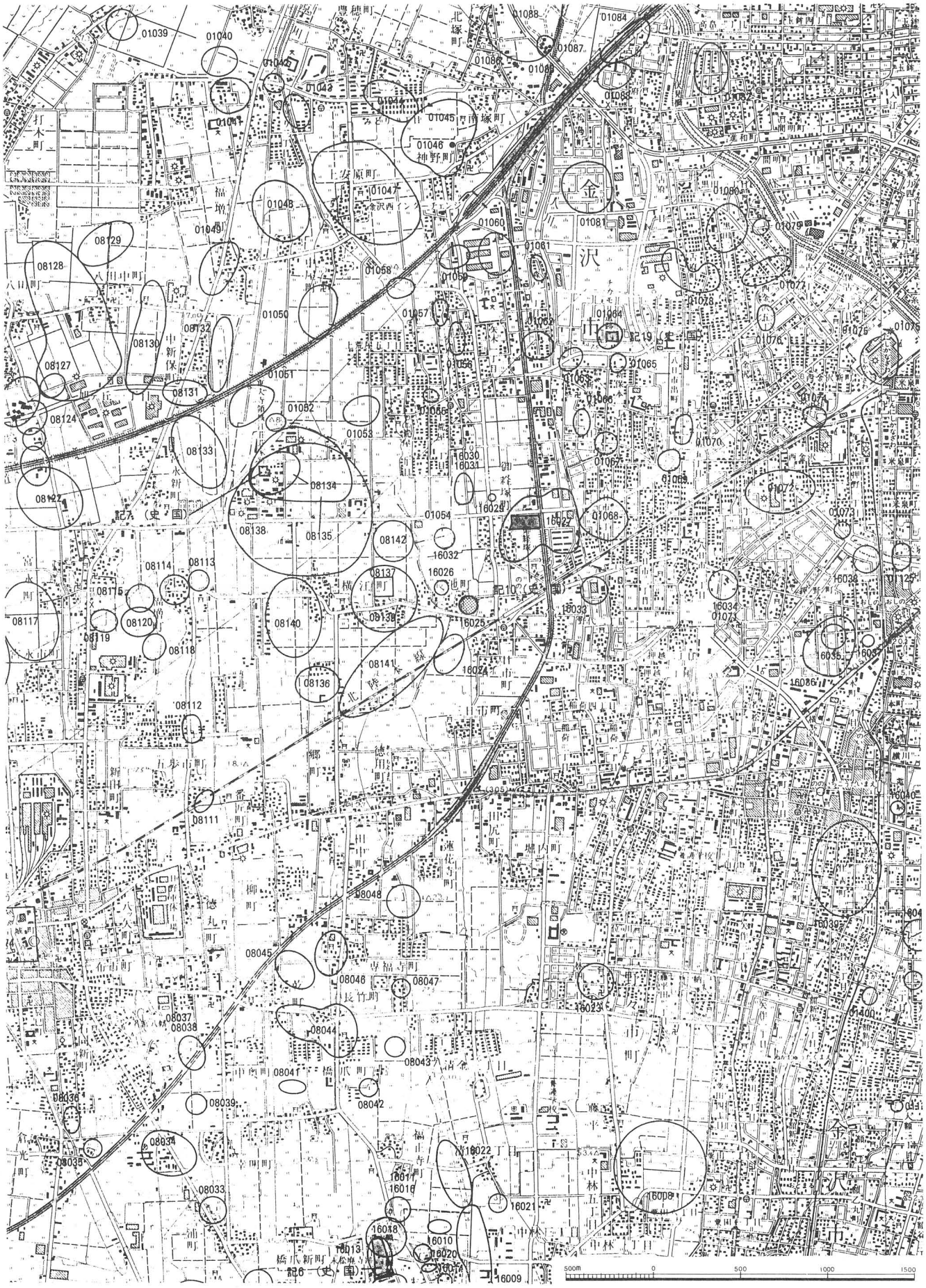
旧長池村の村名は小幡家文書の慶長４年(1599)前田利家宛行状に見られ、高免付給人帳では寛文年間(1661～1672)の家高数４、百姓数４とされている。『皇国地誌』には家数５・人数27とあり町村制施行後は石川郡郷村に所属した。

参考文献 『石川県の地名』平凡社 1991年
『押野村史』石川郡押野村史編集委員会 1956年

第２章　調査の経緯と経過

御経塚町周辺の野々市町北部一帯は国道８号線の開通後、昭和50年代には徐々に開発が進み金沢市近郊地域における道路の整備や住宅地の供給を目的とした土地区画整理事業が相次いで着工している。また８号線東側における御経塚第一土地区画整理事業完成後の昭和57年には御経塚町全域と長池町、二日市町の一部を含むＪＲ北陸本線北側の地域について土地区画整理事業施行の機運が高まり地元では準備委員会が発足した。昭和59年(1984年)には土地区画整理事業認可が決定的な状況となり、この事業区域には周知の御経塚遺跡、御経塚経塚の分布と新たな埋蔵文化財の存在が想定されることから、土地区画整理準備委員会、野々市町都市整備課、野々市町教育委員会の三者により事前協議を行い事業施行予定全域について埋蔵文化財の分布確認調査実施を確認した。昭和59年(1984年)11月30日付けで60.1haにおよぶ面積が市街化区域に編入されている（第３図）。分布調査では新たに御経塚シンデン遺跡、御経塚オッソ遺跡、長池キタノハシ遺跡、長池ニシタンボ遺跡、二日市イシバチ遺跡が発見された。この後の協議で埋蔵文化財は記録保存を目的とする発掘調査とし、住宅及び店舗等が建設必至の街区内についても調査の対象範囲に含め野々市町教育委員会が受託事業として実施することとなった。

長池キタノハシ遺跡の発掘調査は長池地区の工事計画に基づき平成２年度(1990年)に調査完了予定であったが、調査区内の街路予定部分に存在する農業用ハウス敷地については次年度の調査となった。平成２年度の第１次調査は5月17日に調査区の設定を行い翌日から重機による表土除去作業を開始した。遺構検出作業は５月25日より作業員を導入してA10号街路から作業を開始し、耕作溝群を検出したA12号街路へ移動した。次に農業用ハウス北側の街区内調査に入った。調査は南から北へ順に進めたが、遺構の密度は比較的高く当初の調査区を拡張している。中世後期の井戸群や竪穴状遺構など、深い遺構や大型の遺構が多く検出に時間を費やした。この年の夏は猛暑にみまわれ、風の通らぬ井戸の検出は作業員への大きな負担となった。秋口には長雨が続き排水作業に明け暮れ、また井戸への転落事故防止の注意に務めたことが印象として残っている。10月12日からハウス南側の調査を開始し、10月19日から22日にかけて耕作地と考えられた東側調査区に再度入いり東西トレンチを数本設け遺構の状況を確認した。調査区の拡張や調査の内容など事前の分布確認調査に問題の残った調査と言え反省する次第であるが、12月13日に面積4000m²の調査を終了した。A12号街路の築造が迫った平成３年度の第２次調査は10月29日に調査区を設定し同日から表土除去作業を開始した。11月１日より遺構検出作業に入り遺構密度が高く期限までの調査終了が危惧されたが、11月後半以降天候に恵まれ12月16日に面積420m²の調査を終えた。出土品の整理作業は平成９～10年度に実施した。



第２図　周辺の遺跡（1/30000）「石川県遺跡地図」1992より

遺跡地図凡例

「石川県遺跡地図」石川県教育委員会1992より

野々市町

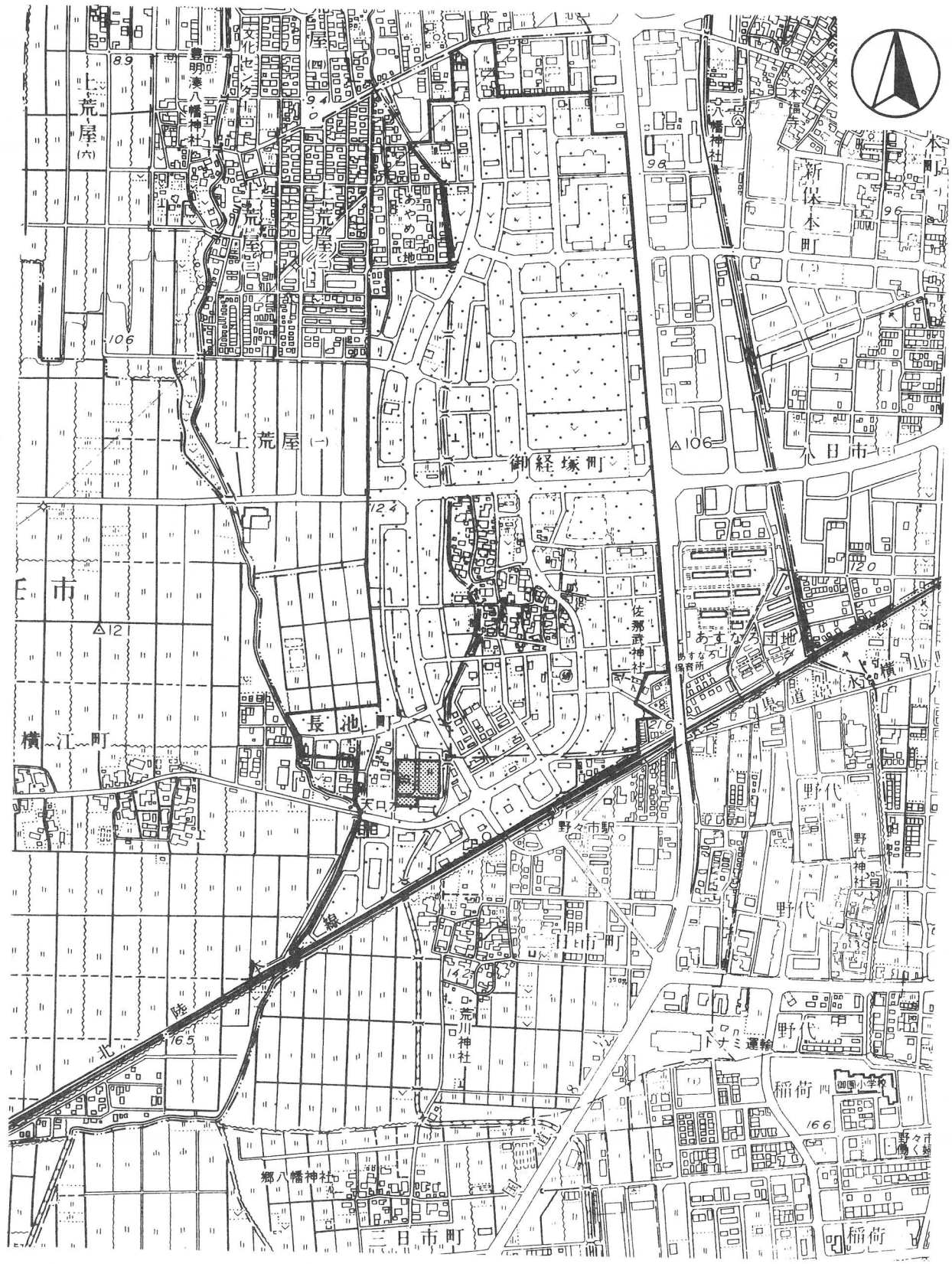
16006 下新庄アラチ遺跡(奈)
16008 粟田遺跡(縄・奈・平)
16009 末松A遺跡(縄・平)
16010 末松B遺跡(弥)
16011 末松福正寺遺跡(古・平)
16012 末松古墳(古)
16013 末松廃寺(奈・平)
16014 末松C遺跡(奈・平)
16016 福正寺跡(平)
16018 末松ダイカン遺跡(奈～中)
16020 古元堂館跡(?)
16021 末松信濃館跡(中)
16022 清金アガトウ遺跡(平～中)
16023 三林館跡(安)
16024 二日市イシバチ遺跡(縄・弥・中・近)
16025 長池キタノハシ遺跡(縄・弥・中・近)
16026 長池ニシタンボ遺跡(縄・弥・中・近)
16027 御経塚遺跡(縄・弥・古・奈・中・近)
16029 御経塚経塚(?)
16030 御経塚シンデン遺跡(縄・弥・古・中)
16031 御経塚シンデン古墳群(古)
16032 御経塚オッソ遺跡(縄・弥・中)
16033 野代遺跡(縄)
16034 上宮寺跡(室)
16035 押野館跡(室)
16036 押野タチナカ遺跡(縄・弥)
16037 押野ウマワタリ遺跡(弥)
16038 押野大塚遺跡(縄・弥)
16039 冨樫館跡(中)
16040 高橋ウバガタ遺跡(弥)
16043 扇が丘ハワイゴク遺跡(縄～中)

金沢市

01039 下安原遺跡(縄・古・中・近)
01040 安原工業団地B遺跡(弥～平)
01041 安原工業団地A遺跡(弥・平)
01042 緑団地下水処理場遺跡(弥)
01043 緑団地公園遺跡(古・平)
01044 上安原緑団地遺跡(弥・古)
01045 南塚遺跡(縄・古)
01046 びわ塚古墳(古)
01047 上安原遺跡(古～平)
01048 中屋ヘシタ遺跡(奈～中)
01049 福増遺跡(?)
01050 中屋遺跡(縄)
01051 下福増遺跡(縄～古)
01052 中屋サワ遺跡(縄・中)
01053 上荒屋遺跡(縄～平)
01055 上荒屋住宅遺跡(弥)
01056 矢木マツノキダ遺跡(弥・古)
01057 矢木ヒガシウラ遺跡(弥・古)
01058 上安原陸橋遺跡(弥・古)
01059 矢木ジワリ遺跡(弥・古)
01060 森戸バイパス遺跡(古)
01061 森戸本町遺跡(縄)
01062 森戸住宅遺跡(縄)
01063 新保本町西遺跡(弥・古)
01064 新保本町チカモリ遺跡(縄)
01065 新保本町東遺跡(縄・古)
01066 新保本町ツカダ遺跡(弥)
01067 新保本町南遺跡(中)
01068 八日市B遺跡(縄・奈・平)
01069 八日市サカイマツ遺跡(縄・奈・平)
01070 八日市ヤスマル遺跡(弥・奈・平)
01072 押野西遺跡(縄・弥・奈・平)
01073 押野大塚古墳(古)
01074 西金沢新町遺跡(古)
01075 日本たばこ金沢工場遺跡(奈・平)
01076 保古町遺跡(奈・平)
01077 黒田B遺跡(平)
01078 古府遺跡(縄)
01079 黒田町三角点遺跡(古)
01080 黒田町遺跡(平)
01081 松島ナカオサ遺跡(平～中)
01082 高畠遺跡(弥・古)
01084 古府クルビ遺跡(弥～平)
01085 おまる塚古墳(古)
01086 宇佐神社古墳(古)
01087 北塚古墳群(古)
01088 北塚遺跡(縄・弥・平・中)
01120 大額キョウデン遺跡(?)
01121 扇台遺跡(弥・平)
01125 米泉遺跡(縄・弥・平)
01400 馬替遺跡(縄)

松任市

08033 三浦常在光寺跡(鎌)
08034 三浦遺跡(古・奈～中)
08035 若林長門館跡(室・安)
08036 倉光館跡(鎌)
08037 幸明経塚(安)
08038 西方寺跡(安)
08039 幸明遺跡(奈・平)
08041 橋爪ガンノアナ遺跡(奈・平)
08042 橋爪松の木遺跡(中)
08043 橋爪遺跡(縄・弥・中・近)
08044 長竹遺跡(縄～古・中)
08045 乾町遺跡(縄～近)
08046 専福寺遺跡(中)
08047 高田遺跡(縄・平)
08048 田中ノダ遺跡(弥・古)
08111 五歩市遺跡(?)
08112 あさひ荘遺跡(奈・平)
08113 福増遺跡(縄・弥)
08114 寝上市左エ門館跡(室)
08115 福増東川遺跡(?)
08117 坊の森遺跡(弥・古・中)
08118 宮永市境田遺跡(奈・平)
08119 宮永雁堀遺跡(縄)
08121 宮永遺跡(古)
08122 宮永B遺跡(縄・古・中)
08123 旭小学校遺跡(弥・古)
08124 一塚オオミナクチ遺跡(弥)
08125 一塚遺跡(縄・弥・中)
08126 一塚墳墓・古墳群(弥・古)
08127 八田小鮒遺跡(弥)
08128 八田中遺跡(縄～古)
08129 八田中中村遺跡(近)
08130 八田中ヒエモンダ遺跡(縄・弥)
08131 八田中アレチ遺跡(縄・弥)
08132 中新保遺跡(?)
08133 下福増遺跡(縄・弥・奈・平)
08134 横江荘々家跡(平)
08135 横江荘遺跡(奈・平)
08136 横江ゴクラク寺遺跡(縄・中)
08137 横江館跡(中)
08138 横江A遺跡(縄・弥)
08139 横江B遺跡(平)
08140 横江C遺跡(古)
08141 横江D遺跡(?)
08142 横江古屋敷遺跡(弥)

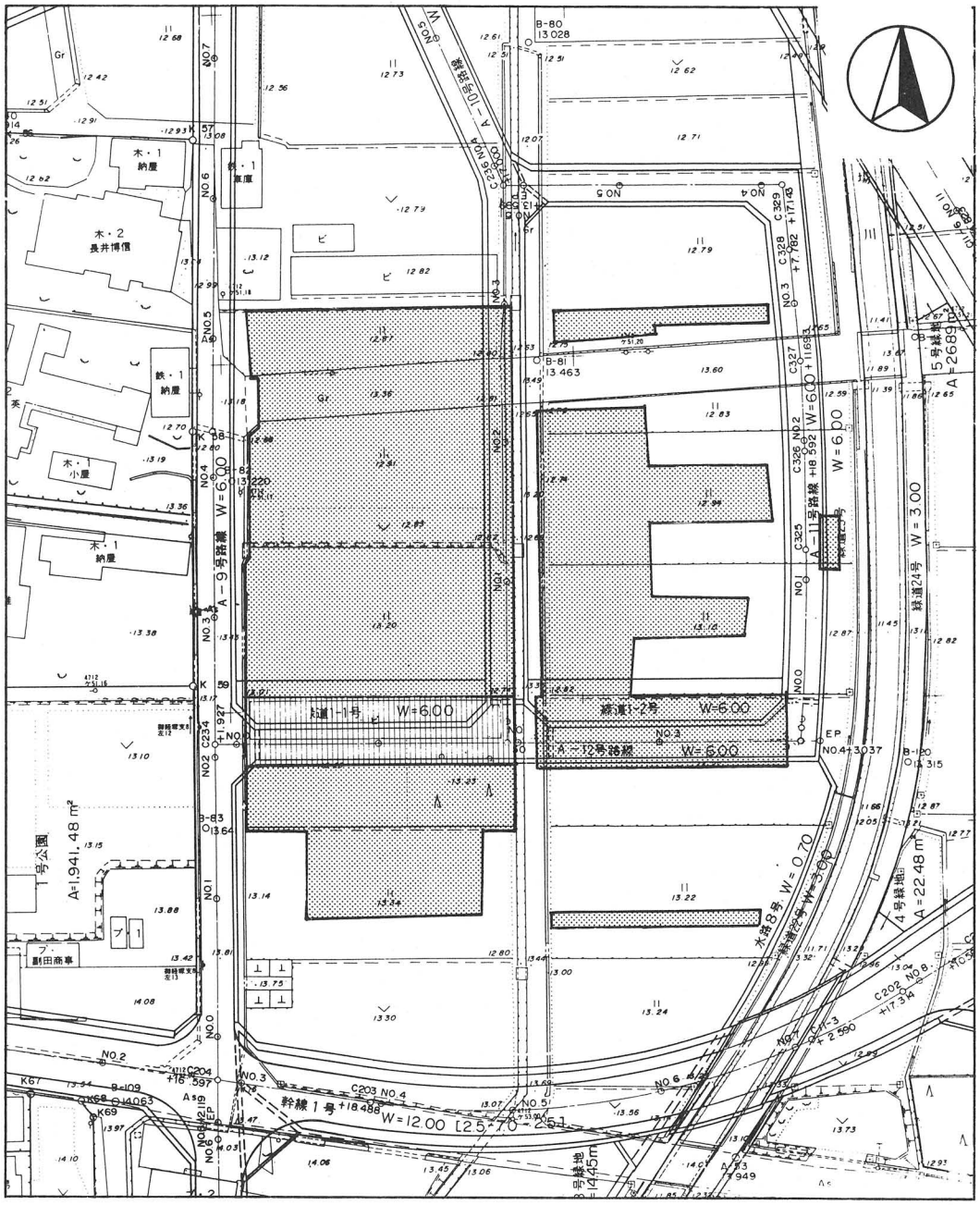


長池キタノハシ遺跡発掘調査区

御経塚第二土地区画整理事業地区

0　500m

第３図　遺跡周辺及び調査区位置図（1/10,000）



平成2年(1990年)調査区

平成3年(1991年)調査区

0 50 m

第4図　長池キタノハシ遺跡調査区図（1/1,000）

第5図　長池キタノハシ遺跡遺構平面図（1/250）座標系第Ⅶ系

第３章　遺構と遺物

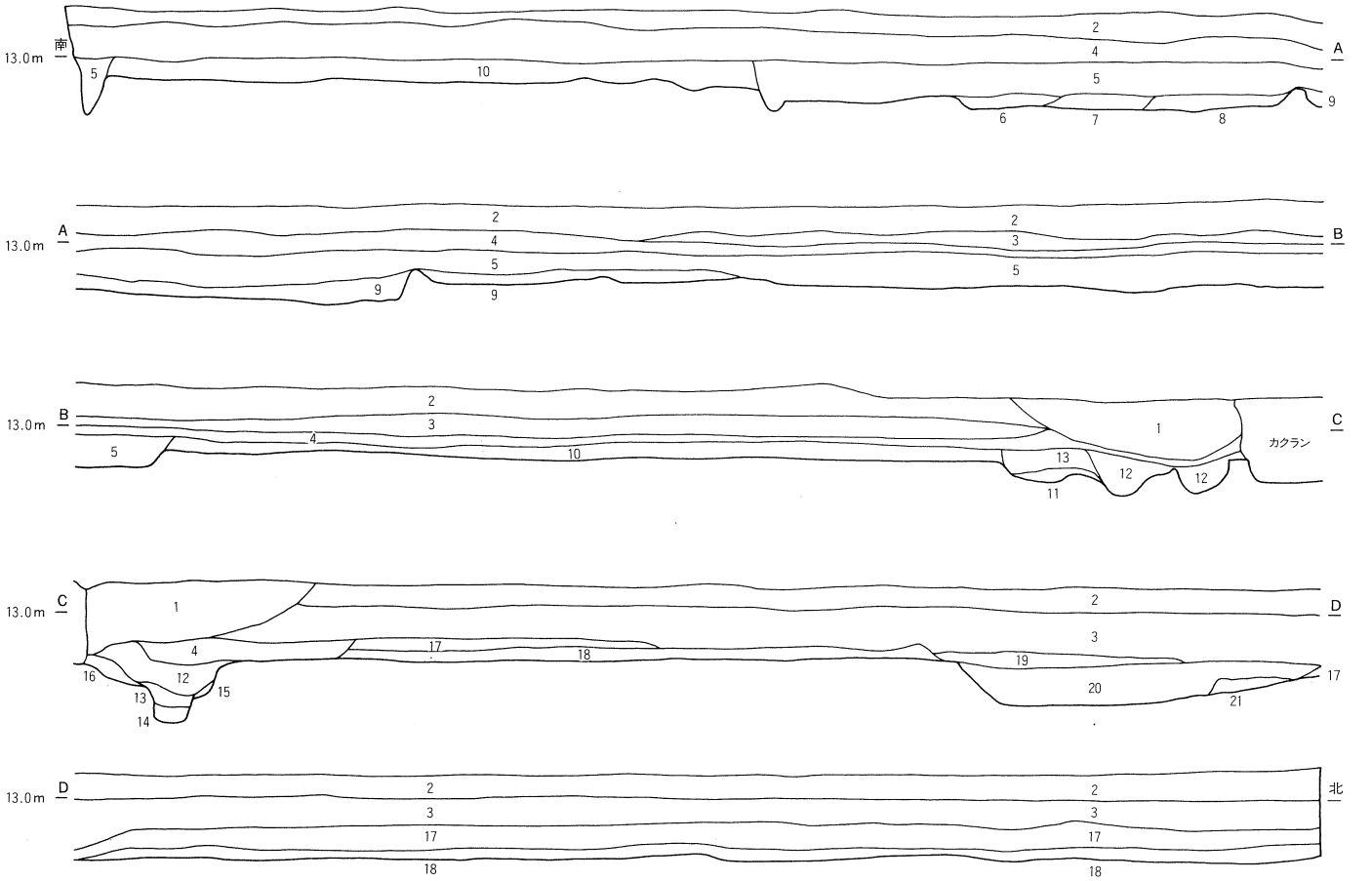
第１節　概要と土層

調査において検出した遺構は、竪穴建物(SI)３棟、掘立柱建物(SB)53棟、柵列(SA)５基、井戸(SE)49基、竪穴状遺構(SK)56基、土坑(SK)57基、溝(SD)29条、道(SS)１条、ピット多数などである。ほとんどの遺構は、14世紀後半から16世紀前半の室町時代に所属する。他の時代では、弥生時代後期に属する竪穴建物１棟の検出と、江戸～明治期の遺物が出土する遺構を確認しているが、後者は調査の時間的制約があったため完掘したものは少ない。

遺物の主体期も遺構同様室町時代であり、生活に密着する陶磁器・石臼・石鉢・行火・囲炉裏縁石などがおもに井戸及び竪穴状遺構から出土している。縄文時代から弥生時代の土器・石器は少量であるが出土し、江戸時代～明治期の陶磁器類なども一定量みられる。

各遺構は西調査区にそれぞれ群を構成して濃密に集中し、遺構の希薄な東調査区の状況とは明らかに異なる。西調査区は村落の集落区域、東調査区は耕作区域と考えられ幾つかの地区割りが可能であり詳細は後述したい。

調査区の基本土層として東調査区西壁の土層観察図を図示した（第６図）。２～４層土が耕作土にあたり調査区全般に拡がる。中世期以前の遺構は５層土の下面から掘り込まれ，４層土は拡がりの状況から近世期の水田整地土の可能性が高い。観察図の６～９・11～16は中世期遺構の覆土、19～21は明治時代末頃から大正期にかけて実施された耕地整理以前の用水溝の覆土である。地山の標高は観察図南端で12.84m、北端では12.56mを測る。



1　暗灰色粘質土(表土)
2　明灰色粘質土(表土)
3　４層土混２層土(表土)
4　灰色粘質土(表土)
5　灰褐色粘質土
6　地山混暗褐色土
7　４層土少混褐色粘質土
8　黄灰色砂質土
9　暗灰褐色粘質土
10　褐色粘質土
11　地山混４層土
12　暗褐色粘質土
13　灰褐色粘質土
14　褐色粘質土
15　地山混暗褐灰色粘質土
16　暗灰褐色粘質土
17　黄灰色粘質土
18　明黄灰褐色粘質土
19　青灰色粘質土
20　青灰黄色粘質土
21　黄灰色砂混20層土

第６図　東調査区　西壁土層断面図（1/60）

第２節　古代以前の遺構と遺物

古代以前の遺構は弥生時代後期竪穴建物ＳＩ01を検出したにとどまり、他の時期については不明である。遺物についても量的に少なく、打製石斧の一定量が目立つにすぎない。

１　竪穴建物

ＳＩ01（第７・８図）

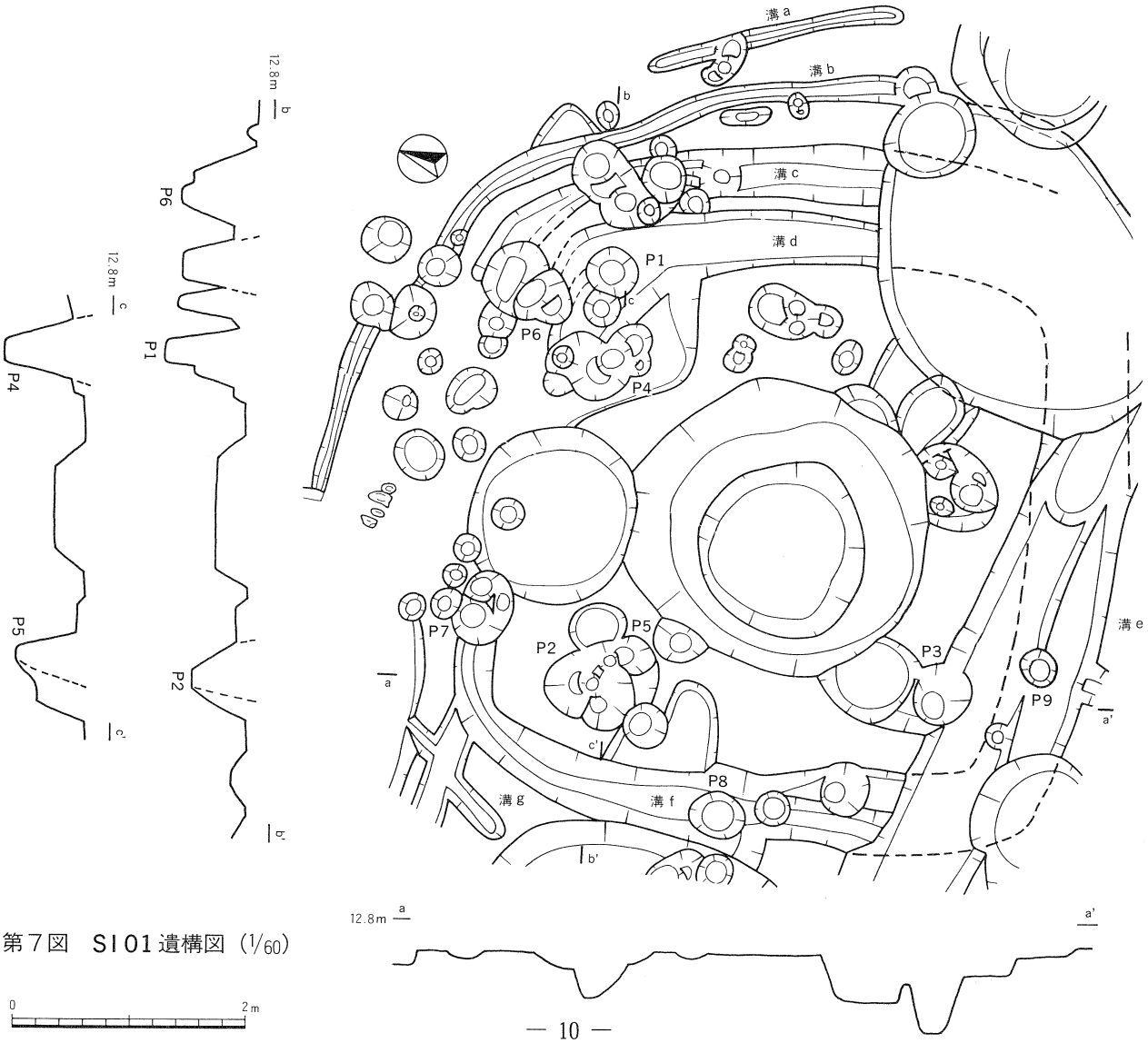
調査区南東部中央に位置するが、中世期の掘立柱建物や井戸、溝と複合し遺構の残存は悪い。隅丸方形状に廻ると考えられる溝ｄ・ｅ・ｆ(以下ＳＩ01ａ)、溝ｃ・ｅ・ｆ(以下ＳＩ01ｂ)、平面六角形状に廻ると考えられる溝ｂ・ｇ(以下ＳＩ01ｃ)を竪穴建物の壁溝と認識している。溝ｂ・ｆは幅18～26cm、深さ４～６cm、溝ｃは幅40～62cm、深さほぼ15cm、溝ｄは幅36～60cm、深さ15～20cm、溝ｅは幅不明、深さほぼ25cm、溝ｆは幅33～40cm、深さ15～19cmを測る。竪穴建物は同心上に建て替えを図っているが、新旧関係や炉跡など他の施設は不明である。

ＳＩ01ａの規模は東西5.5mを測り、南北も同規模と推定する。推定床面積は約28m²で中型の竪穴建物である。主柱穴P4・P5を検出しており、構造は主柱方形４本となろう。P4～P5の柱穴間は2.7mである。

ＳＩ01ｂの規模は東西6.0mを測り、南北も同規模と推定する。推定床面積は約33m²で中型の竪穴建物である。主柱穴P1・P2・P3を検出しており、構造は主柱方形４本となる。柱穴間はP1～P2が3.6m、P2～P3は3.0mである。

ＳＩ01ｃは平面六角形状で径約7.4m前後の規模をもち、主柱円形６本構造の竪穴建物と推定している。推定床面積は約40m²で中型の竪穴建物である。主柱穴P6・P7・P8・P9を検出している。柱穴間はP6～P7が2.8m、P7～P8、P8～P9は3.0mである。

遺物は５・６が溝ｆから出土した。また７～９はＳＩ01と複合する中世期遺構に混入した遺物を図示した。時期は弥生時代後期後半の法仏式期新段階である。



第７図　SI01遺構図（1/60）

2　遺物（第８・９図）

縄文時代の土器が数点出土しているが、３点を図示した。１は条線文が施される。２は口縁部小片であり、やや幅広の沈線文をもち、LR縄文で充填される。時期は後期中葉段階である。３は粗製の深鉢で、LR縄文。４は弥生時代前期柴山出村式期の浅鉢である。内外面とも条痕で調整され、かつ赤彩される。ピットからの出土である。

弥生時代後期の遺物は、ＳＩ01付近で中世期の遺構への混入が目立ったものの、全体の量は少なく小片が調査区全般に散見していた状況である。10・11の器台は包含層からの出土である。古代の遺物では須恵器片３点出土した。図示した12は瓶で沈線間に櫛状具の刺突を施す。石器では打製石斧が21点出土し、このうち16点を図示した(13～28)。このなかの21・27・28は刃部幅が10cmを越え、基部に対し幅広の形態をもつものである。また、磨製石斧(29)、石鏃(30)は各１点の出土である。

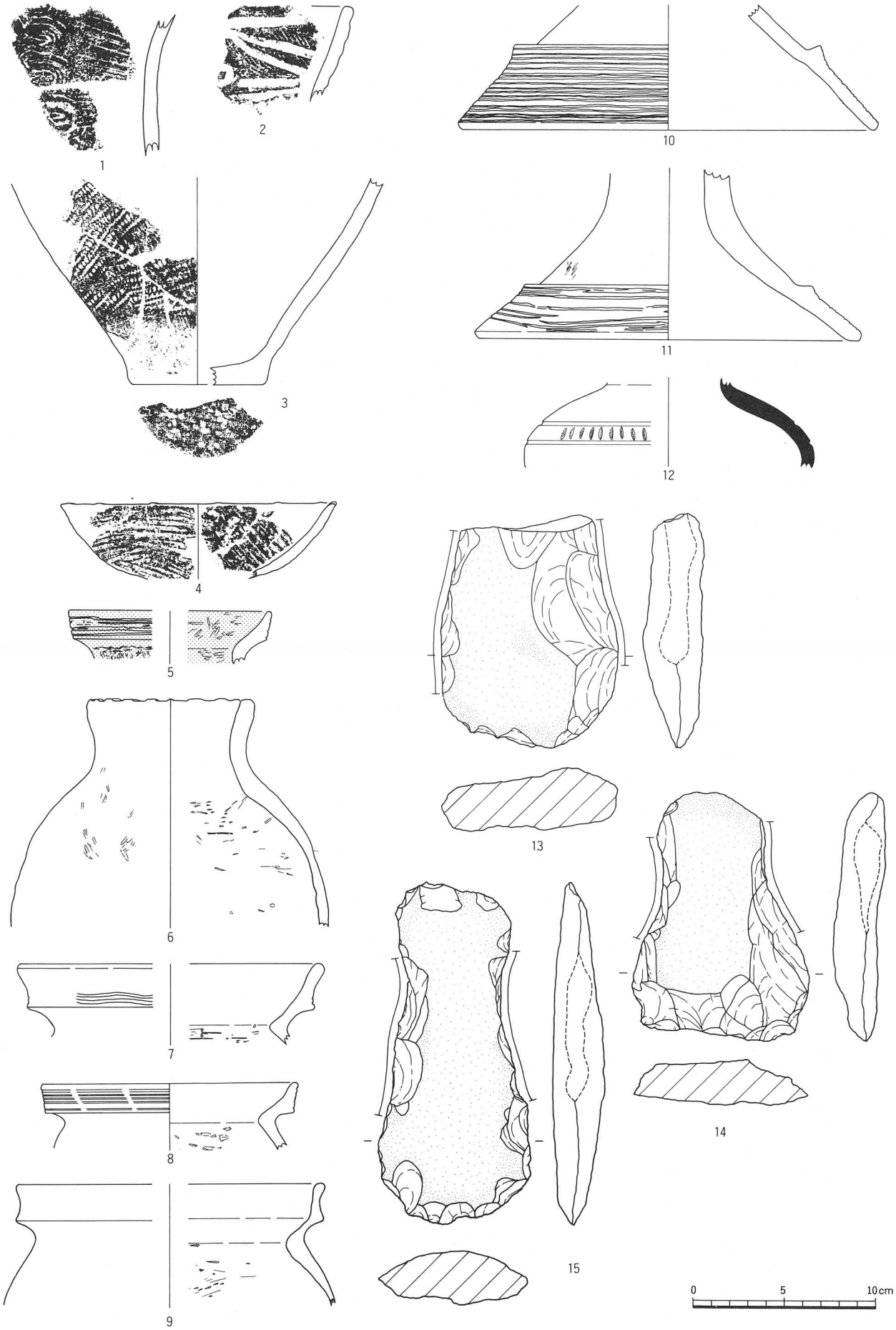
表1　古代以前の遺物一覧表

土　器

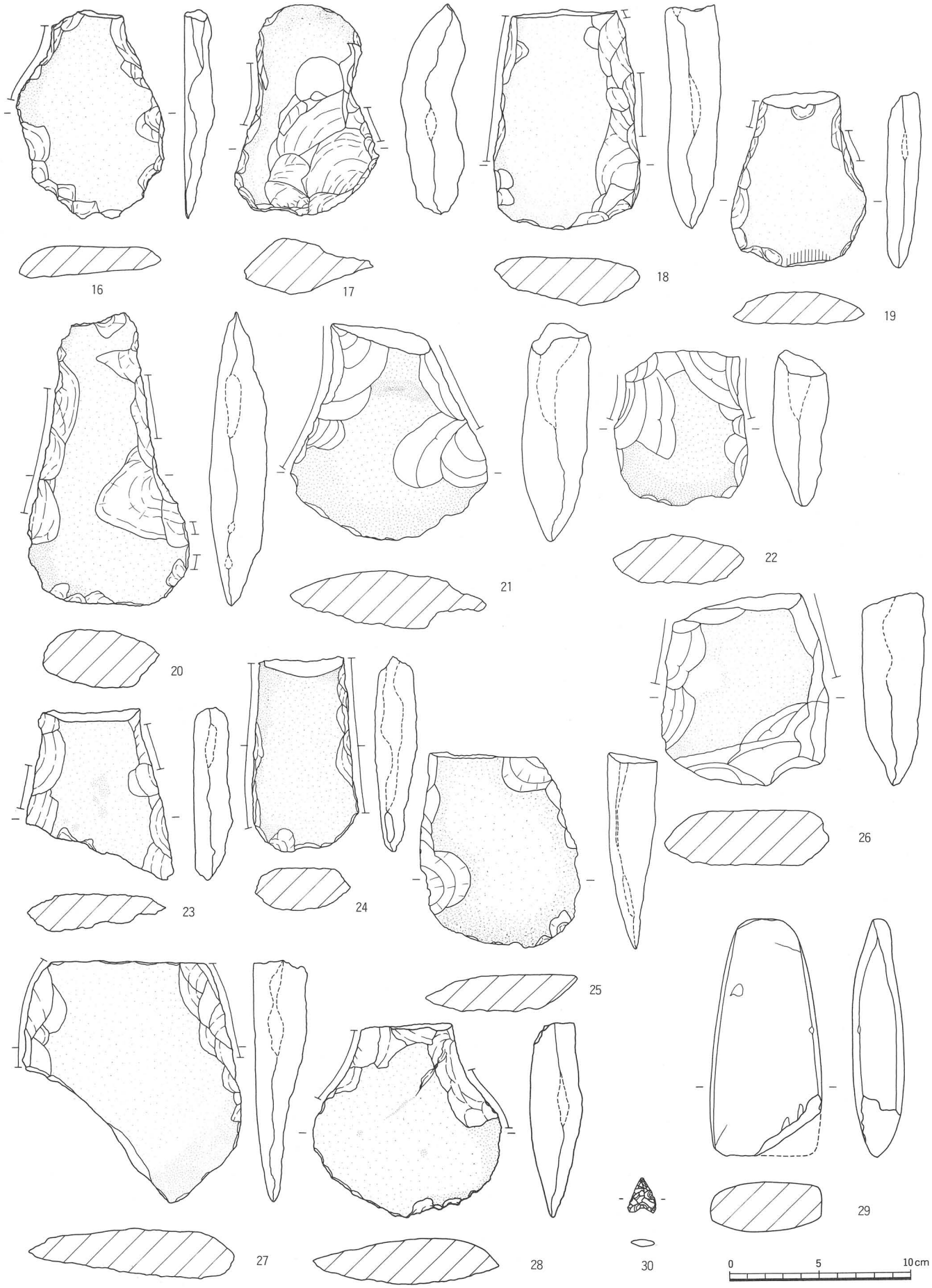
遺物番号	出土地点	器 種	法 量(mm) ()は推定	遺存	色調 外/内	備　考
1	ＳＤ０８ａ	深鉢		小片	暗褐色	縄文土器・後期中葉
2	Ｓ１区	深鉢		小片	暗褐色	縄文土器・後期中葉
3	耕作区	底部		小片	暗褐色	縄文土器・LR縄文
4	N1区	鉢	口径(205)	1/2	茶褐色	弥生土器
					内外赤彩	前期柴山出村式
5	ＳＩ０１	壷	口径(108)	1/8	淡黄褐色	内外赤彩
6	ＳＩ０１	壷	口径 90	1/4	淡橙褐色	
7	ＳＥ４３	甕	口径(166)	1/8	淡茶褐色	
8	ＳＤ１６ａ	甕	口径 140	1/5	淡橙褐色	
9	ＳＥ４４	甕	口径(167)	1/8	暗褐色/褐色	
10	Ｓ２区	器台	底径 230	1/4	淡橙褐色	
11	Ｓ２区	器台	底径 210	1/5	淡橙褐色	
12	ＳＥ０２	瓶	胴径 160	1/5	青灰色	須恵器・9世紀第2四半期

石　器

遺物番号	出土地点	器 種	法　量（mm）　()は欠部				石質等備考
			長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
13	ＳＤ０４	打製石斧	(129)	97	33	(570)	安山岩
14	ＳＸ０１	打製石斧	138	98	25	(420)	火山礫凝灰岩
15	ＳＥ１１	打製石斧	189	84	29	560	火山礫凝灰岩
16	ＳＤ０８ａ	打製石斧	(118)	83	16	(200)	火山礫凝灰岩
17	ＳＤ１０ａ	打製石斧	119	81	32	360	緑色凝灰岩
18	ＳＤ１０ａ	打製石斧	(125)	82	27	(480)	火山礫凝灰岩
19	ＳＤ１１	打製石斧	(100)	75	18	(200)	凝灰岩
20	ＳＤ１１	打製石斧	167	90	32	550	火山礫凝灰岩
21	ＳＥ２４	打製石斧	(123)	112	36	(505)	火山礫凝灰岩
22	ＳＰ１０	打製石斧	(89)	77	31	(242)	火山礫凝灰岩
23	ＳＥ４４	打製石斧	(96)	(78)	24	(185)	安山岩
24	ＳＥ４４	打製石斧	(111)	60	24	(238)	緑色凝灰岩
25	ＳＥ４１	打製石斧	(112)	85	20	(330)	安山岩
26	ＳＸ３６	打製石斧	(110)	93	31	(470)	火山礫凝灰岩
27	ＳＥ４６	打製石斧	(137)	118	31	(540)	火山礫凝灰岩
28	排 土	打製石斧	(111)	107	29	(370)	安山岩
29	ＳＤ１０ａ	磨製石斧	(135)	63	28	(440)	蛇紋岩
30	ＳＫ４８	石鏃	20.0	15.0	3.5	0.9	輝石安山岩



第８図　縄文土器・弥生土器・SI01(5・6)・須恵器・石器（1/3）



第９図　石器（1/3）（30-1/2）

第10図　区域設定図（1/500）

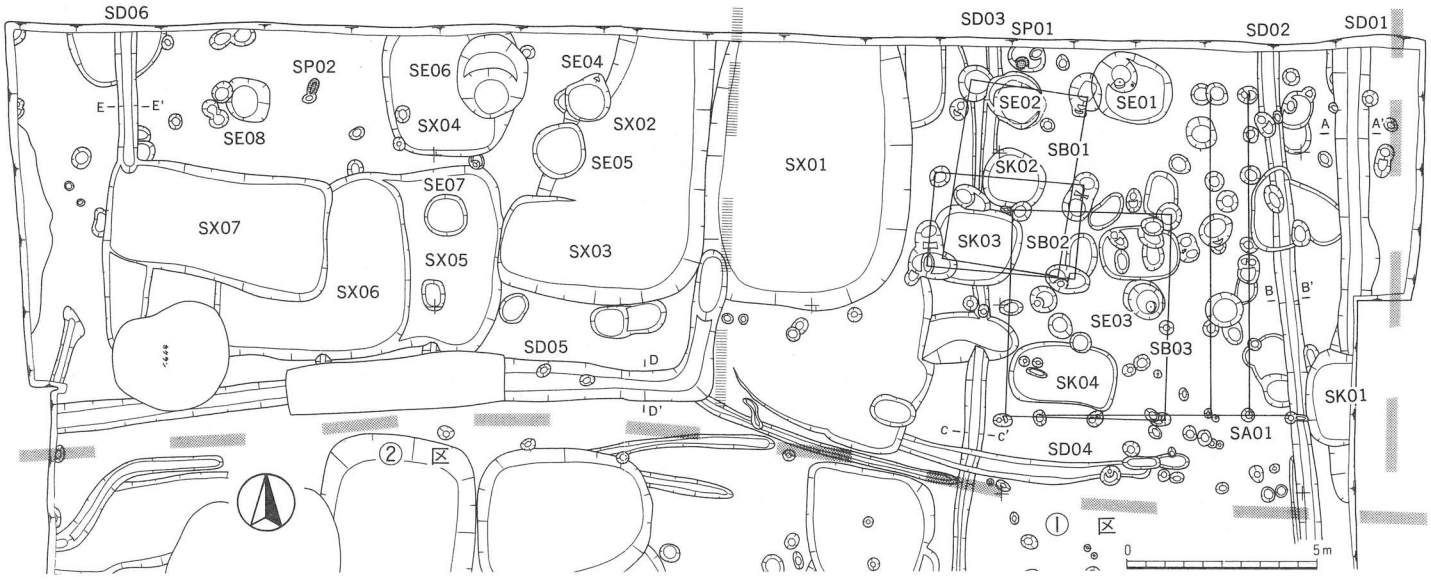
第３節　中世以降の遺構と遺物

１　地区の設定（第10図・第５図参照）

調査区域の様相については第１節の概要で若干述べたが、中世期がほとんどを占める遺構の分布状況には土地の用途と関連して一定の制約が加わっているものと想定される。このため、ここでは地区割の設定を行いたい。まず西調査区東端部の南北溝ＳＤ01・ＳＤ02・ＳＤ09を結ぶ南北ライン付近を境界とし、この西側を集落区（集住区、定住区、ムラ）に、東側を耕作区（ノラ）と設定した(1)。耕作区には掘立柱建物ＳＢ52・53と付属する井戸ＳＥ49が存在するが、ＳＥ49はＳＤ20に切られており、一時的なものと考えたい。また、両区域とも東西方向のＳＤ08とＳＳ01によって南北に区画され、それぞれ北部、南部とした。

集落区、耕作区を南北に分け４地区に地区割を行ったが、集落区については掘立柱建物の群状分布と遺構の粗密をもとに、南北に区画する小地区を５区設けた。北部は溝ＳＤ05及びＳＤ04の東西ラインによりＮ１区とＮ２区に分け、南部は方形区画溝ＳＤ10の南端ラインと掘立柱建物の分布状況からＳ１区、Ｓ２区、Ｓ３区に分けた。さらに、掘立柱建物が複合して構成する一つの群を基本単位として小区の設定を試み、Ｎ２区・Ｎ１区・Ｓ１区はそれぞれ二つの小区、Ｓ２区は四つの小区に分割した。このように地区を設定したが、便宜的なものもある。小地区の東西区画長は不明であるが、南北の区画長はＮ１区、Ｓ１区、Ｓ２区ともに約23m前後となった。

以下この地区割に従い中世期の遺構を主に報告する。各地区にまたがる溝は、断面作図位置の地区において報告した。なお、掘立柱建物について現場で認識できたものは少なく、図上の検討作業により積極的に掘立柱建物とした。全体に柱列の通りは良くなく、柱間寸法もばらつき平面形も歪むものが多い。規模については、矩形を基本としたため、柱間の合計長が一致しない場合もある。作業小屋の性格が強いとされる竪穴状遺構と土坑については、規模が長軸３m以上のものを竪穴状遺構とし区別した。井戸についても土坑との識別が曖昧な部分もある。各遺構の認定など疑問が生じるものや見落としもあることを了承していただきたい。また、遺物については節末の表２中世以降の遺物一覧表、主要遺構の時期は第４章まとめの表４を参照していただきたい(2)。



第11図　集落区－N2区（1/200）

２　Ｎ２区（第11図）

集落区最北部に位置し、掘立柱建物３棟（ＳＢ01～03）、井戸８基（ＳＥ01～08）、竪穴状遺構７基（ＳＸ01～07）、土坑４基などを検出している。東半部の①区では掘立柱建物３棟と井戸３基が複合して一つの群を構成しているが、西半部の②区は竪穴状遺構と井戸により構成される。

(1) 掘立柱建物

ＳＢ０１（第12図）

①区に位置し、ＳＢ02・03と複合する。ＳＢ02・ＳＥ01・ＳＫ03を切る。梁行１間3.1m、桁行２間4.9m、床面積約15m²、主軸（Ｎ10°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。柱間寸法は西側柱穴Ｐ1～Ｐ2間3.1m、Ｐ2～Ｐ3間1.8m、東側柱穴Ｐ4～Ｐ5間2.9m、Ｐ5～Ｐ6間2.0mを測る。柱穴は円形でばらつきが見られるが、径60～95cm内に収まる。深さはＰ4が80cmと深く、他は50～55cmを測る。

ＳＢ０２（第12図）

①区に位置する。梁行１間2.6m、桁行１間4.0m、床面積約10m²、主軸（Ｎ85°Ｗ）の東西棟である。柱穴は円形で、径50～68cm内に収まる。深さはＰ2が70cmと深く、他は45～55cmを測る。

ＳＢ０３（第12・18図）

①区中央部に位置する。ＳＢ01・02との切り合いは不明。梁行１間4.2m、桁行２間5.5m、床面積約23m²、主軸（Ｎ３°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。柱間寸法は西側柱穴Ｐ1～Ｐ2間2.6m、Ｐ2～Ｐ3間2.9m、東側柱穴Ｐ4～Ｐ5間2.9m、Ｐ5～Ｐ6間2.6mを測る。柱穴は円形と楕円形があり、大きさはばらつく。円形の柱穴はＰ4が径75cmと大きく、他は径32～38cmである。楕円形柱穴の大きさはＰ1が50×58cm、Ｐ2が40×62cmである。深さは14～38cmを測る。

(2) 柵列

ＳＡ０１（第13図）

①区ＳＢ群の東に位置する。Ｐ1～Ｐ6が東西に並び、これにＰ7～Ｐ10・Ｐ4列とＰ11～Ｐ12・Ｐ5列が南北に直交して二列並び、Ｔ字状となる。Ｐ1～Ｐ6間は1.4m・1.6m・1.45m・1.15mの計6.7m、Ｐ7～Ｐ10・Ｐ4間は2.3m・1.8m・2.2m・2.3mの計8.6m、Ｐ11～Ｐ14・Ｐ5間は2.1m・1.85m・2.65m・1.9mの計8.5mとなる。南北列の方位は（Ｎ０°Ｅ）である。柱穴は円形で大きさは径20～50cm、深さも10～45cmとばらつく。

(3) 井戸

ＳＥ０１（第14・18図）

①区北に位置する。平面形は楕円形で長軸2.15m、短軸1.75m、底面径80cm、深さ2.0m、底面標高10.50mを測る。地山のシルト層は検出面から70cmの深さで砂の混ざる礫層となる。

ＳＥ０２（第14・18図）

①区ＳＥ01の西1.2mに位置する。平面形は楕円形で長軸1.6m、短軸1.45m、底面径80cm、深さ2.15m、底面標高10.40mを測る。

ＳＥ０３（第14・19図）

①区ＳＥ01の西1.2mに位置する。平面形は略円形で径1.0～1.15mである。深さ1.4mで検出を断念した。

ＳＥ０４（第14図）

②区北東に位置し、ＳＸ02と複合する。平面形は略円形で径1.1～1.2m。底面径95cm、深さ1.5m、底面標高10.81mを測る。

ＳＥ０５（第14・20図）

②区北東に位置し、ＳＸ02と複合する。平面形は円形で径1.4m、底面径1.15m、深さ0.9m、底面標高11.42mを測る。他の井戸より浅く土坑の可能性がある。

ＳＥ０６（第14・20図）

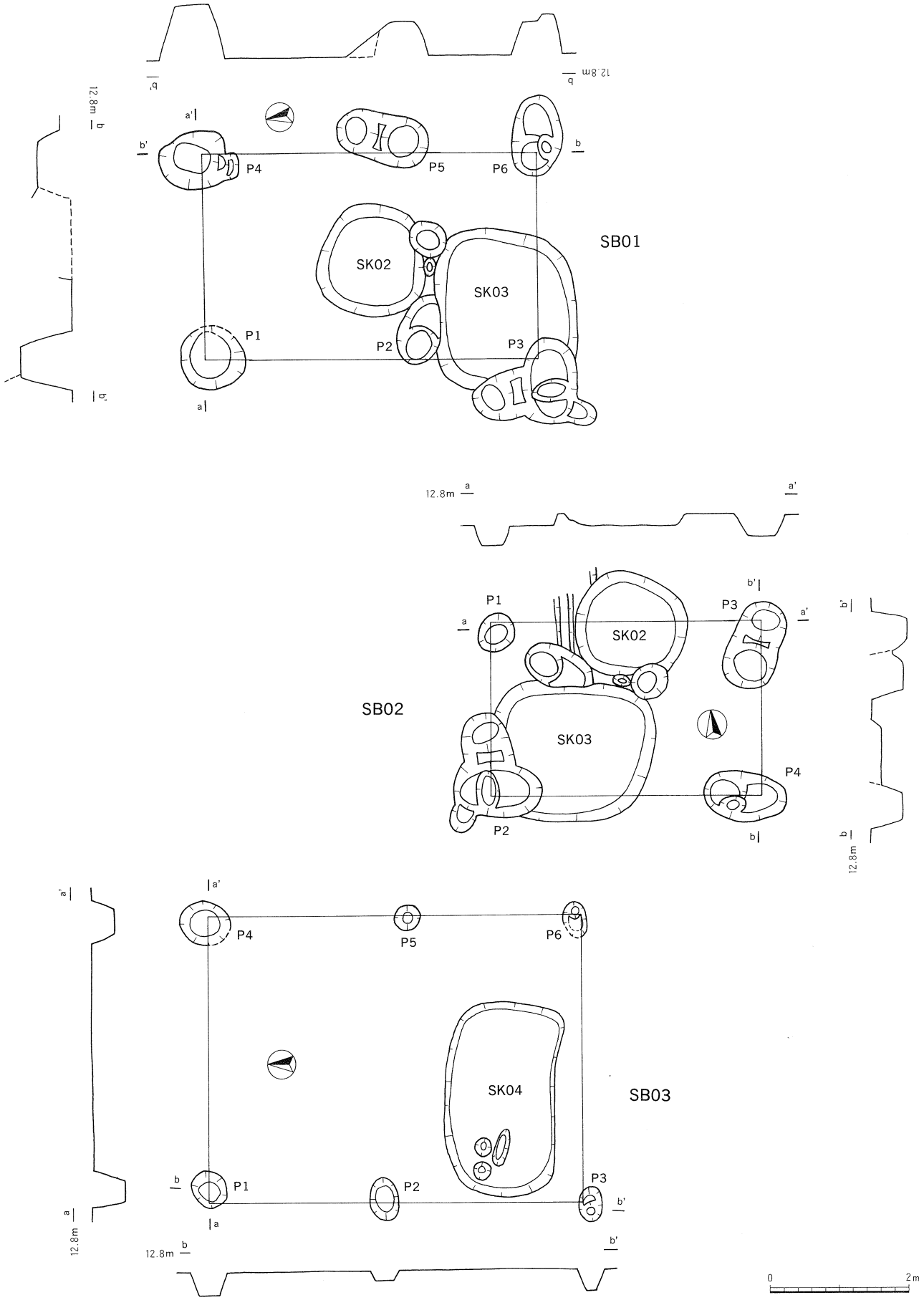
②区北東に位置し、ＳＸ04と複合する。平面形は楕円形で長軸2.2m、短軸1.85m、底面径85cm、深さ1.45m、底面標高10.88mを測る。

ＳＥ０７（第14図）

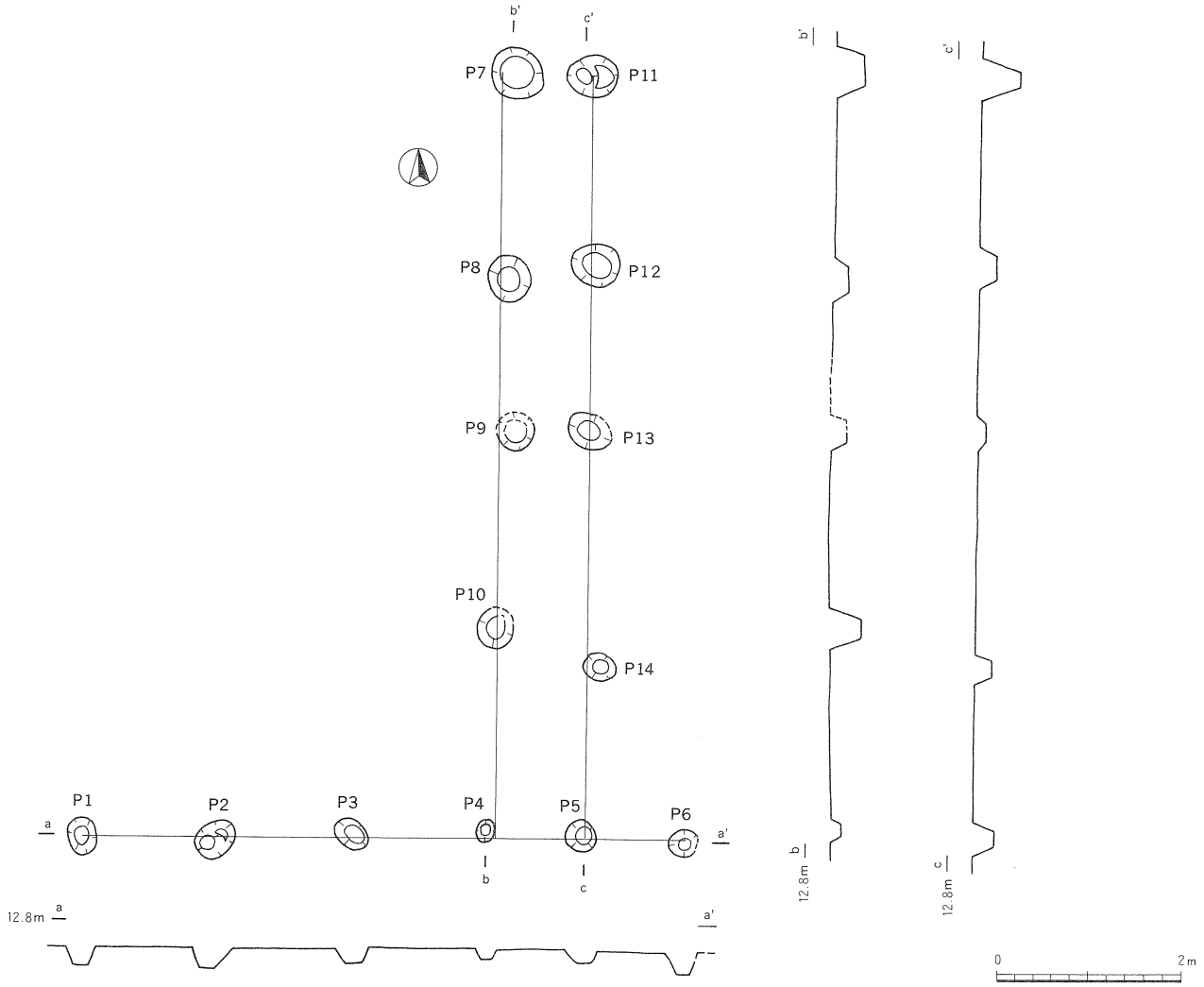
②区北東に位置し、ＳＸ05と複合する。平面形は略円形で径1.10～1.15mである。深さ1.1mで検出を断念している。

ＳＥ０８（第14・20図）

②区北西に位置する。平面形は略円形で径1.1～1.2m。底面径70～90cm、深さ1.1m、底面標高11.16mを測る。



第12図　N2区　SB01～SB03 遺構（1/80）



第13図　N2区　SA01 遺構図

(4) 竪穴状遺構

SX01（第15・20図）

①区に位置し、ＳＸ03を切る。平面形はやや胴の張る隅丸方形で、長軸6.8m以上、短軸5.3m、深さ25cmを測る。面積は33m²以上である。西側の一地点に自然礫がまとまってみられた。

SX02（第15・21・22図）

②区北東に位置し、ＳＸ03と複合するが切り合いは不明。平面形は不整な長方形状を呈するものと考えられ、短軸4.3m、長軸は6.8m以上か。深さ28cm、底面には自然礫がまとまってみられた。

SX03（第15・22図）

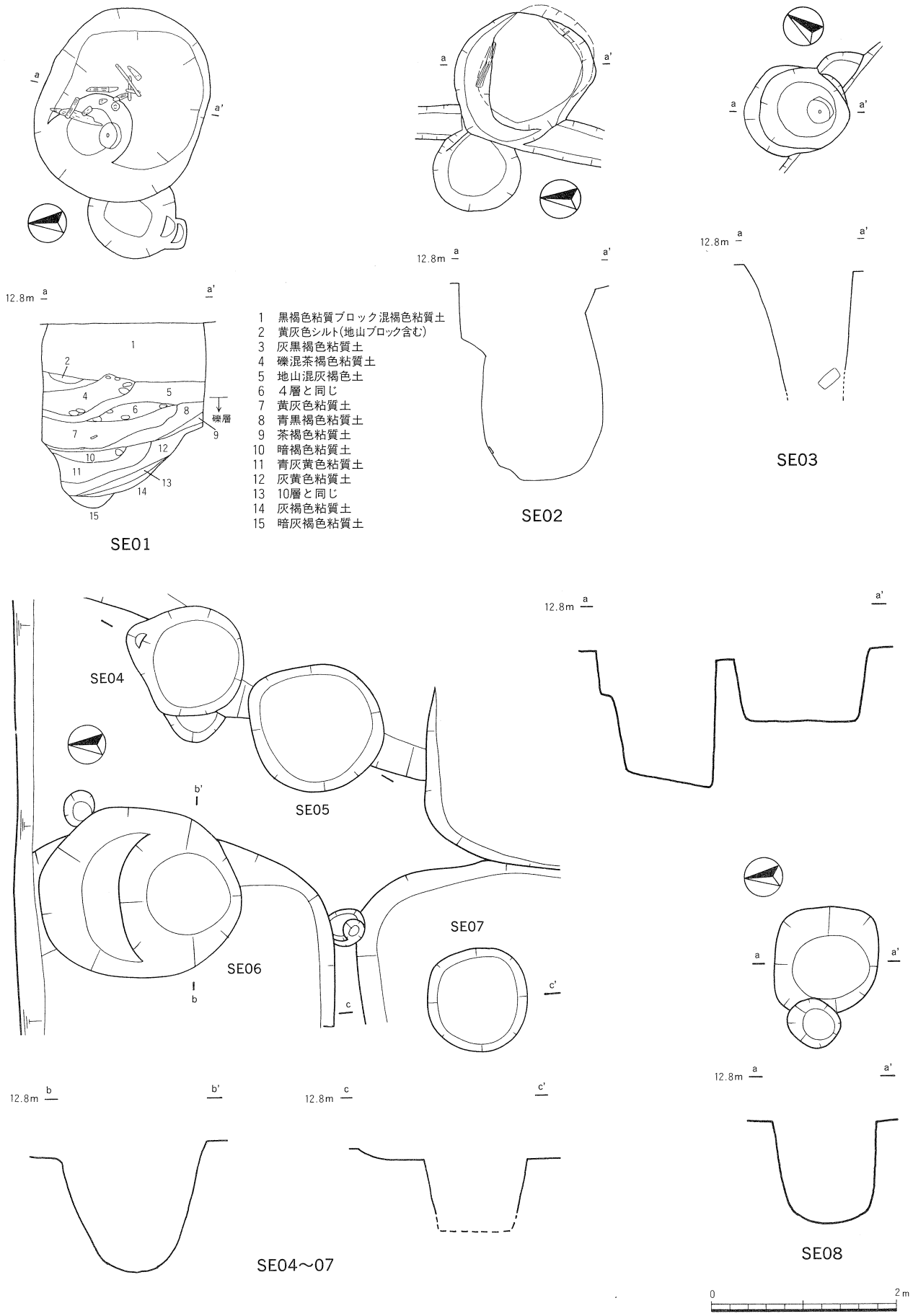
②区東に位置し、ＳＸ02・05と複合しＳＸ05を切る。平面形は隅丸方形で、長軸5.2m、推定短軸2.7m、推定面積14m²、深さ28cmを測る。ＳＸ02同様、底面には自然礫がみられた。

SX04（第16・23図）

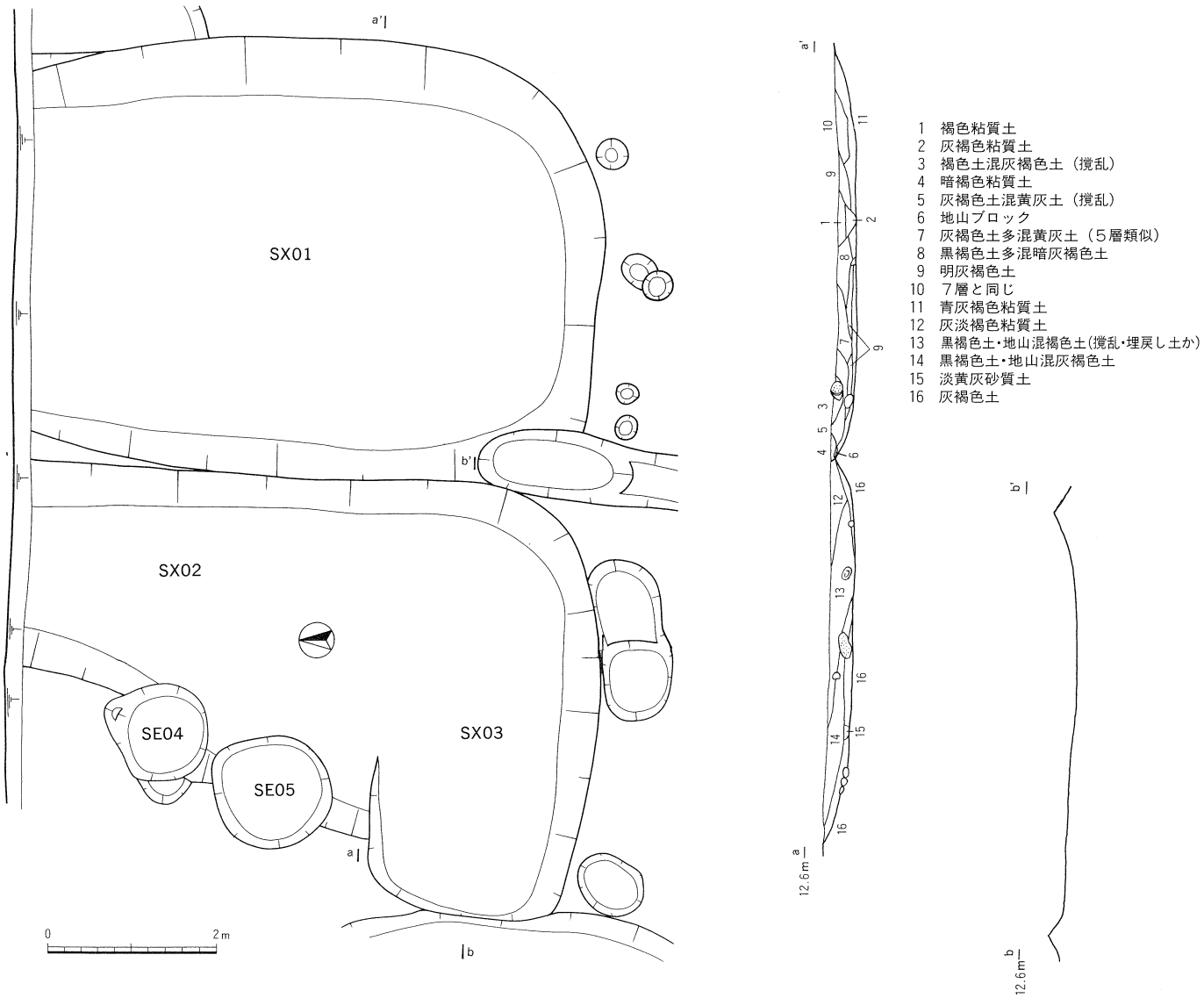
②区北に位置しＳＥ06と複合する。平面形は隅丸方形と考えられ、推定長軸3.5m、短軸3.3m、推定面積11m²、深さ28cmを測る。

SX05（第16・23図）

②区中央に位置し、複合するＳＸ03・06に切られる。平面形は隅丸方形と考えられ、長軸4.6m、短軸は不明。深さ24cmを測る。



第14図　N2区　SE01～08 遺構図（1/60）



第15図　N2区　SX01～03 遺構図（1/80）

ＳＸ06（第16・23図）

②区中央に位置し、複合するＳＸ05を切りＳＸ07に切られる。平面形は隅丸方形で、長軸5.2m、短軸4.9m、面積約23m²、深さ34cmを測る。

ＳＸ07（第16・23図）

②区中央に位置し、複合するＳＸ06を切る。平面形は隅丸方形で、長軸6.0m、短軸3.25m、面積17m²、深さ24cmを測る。平面形がＳＸ06と重なる東辺と南辺には自然礫が１段または２段に並べられている。これは、ＳＸ06が若干埋まった段階で予定するＳＸ07の平面形に礫を並べたもので、土留めの用途と考えられる。

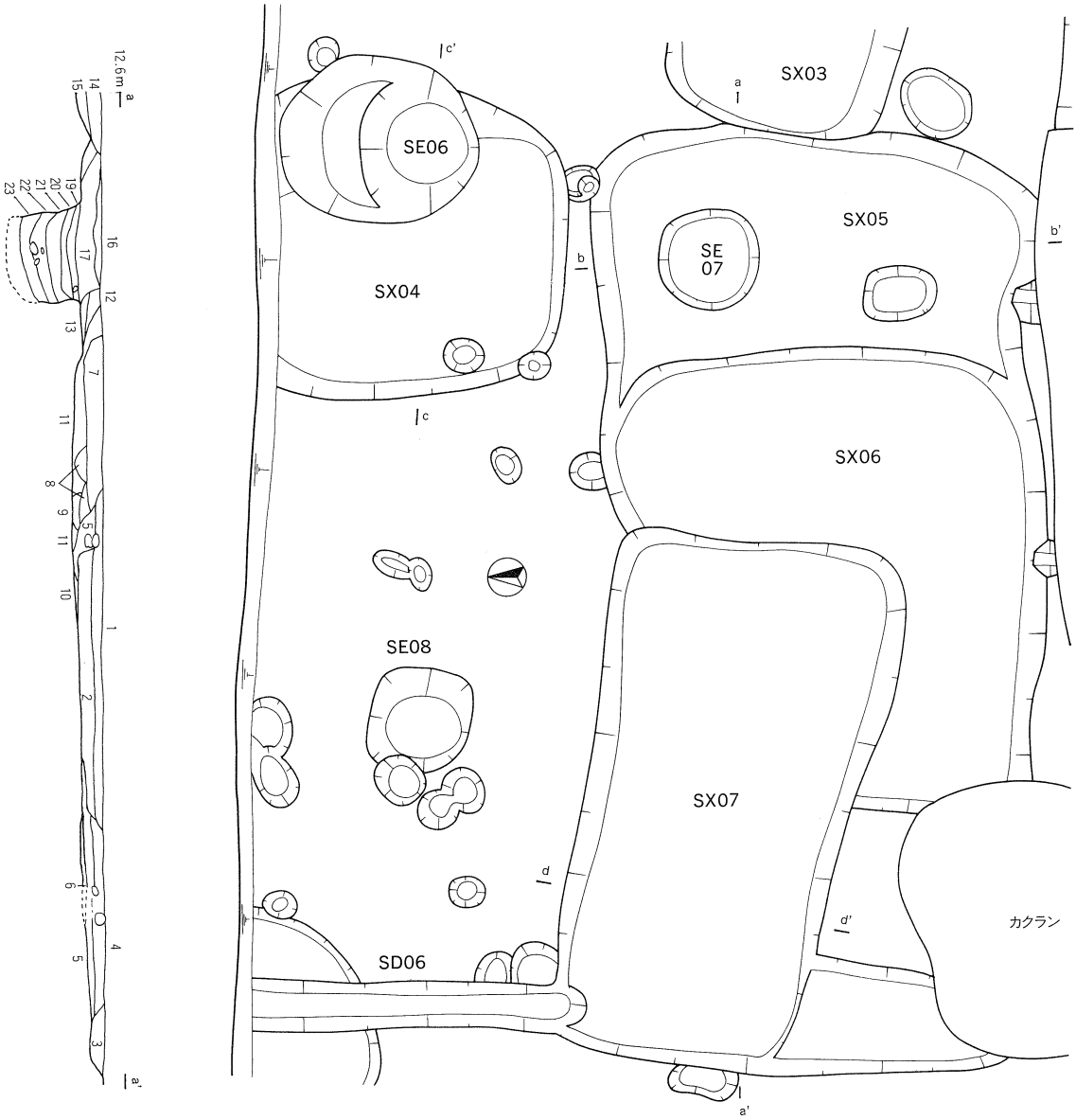
(5) 土坑

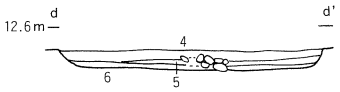
ＳＫ01（第17・23図）

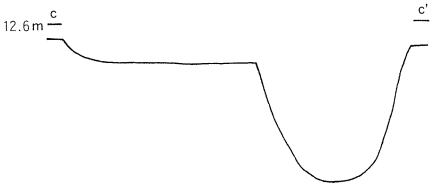
①区南東に位置し、複合するＳＤ02を切り、ＳＤ01に切られる。約1/2の検出である。平面形は隅丸方形で、長軸2.6m、短軸は不明。深さ93cmと深い。

ＳＫ02（第17図）

①区中央に位置し、複合するＳＢ03のピットに切られる。平面形は隅丸方形で、長軸1.65m、短軸1.55m、深さ16cmを測る。



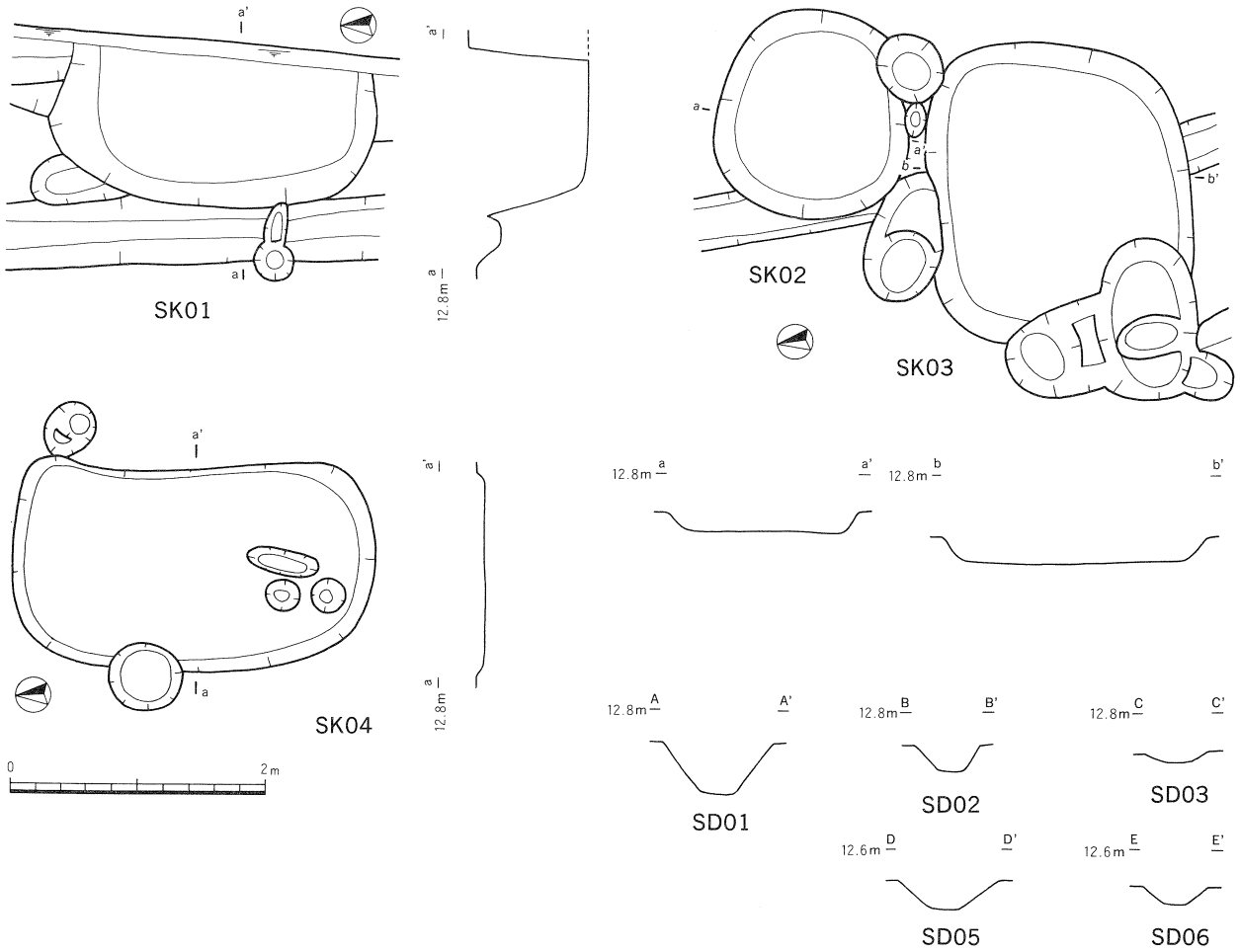




1 灰褐色粘質土
2 褐色粘質土
3 灰色砂質土混灰褐色粘質土（SD06）
4 暗灰褐色粘質土
5 明灰褐色土
6 灰色粘質土
7 明黄灰色粘質土（埋戻土）
8 明灰褐色粘質土
9 暗灰褐色粘質土
10 明褐色粘質土
11 灰褐色粘質土
12 黒色土・明黄灰色土混灰褐色粘質土
13 黒色粘質土混灰褐色粘質土
14 暗橙褐色粘質土
15 暗灰褐色粘質土
16 灰褐色粘質土
17 明褐色粘質土
18 黒色粘質土混明褐色粘質土
19 青灰褐色粘質土
20 地山混青灰褐色粘質土
21 暗青灰褐色粘質土
22 礫多混濁黄灰色粘質土
23 青灰色粘質土

0 2m

第16図　N2区　SX04～07 遺構図



第17図　N2区　SK01～03 遺構図・SD01～03・05・06 断面図（1/60）　（SD断面図は第11図）

SK03（第17・23図）

①区中央に位置し、複合するＳＢ01のピットに切られる。平面形は隅丸方形で、長軸2.4m、短軸2.1m、深さ20cmを測る。

(6) 溝

SD01（第11・23図）

東半部の①区東端に位置する南北溝である。複合するＳＫ01を切ることから、ＳＤ02より新期の溝である。幅0.8～1.0m、深さ40cmを測る。

SD02（第５図）

Ｎ２区・Ｎ１区の東端に位置する南北溝であり、複合するＳＫ01・ＳＸ08に切られる。幅50～60cm、深さ17～23cmを測り、耕作区のＳＤ20とは17mの距離を置き並行する。

SD03（第５・23図）

Ｎ２区・Ｎ１区の東半部に位置する南北溝であり、複合するＳＫ02・ＳＤ04に切られる。幅30～50cm、深さ８～14cmを測る。

SD04（第11・23図）

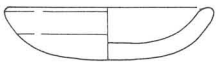
東半部の①区南端に位置する東西溝であり、複合するＳＤ03を切る。幅42～60cm、深さ10～14cmを測る。

SD05（第11図）

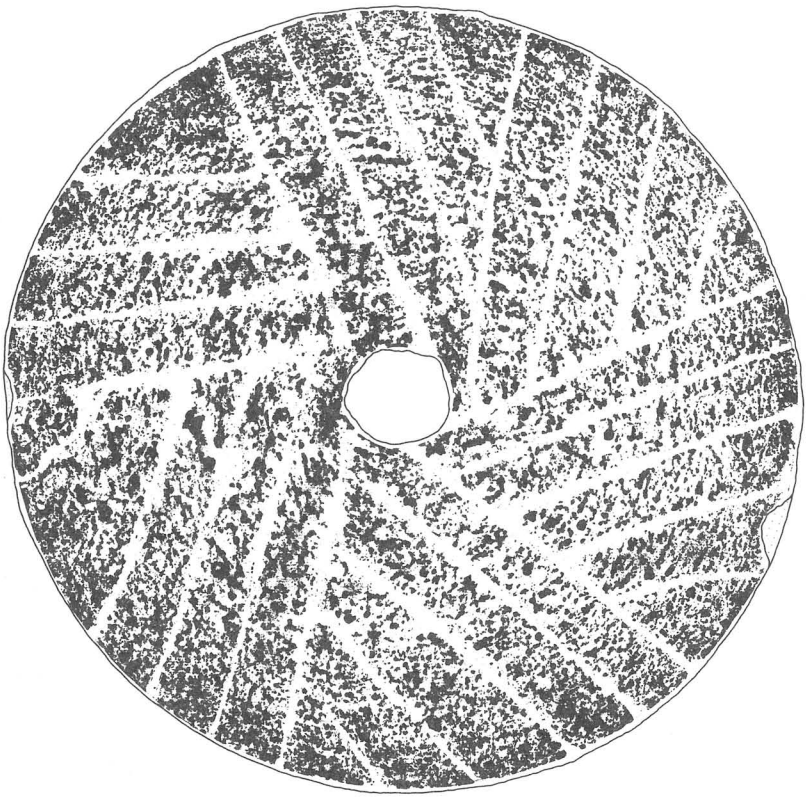
西半部の②区南端に位置する東西溝である。Ｎ２区中央部においてＬ字状に北へ向きを変え複合するＳＸ01を切る。幅0.7～1.1m、深さ13～43cmを測る。

SD06（第11図）

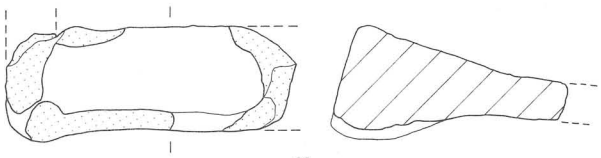
西半部の②区に位置する南北溝であり、複合するＳＸ07を切る。幅50～60cm、深さ15～17cmを測る。



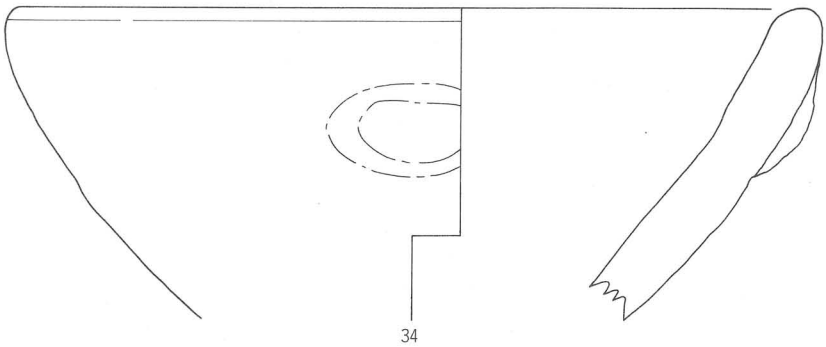
31



32



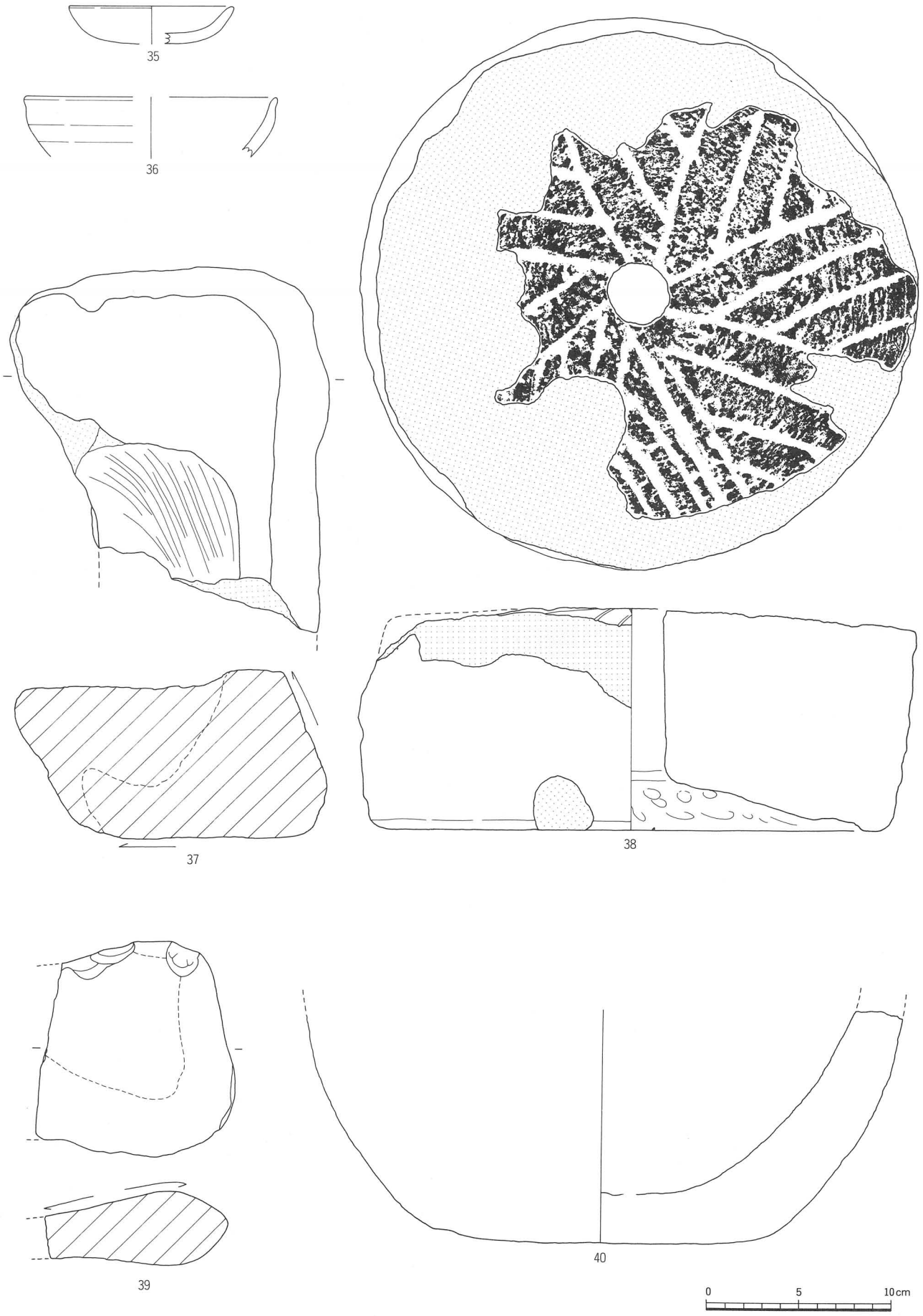
33



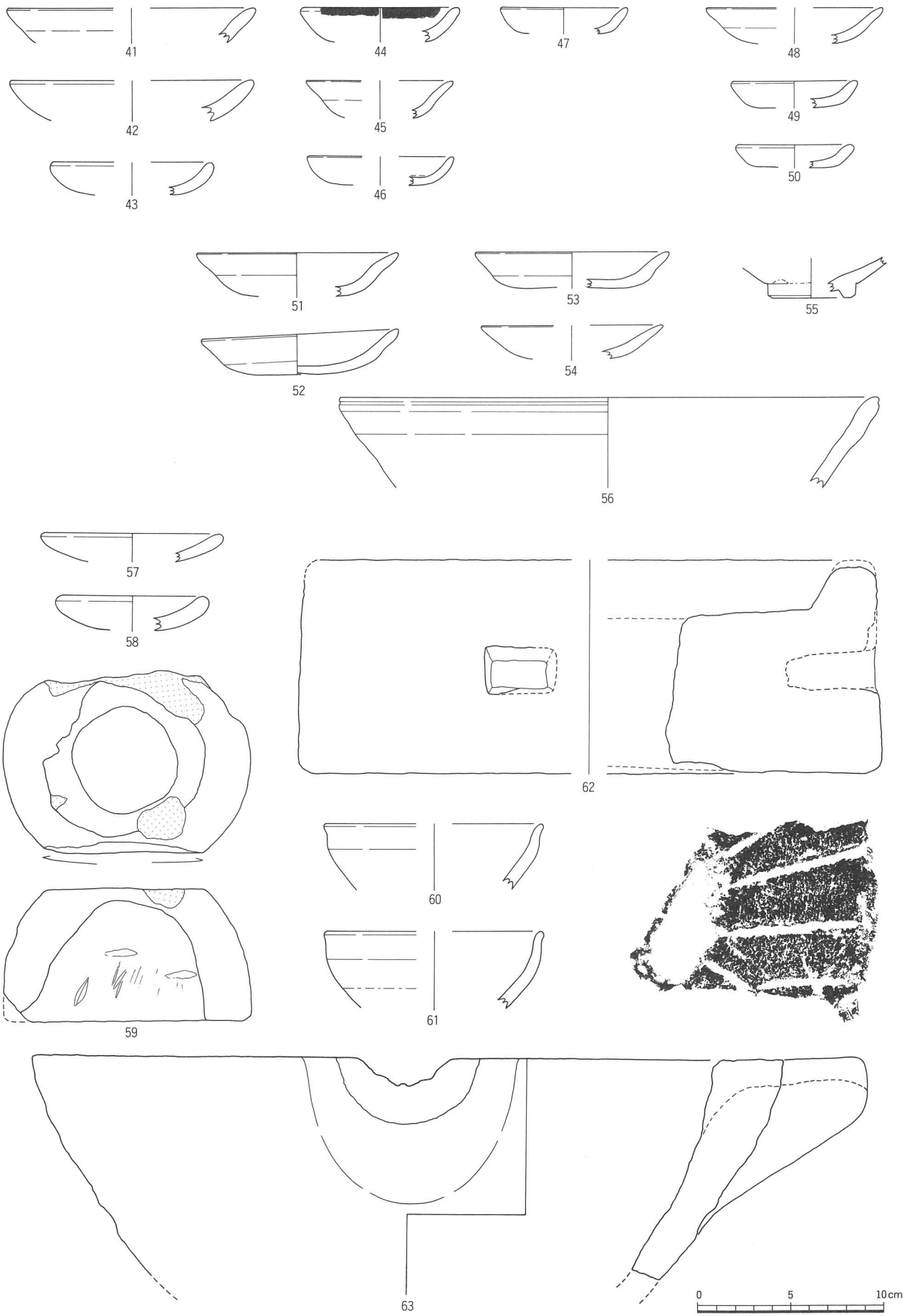
34

0 5 10cm

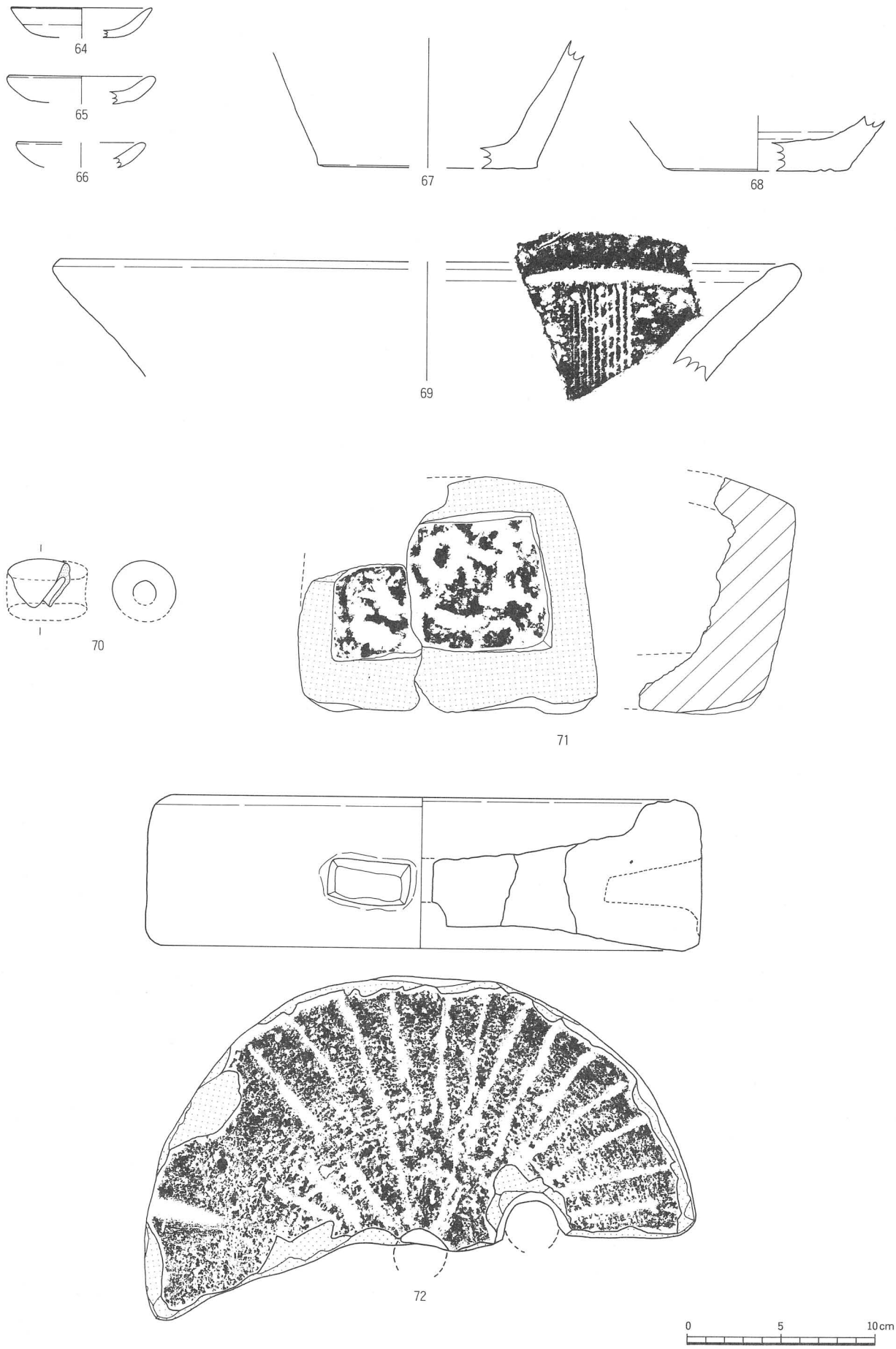
第18図　SB03-P5(31)・SE01(32)・SE02(33・34) 出土遺物 (1/3)



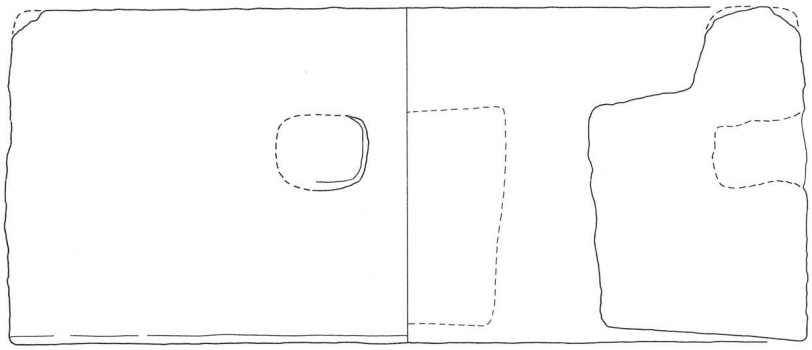
第19図　SE03(35～40) 出土遺物 (1/3)

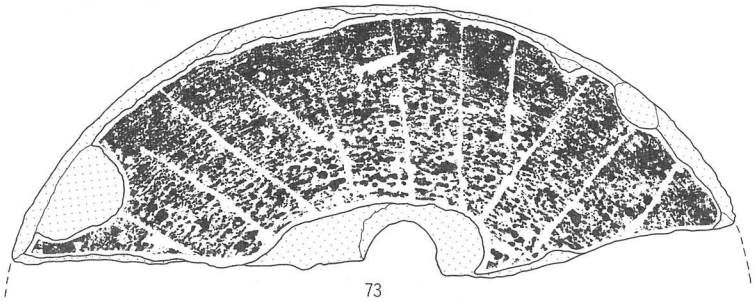


第20図　SE05(41～47)・SE06(48～50)・SE08(51～56)・SX01(57～63)　出土遺物（1/3）

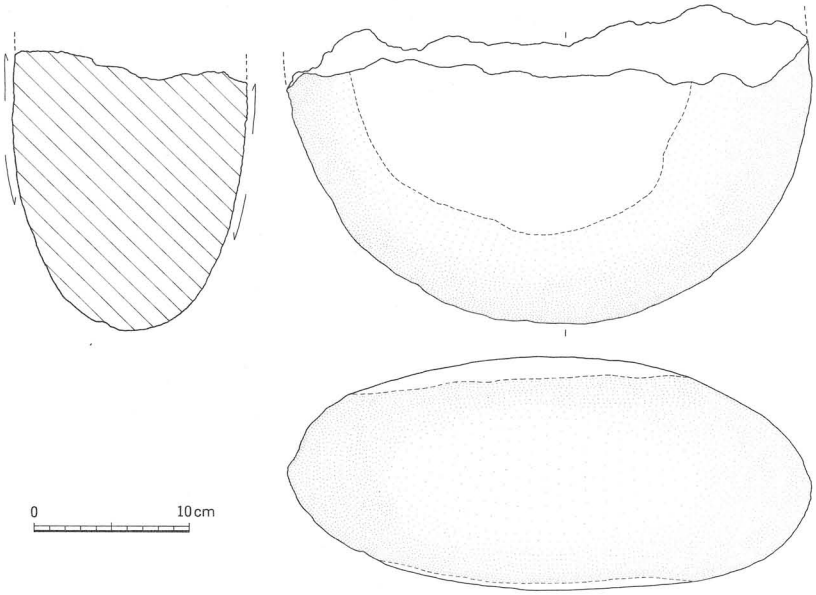


第21図　SX02 出土遺物（1/3）

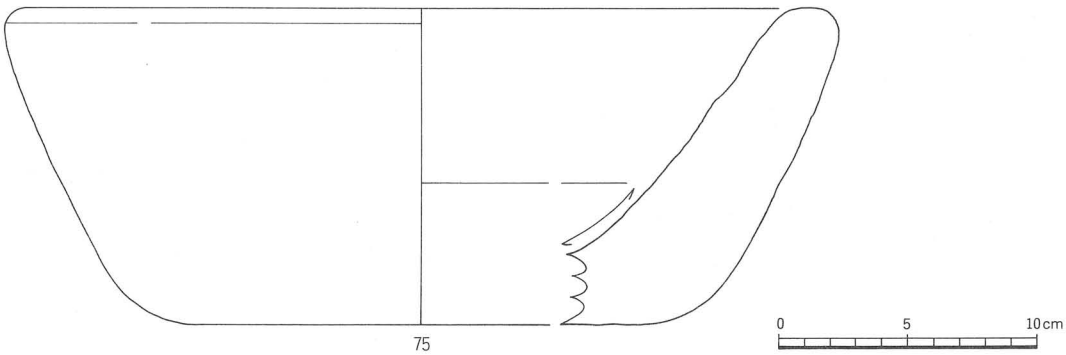




73

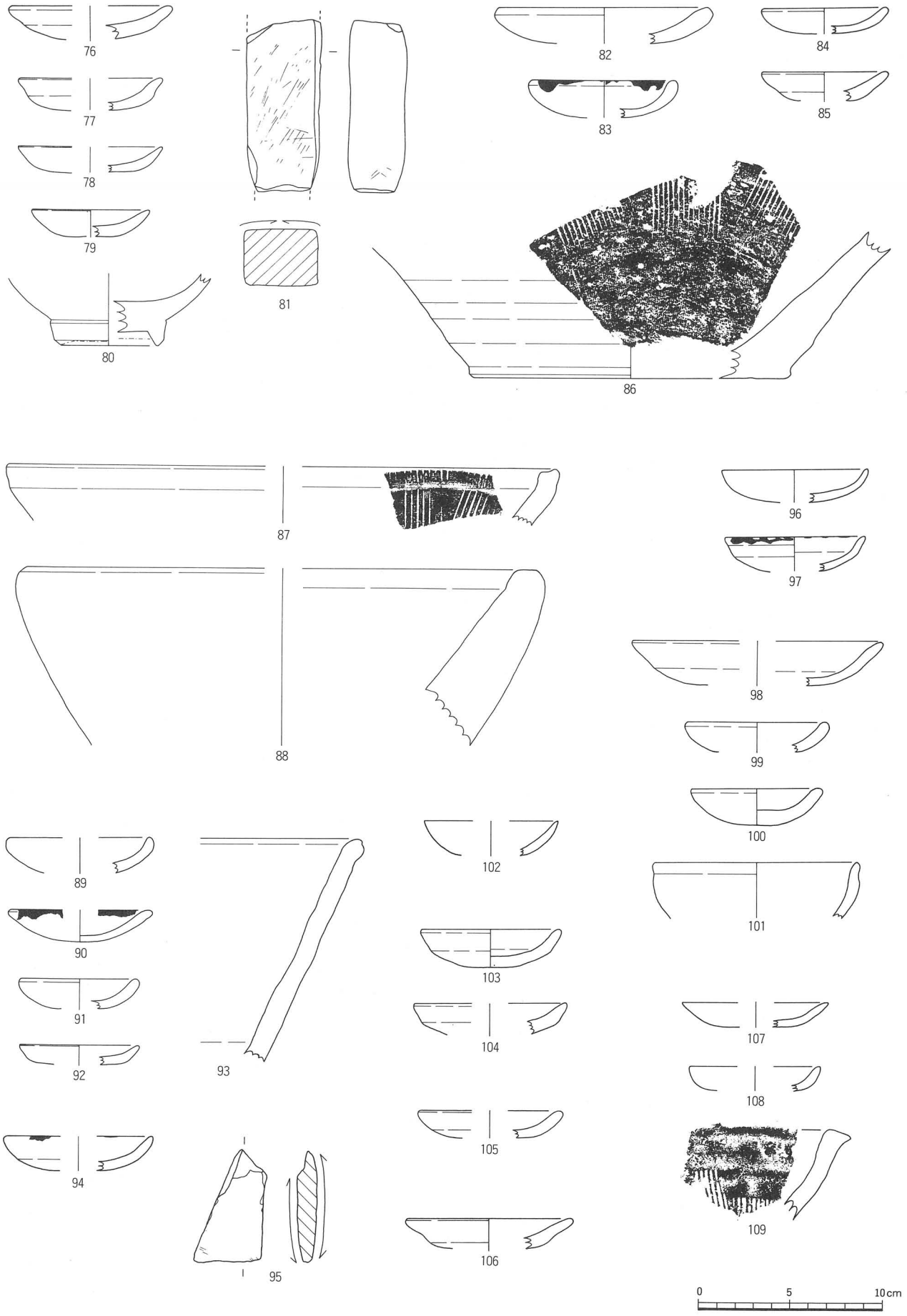


74



75

第22図　SX02(73・74)・SX03(75) 出土遺物 (1/3)・(74-1/5)



第23図　SX04(76～81)・SX05(82～86)・SX06(87・88)・SX07(89～93)・SK01(94・95)・SK03(96・97)・SD01(98～101)・SD03(102)・SD04(103・104)・SP01(105)・SP02(106)・落ち込み(107～109) 出土遺物 (1/3)

第24図　集落区－N1区（1/200）

3　N1区（第24図）

集落区中央部SS01の北側に位置する。掘立柱建物群が3群存在し、これを基本に東から①区、②区、③区の小区を設定した。①区はSB04～06群が北側に存在するが、南側は近世～近代期の大土坑により中世期の状況は不明である。②区はSB07～14群とSX09～15群、SE15～18などで構成される。③区はSB15～21群とSX16～20群、SE19～22などで構成される。②・③区では南西側に掘立柱建物、北東側に竪穴状遺構と井戸が配置されている。

(1) 掘立柱建物

SB04（第25図）

①区北に位置し、SB05・06と複合するが切り合い関係は不明。梁行1間3.5m、桁行3間4.4m、床面積約15m²、主軸（N87°W）を測る東西棟の側柱建物である。北側桁行P1～P4間の柱間寸法は、1.6m、1.75m、0.95m、南側桁行P5～P8間は1.45m、1.85m、1.1mを測る。柱穴は略円形で径40～60cm、深さ14～54cmを測る。

SB05（第25図）

①区北に位置する。梁行1間3.8m、桁行3間5.2m、床面積約20m²、主軸（N91°W）を測る東西棟の側柱建物である。北側桁行P1～P4間の柱間寸法は、1.8m、1.7m、1.5m、南側桁行P5～P8間は1.8m、1.6m、1.8mを測る。柱穴は略円形で径32～74cm、深さ23～52cmを測る。

SB06（第25図）

①区北に位置し、SK05を切る。梁行1間3.0m、桁行2間4.6m、床面積約14m²、主軸（N4°E）を測る南北棟の

側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は、2.6m、2.6mである。柱穴は略円形で径45～55cm、深さ38～65cmを測る。

ＳＢ07（第25図）

②区南東に位置し、ＳＸ12を切る。梁行１間3.3m、桁行２間5.5m、床面積約18m²、主軸（Ｎ9°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は2.6m、2.5m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は2.6m、3.0mである。柱穴は略円形で径25～53cm、深さ37～74cmを測る。

ＳＢ08（第26図）

①区南東に位置する。梁行１間2.2m、桁行１間3.5m、床面積は約８m²、主軸（Ｎ6°Ｅ）を測る南北棟である。柱穴は略円形で径55～72cm、深さ48～65cmを測る。平面内のＳＫ09とはセット関係か。

ＳＢ09（第26図）

②区南西に位置する。ＳＢ10～14と複合するが切り合い関係は不明である。梁行２間5.2m、桁行４間12.9m、床面積約72m²、主軸（Ｎ3°Ｅ）を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ5間の柱間寸法は2.8m、2.85m、3.4m、3.6m、東側桁行Ｐ11～Ｐ15間は2.8m、3.5m、3.0m、3.7mを測り、南側１間が広くなる。北側梁行Ｐ1～Ｐ6～Ｐ11間は2.45m、2.25m、南側梁行Ｐ5～Ｐ10～Ｐ15間は2.6m、2.9mである。柱穴は略円形で径40～60cm、深さ35～71cmを測る。

ＳＢ10（第27図）

②区南西に位置する。梁行２間4.9m、桁行３間6.4m、床面積約31m²、主軸（Ｎ2°Ｅ）を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.45m、1.9m、2.05m、東側桁行Ｐ9～Ｐ12間は2.0m、2.3m、2.1mを測り、北側梁行Ｐ1～Ｐ5～Ｐ9間は1.9m、2.8m、南側梁行Ｐ4～Ｐ8～Ｐ12間は2.1m、2.8mである。柱穴は略円形で径20～60cm、深さ10～50cmを測る。

ＳＢ11（第27図）

②区南東に位置する。梁行１間3.5m、桁行２間7.0m、床面積約24m²、主軸（Ｎ2°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.4m、3.6m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は3.4m、3.4mである。柱穴は略円形で径40～74cm、深さ35～66cmを測る。

ＳＢ12（第27図）

②区南東に位置する。梁行１間3.2m、桁行２間7.2m、床面積約23m²、主軸（Ｎ4°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.8m、3.5m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は3.4m、3.7mである。柱穴は略円形で径30～58cm、深さ30～58cmを測る。

ＳＢ13（第27図）

②区南東に位置する。梁行１間3.0m、桁行２間5.1m、床面積約15m²、主軸（Ｎ6°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は2.6m、2.7m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は2.6m、2.4mである。柱穴は略円形で径30～90cmとばらつき、深さ46～60cmを測る。

ＳＢ14（第28図）

②区南東にする。梁行１間3.0m、桁行３間5.4m、床面積約16m²、主軸（Ｎ6°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は1.8m、1.6m、2.0m、Ｐ3に対応する東側桁行の柱穴は存在しない。柱穴は略円形で径40～70cm、深さ32～66cmを測る。

ＳＢ15（第28図）

③区南に位置する。ＳＢ16～19と複合するが切り合い関係は不明。梁行２間4.7m、桁行２間5.5m、床面積約25m²、主軸（Ｎ6°Ｅ）を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.2m、2.2m、東側桁行Ｐ7～Ｐ9間は3.7m、1.7m、を測り、南側の１間は狭くなる。北側梁行Ｐ1～Ｐ4～Ｐ7間は2.4m、2.3m、南側梁行Ｐ3～Ｐ6～Ｐ9間は2.0m、2.8mである。柱穴は略円形で径35～57cm、深さ27～52cmを測る。南側１間分は下屋の可能性がある。

ＳＢ16（第28図）

③区南に位置する。梁行１間3.7m、桁行３間7.0m、床面積約26m²、主軸（Ｎ3°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物であり、柱穴二つは不明。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は4.55m、2.3m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は5.0m、2.1mである。柱穴は略円形で径30～60cm、深さ30～60cmを測る。

ＳＢ１７（第28図）

③区南に位置する。梁行１間2.9m、桁行２間4.9m、床面積約14m²、主軸（Ｎ84°Ｗ）を測る東西棟の側柱建物である。北側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は2.7m、2.2m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は2.6m、2.3mである。柱穴は略円形で径32～60cm、深さ44～62cmを測る。

ＳＢ１８（第29図）

③区西南に位置する。梁行１間3.0m、桁行２間5.6m、床面積約17m²、主軸（Ｎ1°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.05m、2.55m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は2.8m、2.6mである。柱穴は略円形で径30～54cm、深さ36～46cmを測る。

ＳＢ１９（第29図）

③区南西に位置する。梁行２間4.3m、桁行３間7.0m、床面積約30m²、主軸（Ｎ4°Ｅ）を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.3m、2.2m、2.5m、東側桁行Ｐ9～Ｐ12間は2.1m、2.5m、2.4mである。北側梁行Ｐ1～Ｐ5～Ｐ9間は2.7m、1.6m、南側梁行Ｐ4～Ｐ8～Ｐ12間は2.2m、2.0mである。隅丸方形と略円形の柱穴は径40～80cm、深さ33～50cmを測る。

ＳＢ２０（第29図）

③区南西に位置する。南北３間の柱列を二列確認した。主軸は（Ｎ4°Ｅ）である。西側柱列Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.7m、3.05m、2.25mの計8.0m、東側柱列Ｐ5～Ｐ8間は2.9m、2.4m、2.5mの計7.8mとなる。柱穴は略円形で径35～58cm、深さ20～45cmを測る。２間×３間の総柱建物か。

ＳＢ２１（第29図）

③区南西に位置する。南北３間の柱列を一列確認した。主軸は（Ｎ1°Ｅ）である。柱列Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.3m、2.6m、2.4mの計7.3m。柱穴は略円形で径30～45cm、深さ28～44cmを測る。

(2) 井戸

ＳＥ０９（第30・36図）

③区中央東に位置し、ＳＸ10に切られる。平面形は楕円形で長軸2.75m、短軸2.15mである。

ＳＥ１０（第30・36図）

③区中央東に位置する。平面形は略円形で長軸1.6m、短軸1.42m、底面径1.0～1.2m、深さ2.35m、底面標高10.24mを測る。

ＳＥ１１（第30・36図）

③区中央東に位置し、複合するＳＸ12に切られる。平面形は不整円形で径2.5～2.62mである。内部に段を有し、底面径1.05～1.35、深さ1.42m、底面標高10.98mを測る。

ＳＥ１２（第30図）

③区中央に位置する。平面形は略円形で径1.24～1.35m。底面径0.9m～1.05m、深さ1.46m、底面標高11.02mを測る。

ＳＥ１３（第30・37図）

③区中央に位置する。平面形は略円形で径1.2～1.38m、底面径0.8～0.9m、深さ1.54m、底面標高10.91mを測る。

ＳＥ１４（第30図）

①区中央東端に位置し、近世～近代期の遺構に切られ1/2の検出である。平面形は略円形で径は1.65m程か。深さ1.4m、底面標高11.09mを測る。

ＳＥ１５（第30・37図）

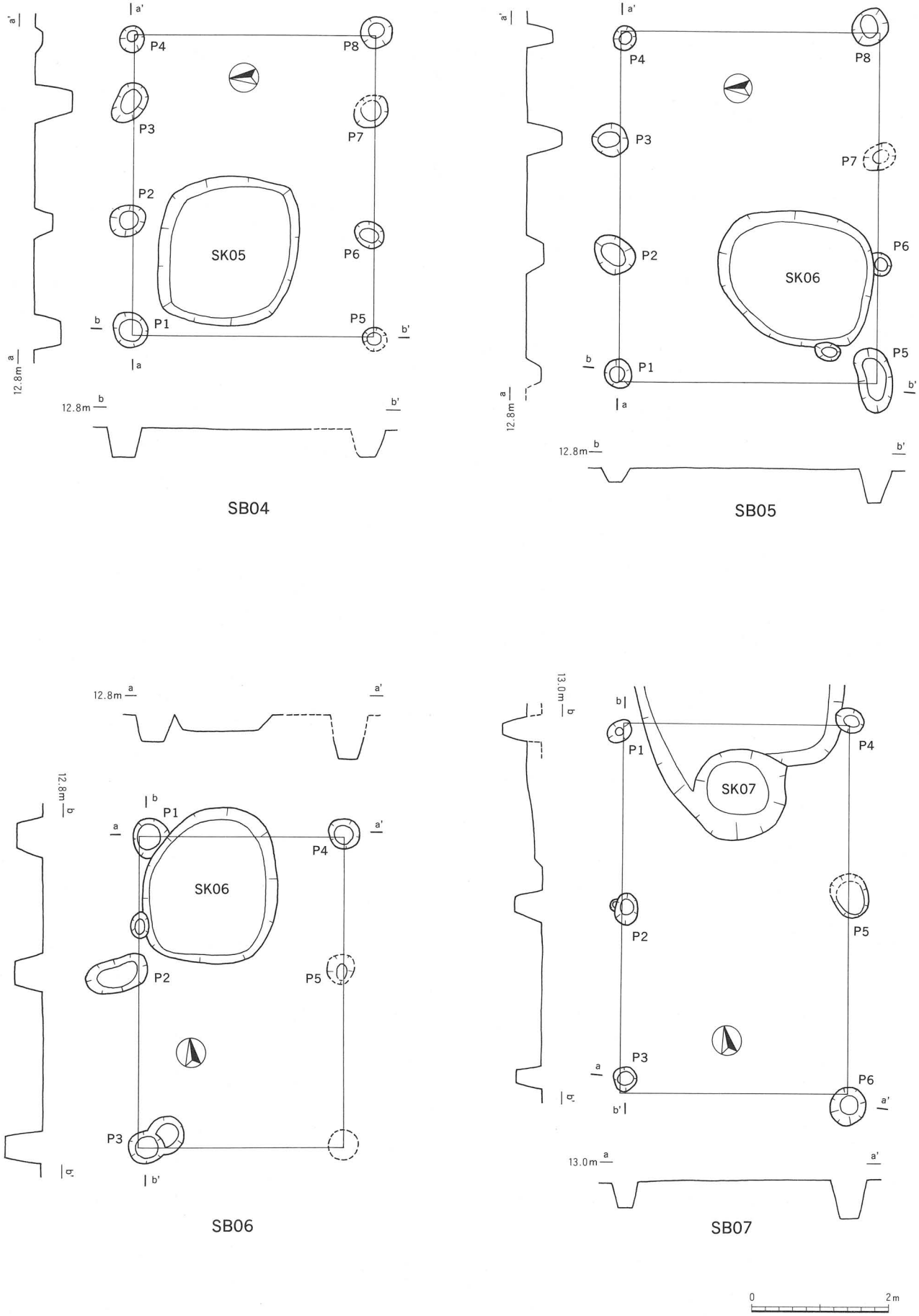
③区南東に位置する。平面形は略円形で径1.24～1.5m、底面径65cm、深さ1.86m、底面標高10.84mを測る。

ＳＥ１６（第30・37図）

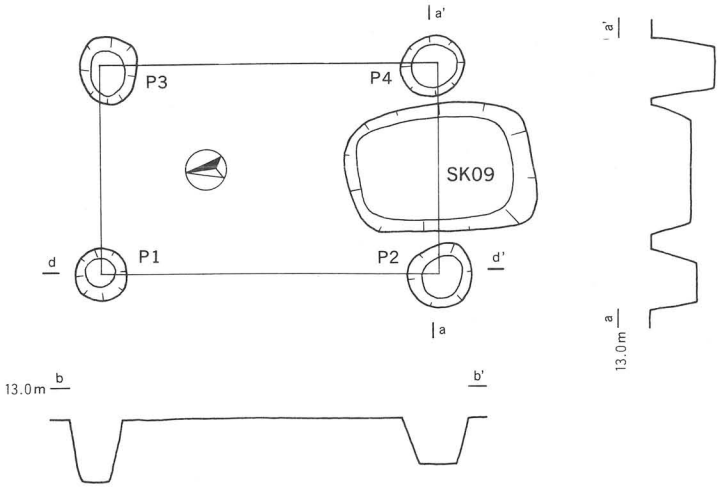
③区南東に位置する。平面形は隅丸方形で85×87cm、底面65×70cm、深さ1.42m、底面標高11.28mを測る。

ＳＥ１７（第30図）

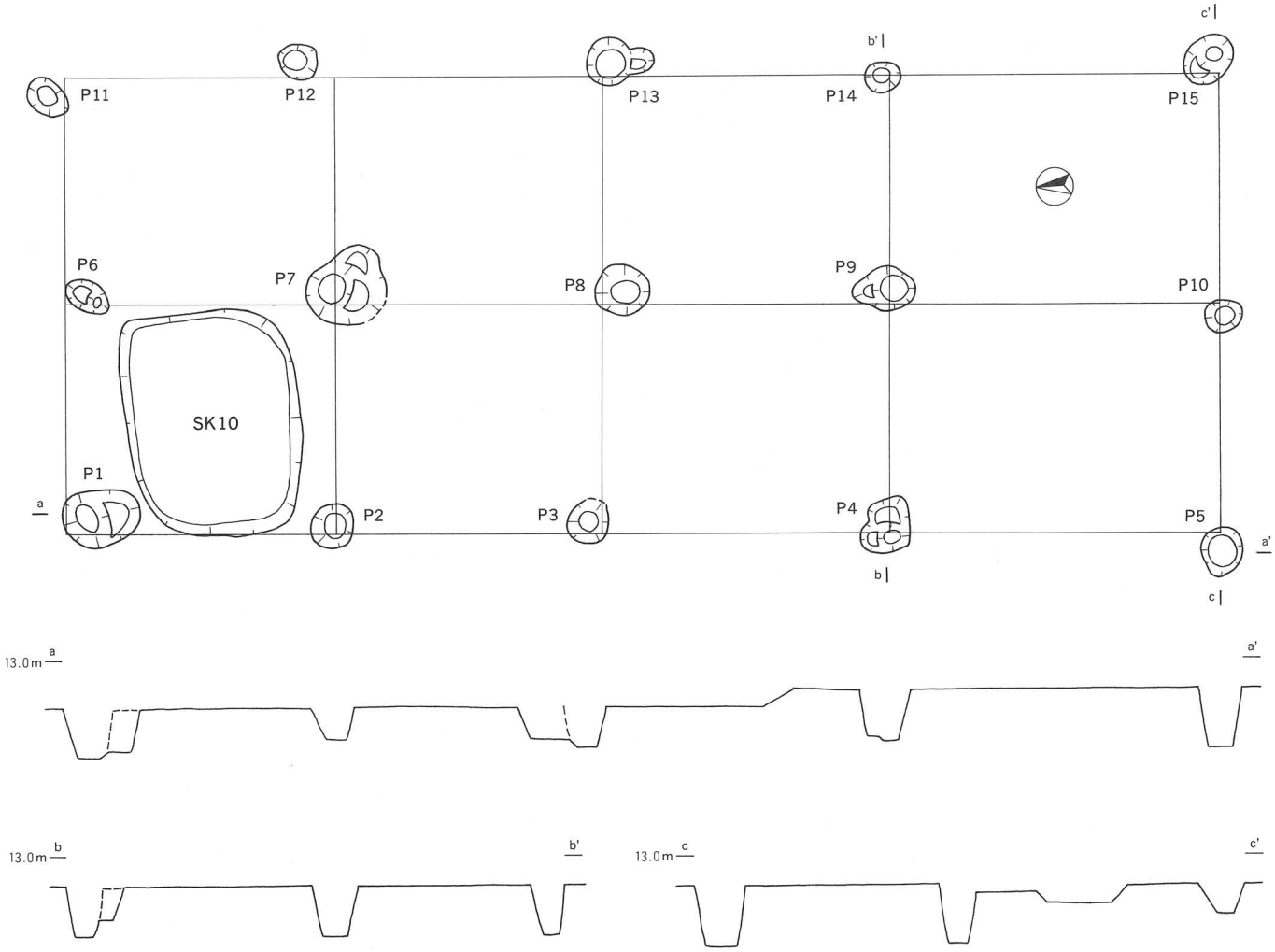
③区南東に位置する。平面形は略円形で径1.24～1.5m、底面径65cm、深さ1.42m、底面標高11.29mを測る。



第25図　N1区　SB04～07 遺構図（1/80）



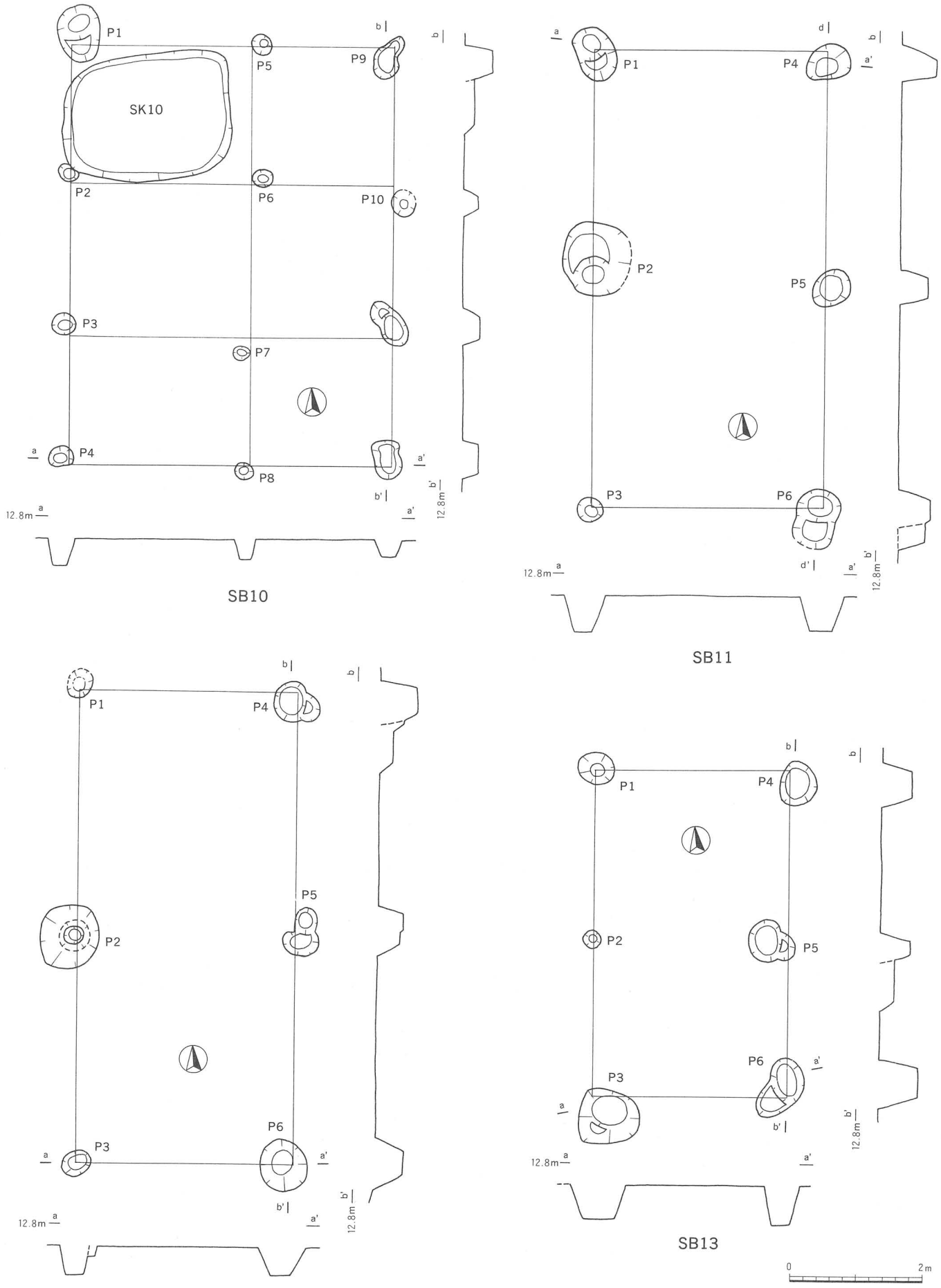
SB08



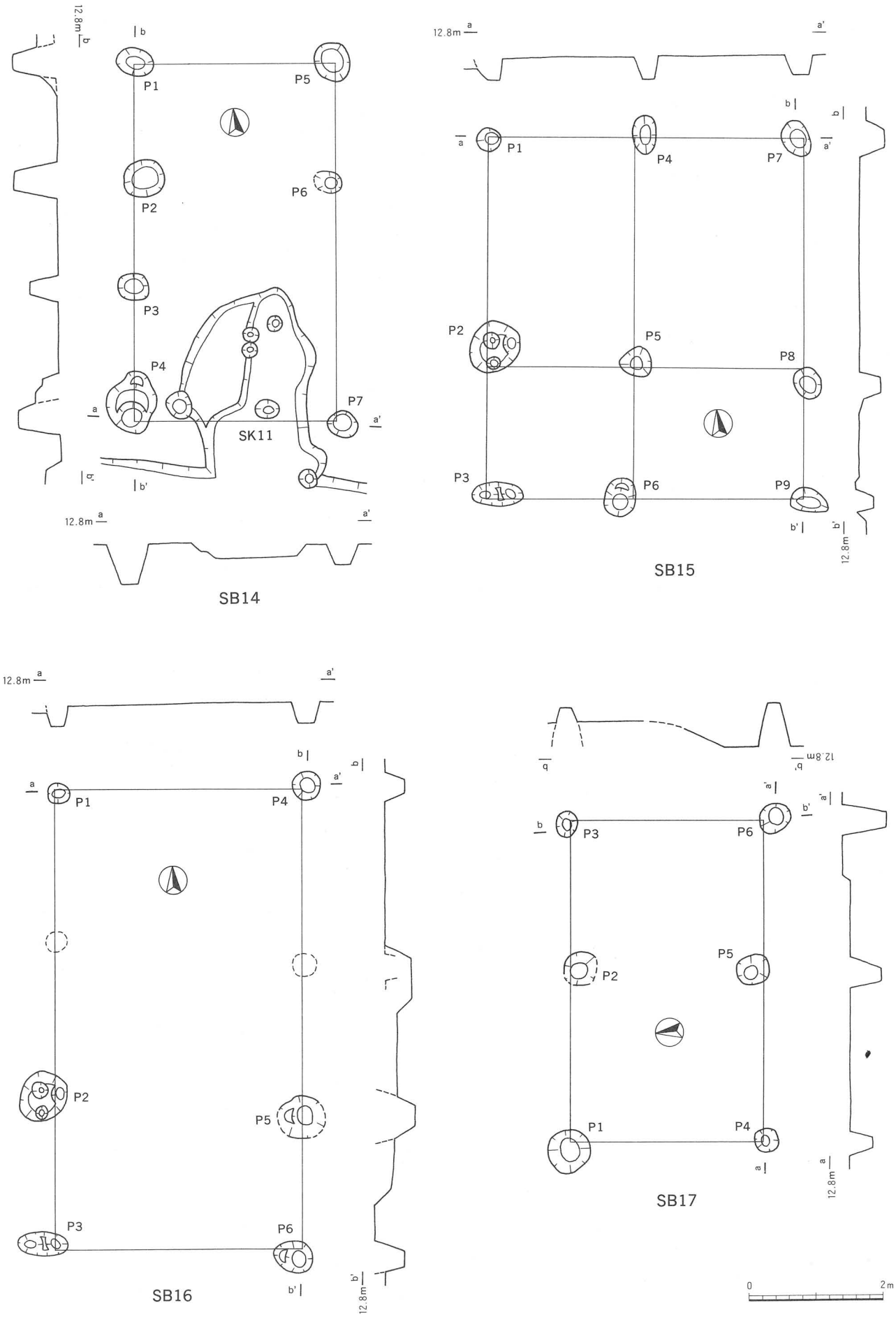
SB09

0 2m

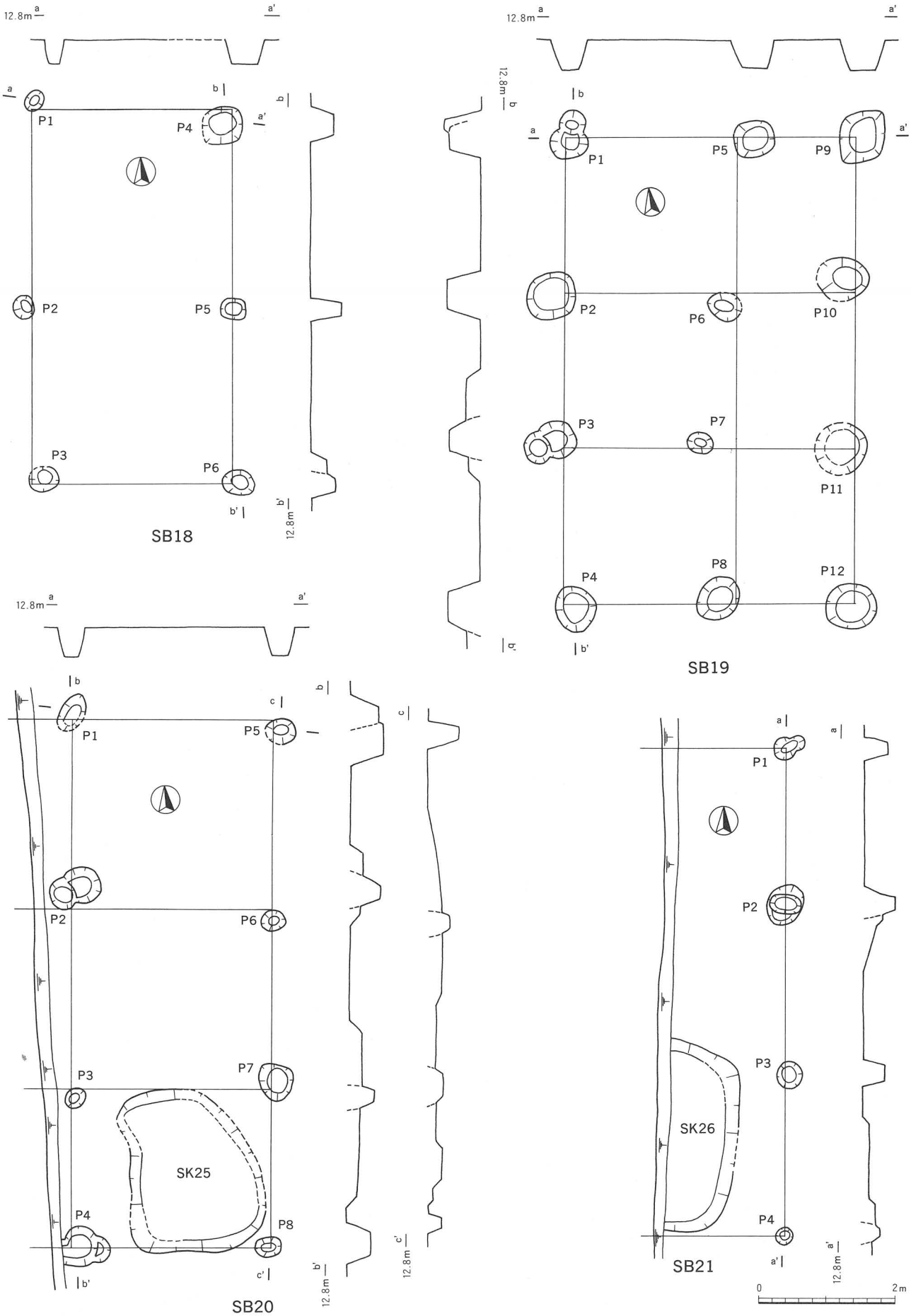
第26図　N1区　SB08・09 遺構図（1/80）



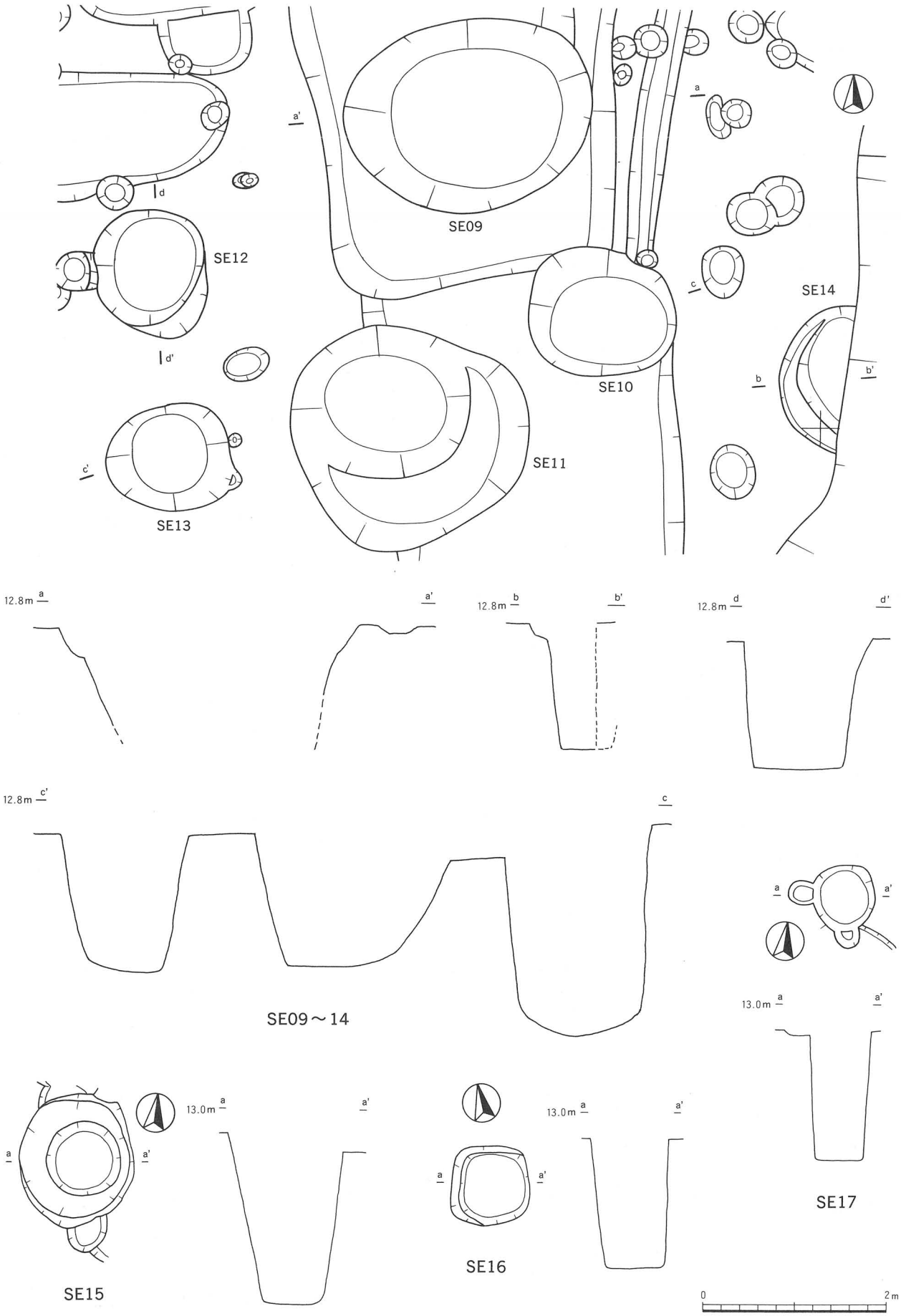
第27図　N1区　SB10～13 遺構図（1/80）



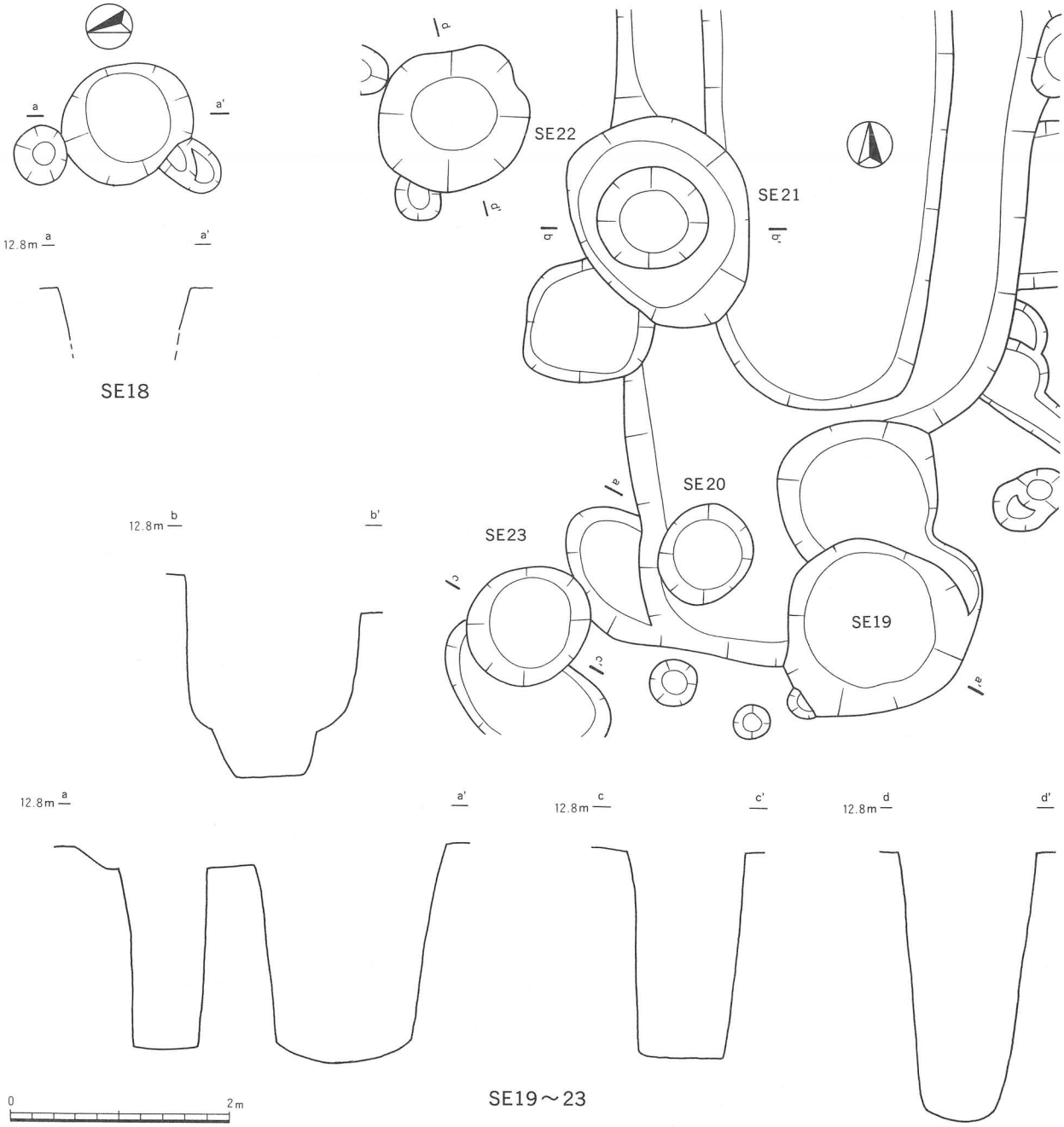
第28図　N1区　SB14～17 遺構図（1/80）



第29図　N1区　SB18～21 遺構図（1/60）



第30図　N1区　SE09～17 遺構図（1/60）



第31図　N1区　SE18～23 遺構図（1/60）

SE18（第31・37図）

③区中央西に位置する。平面形は略円形で径1.15～1.2m、底面径0.8mである。

SE19（第31・38図）

③区中央東に位置する。平面形は略円形で径1.6～1.7m、底面径1.2～1.25m、深さ2.05m、底面標高10.38mを測る。

SE20（第31・38図）

③区中央東に位置する。平面形は略円形で径82～95cm、底面径65cm、深さ1.90m、底面標高10.52mを測る。

SE21（第31・39図）

③区中央東に位置する。平面形は楕円形で1.6×2.04m、内部に段を有し底面は略円形となり径0.95～1.0m、深さ1.90m、底面標高10.49mを測る。

ＳＥ２２（第31・39図）

③区中央東に位置する。平面形は略円形で径1.3～1.4m、底面径70～80cm、深さ2.5m、底面標高9.92mを測る。

ＳＥ２３（第31・39～41図）

③区中央東に位置する。平面形は略円形で径1.05～1.2m、底面径70～80cm、深さ1.95m、底面標高10.52mを測る。

(3) 竪穴状遺構

ＳＸ０８（第32・42図）

①区中央東端に位置し、ＳＤ02を切る。平面形は隅丸方形で1/2程の検出か。長軸6.5m、深さ40cmを測る。

ＳＸ０９（第32図）

②区北東に位置し、複合するＳＸ10に切られる。平面形は不整な隅丸台形状で、長軸4.0m、短軸3.5m、面積約11m²、深さ25cmを測る。

ＳＸ１０（第32・42図）

②区北東に位置し、複合するＳＸ09・13・ＳＥ09を切る。平面形は不整な隅丸方形で、推定長軸8.6m、短軸3.1m、推定面積25m²、深さ38cmを測る。

ＳＸ１１（第32図）

②区北東に位置しＳＸ10と複合し、深さ28cmを測るが詳細は不明。

ＳＸ１２（第32図）

②区中央東に位置し、複合するＳＥ11を切る。平面形は隅丸方形と考えられ、長軸5m以上、短軸3.14m、深さ40cmを測る。面積は15m²以上か。

ＳＸ１３（第32図）

②区北東に位置し、複合するＳＸ10に切られる。平面形は隅丸方形で、長軸3.7m、推定短軸3.1m、推定面積約10m²、深さ18cmを測る。

ＳＸ１４（第33・42図）

②区北西端に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸4.7m、短軸3.9m、面積約16m²、深さ33cmを測る。

ＳＸ１５（第33図）

②区北西端に位置する。平面形は楕円形と考えられ深さ13cmを測るが詳細は不明。

ＳＸ１６（第33・43図）

③区北東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸6.0m、短軸4.15m、面積約22m²の規模と考えられる。深さは37cmである。

ＳＸ１７（第33図）

③区北東に位置し、複合するＳＸ18・20を切る。平面形は隅丸方形で、長軸4.8m、短軸2.3m、面積約10m²、深さ40cmを測る。

ＳＸ１８（第33図）

③区北東に位置する。詳細は不明であるが、平面形は隅丸方形で、長軸4.6m程の規模か。深さ28cmを測る。

ＳＸ１９（第33図）

③区北東に位置する。詳細は不明であるが、平面形は隅丸方形と考えられ、短軸2.8m、深さ24cmを測る。

ＳＸ２０（第33図）

③区北東に位置する。深さ22cm、詳細は不明。

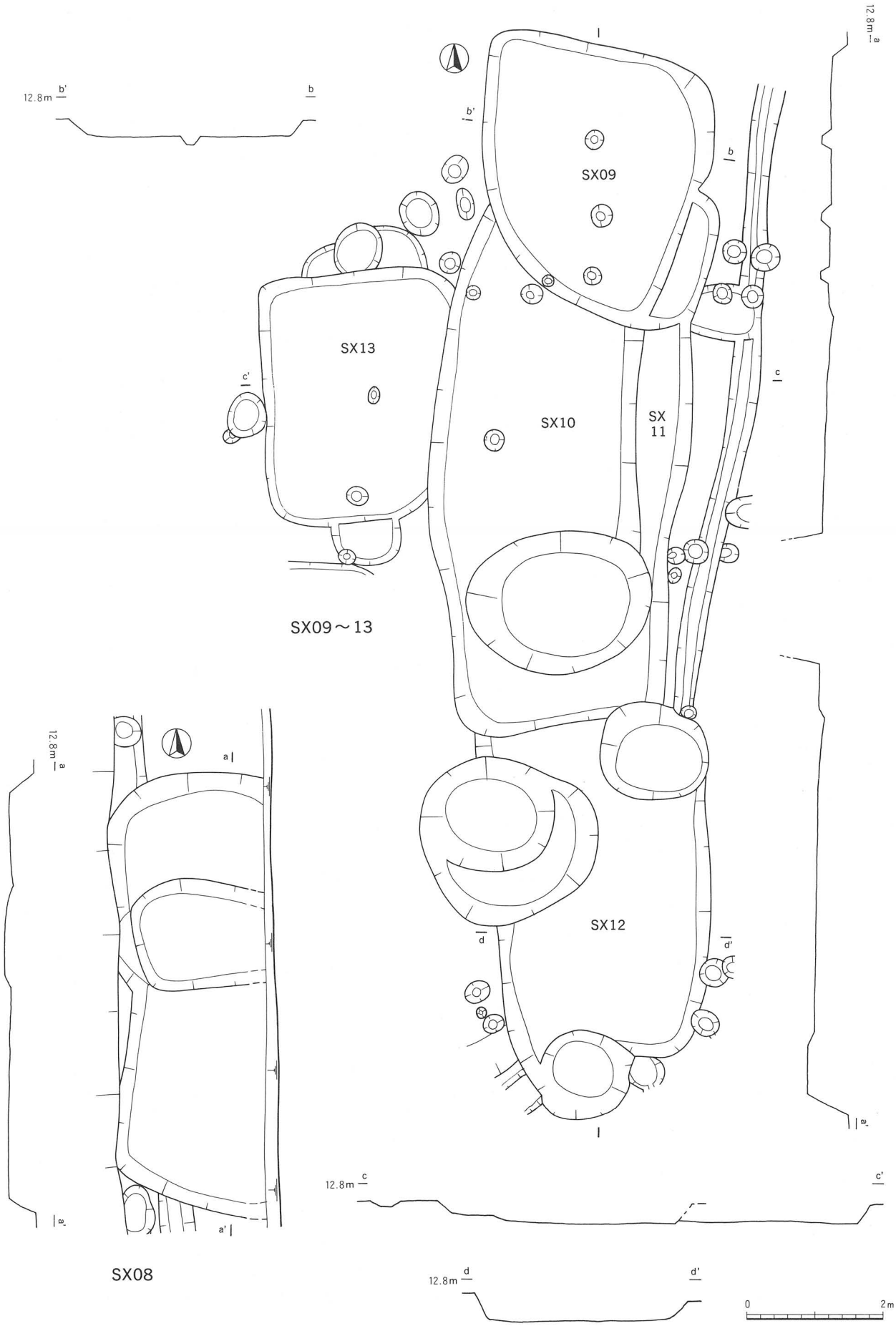
(4) 土坑

ＳＫ０５（第34・44図）

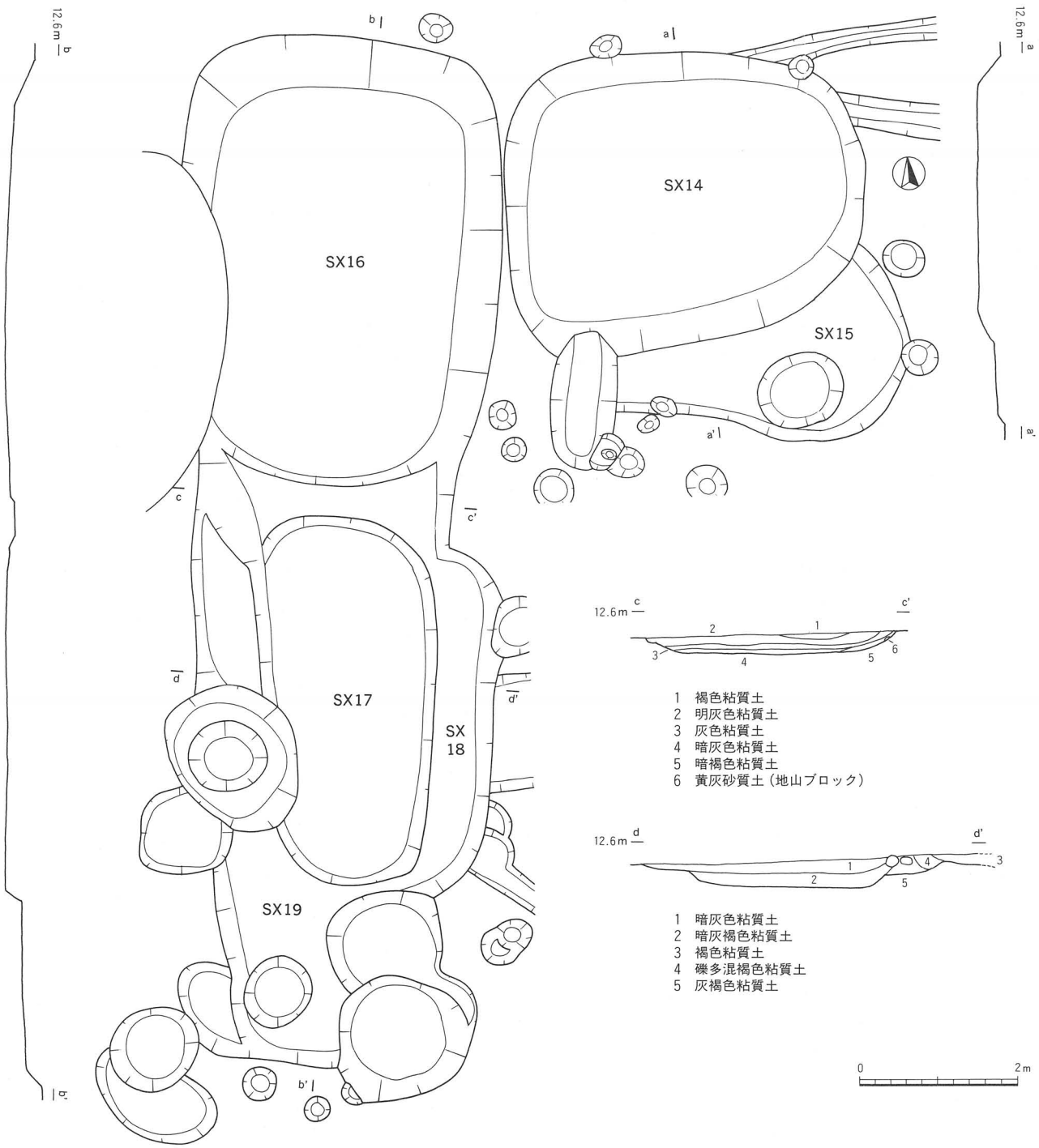
①区北西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.1m、短軸2.0m、深さ40cmを測る。

ＳＫ０６（第34図）

①区北西に位置し、複合するＳＢ06のピットに切られる。平面形は楕円形で、長軸2.25m、短軸1.95m、深さ20cmを測る。



第32図　N1区　SX08～13 遺構図（1/80）



第33図　N1区　SX14～20 遺構図（1/80）

SK07（第34図）

②区南東に位置する。平面形は略円形で、径1.35m、60cmを測る。

SK08（第34・44図）

②区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.1m、短軸1.5m、深さ13cmを測る。

SK09（第34図）

②区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.95m、短軸1.35m、深さ36cmを測る。

ＳＫ１０（第34図）

②区中央西端に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.55m、短軸1.95m、深さ20cmを測る。

ＳＫ１１（第34・44図）

②区南西に位置し、複合するＳＤ08に切られる。平面形は不整な楕円形で、長軸不明、短軸1.95m、深さ15cmを測る。土層の切り合いから土坑が２基複合したものか。

ＳＫ１２（第34図）

③区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.55m、短軸0.77m、深さ28cmを測る。

ＳＫ１３（第34・44図）

③区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸不明、短軸1.9m、深さ13cmを測る。

ＳＫ１４（第34図）

③区南東に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.75m、短軸1.2m、深さ32cmを測る。

ＳＫ１５（第34図）

③区南東に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.22m、短軸0.9m、深さ42cmを測る。

ＳＫ１６（第34図）

③区南東に位置する。平面形は不整な楕円形で土坑２基が複合したものか。長軸2.9m、短軸1.8m、深さ22cmを測る。

ＳＫ１７（第34図）

③区南東に位置する。詳細は不明だが、平面形は楕円形か。長軸2.4m、深さ16cmを測る。

ＳＫ１８（第35図）

③区南西に位置する。平面形は略円形で、径1.6m、深さ22cmを測る。

ＳＫ１９（第35図）

③区南西に位置する。平面形は楕円形か。長軸不明、短軸1.5m、深さ16cmを測る。

ＳＫ２０（第35図）

③区南西に位置する。ＳＫ21を切る。平面形は楕円形で、長軸2.3m、短軸1.45m、深さ40cmを測る。

ＳＫ２１（第35図）

③区南西に位置する。平面形は楕円形で、長軸2.9m、短軸2.5m、深さ23cmを測る。

ＳＫ２２（第35図）

③区南西に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.95m、短軸1.55m、深さ28cmを測る。

ＳＫ２３（第35図）

③区南西に位置する。平面形は隅丸方形で、一辺1.25m、深さ25cmを測る。

ＳＫ２４（第35図）

③区南西に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.52m、短軸1.2m、深さ23cmを測る。

ＳＫ２５（第35図）

③区南西に位置する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸2.4m、短軸2.0m、深さ20cmを測る。

ＳＫ２６（第35・44図）

③区南西に位置する。平面形は隅丸方形か。詳細は不明であり一辺1.25m、深さ25cmを測る。

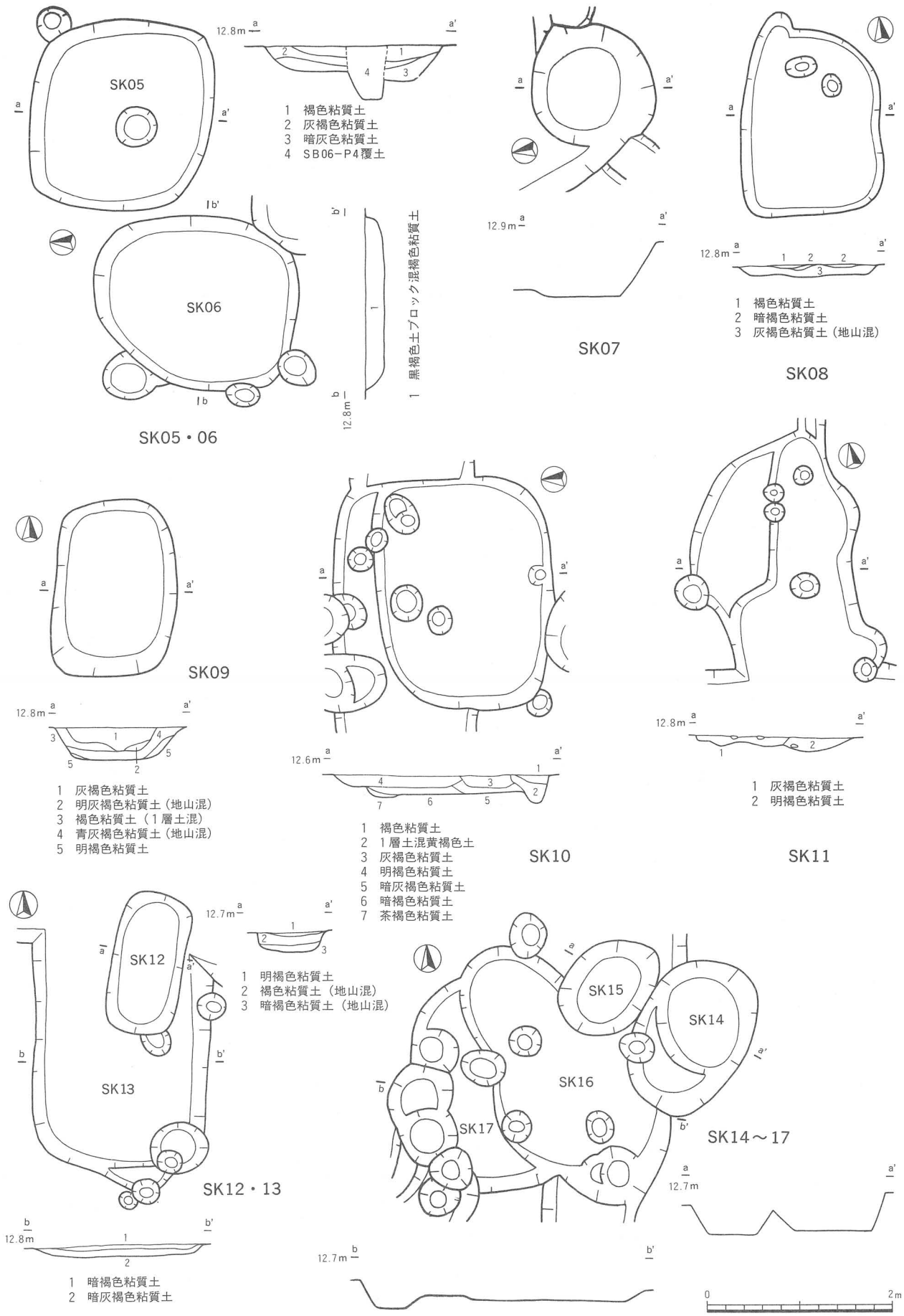
（5）溝

ＳＤ07（第24・44図）

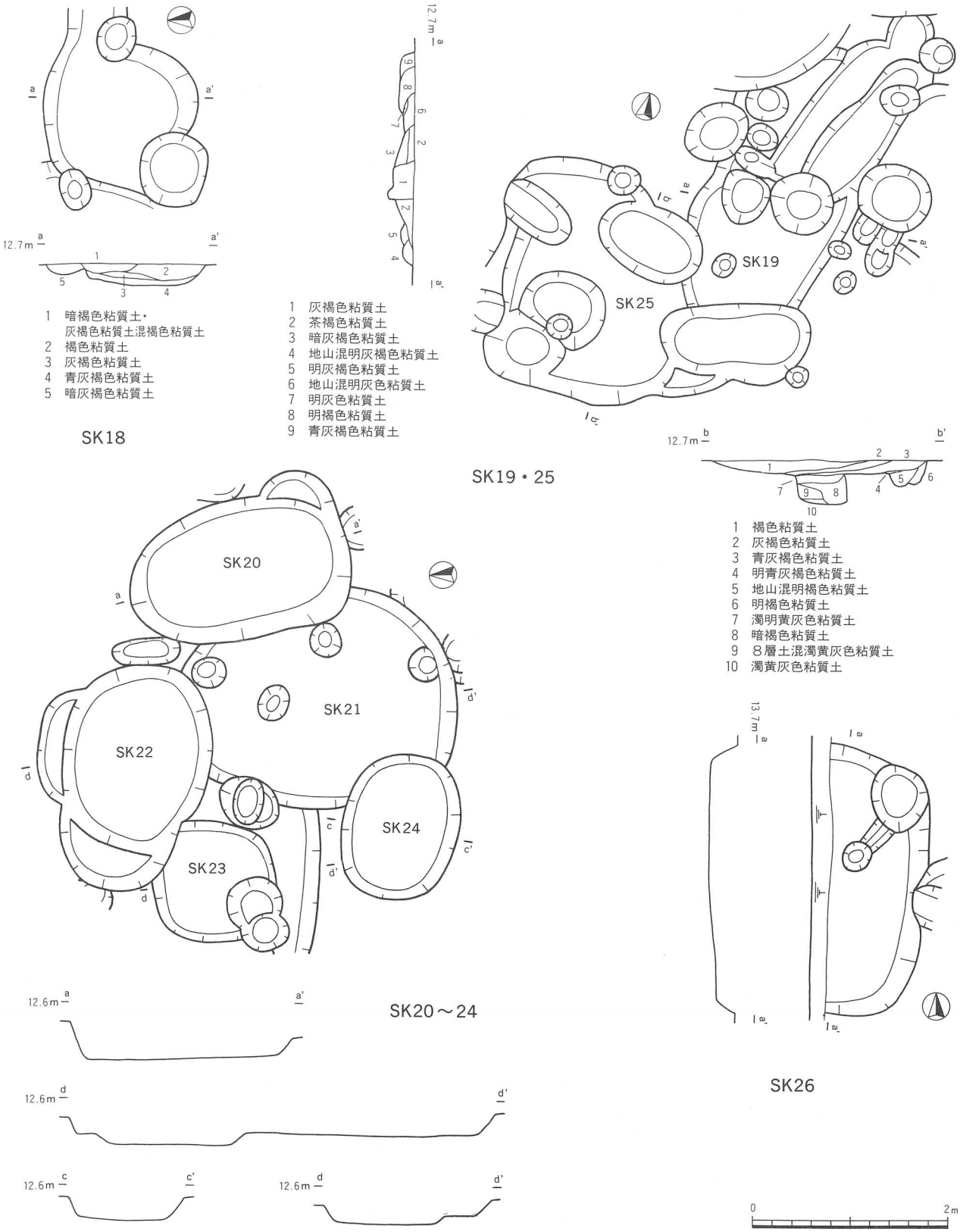
②区中央に位置する東西溝である。複合するＳＫ01を切ることから、ＳＤ02より新期の溝である。幅0.8～1.0m、深さ40cmを測る。

ＳＤ08（第５・24・52・44図）

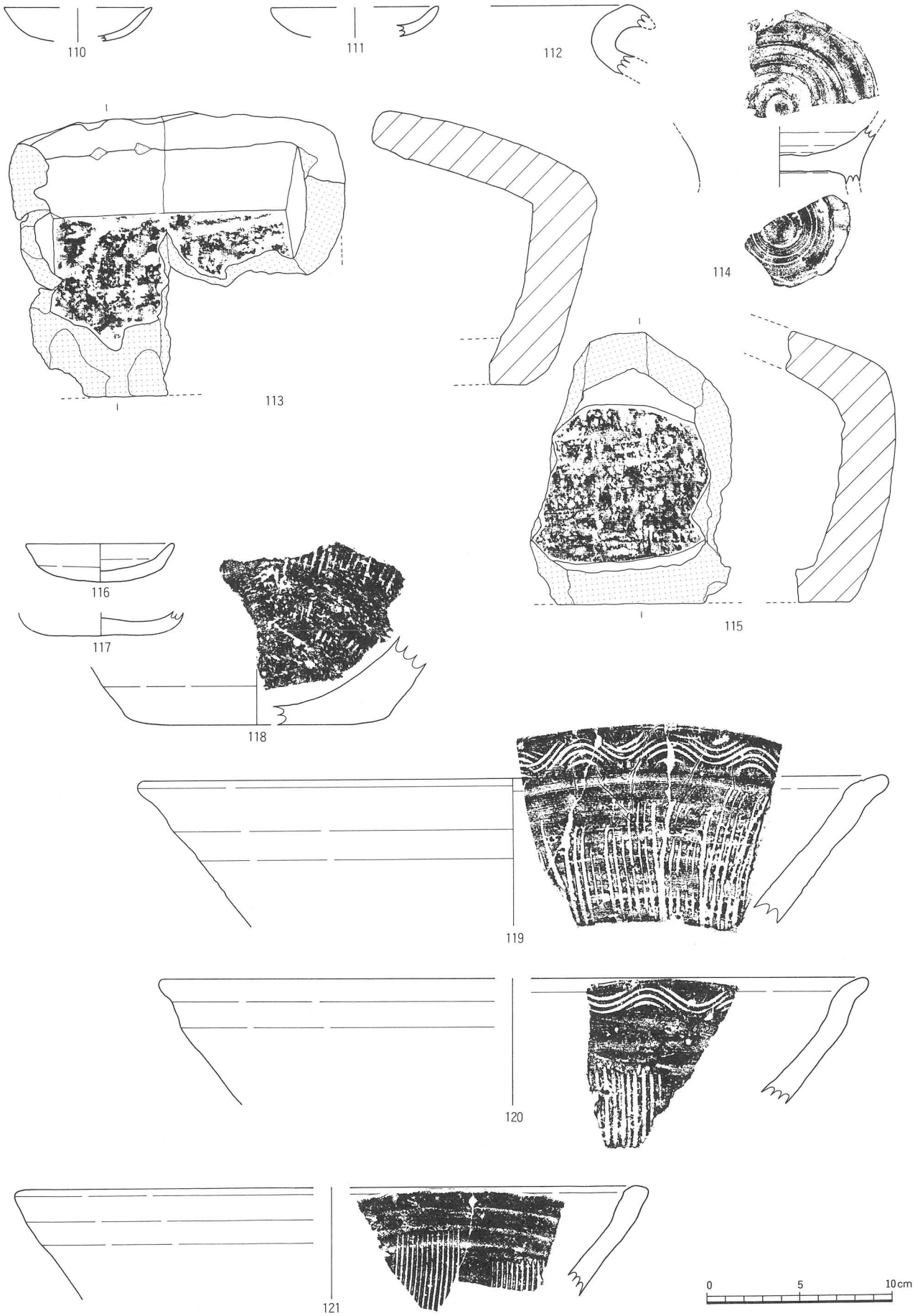
Ｎ１区南端に位置する。集落区と耕作区を南北に区画し、流方向は東の東西溝である。流方向は東である。集落区では第52図の土層断面図によると最低３回の掘り直しが見られる。南側の深い部分をＳＤ08ａとし、幅0.6～0.9m、深さ40～50cmを測る。北側の１段浅い部分をＳＤ08ｂとし、深さは23cm程であるが、上面幅は不明である。



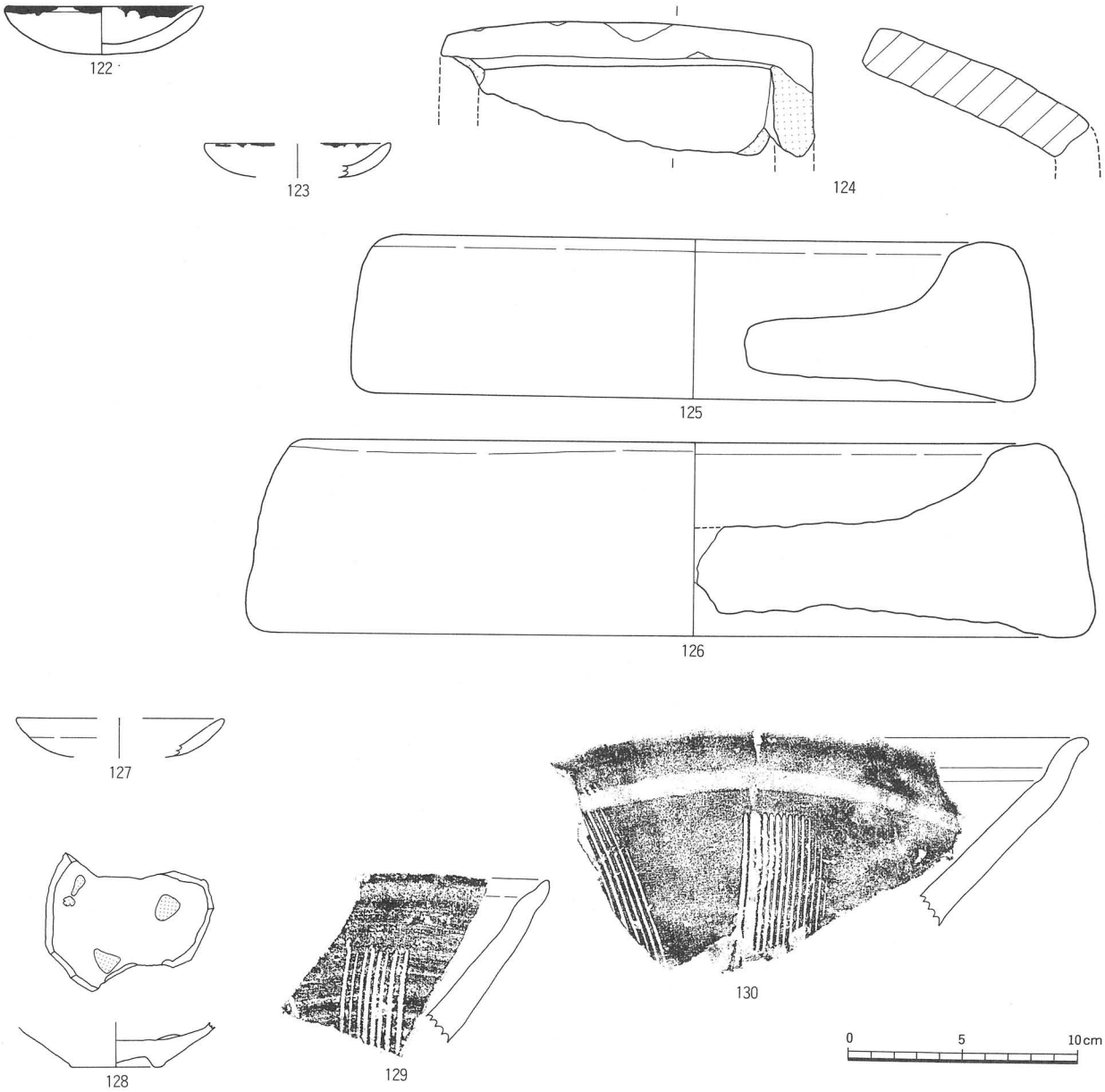
第34図　N1区　SK05～17 遺構図（1/60）



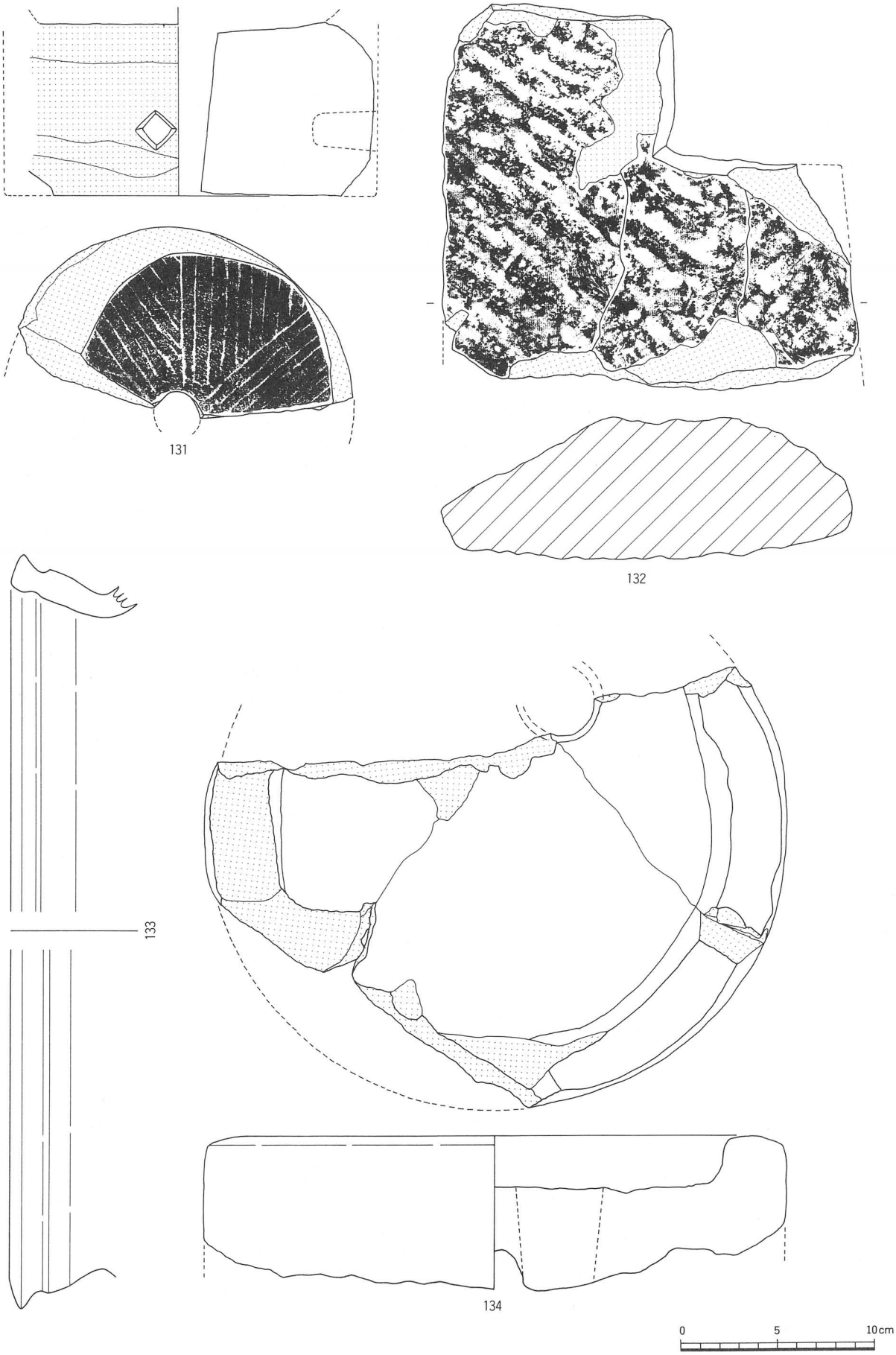
第35図　N1区　SK18～26 遺構図（1/60）



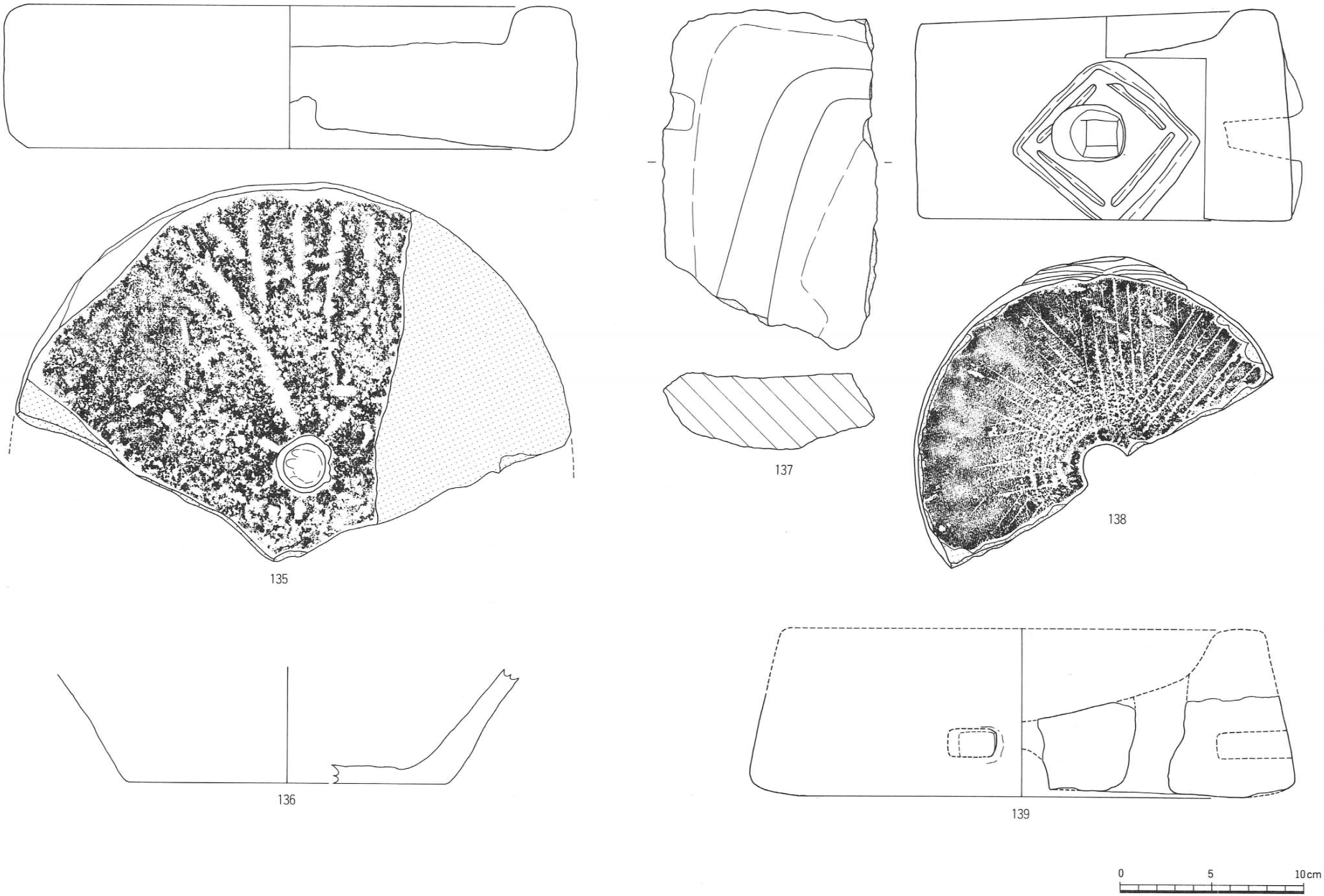
第36図　SE09(110)・SE10(111～115)・SE11(116～121) 出土遺物 (1/3)



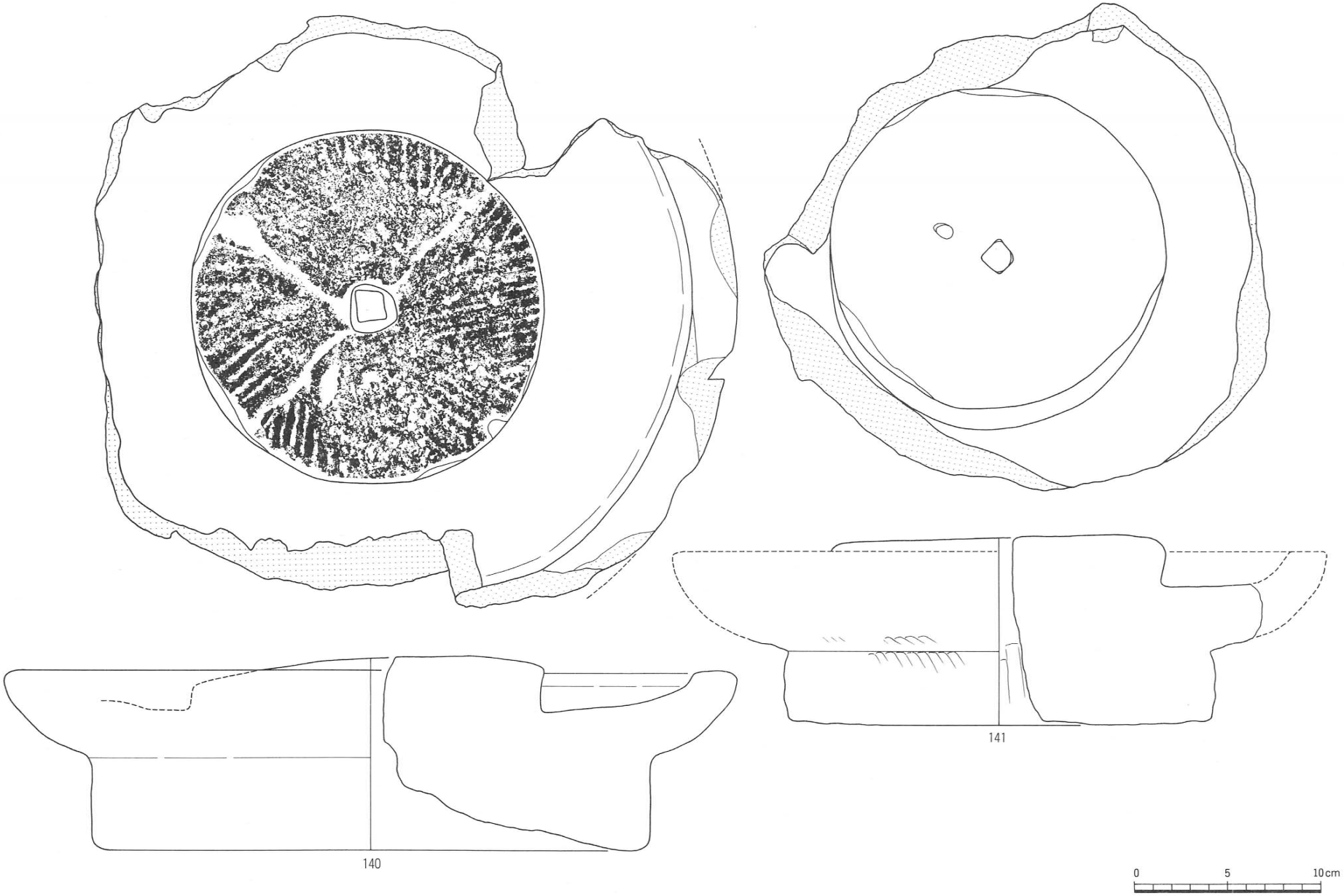
第37図　SE13(122)・SE15(123～126)・SE16(127)・SE18(128～130) 出土遺物 (1/3)



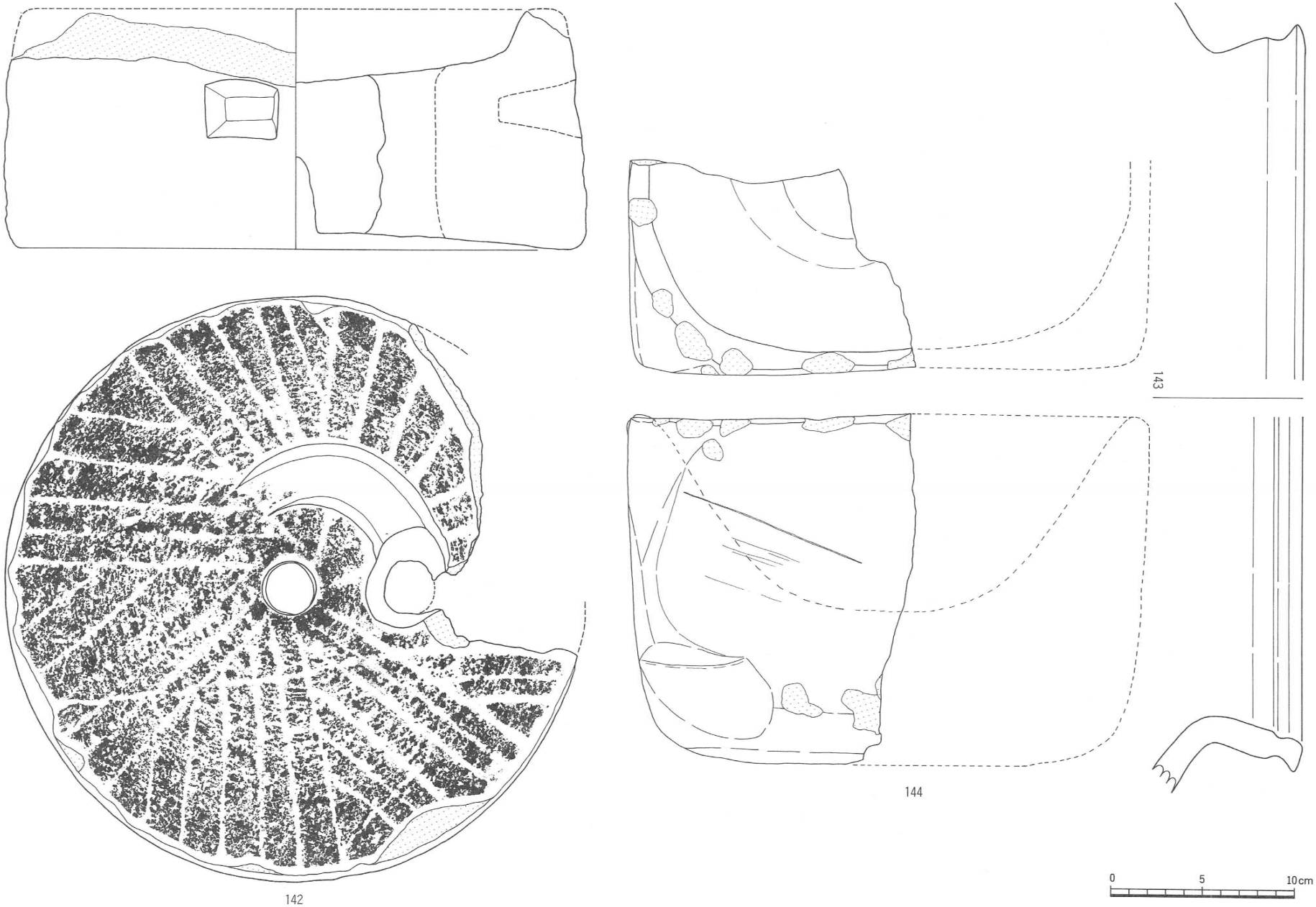
第38図　SE19(131・132)・SE20(133・134) 出土遺物 (1/3)



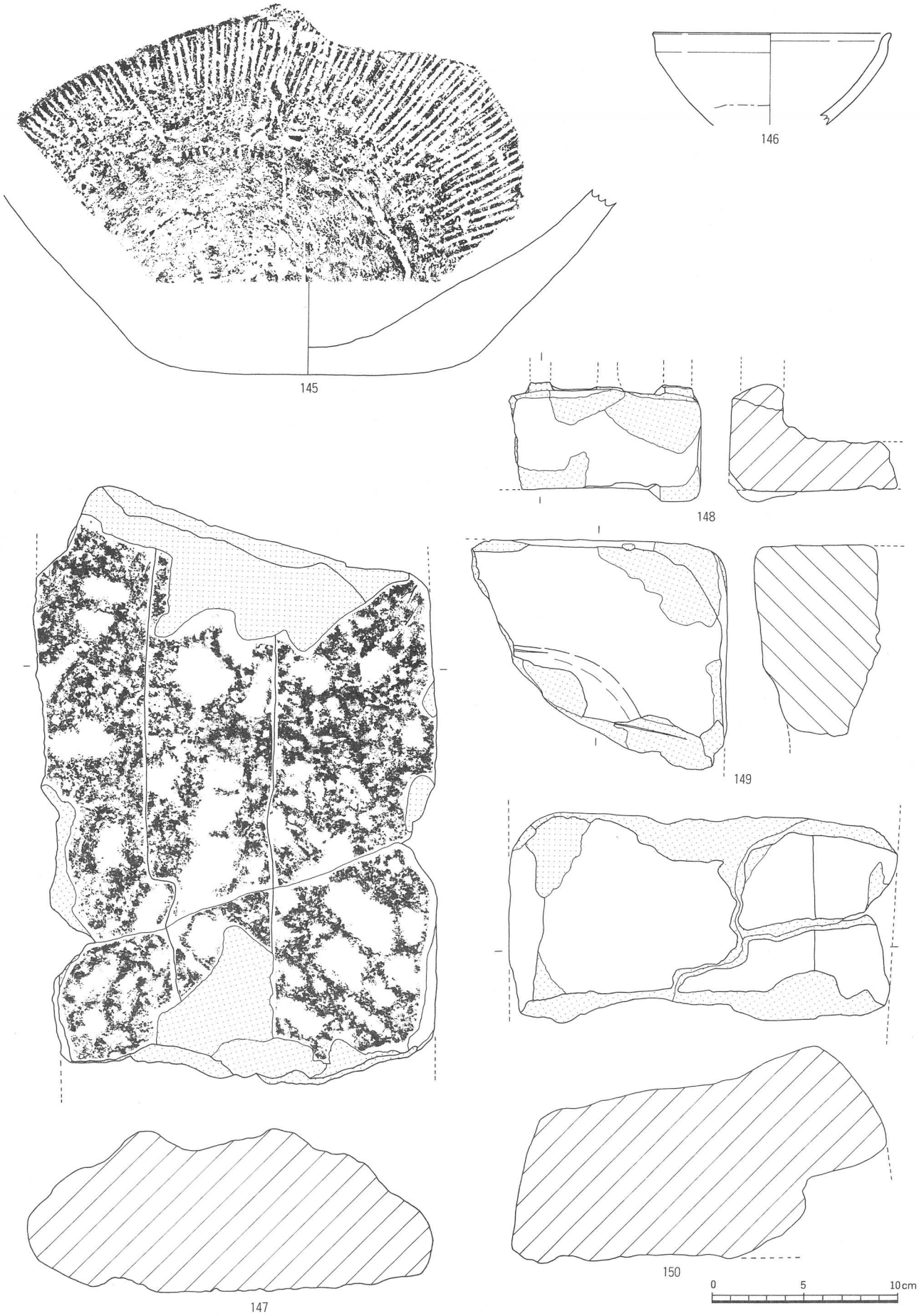
第39図　SE21(135)・SE22(136)・SE23(137～139) 出土遺物 (1/3)



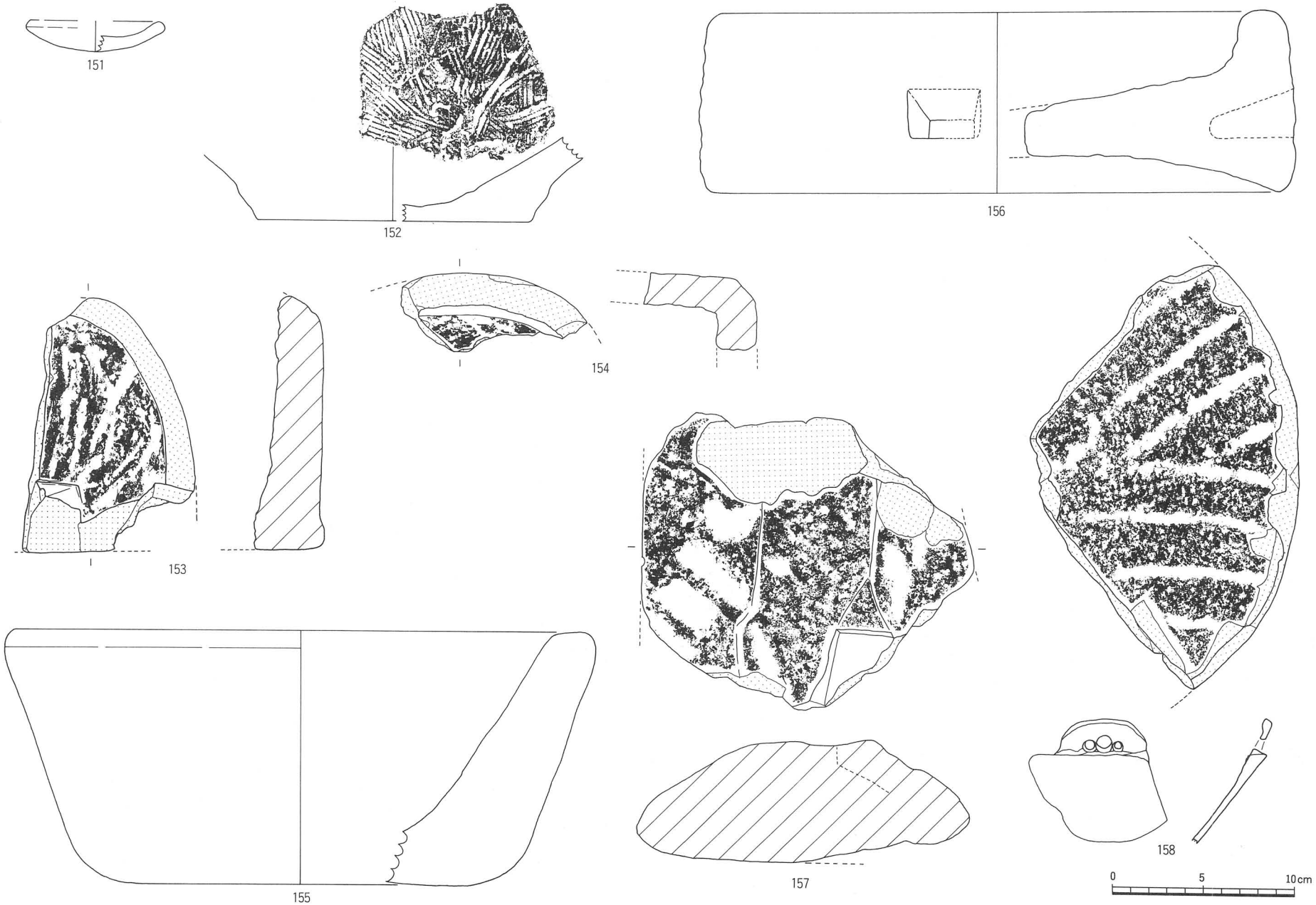
第40図　SE23 出土遺物（1/3）



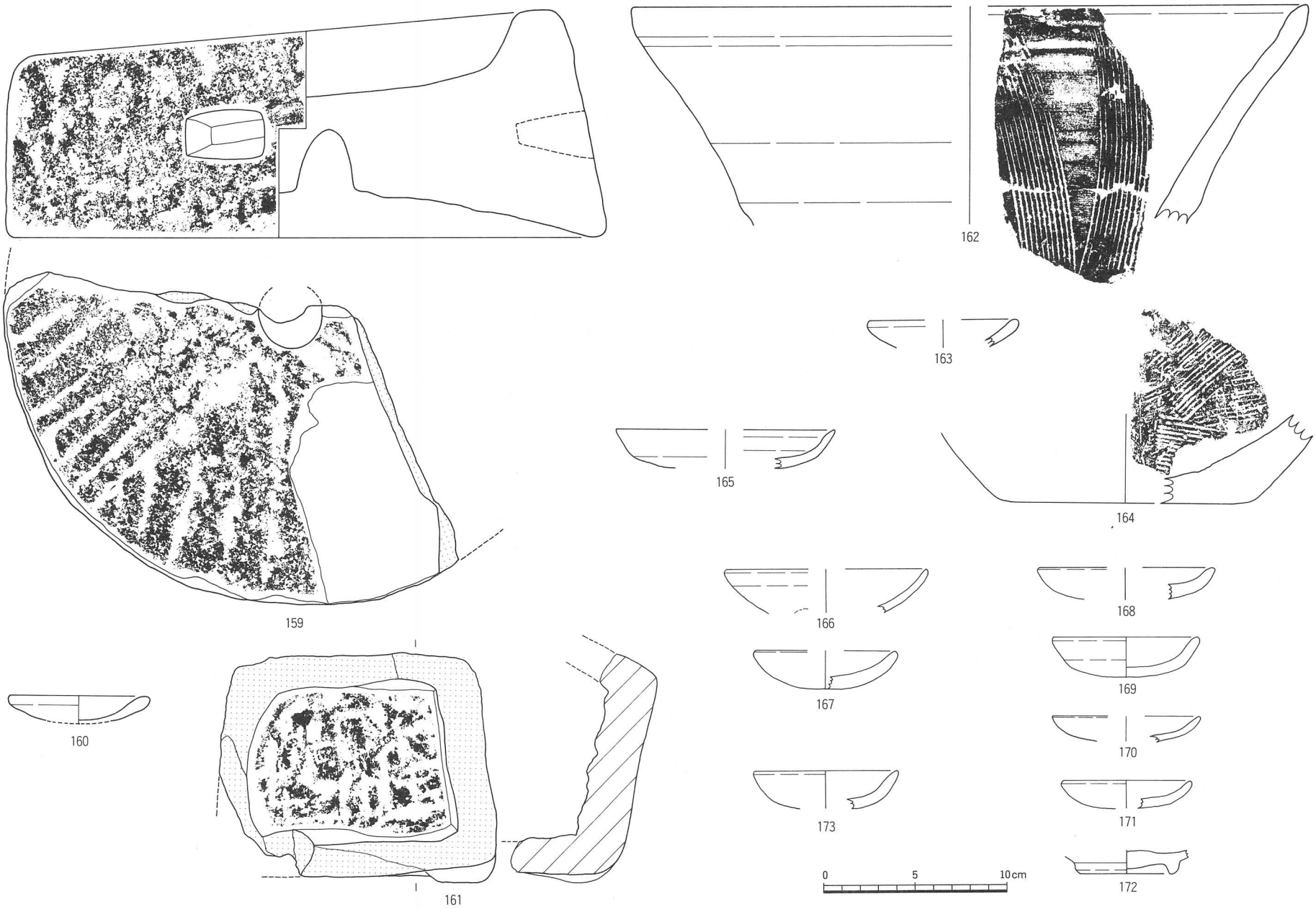
第41図　SE23(142)・SX08(143・144) 出土遺物 (1/3)



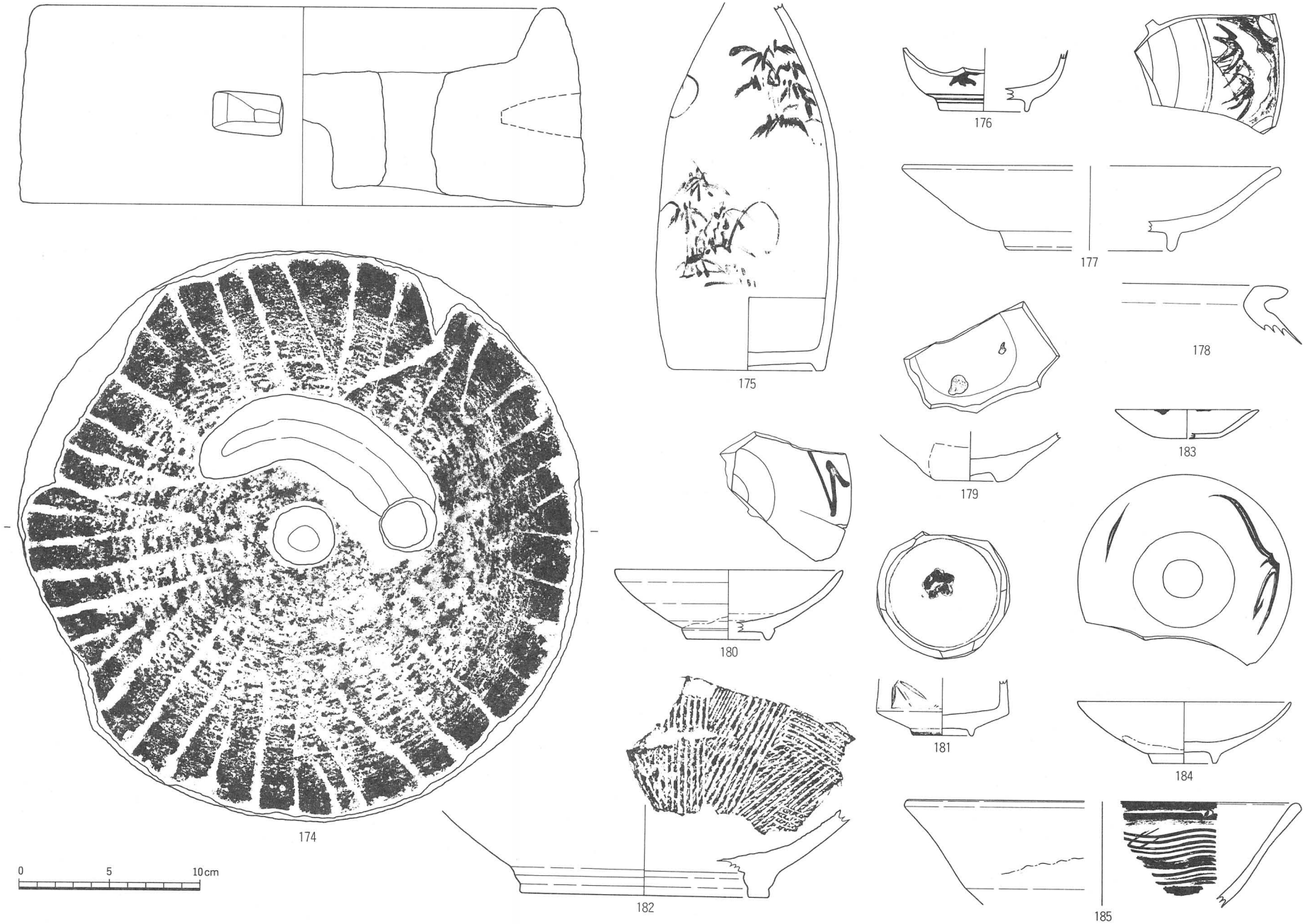
第42図　SX08(145)・SX10(146)・SX14(147～150) 出土遺物 (1/3)



第43図　SX16 出土遺物（1/3）



第44図　SK05(159)・SK08(160)・SK11(161)・SK13(162～164)・SK26(165)・SD07(166・167)・SD08a(168～172)・SD08b(173) 出土遺物 (1/3)



第45図　包含層(174)・SK52(175～178)・SK53(179)・SK54(180～182)・SK55(183～185) 出土遺物 (1/3)

第46図　集落区－S1区（1/200）

4　S１区（第46図）

集落区中央部ＳＳ01の南側に位置する。この地区はＳＤ10・11によりＳＢ22・23、ＳＥ25・ＳＸ23を方形に囲む区画が中心となり、これを①区とした。南北溝ＳＤ11を境界にＳＢ24～26の一群がの西側に存在し、これを②区とした。

(1) 掘立柱建物

ＳＢ22（第47図）

①区方形区画内に位置する。梁行２間6.0m、桁行３間10.2m、床面積約61m²、主軸（N84°W）を測る東西棟の総柱建物である。北側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.65m、2.95m、4.3m、南側桁行Ｐ10～Ｐ13間は3.4m、3.5m、3.25mを測る。西側梁行Ｐ1～Ｐ5～Ｐ10間は3.4m、2.65m、東側梁行Ｐ4～Ｐ9～Ｐ13間は3.85m、2.2mである。柱穴は略円形で径35～70cm、深さ24～75cmとばらつく。

ＳＢ23（第48図）

①区方形区画内に位置する。梁行２間6.8m、桁行３間10.7m、床面積約73m²、主軸（N87°W）を測る東西棟の総柱建物と想定したが、間違いの可能性がある。北側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.7m、3.4m、4.5m、南側桁行Ｐ8～Ｐ11間は4.3m、3.4m、3.4mを測るが、他は不明である。柱穴は略円形で径35～74cm、深さ11～80cmとばらつく。

ＳＢ24（第49図）

②区南東に位置する。梁行１間3.6m、桁行２間6.4m、床面積約23m²、主軸（N11°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.1m、3.3m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は3.1m、3.3mである。柱穴は略円形で径

ＳＢ２５（第49・53図）

②区西側に位置しＳＢ26と複合する。南北３間の柱列を一列確認した。主軸は（Ｎ10°Ｅ）である。西側柱列Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は4.0m、3.4m、3.65mの計11.0m。柱穴は略円形で径40～55cm、深さ40～62cmを測る。

ＳＢ２６（第49図）

②区西側に位置する。南北３間の柱列を一列確認した。主軸は（Ｎ6°Ｅ）である。柱列Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は3.5m、3.8m、3.4mの計10.7m。柱穴は略円形で径40～75cm、深さ32～54cmを測る。

(2) 柵列・橋・道

ＳＡ０２（第48図）

①区方形区画内南端に位置し、区画溝ＳＤ10cの切れる部分を補完するようにＰ1～Ｐ6が逆Ｌ字状に東西に並ぶ柵列である。Ｐ1～Ｐ2間は3.0m、Ｐ2～Ｐ6間は4.15m、4.05m、3.9mの計12.1mを測る。南北列の方位は（Ｎ87°Ｗ）である。柱穴は略円形で径25～44cm、深さ20～60cmである。

ＳＡ０３（第49図）

②区ＳＢ24の東に80cm離れて位置し、Ｐ1～Ｐ4が南北に並ぶ柵列である。Ｐ1～Ｐ4間は1.9m、1.55m・1.75mの計5.2mを測る。方位は（Ｎ11°Ｅ）である。柱穴は略円形で径30～65cm、深さ38～58cmである。

ＳＧ０１（第47図）

①区方形区画東西溝ＳＤ10ａの中央部に架かる橋としたものである。Ｐ1～Ｐ4がＳＤ10ａを挟み台形状に配置される。Ｐ1～Ｐ2間2.6m、Ｐ3～Ｐ4間2.0m、Ｐ1～Ｐ3間1.5m、Ｐ2～Ｐ4間1.4mを測る。柱穴は略円形で径25～60cm、深さ34～40cmを測る。

ＳＳ０１・０２（第46図）

東西溝ＳＤ08と並行する道ＳＳ01は幅1.0～2.5mを測る東西道である。集落区と耕作区の境界付近では狭くなっている。またＳＤ09とＳＤ15間は南北道ＳＳ02の可能性が高い（第10図）。

(3) 井戸

ＳＥ２５（第50・53図）

①区方形区画内南西に位置する。平面形は隅丸方形で長軸2.75m、短軸2.15m、底面は1.7m×1.7mである。内部に段を有し、深さ2.12m、底面標高10.40mを測る。

ＳＥ２６（第50・53図）

②区ＳＢ24の東に位置し、複合するＳＤ11に切られる。平面形は略円形で径1.2～1.25m、底面径1.2m、深さ2.04m、底面標高10.67mを測る。

(4) 竪穴状遺構

ＳＸ２１（第51・53図）

①区北東に位置し、複合するＳＸ22を切る。平面形は楕円形で長軸4.9m、短軸2.5m、面積約10m²、深さ32cmを測る。

ＳＸ２２（第51図）

①区北東に位置する。平面形は隅丸方形と考えられ、一辺2.8m、深さ25cmを測が他は不明。

ＳＸ２３（第51・53図）

①区方形区画内南東隅に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸3.8m以上、短軸2.84m、深さ38cmを測る。面積は10m²程か。

ＳＸ２４（第51・53図）

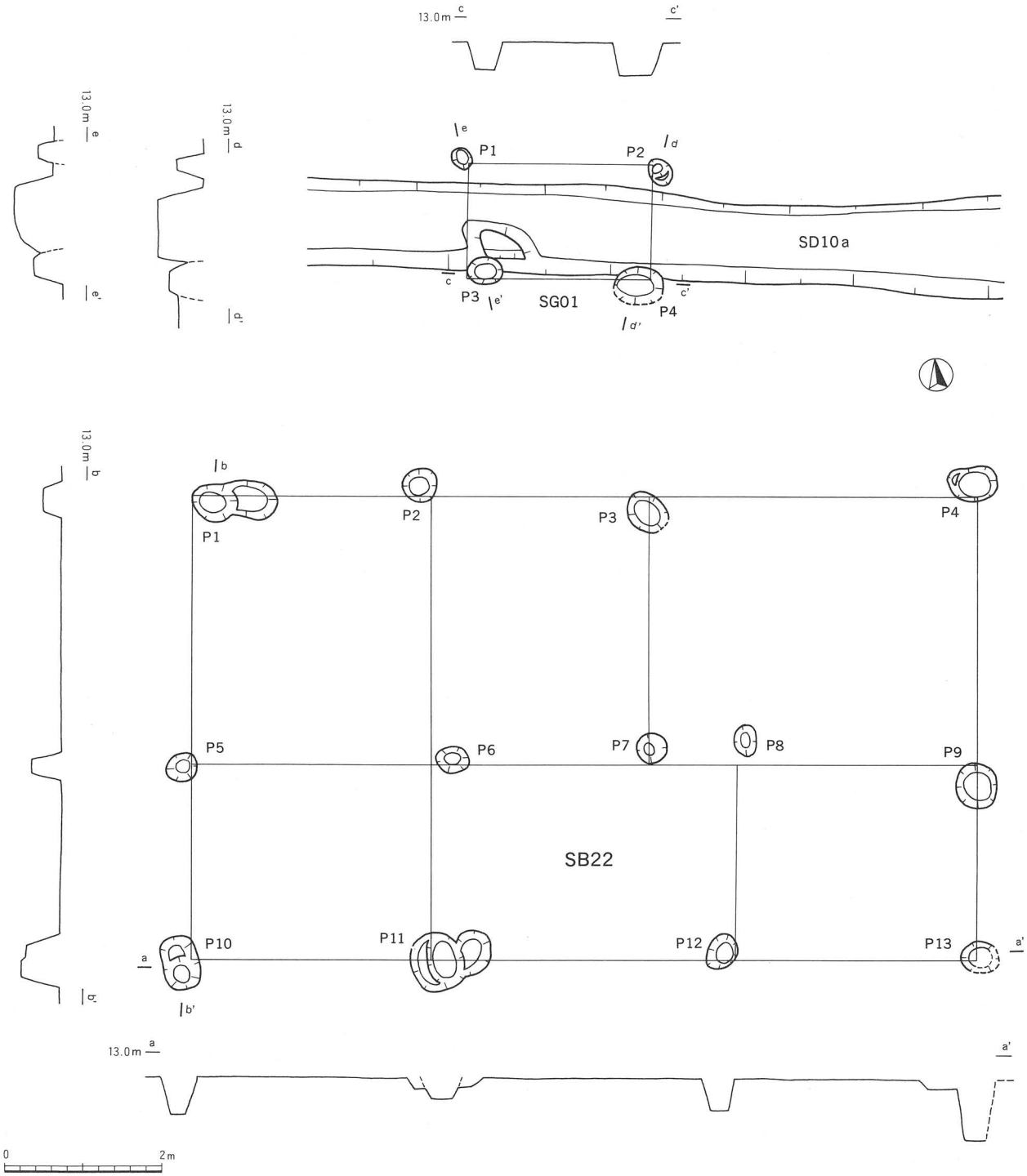
①区南端中央に位置しＳＤ10ｃに切られる。平面形は隅丸方形で長軸3.25m、短軸2.16m、面積約６m²、深さ24cmを測る。

ＳＸ２５（第51・54図）

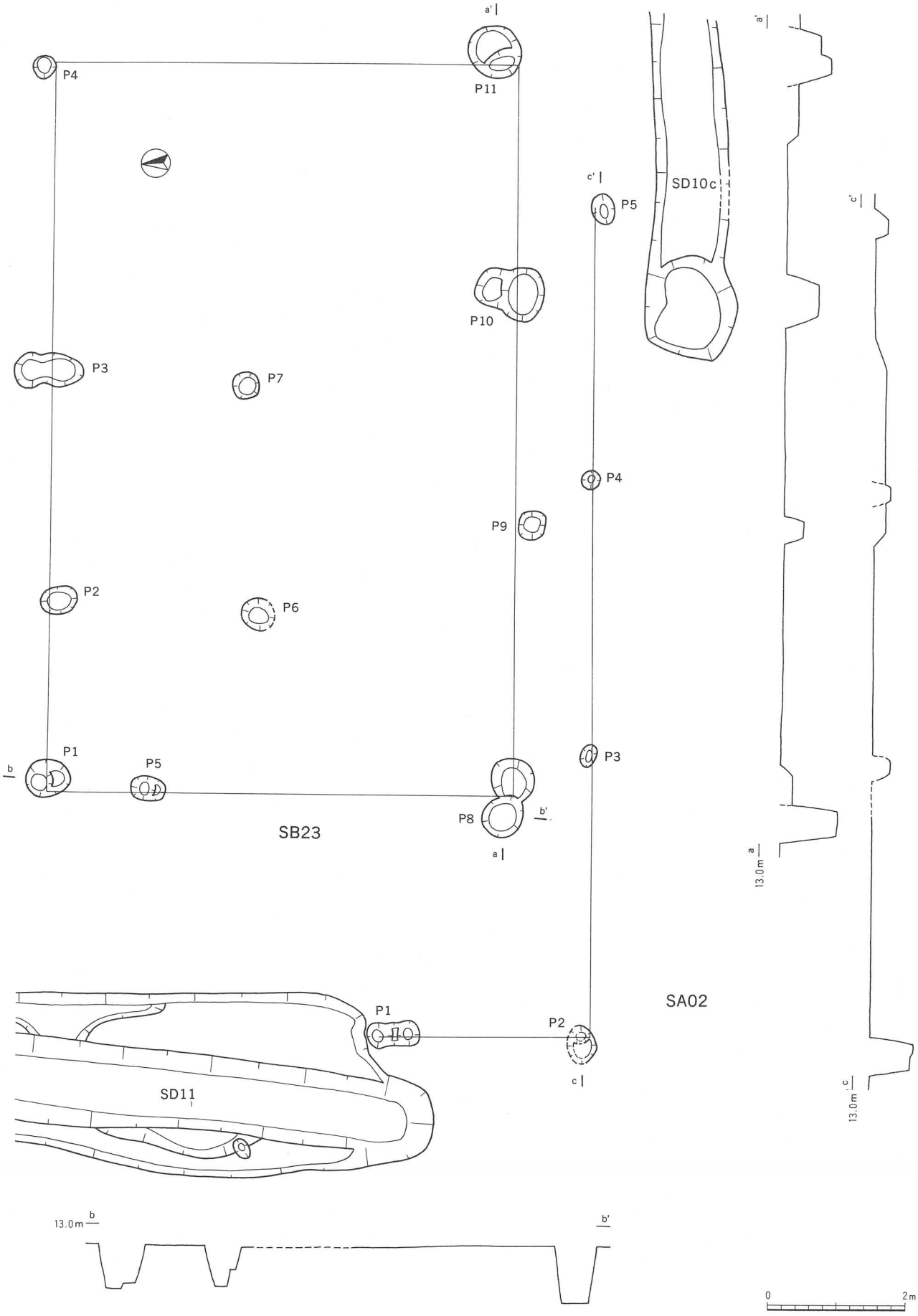
②区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、推定長軸5.5m、短軸2.47m、深さ28cmを測る。面積は12m²程か。

ＳＸ２６（第51・54図）

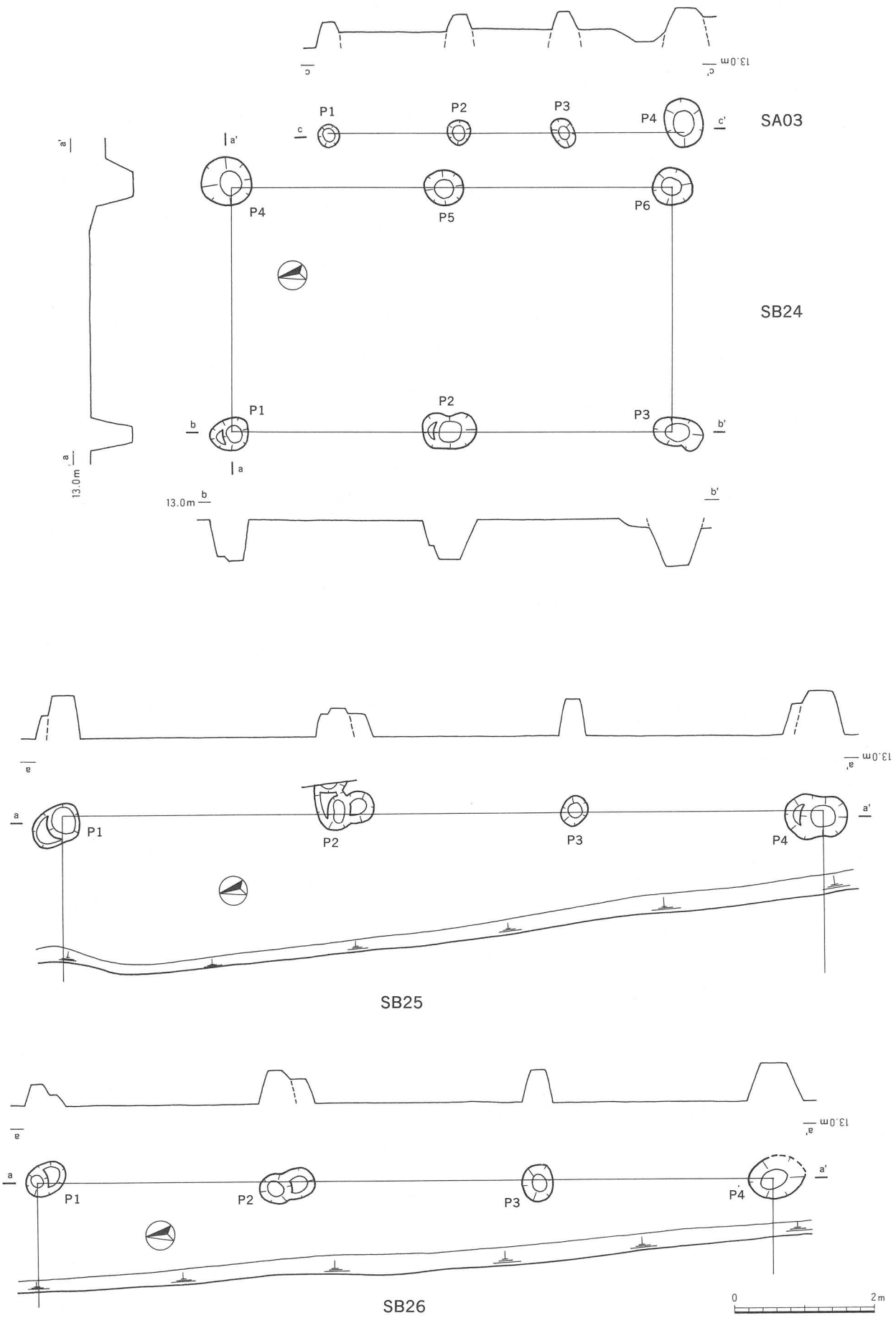
②区南端に位置しＳ２区に跨る。平面形は楕円形で、長軸5.4m、短軸2.8m、面積約14m²、深さ22cmを測る。



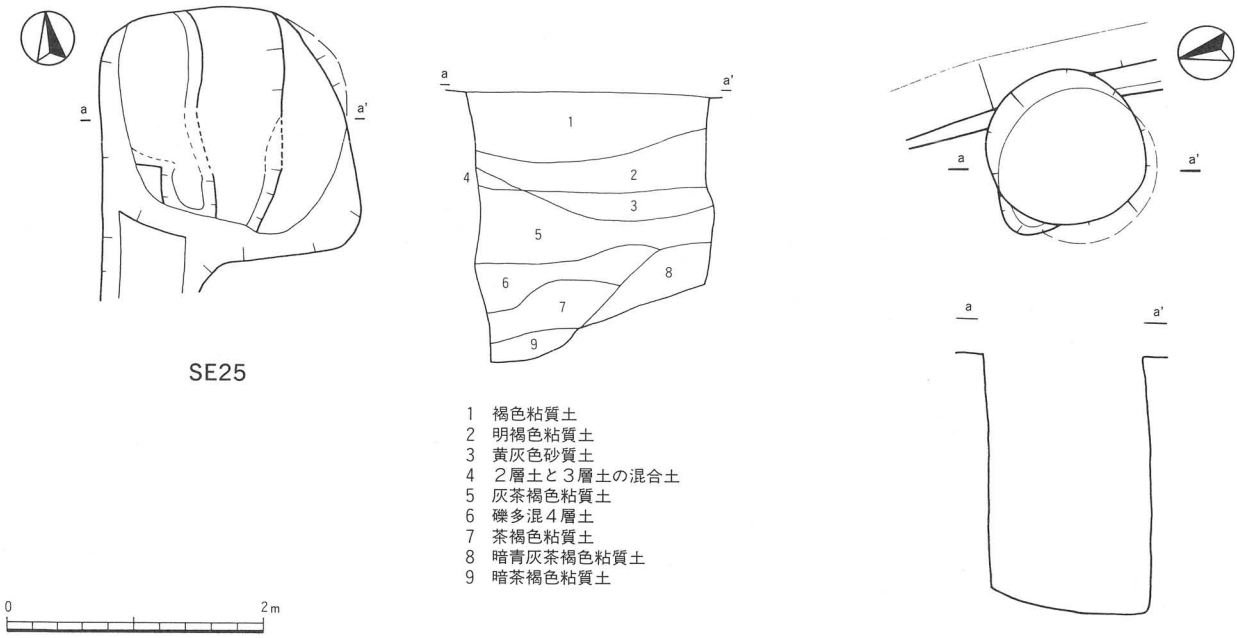
第47図　S1区　SB22・SG01 遺構図（1/80）



第48図　S1区　SB23・SA02 遺構図（1/80）



第49図　S1区　SB24～26・SA03 遺構図（1/80）



第50図　S1区　SE25・26 遺構図（1/60）

(5) 土坑

ＳＫ２７（第52・54図）

②区北端に位置し、複合するＳＤ08を切る。平面形は楕円形で、長軸2.85m、短軸2.13m、深さ40cmを測る。

ＳＫ２８（第52・54図）

①区北端に位置し、土坑が２基複合したものか。1辺2.95m、深さ15cmを測るが他は不明である。

ＳＫ２９（第52・54図）

②区東南に位置し、複合するＳＤ11に切られる。平面形は楕円形で、長軸2.6m、深さ15cmを測る。

ＳＫ３０（第52図）

②区中央に位置し、複合するＳＤ14に切られる。平面形は楕円形で、長軸1.45m、短軸1.2m、深さ10cmを測る。

ＳＫ３１（第52図）

②区中央西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.7m、短軸1.1m、深さ12cmを測る。

(6) 溝

ＳＤ０９（第46・52図）

Ｓ１区東端に位置する南北溝であるが、Ｓ２区以南は不明。幅30～40cm、深さ24～33cmを測る。

ＳＤ１０（第46・52・54図）

①区に位置し、ＳＤ11と南北17.7m、東西16.0mの方形区画を構成する。ＳＤ10はコ字状に巡り、北面をＳＤ10ａ、東面をＳＤ10ｂ、南面をＳＤ10ｃとした。ＳＤ10ａは幅1.1m、深さ53～61cmを測る。ＳＤ10ｂは幅0.8～1.1m、深さは、北側が51～70cmと深いが、南側は18～20cmである。ＳＤ10ｃは、幅1.0m、深さは10～12cmと浅い。

ＳＤ１１（第46・52・55図）

①区方形区画西端の南北溝である。北側の幅1.55～1.65m、南側では段状の不整な掘り込みがみられる。深さ55～75cmを測り、溝底は北側へ傾斜し南北で25cmの標高差をもつ。

ＳＤ１２（第46・52図）

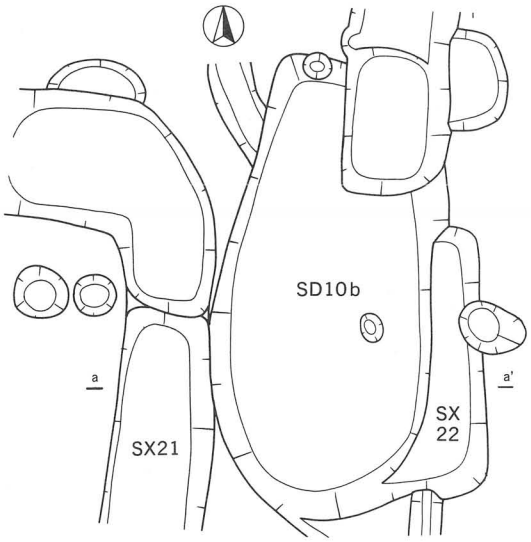
②区北に位置する東西溝であり、途中で２条に分かれる。幅30～50cm、深さ10～12cmを測る。

ＳＤ１３（第46・52・55図）

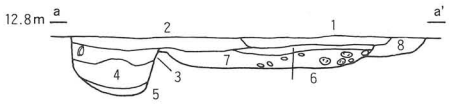
②区北に位置しＳＤ12と並行する。幅65～80cm、深さ12～60cmを測る。ＳＤ11に流れ込む溝か。

ＳＤ１４（第46図）

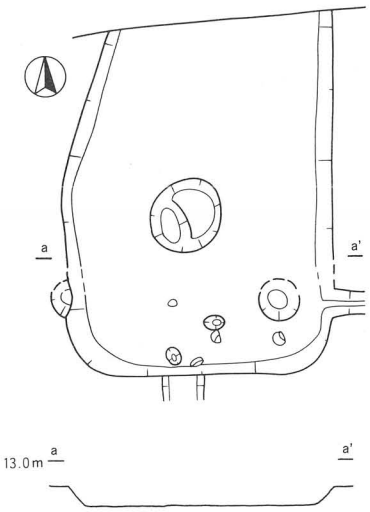
②区中央に位置する南北溝である。幅30～35cm、深さ5～15cmを測る。



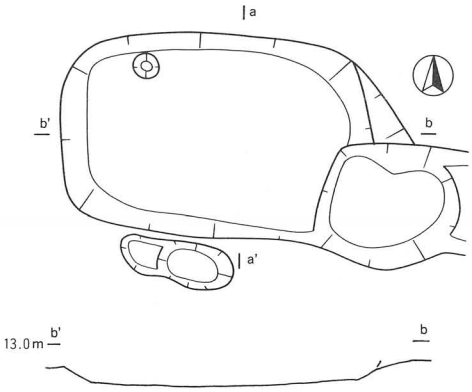
SX21・22

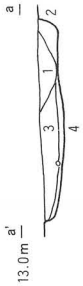


1 灰色粘質土（撹乱）
2 褐色粘質土
3 黄灰色砂質土少混褐色粘質土
4 褐色砂質土（礫多混）
5 地山少混青灰色粘質土
6 黒褐色粘質土
7 暗褐色粘質土（礫混）
8 漆黒褐色粘質土



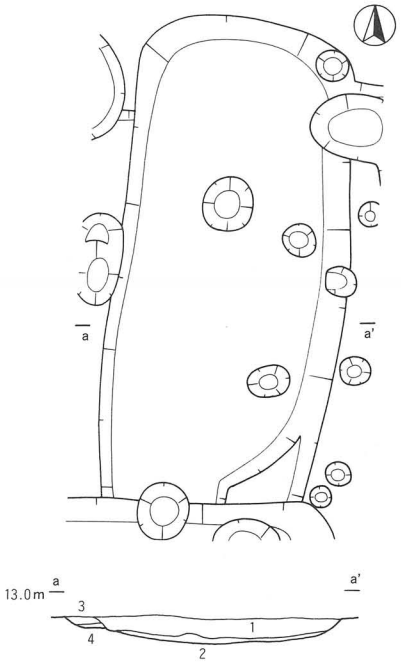
SX23





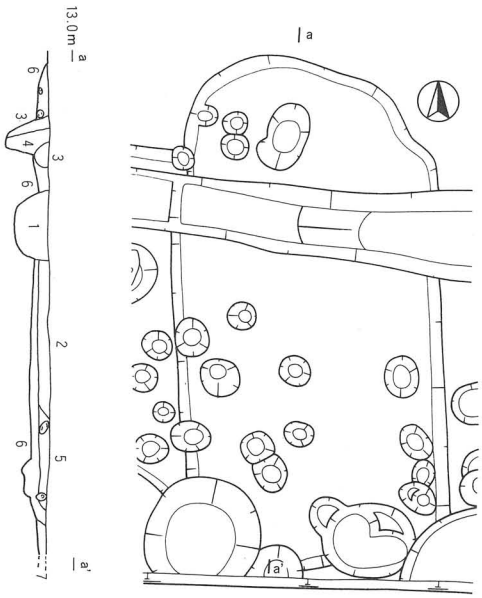
1 褐色粘質土
2 明褐色粘質土
3 灰褐色粘質土
4 暗灰褐色粘質土

SX24



1 褐色粘質土
2 灰茶褐色粘質土
3 地山少混褐色粘質土
4 地山多混褐色粘質土

SX25

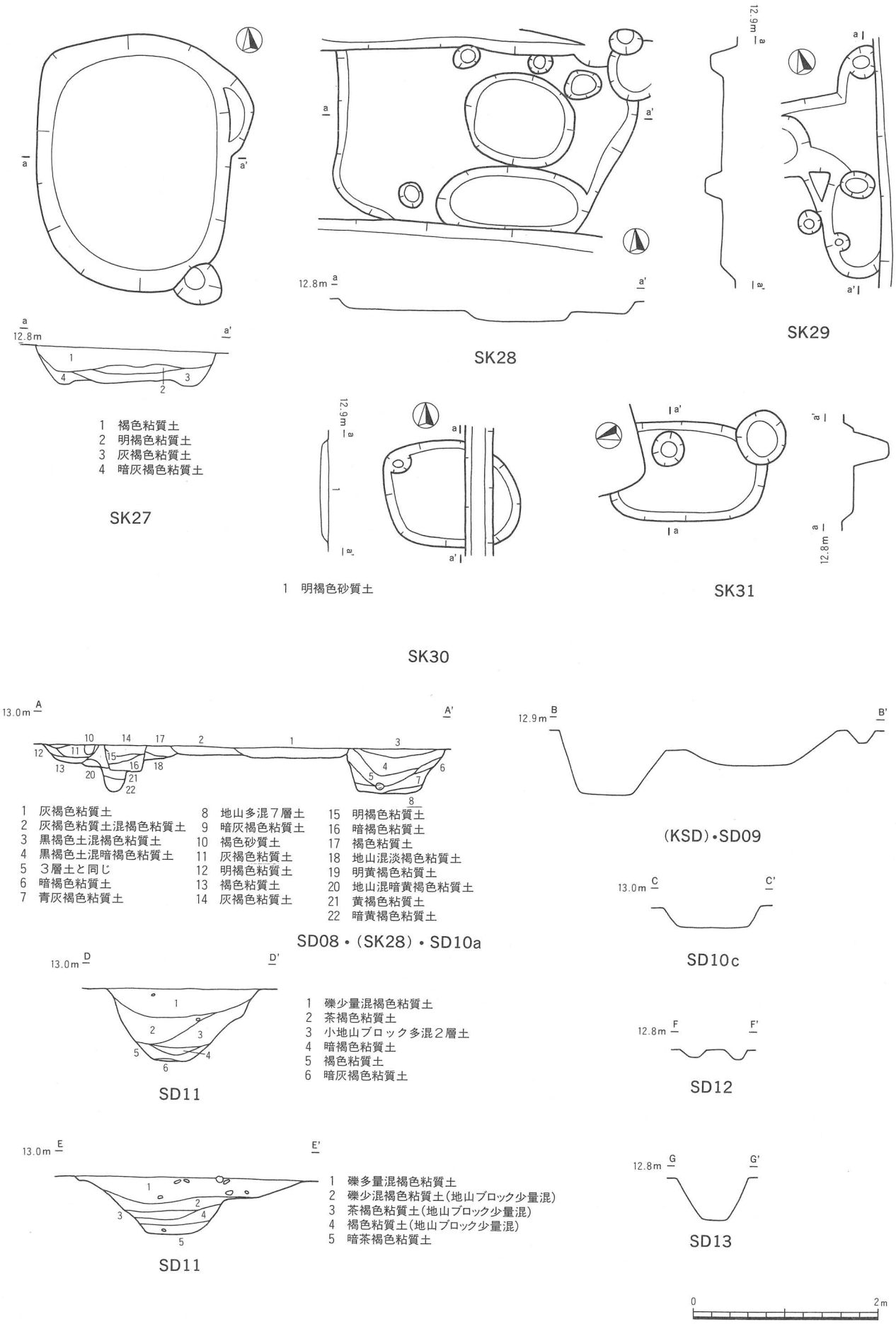


1 青灰色粘質土（田耕作土類似）
2 礫多混青灰色砂質土（撹乱か）
3 地山混褐色粘質土
4 褐色粘質土
5 明褐色粘質土
6 4層と同じ
7 明褐色砂質土

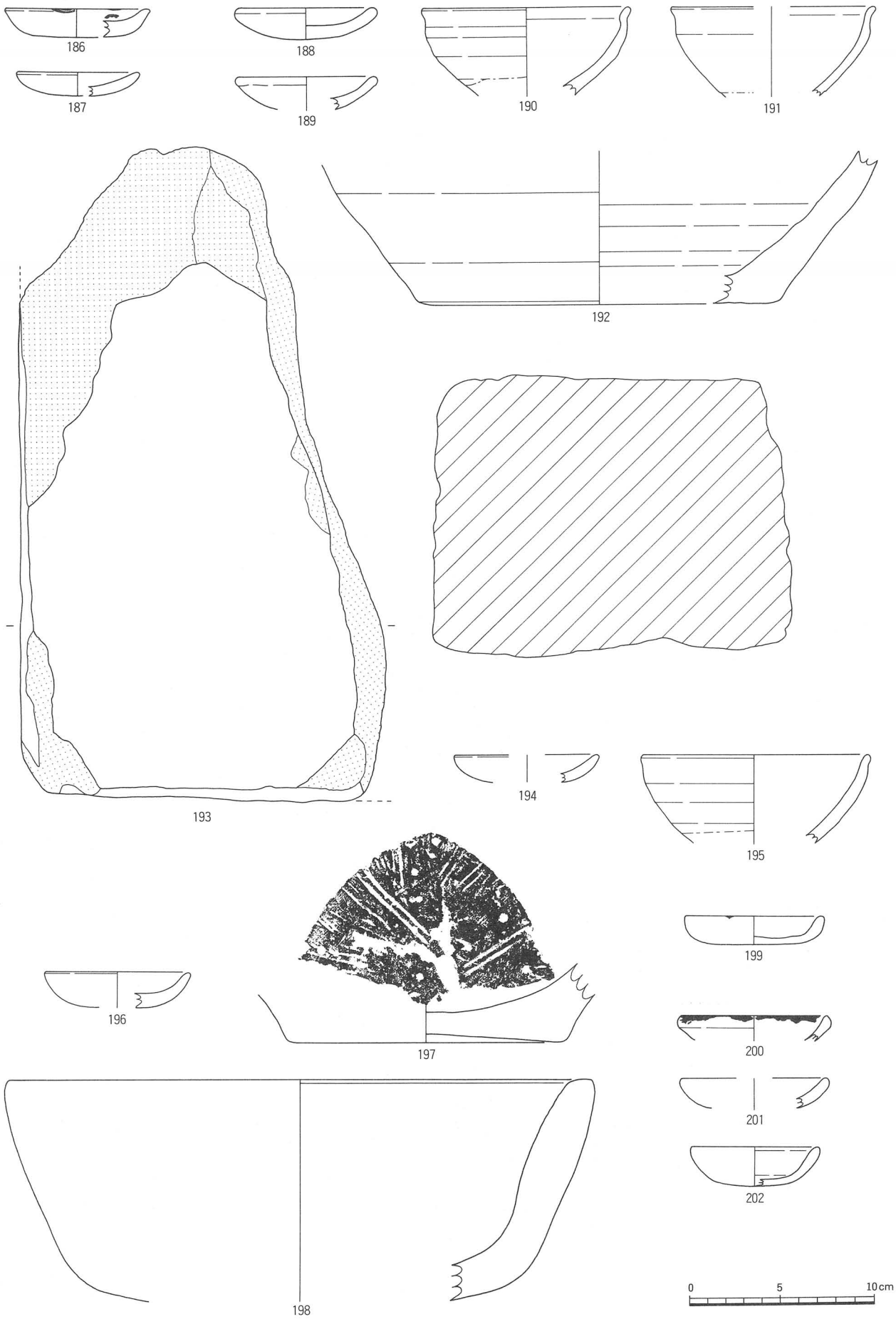
SX26

0 2m

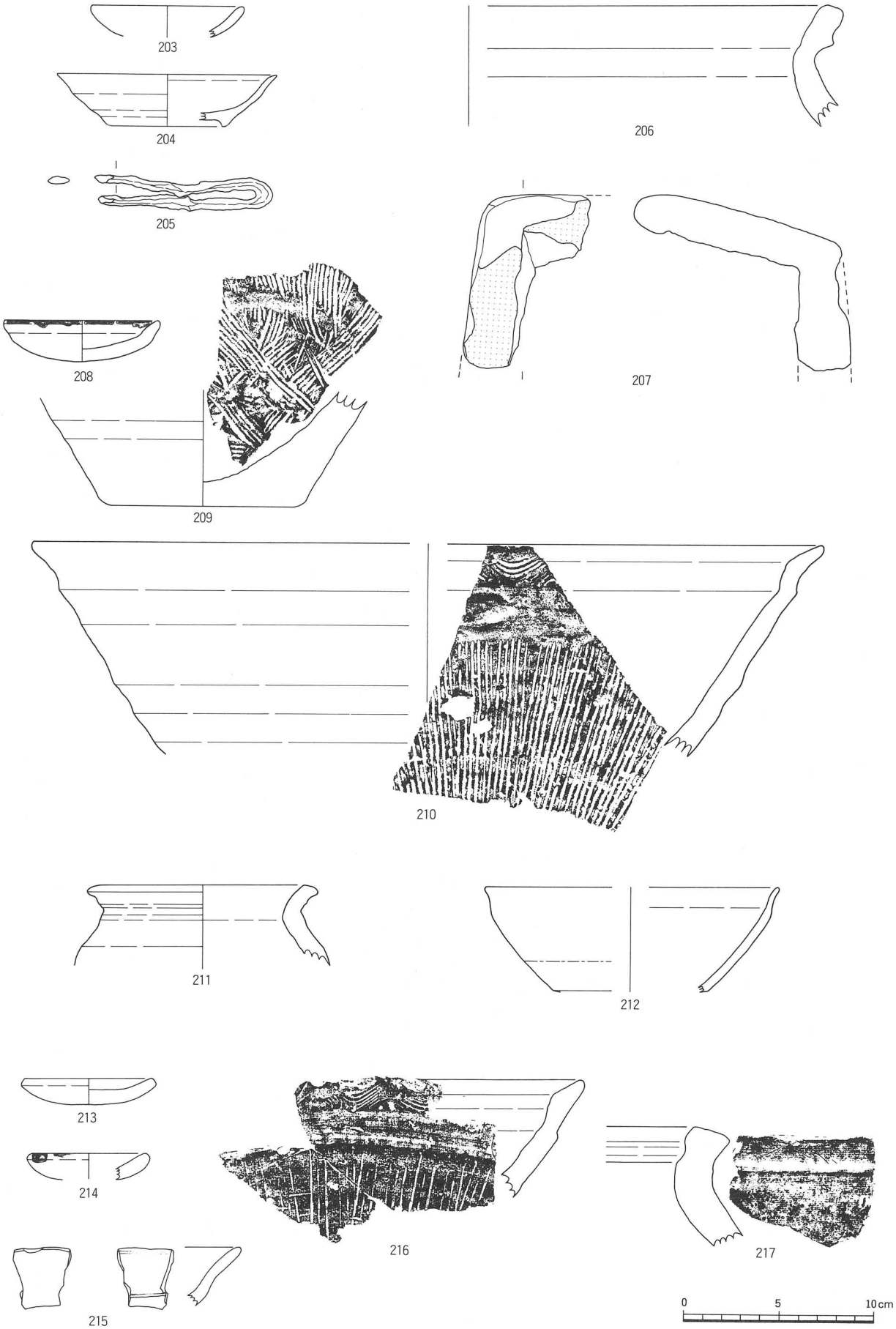
第51図 S1区 SX21～26 遺構図（1/60）



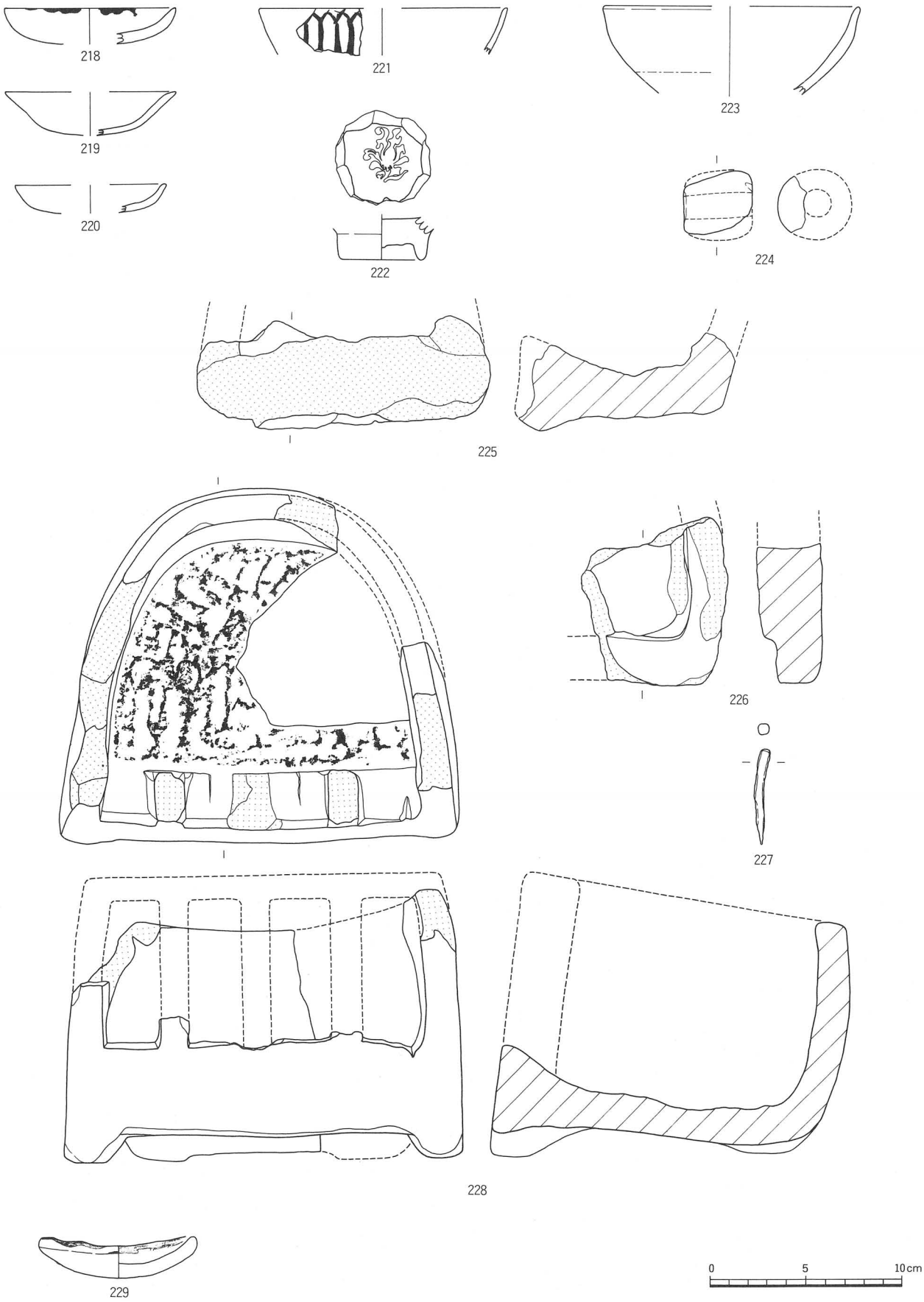
第52図　S1区　SK27～31 遺構図・SD08～13 断面図（1/60）



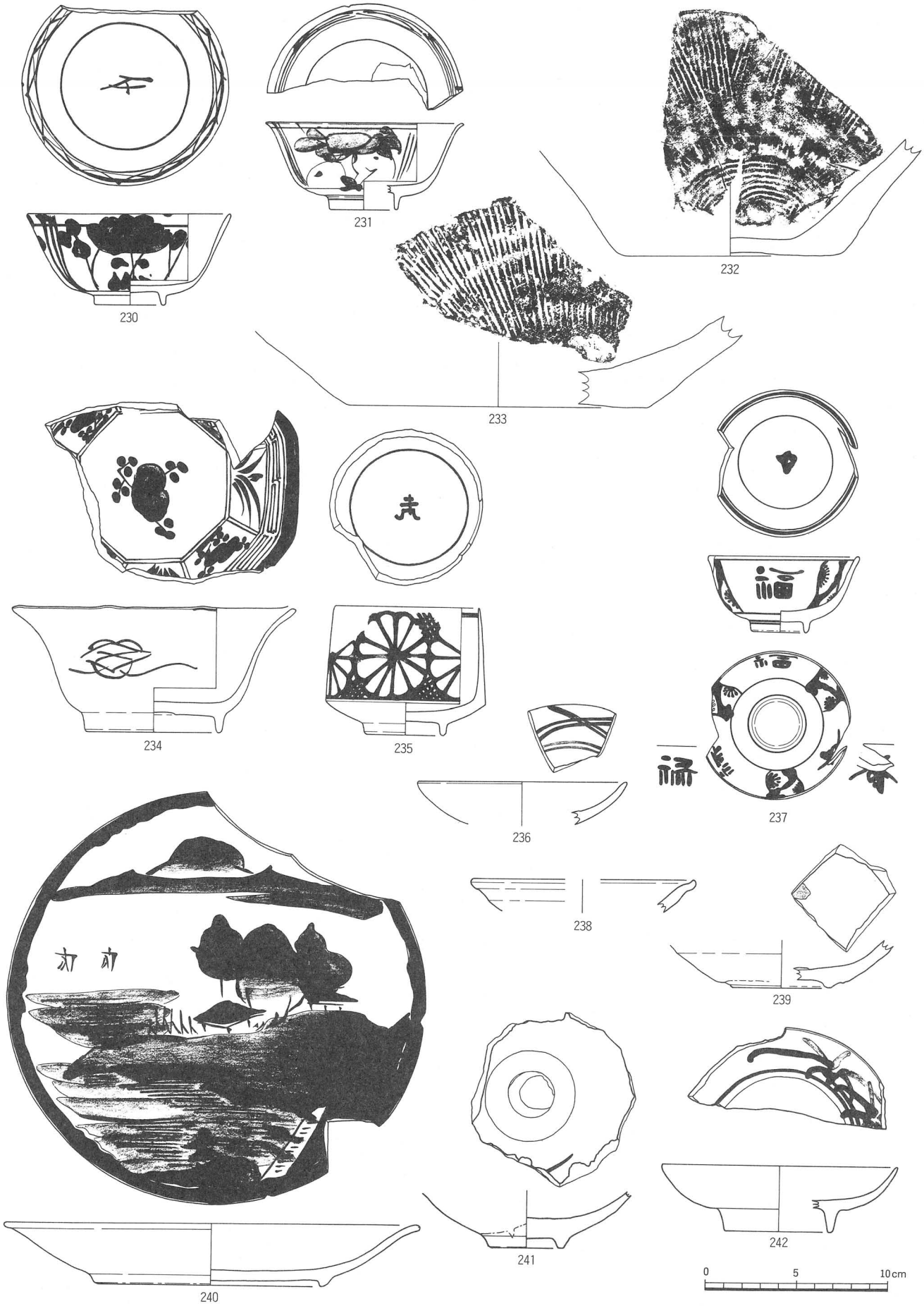
第53図　SB25-P1(186・187)・SE25(188～193)・SE26(194・195)・SX21(196～198)・SX23(199)・SX24(200～202)　出土遺物（1/3）



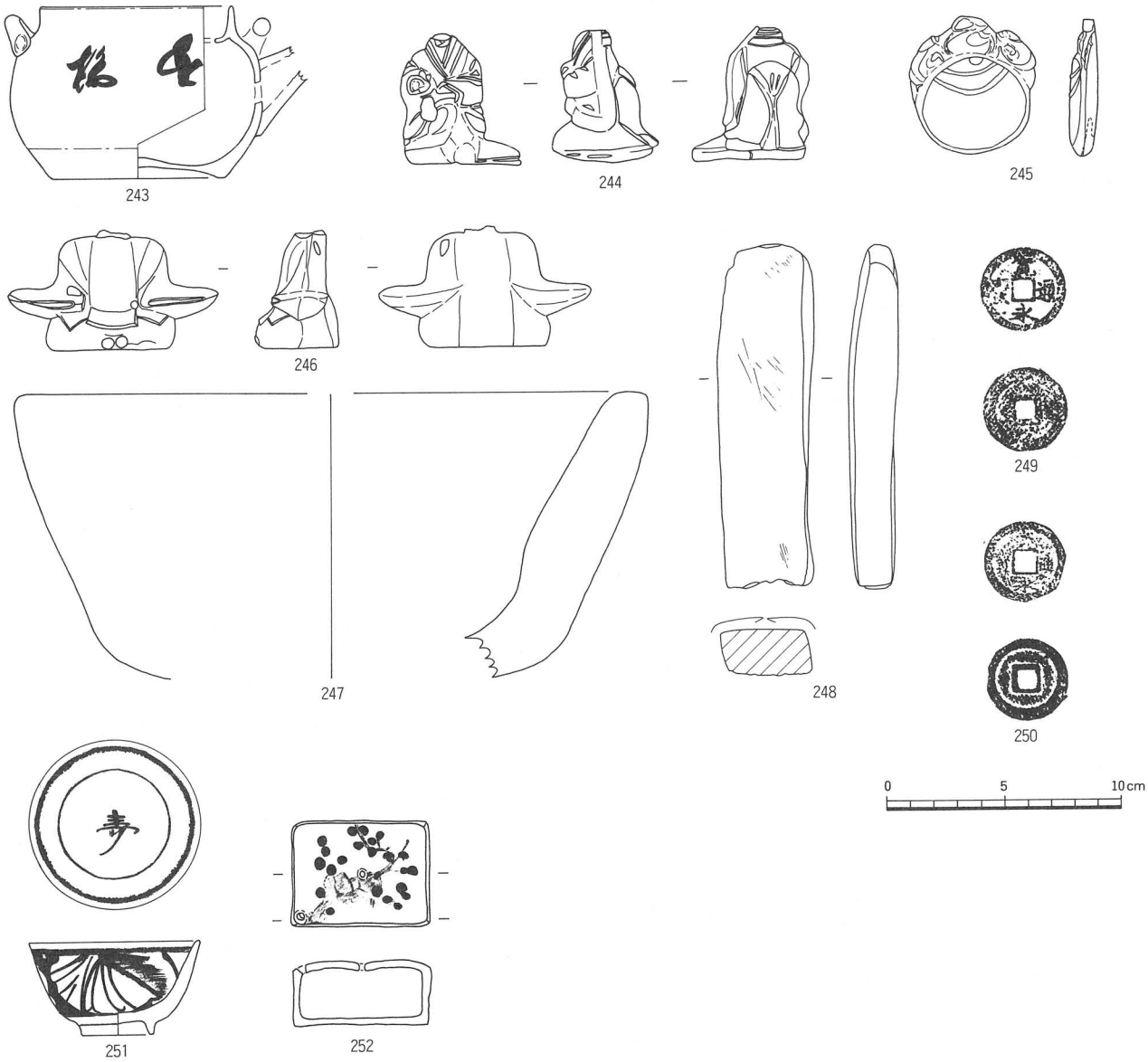
第54図　SX25(203～205)・SX26(206・207)・SK27(208～210)・SK28(211)・SK29(212)・SD10a(213～217) 出土遺物 (1/3)



第55図　SD11(218～228)・SD13(229) 出土遺物 (1/3)



第56図　SE24(230～233)・SK56(234・235)・SD27(236～242) 出土遺物 (1/3)



第57図　SD27(243～250)・SD28(251・252) 出土遺物 (1/3)・(249・250－1/2)

5　S２区（第58図）

集落区中央部S1区の南側に位置する。掘立柱建物群が３群存在し、これを基本に北東から①～④区の小区を設定した。①区はＳＢ27～36群、ＳＸ30～32群、ＳＥ27～31で構成される。②区はＳＢ37～44群、ＳＸ27～29群、ＳＥ32～37などで構成される。③区はＳＢ45～47群とＳＸ33～42群、ＳＥ38～40などで構成される。④区は、ＳＸ43～46により構成される。Ｎ１区の小区では、南西側に掘立柱建物、北東側に竪穴状遺構と井戸が配置されるが、Ｓ２区では東西方向に配置されている。

(1) 掘立柱建物

ＳＢ２７（第59図）

①区東に位置する。梁行２間3.9m、桁行３間5.1m、床面積約20m²、主軸（N4°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は2.0m、3.35m（一柱穴不明）、東側桁行Ｐ5～Ｐ9間は1.5m、1.6m、1.6mを測る。北側梁行Ｐ1～Ｐ4～Ｐ6間は2.25m、2.65m、南側梁行Ｐ3～Ｐ5～Ｐ9間は1.9m、1.9mである。柱穴は略円形で径20～55cm、深さ15～56cmを測る。

第58図　集落区－S2区（1/200）

SB28（第59・72図）

①区東に位置する。梁行１間3.5m、桁行２間3.5m、床面積約14m²、主軸（N1°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は、2.3m、1.5m、東側桁行P4～P6間は2.3m、1.4mを測る。柱穴は略円形で径30～50cm、深さ28～50cmを測る。

SB29（第59図）

①区中央に位置する。梁行１間3.4m、桁行２間4.8m、床面積約16m²、主軸（N7°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は、2.5m、2.4m、東側桁行P4～P6間は2.8m、2.0mである。柱穴は略円形で径25～45cm、深さ25～50cmを測る。

SB30（第59図）

①区東に位置する。梁行２間4.8m、桁行３間6.9m、床面積約33m²、主軸（N6°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は2.3m、2.6m、2.3m、東側桁行P7～P10間は2.2m、2.3m、2.4mを測る。北側梁行P1～P5～P7間は2.8m、1.8m、南側梁行P4～P6～P10間は2.8m、1.8mである。柱穴は略円形で径32～84cm、深さ30～74cmを測る。

SB31（第60図）

①区中央に位置する。梁行１間1.8m、桁行３間6.0m、床面積約11m²、主軸（N7°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P4間の柱間寸法は2.0m、1.8m、2.2m、東側桁行P5～P8間は2.2m、1.55m、2.25mである。

柱穴は略円形で径25～75cm、深さ25～65cmを測る。

ＳＢ32（第60図）

①区西に位置し、ＳＢ32～36が複合する。梁行１間4.2m、桁行２間7.5m、床面積約31m²、主軸（Ｎ7°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は、4.0m、3.5m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は4.2m、3.3mを測る。柱穴は略円形で径50～90cm、深さ45～85cmを測る。

ＳＢ33（第60図）

①区西に位置する。梁行１間4.7m、桁行３間6.2m、床面積約29m²、主軸（Ｎ11°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は、1.8m、2.0m、2.4m、東側桁行Ｐ5～Ｐ8間は2.6m、1.5m、2.0mを測る。柱穴は略円形で径30～70cm、深さ38～74cmを測る。

ＳＢ34（第60・72図）

①区西に位置する。梁行１間3.4m、桁行３間5.5m、床面積約19m²、主軸（Ｎ8°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は、2.0m、1.6m、1.9m、東側桁行Ｐ5～Ｐ8間は1.8m、1.3m、2.4mを測る。柱穴は略円形で径25～50cm、深さ30～56cmを測る。

ＳＢ35（第61図）

①区西に位置する。梁行１間3.4m、桁行２間5.1m、床面積約17m²、主軸（Ｎ13°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は、2.3m、2.8m、東側桁行Ｐ4～Ｐ5間は2.5mを測る（一柱穴不明）。柱穴は略円形で径35～42cm、深さ39～50cmを測る。

ＳＢ36（第61図）

①区西に位置する。梁行１間4.3m、桁行２間5.7m、床面積約24m²、主軸（Ｎ8°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は2.8m、2.9m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は2.6m、3.1mである。柱穴は略円形で径30～50cm、深さ45～72cmを測る。

ＳＢ37（第61図）

②区北西に位置する。梁行２間4.9m、桁行２間6.2m、床面積約30m²、主軸（Ｎ10°Ｅ）を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.1m、3.2mを測り、北側梁行Ｐ1～Ｐ4～Ｐ7間は2.5m、2.5m、南側梁行Ｐ3～Ｐ6～Ｐ8間は2.4m、2.45mである。柱穴は略円形で径20～50cm、深さ16～62cmを測る。

ＳＢ38（第61図）

②区北西に位置する。南北２間の柱列を一列確認した。主軸は（Ｎ6°Ｅ）である。柱列Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は、2.4m、2.4mの計4.8m。柱穴は略円形で径35～74cm、深さ47～53cmを測る。

ＳＢ39（第62・72図）

②区中央に位置する。梁行１間3.8m、桁行２間5.4m、床面積約21m²、主軸（Ｎ8°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.0m、2.5m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は2.9m、2.3mを測る。柱穴は略円形で径30～90cm、深さ35～64cmを測る。

ＳＢ40（第62・図）

②区中央に位置する。梁行１間3.0m、桁行２間5.4m、床面積約16m²、主軸（Ｎ10°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は、2.75m、2.65mを測る。柱穴は略円形で径27～34cm、深さ26～47cmを測る。

ＳＢ41（第62・72図）

②区南に位置する。南北２間の柱列を一列確認した。主軸は（Ｎ5°Ｅ）である。柱列Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は4.0m、5.0mの計9.0m。柱穴は略円形で大きく径1.1～1.6m、深さ82～90cmを測る。

ＳＢ42（第63図）

②区南に位置する。1間×1間の柱穴を確認した。梁間1間4.6mの東西棟か。主軸は（Ｎ82°Ｗ）である。Ｐ1～Ｐ2間の柱間寸法は4.1m、Ｐ3～Ｐ4間は4.0mである。柱穴は略円形で径30～80cm、深さ40～57cmを測る。

ＳＢ43（第63図）

②区南に位置する。1間×1間の柱穴を確認した。梁間1間4.3mの東西棟か。主軸は（Ｎ81°Ｗ）である。Ｐ1～Ｐ2間の柱間寸法は2.9m、Ｐ3～Ｐ4間は3.2mである。柱穴は略円形で径35～50cm、深さ50～72cmを測る。

ＳＢ44（第63図）

②区南に位置する。南北２間の柱列と1個の柱穴を確認した。柱列の軸は（N5°Ｅ）である。柱列Ｐ2～Ｐ4間の柱間寸法は3.0m、3.0mの計6.0m、Ｐ1～Ｐ2間は4.6mを測る。柱穴は略円形でＰ3以外は大きい。径35～90cm、深さ33～59cmを測る。Ｐ3～Ｐ4間の建物内側には、2.5m×2.5mの範囲で硬く踏み締められた土間状の遺構が存在した。

ＳＢ45（第64図）

③区やや東に位置し、ＳＢ46・47と複合する。梁行２間5.4m、桁行３間8.9m、床面積約48m²、主軸（N86°W）を測る東西棟の総柱建物である。北側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.95m、2.85m、3.0m、南側桁行Ｐ9～Ｐ12間は3.0m、3.0m、3.0mを測り、西側梁行Ｐ1～Ｐ5～Ｐ9間は2.8m、2.4m、南側梁行Ｐ4～Ｐ8～Ｐ12間は2.6m、2.8mである。柱穴は略円形で径25～50cm、深さ36～64cmを測る。

ＳＢ46（第64図）

③区中央に位置する。梁行２間5.7m、桁行３間7.4m、床面積約42m²、主軸（N90°W）を測る東西棟の総柱建物である。北側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.5m、2.7m、2.2m、東側桁行Ｐ9～Ｐ12間は2.6m、2.4m、2.4mを測り、北側梁行Ｐ1～Ｐ5～Ｐ9間は2.95m、2.85m、南側梁行Ｐ4～Ｐ8～Ｐ12間は2.8m、2.8mである。柱穴は略円形で径25～50cm、深さ16～67cmを測る。

ＳＢ47（第65・72図）

③区中央に位置する。梁行２間4.1m、桁行３間5.0m、床面積約21m²、主軸（N1°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は1.55m、1.75m、1.9m、東側桁行Ｐ8～Ｐ11間は1.7m、1.6m、1.7mを測り、北側梁行Ｐ1～Ｐ5～Ｐ8間は2.25m、1.85m、南側梁行Ｐ4～Ｐ7～Ｐ11間は2.3m、1.8mである。柱穴は略円形で径30～35cm、深さ28～65cmを測る。

(2) 井戸

ＳＥ27（第66・72・73図）

①区東に位置する。平面形は略円形で径1.2m、底面径0.9～0.95m、深さ2.3m、底面標高10.55mを測る。

ＳＥ28（第66・74・75図）

①区中央に位置する。平面形は楕円形で1.7m×1.32m、底面は1.05×1.28m、深さ1.36m、底面標高11.49mを測る。

ＳＥ29（第66・75図）

①区南中央に位置する。平面形は略円形で径1.15m、底面径0.9m、深さ1.38m、底面標高11.44mを測る。

ＳＥ30（第67・75図）

①区北東に位置する。平面形は略円形で径1.43～1.55m、底面径0.8m、深さ1.73m、底面標高11.08mを測る。

ＳＥ31（第67・75図）

①区南西に位置する。平面形は略円形で径0.8m、底面径0.65m、深さ1.84m、底面標高10.95mを測る。

ＳＥ32（第66・76図）

②区北東に位置する。平面形は楕円形で2.4m×2.1m、底面は1.95×1.7m、深さ1.35m、底面標高11.41mを測る。

ＳＥ33（第66・76・77図）

②区北東に位置する。平面形は略円形で径2.0m程か。内部に段を有し、底面は0.7×0.96m、深さ2.1m、底面標高10.97mを測る。

ＳＥ34（第66・77図）

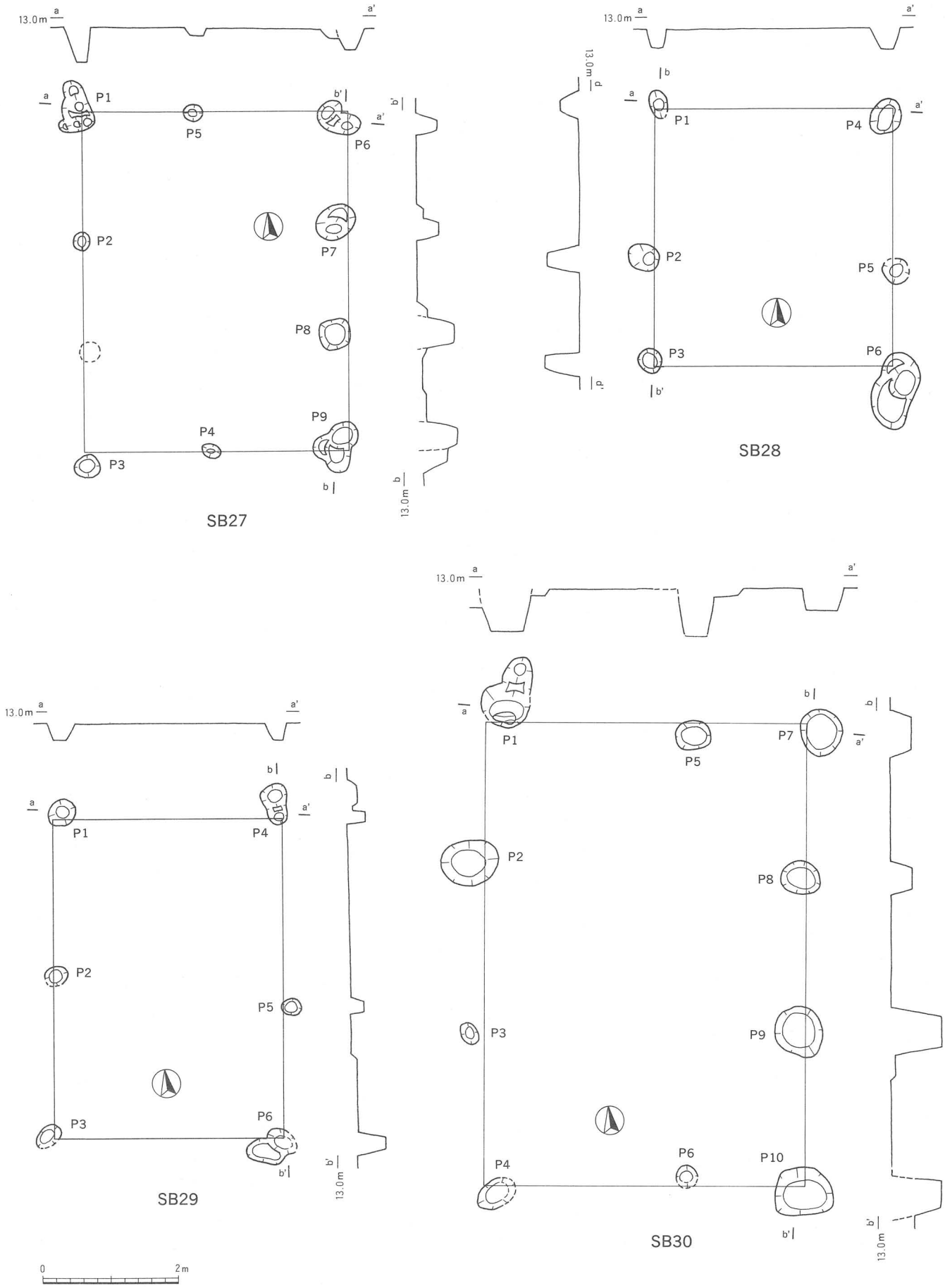
②区北東に位置する。平面形は略円形で推定径2.2m、底面1.3m×推定2.0mか。深さ1.5m、底面標高11.30mを測る。

ＳＥ35（第66・78図）

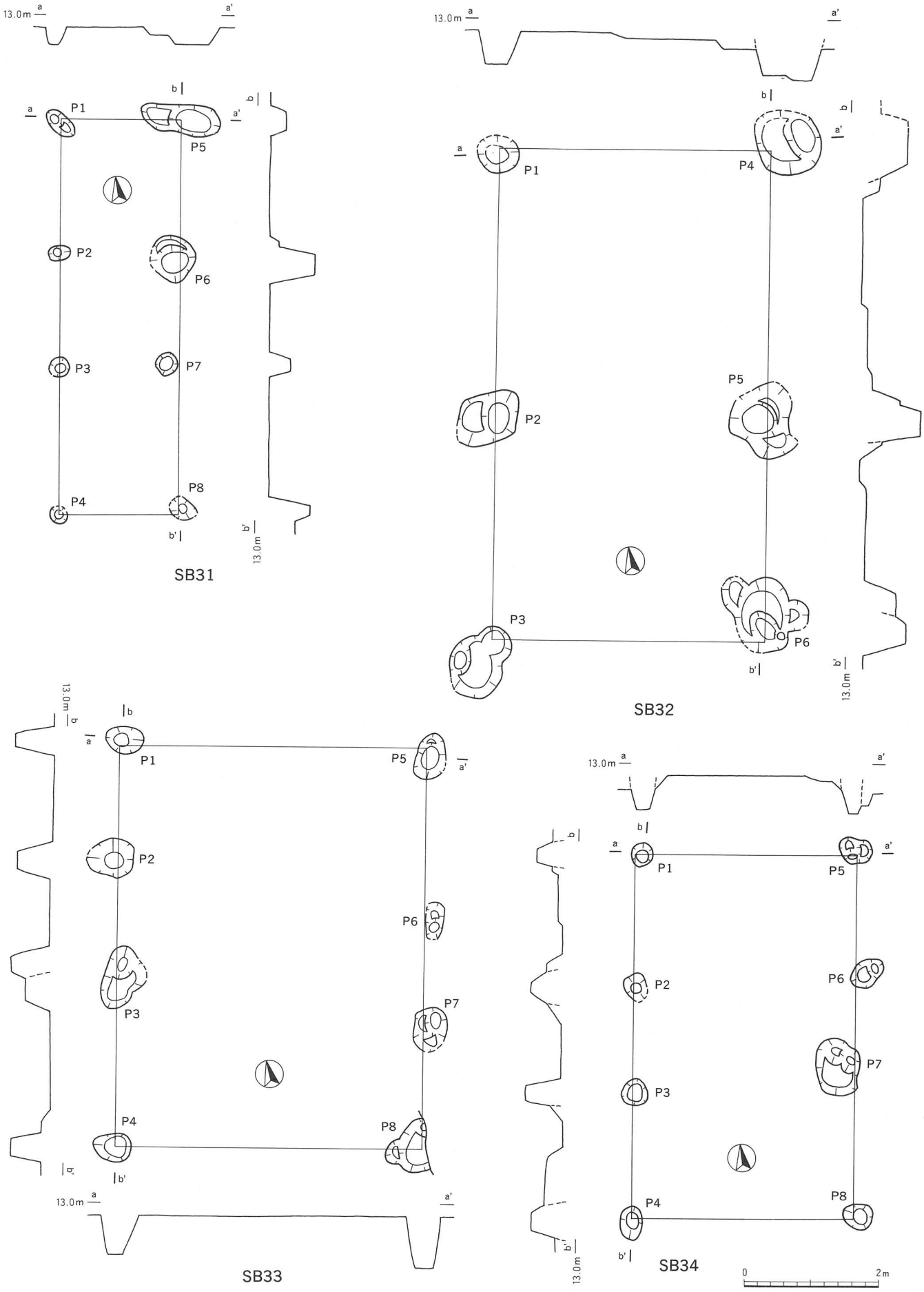
②区北東に位置する。平面形は略円形で推定径1.6m、底面径1.15～1.35cm、深さ2.0m、底面標高10.82mを測る。

ＳＥ36（第67・79図）

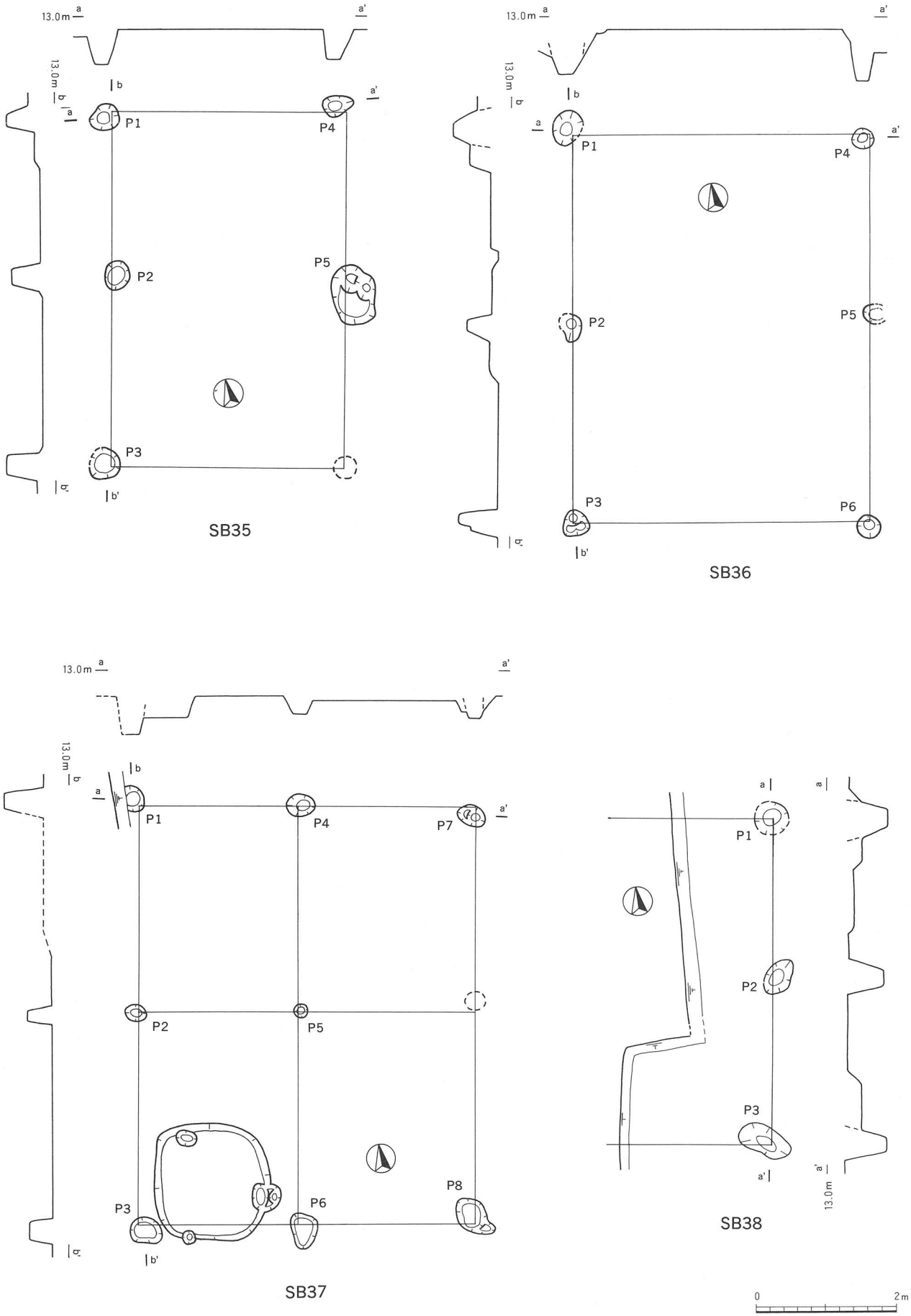
②区中央に位置し、複合するＳＸ28に切られる。平面形は略円形で径1.4m、底面径1.15～1.35m、深さ1.8m、底面標高11.03mを測る。



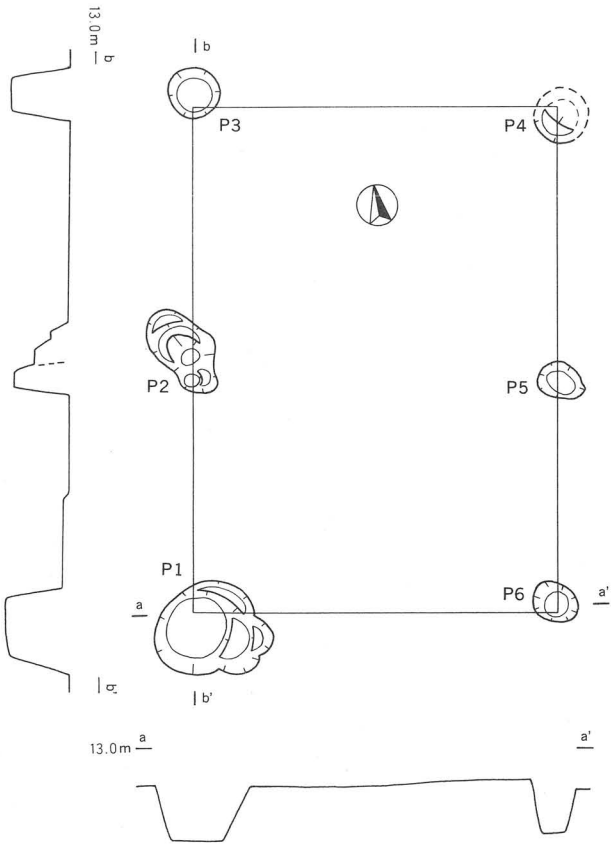
第59図　S2区　SB27～30 遺構図（1/80）



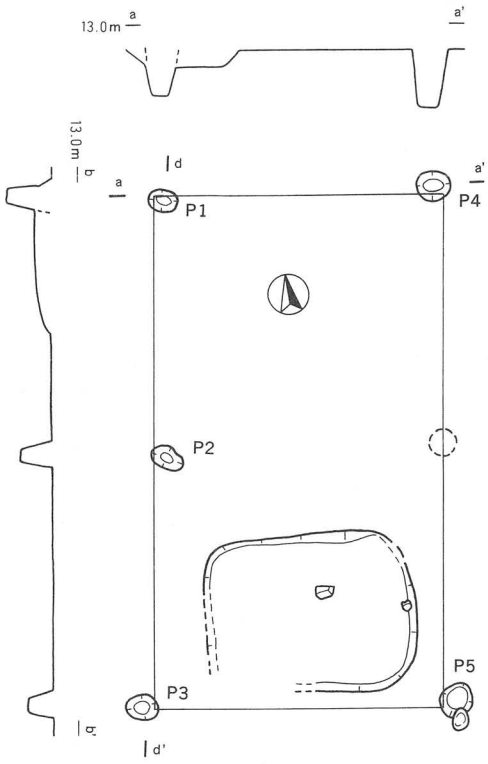
第60図　S2区　SB31～34 遺構図（1/80）



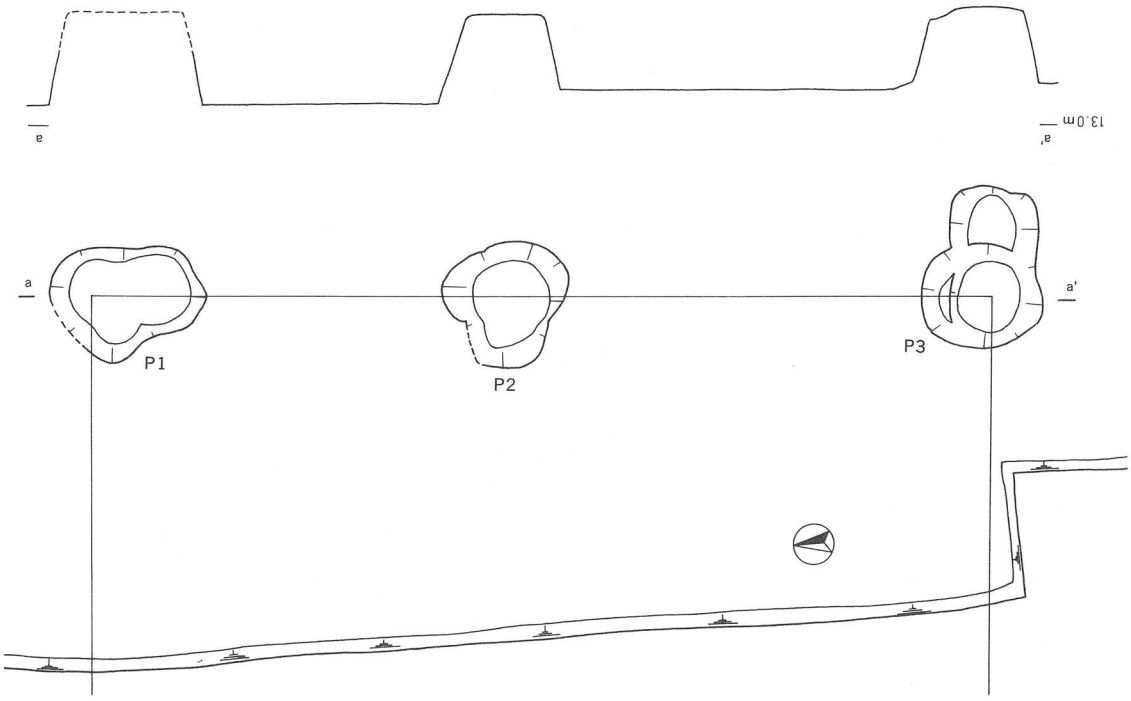
第61図　S2区　SB35～38 遺構図（1/80）



SB39



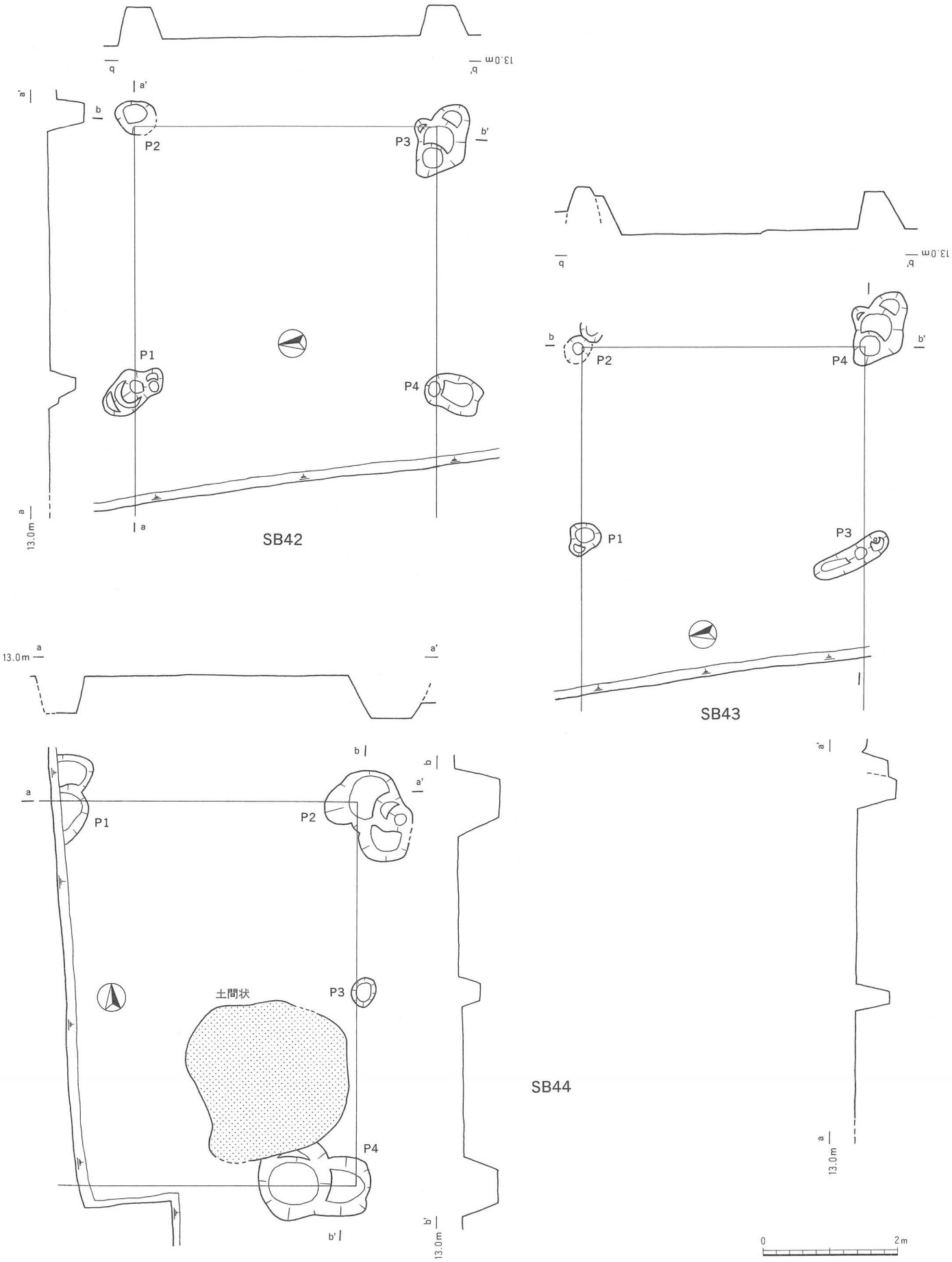
SB40



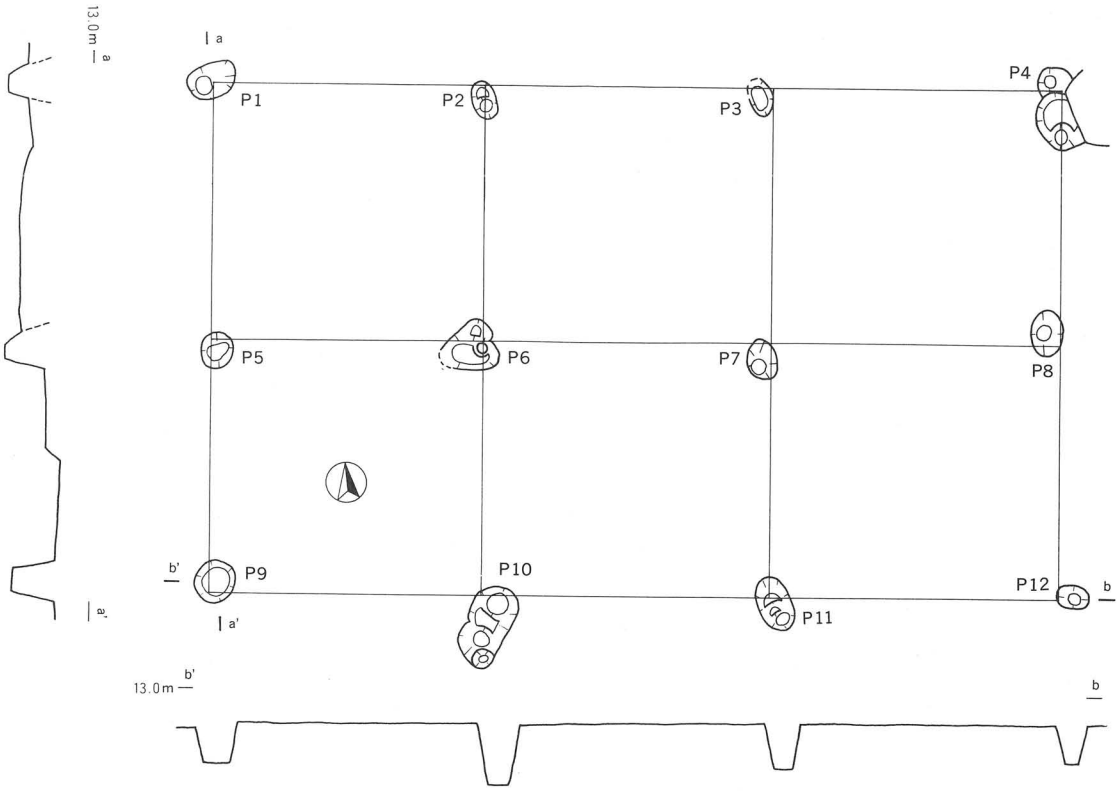
SB41

0 2m

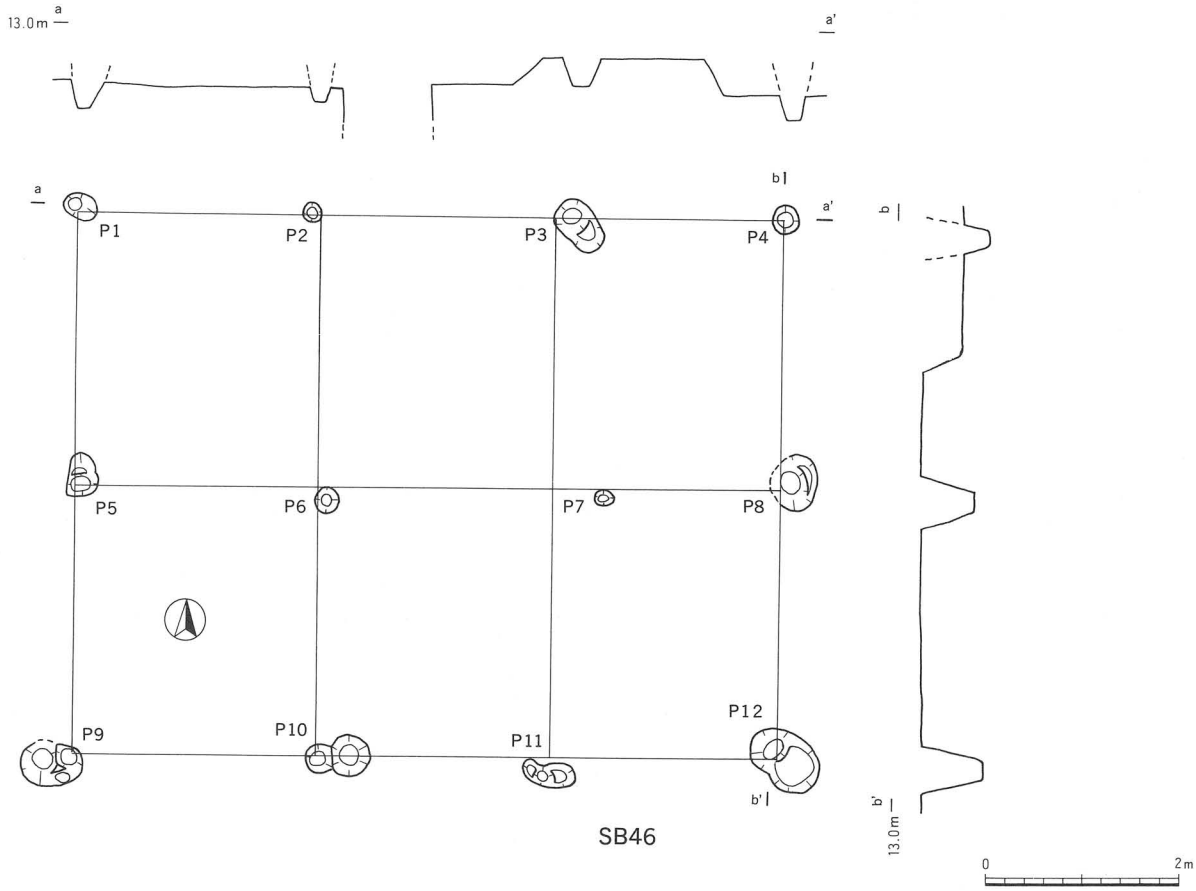
第62図　S2区　SB39～41 遺構図（1/80）



第63図　S2区　SB42～44 遺構図（1/80）

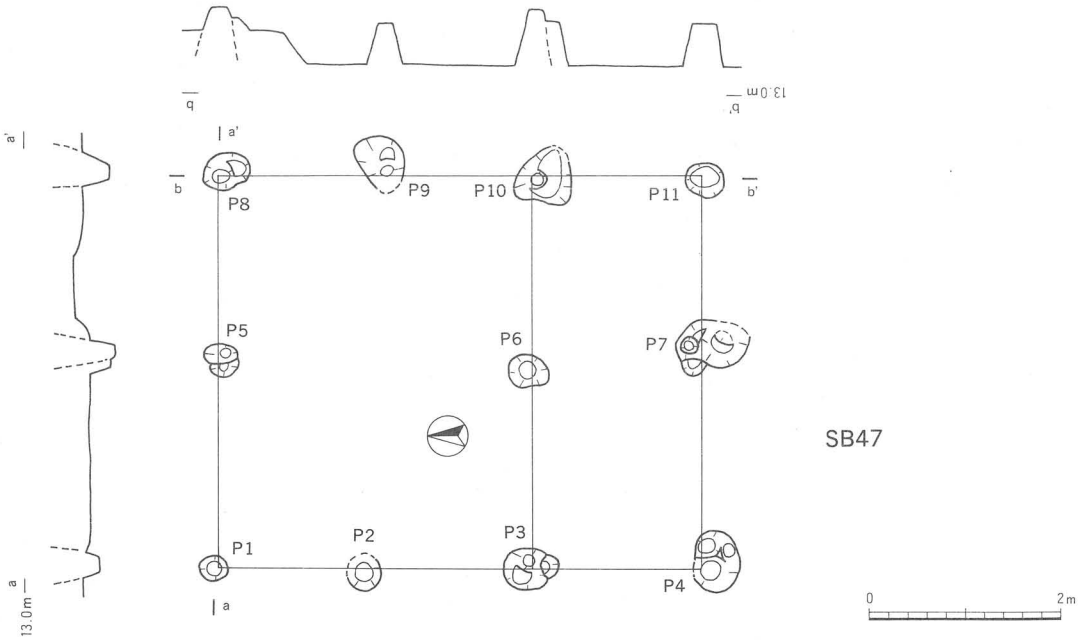


SB45



SB46

第64図　S2区　SB45・46 遺構図（1/80）



第65図　S2区　SB47 遺構図（1/80）

ＳＥ37（第67図）

②区中央南に位置し、複合するＳＫ42を切る。平面形は略円形で径1.2～1.36m、底面径0.8m、深さ1.5m、底面標高11.21mを測る。

ＳＥ38（第67図）

③区北東に位置する。平面形は略円形で径0.9～1.0m、底面径1.0m、深さ1.28m、底面標高11.41mを測る。

ＳＥ39（第67・79図）

③区中央北に位置する。平面形は略円形で0.88～0.93m、底面径1.0m、深さ1.36m、底面標高11.32mを測る。

ＳＥ40（第67・79・80図）

③区中央北に位置する。平面形は楕円形で1.3×1.0m、底面径0.8～0.84cm、深さ1.68m、底面標高11.01mを測る。

(3) 竪穴状遺構

ＳＸ27（第68・80図）

②区南東に位置し、ＳＸ28と複合する。平面形は隅丸方形で、長軸不明、短軸2.25m、深さ19cmを測る。

ＳＸ28（第68・81図）

②区南東に位置し、ＳＸ27・29を切る。平面形は隅丸方形で、推定長軸5.3m、短軸3.05m、推定面積約15m²、深さ30cmを測る。西辺には石積みがみられ、ＳＸ29の埋め戻し時に平面形を調整したものと考えられる。

ＳＸ29（第68・81図）

②区南東に位置する。平面形は隅丸方形か、深さ30cmを測る。

ＳＸ30（第69図）

①区南端中央に位置し、ＳＸ31・32と複合する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸4.0m、短軸3.1m、深さ28cmを測る。推定面積９m²。

ＳＸ31（第69図）

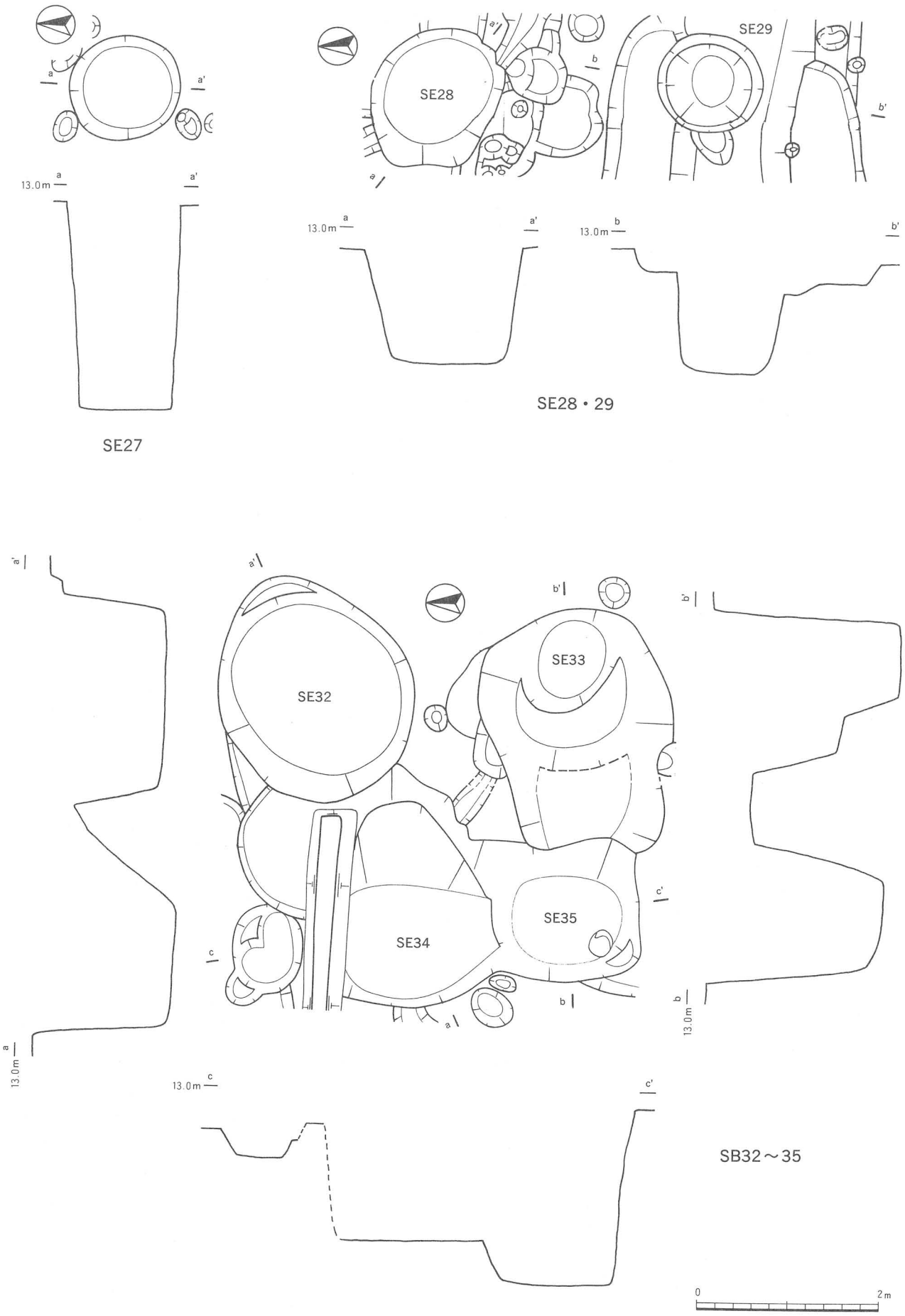
①区南端中央に位置する。平面形は楕円形と考えられ、長軸不明、短軸1.35m、深さ37cmを測る。

ＳＸ32（第69図）

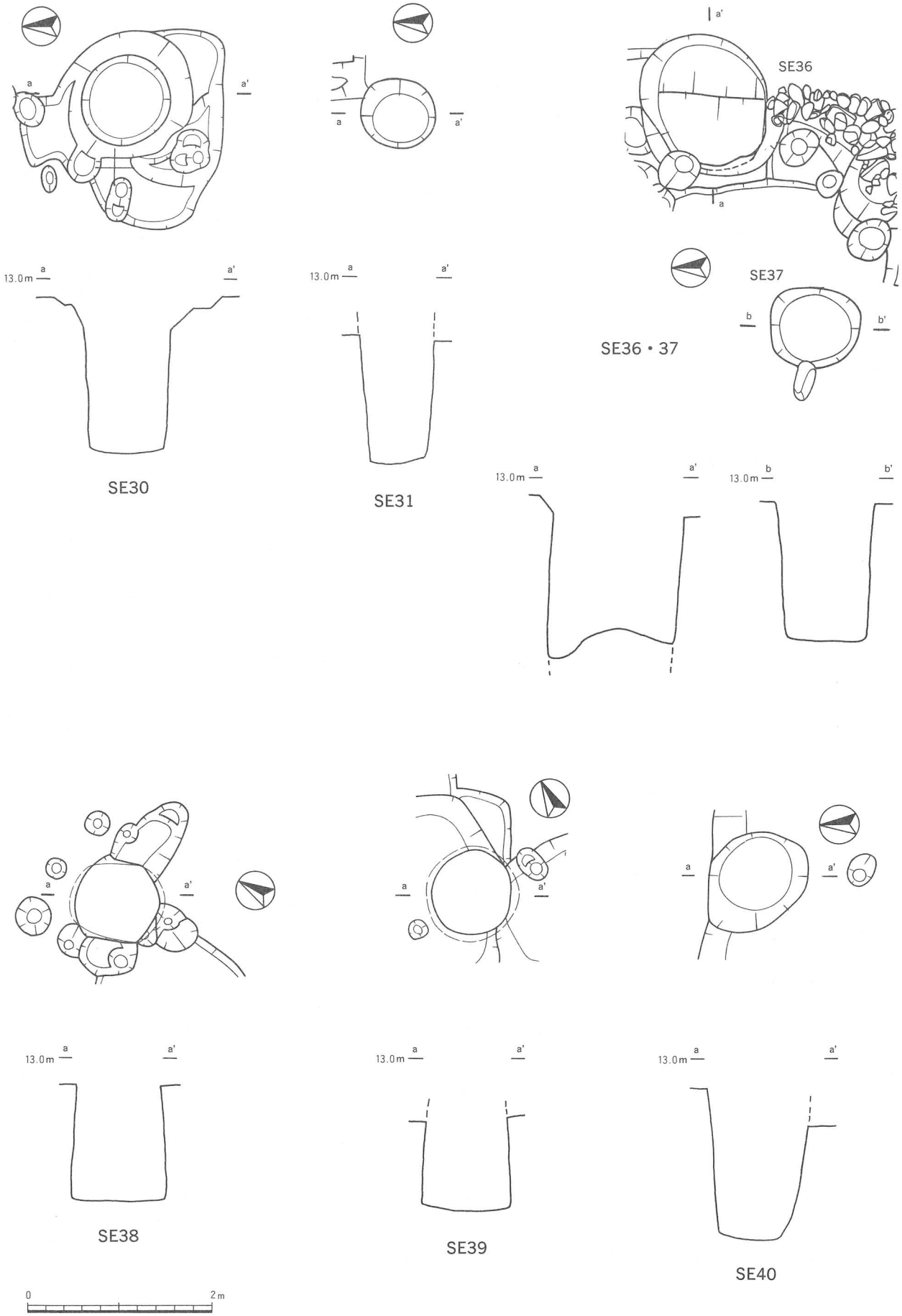
①区南端中央に位置する。平面形は楕円形と考えられ、長軸不明、短軸1.6m、深さ40cmを測る。

ＳＸ33（第69・81図）

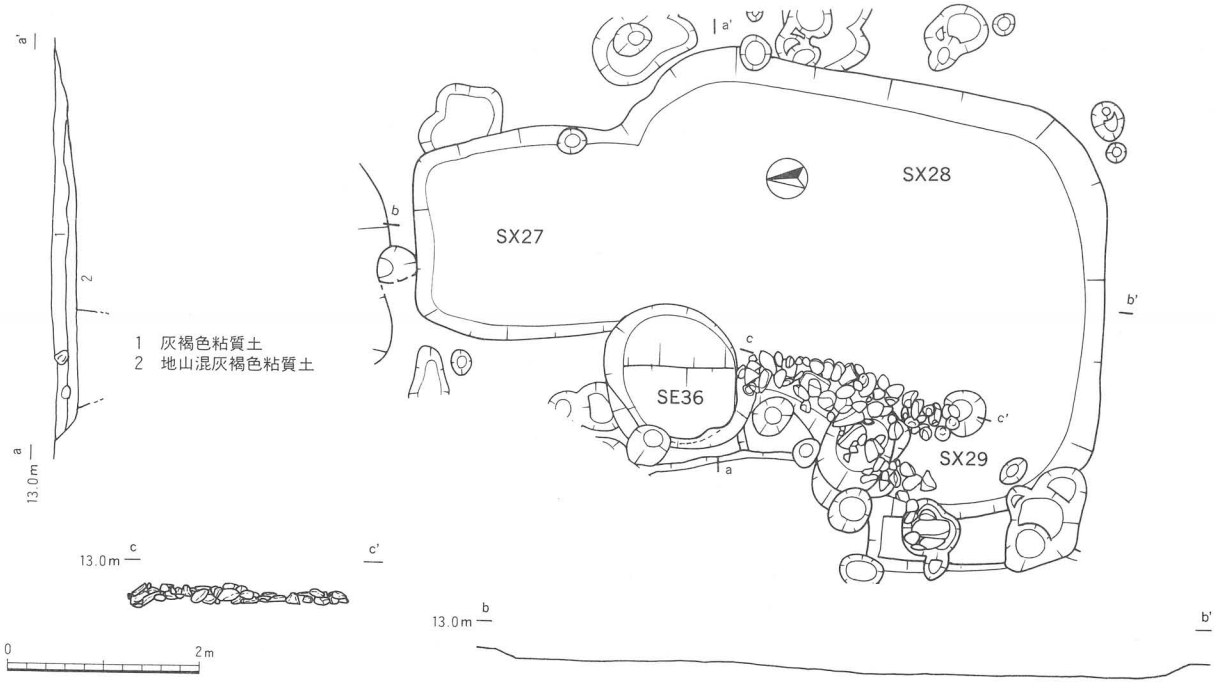
③区北端中央に位置し、複合するＳＸ34・ＳＥ39・ＳＫ47を切る。平面形は隅丸方形で、長軸不明、短軸2.4m、深さ42cmを測る。



第66図　S2区　SE27～29・32～35 遺構図（1/60）



第67図　S2区　SE30・31・36～40 遺構図（1/60）



第68図　S2区　SX27～29 遺構図（1/80）

ＳＸ34（第69・81図）

③区中央北に位置し、複合するＳＸ35を切る。平面形は楕円形と考えられ、長軸3.9m、深さ24cmを測る。

ＳＸ35（第69図）

③区北西に位置する。平面形は隅丸方形と考えられ、長軸3.9m、短軸不明、深さ40cmを測る。

ＳＸ36（第69・82図）

③区北西に位置し、複合するＳＸ35を切る。平面形は隅丸方形で、推定長軸6.0m、短軸2.7m、面積約14m²か。深さ36cmを測る。北側で貼床を検出したが、東辺の石積みとともに、ＳＸ35を埋め戻す時点で設置されたものと考えられる。

ＳＸ37（第69図）

③区北西に位置し、詳細は不明であるが深さ23cmを測る。

ＳＸ38（第69図）

③区北西に位置する。詳細は不明であるが平面形は隅丸方形で、ＳＸ36と同程度の規模か。深さ36cmを測る。

ＳＸ39（第69図）

③区南西に位置する。詳細は不明であるが平面形は楕円形と考えられ、短軸2.3mか。深さ25cmを測る。

ＳＸ40（第69図）

③区南西に位置する。詳細は不明であるが平面形は隅丸方形と考えられ、長軸4.1mか。深さ26cmを測る。

ＳＸ41（第69図）

③区南西に位置する。詳細は不明であるが平面形は隅丸方形と考えられ、深さ18cmを測る。

ＳＸ42（第69図）

③区南西に位置する。詳細は不明であるが平面形は隅丸方形と考えられ、深さ18cmを測る。

ＳＸ43（第69図）

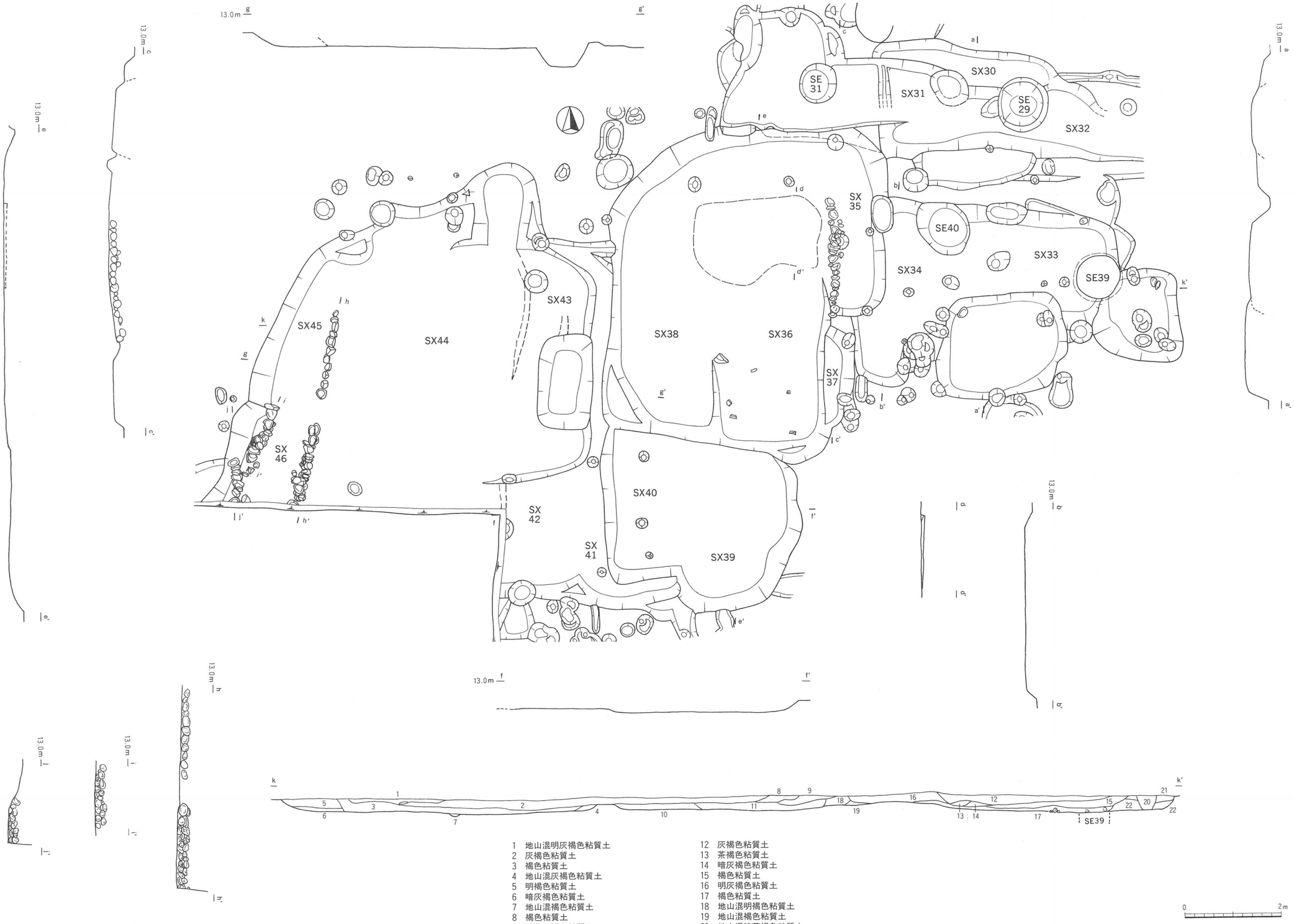
④区に位置する。平面形は隅丸方形で、推定長軸5.2m、推定短軸3.5m、面積約16m²か。深さ30cmを測る。

ＳＸ44（第69・82図）

④区に位置し、複合するＳＸ45を切る。平面形は隅丸方形で、推定長軸6.0m前後、推定短軸4.0m、面積約24m²程か。深さ30cmを測る。西辺の石積みは、土留の用途としてＳＸ45を埋め戻す時点で設置されたものと考えられる。

ＳＸ45（第69図）

④区に位置し、詳細は不明であるが深さ30cmを測る。



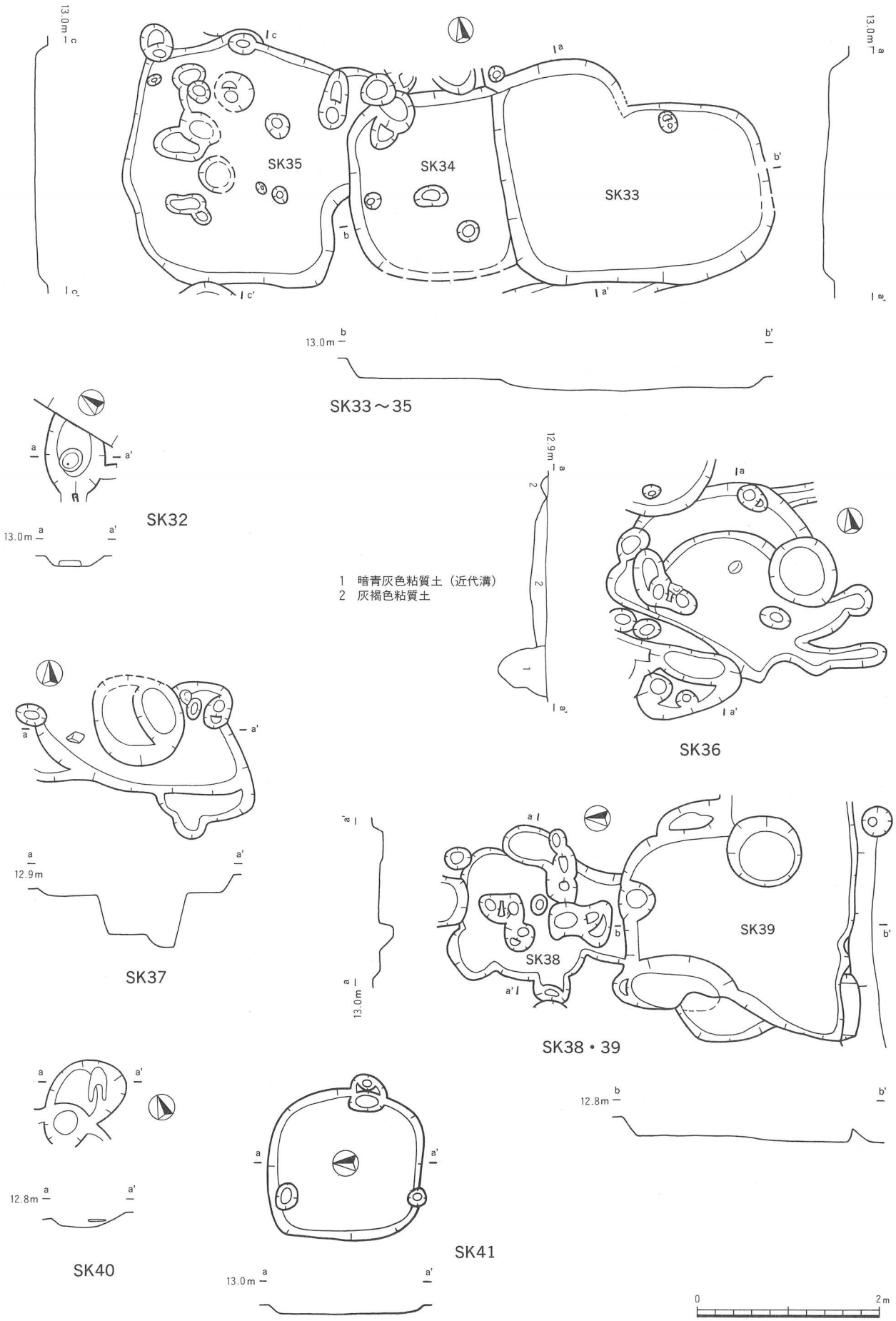
1 地山混明灰褐色粘質土
2 灰褐色粘質土
3 褐色粘質土
4 地山混灰褐色粘質土
5 明褐色粘質土
6 暗灰褐色粘質土
7 地山混褐色粘質土
8 褐色粘質土
9 暗黄灰褐色粘質土
10 青灰色粘質土混褐色粘質土
11 青灰色粘質土
12 灰褐色粘質土
13 茶褐色粘質土
14 暗灰褐色粘質土
15 褐色粘質土
16 明灰褐色粘質土
17 褐色粘質土
18 地山混明褐色粘質土
19 地山混褐色粘質土
20 地山混暗茶褐色粘質土
21 暗灰褐色粘質土
22 黄灰褐色粘質土

第69図　S2区　SX30～46 遺構図（1/80）

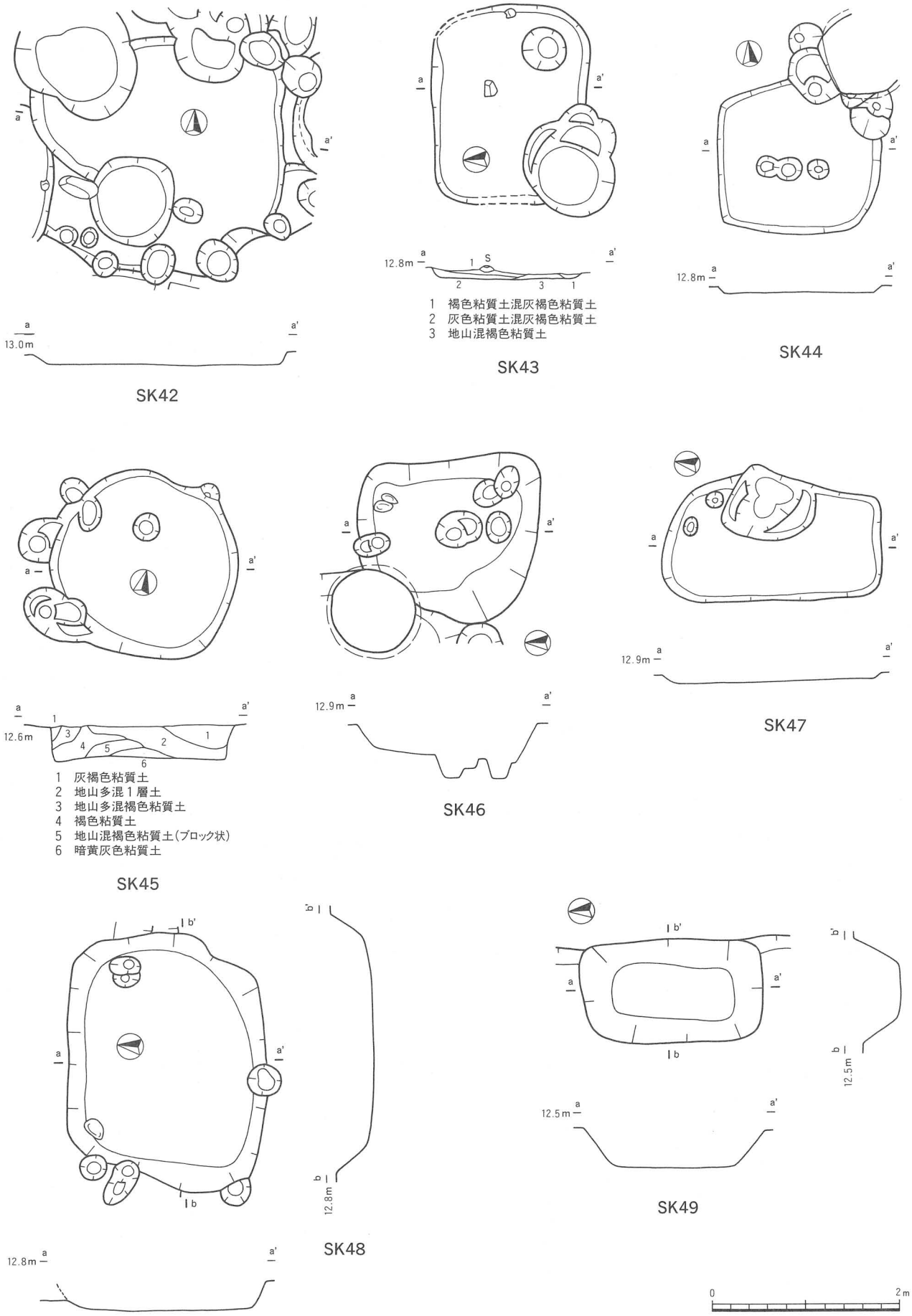
ＳＸ46（第69・83図）
③区に位置し、詳細は不明である。深さ30cmを測る。石積みを有するが、どのＳＸに対応するかは不明である。

(4) 土坑
ＳＫ32（第70・83図）
①区東に位置する。平面形は楕円形で、長軸不明、短軸0.65m、深さ11cmを測る。
ＳＫ33（第70図）
①区南東に位置する。平面形は不整で土坑２基が複合したものか。長軸2.95m、短軸2.45m、深さ26cmを測る。
ＳＫ34（第70図）
①区南東に位置し、複合するＳＫ33・35を切る。平面形は隅丸方形で、長軸2.1m、短軸不明、深さ22cmを測る。
ＳＫ35（第70図）
①区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.65m、短軸2.4m、深さ13cmを測る。
ＳＫ36（第70・83図）
①区中央南に位置する。平面形は不整形で、長軸2.25m、短軸1.8m、深さ18cmを測る。
ＳＫ37（第70・84図）
①区北西に位置し、平面形は楕円形か。長軸2.3m、短軸不明、深さ18cmを測る。
ＳＫ38（第70・84図）
①区南西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.5m、短軸1.4m、深さ８cmを測る。
ＳＫ39（第70図）
①区南西に位置する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸2.55m、推定短軸2.3m、深さ27cmを測る。
ＳＫ40（第70・84図）
②区北西に位置する。平面形は楕円形で、長軸不明、短軸0.7m、深さ17cmを測る。
ＳＫ41（第70図）
②区中央西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.7m、短軸1.67m、深さ10cmを測る。
ＳＫ42（第71・84図）
②区中央に位置し、平面形は楕円形か。複合するＳＸ28・ＳＫ43・ＳＢ41柱穴を切る。長軸2.8m、短軸不明、深さ15cmを測る。
ＳＫ43（第71図）
②区南東に位置し、複合するＳＢ39柱穴を切る。平面形は隅丸方形で、長軸2.2m、短軸1.68m、深さ12cmを測る。
ＳＫ44（第71図）
③区北東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.75m、短軸1.7m、深さ７cmを測る。
ＳＫ45（第71図）
③区北東に位置する。平面形は略円形で、径2.0～2.05m、深さ40cmを測る。
ＳＫ46（第71図）
③区中央北に位置する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸1.94m、短軸1.85m、深さ33cmを測る。
ＳＫ47（第71・85図）
③区中央に位置する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸2.37m、短軸1.4m、深さ10cmを測る。
ＳＫ48（第71図）
③区中央に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.8m、短軸2.2m、深さ42cmを測る。
ＳＫ49（第71図）
③区西端に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.0m、短軸1.13m、深さ35cmを測る。複合するＳＸ43に附属するものか。

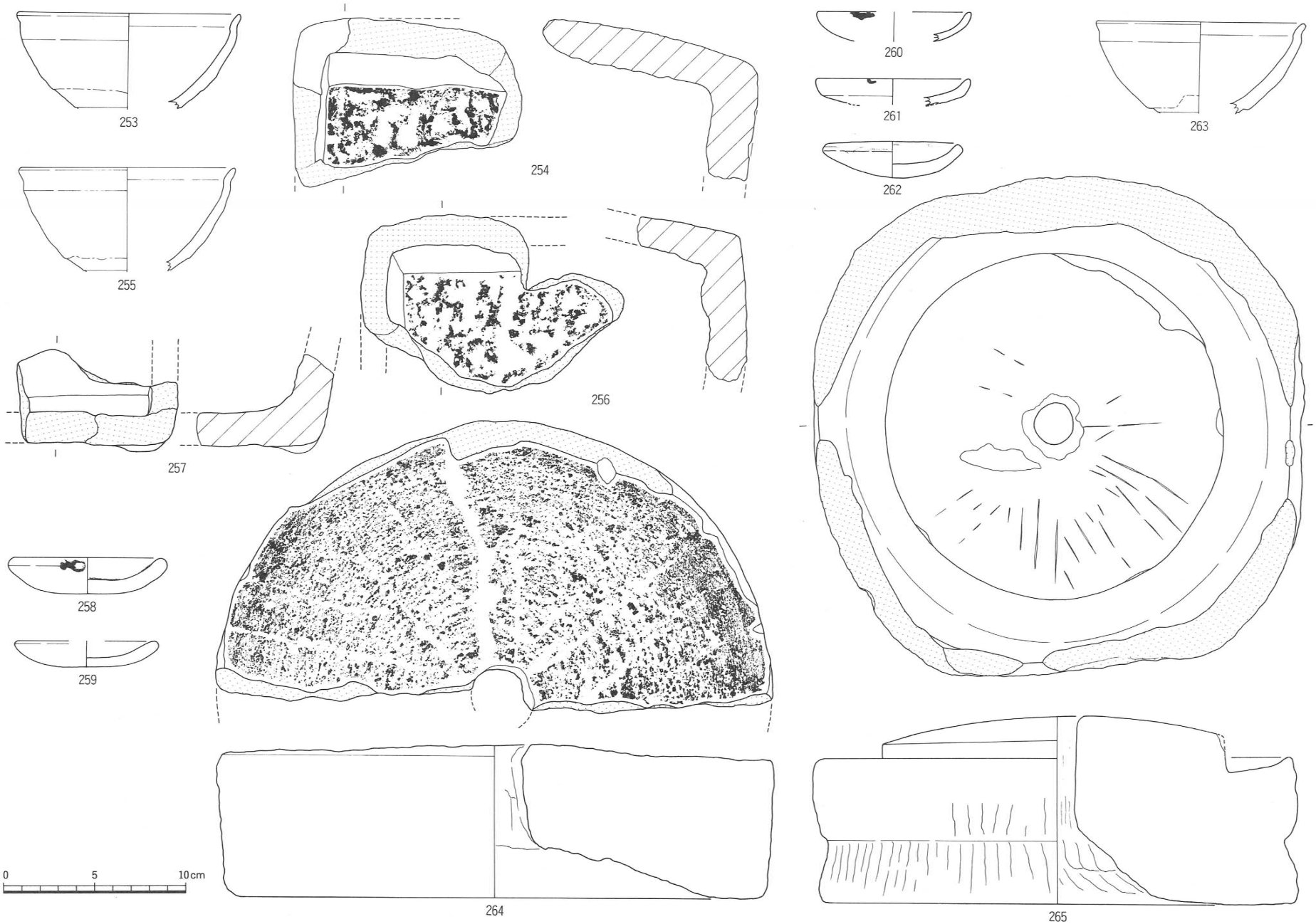
(5) 溝
ＳＤ15（第58・85図）
①区東端に位置する南北溝であるが近世以降の用水溝ＳＤ27に切られ詳細は不明。



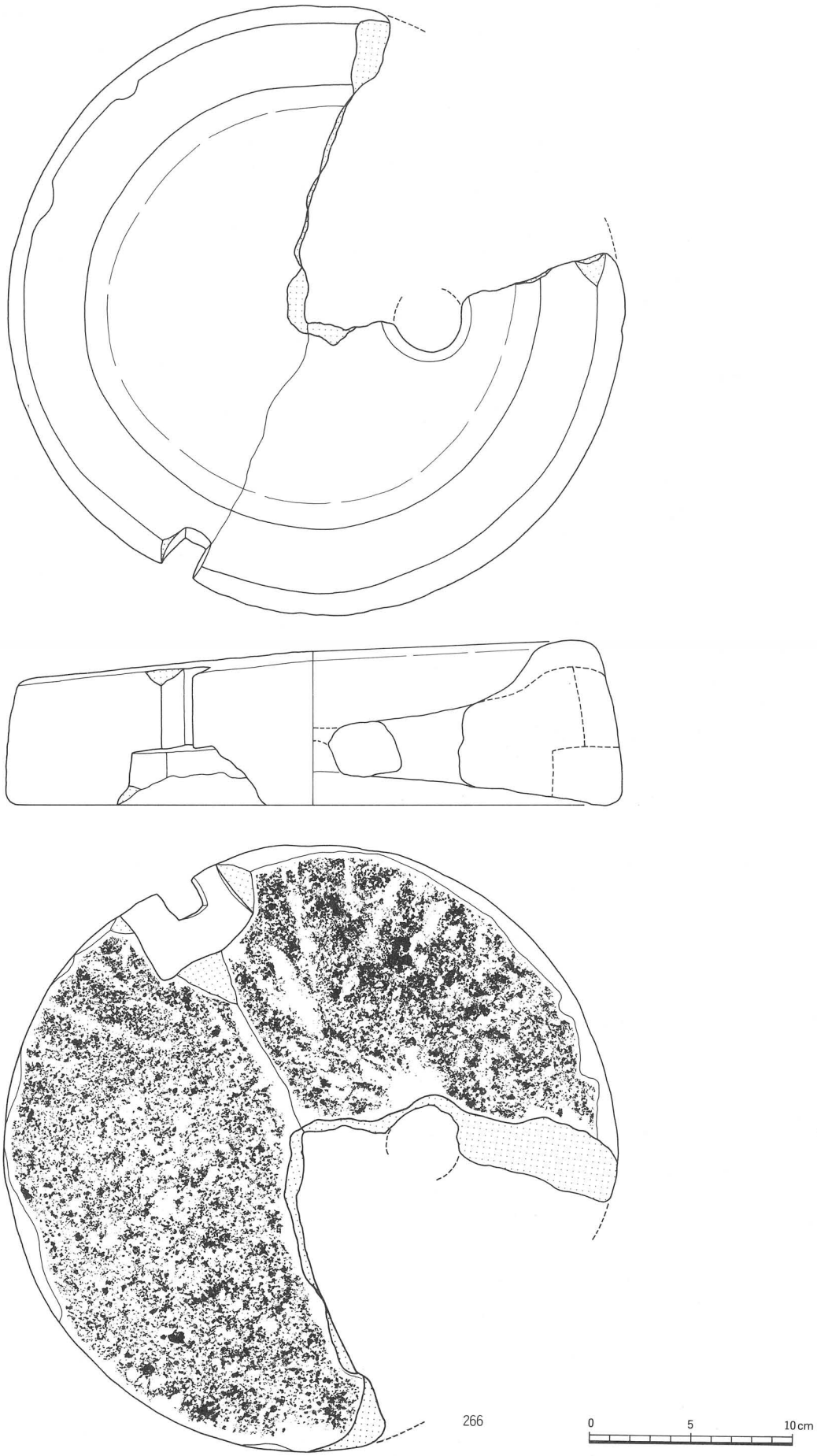
第70図　S2区　SK32～41 遺構図（1/60）



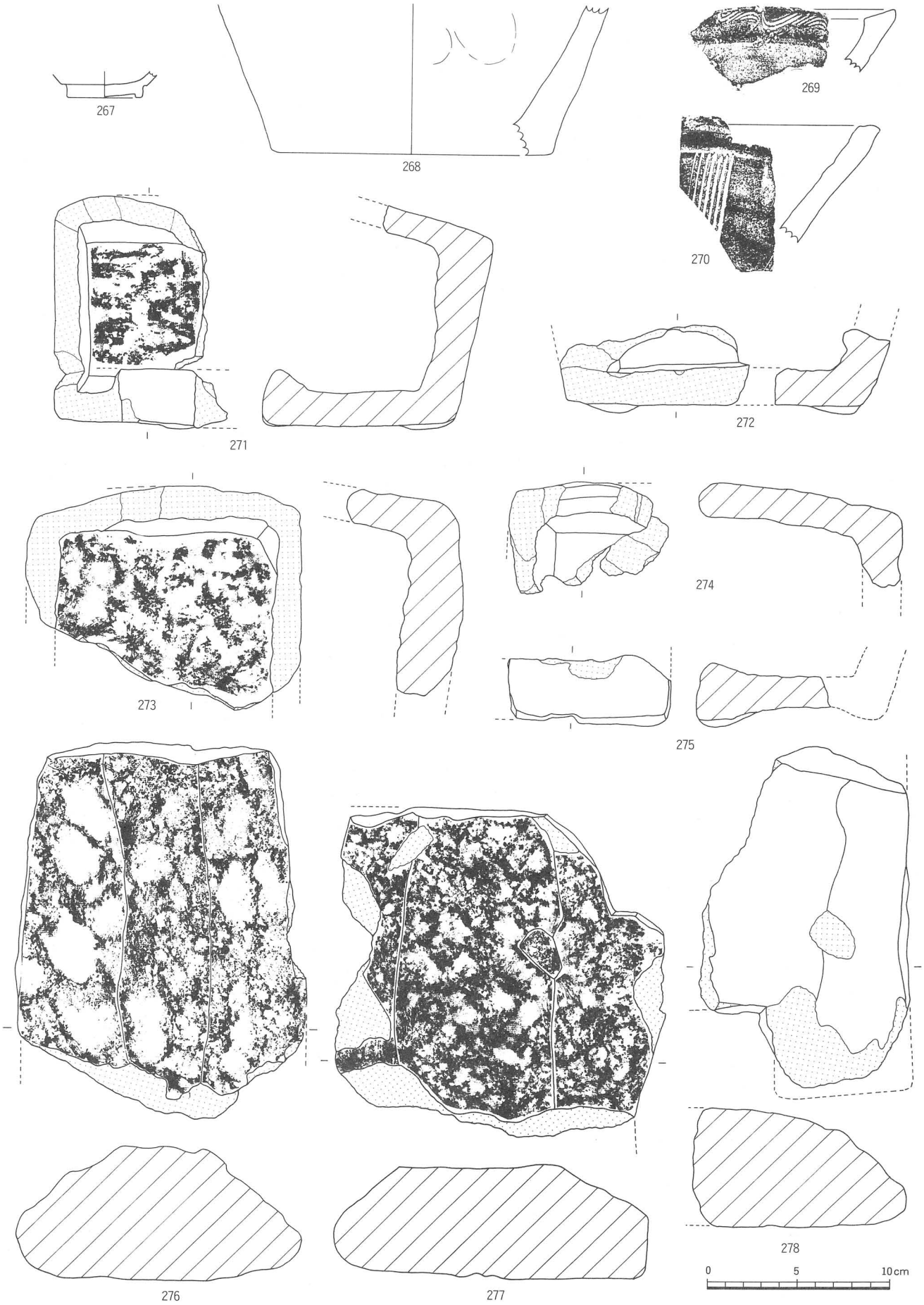
第71図　S2区　SK42～49 遺構図（1/60）



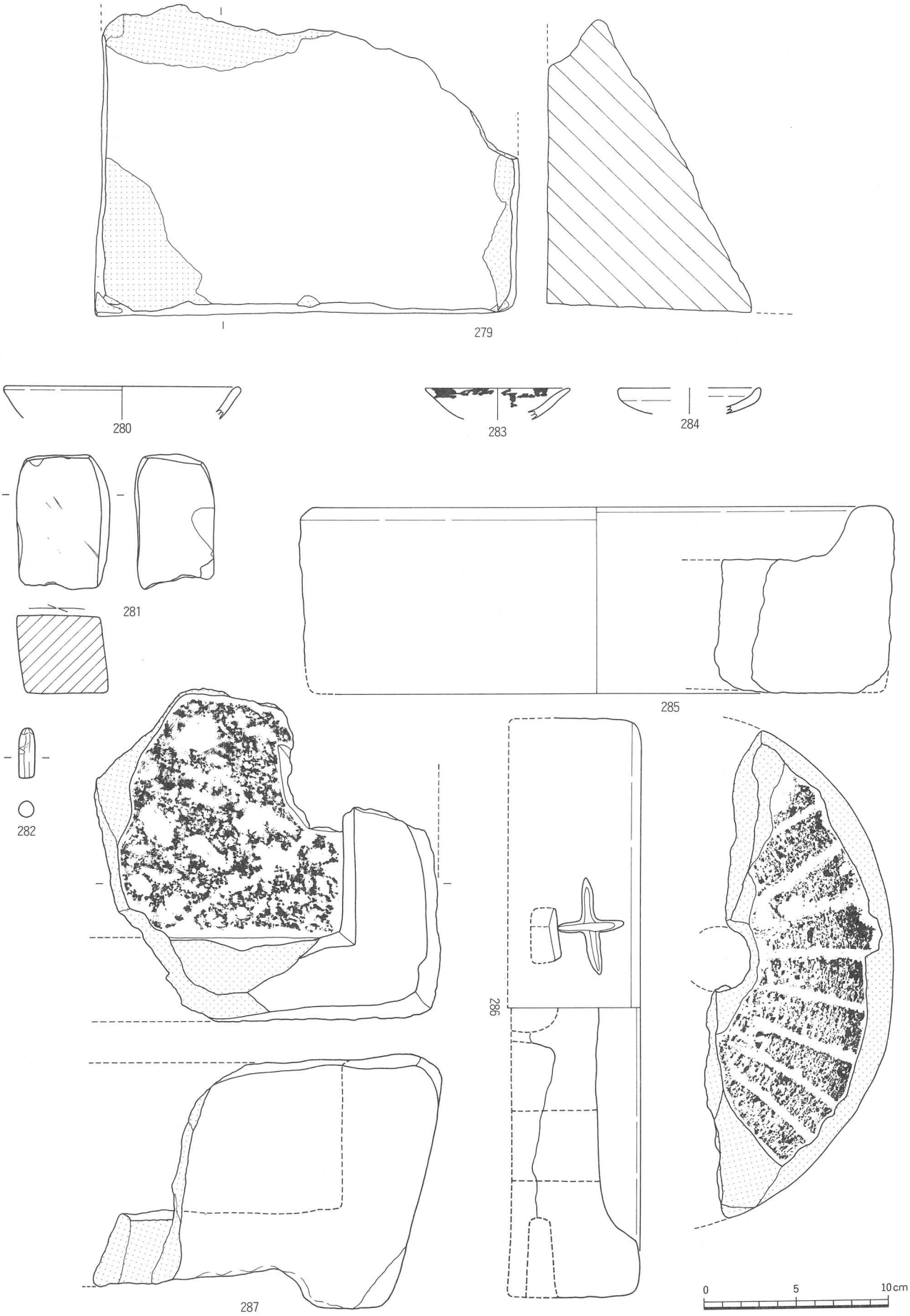
第72図　SB28-P6(253)・SB34-P6(254)・SB39-P3(255)・SB41-P2(256・257)・SB47-P10(258・259)・SE27(260～265) 出土遺物 (1/3)



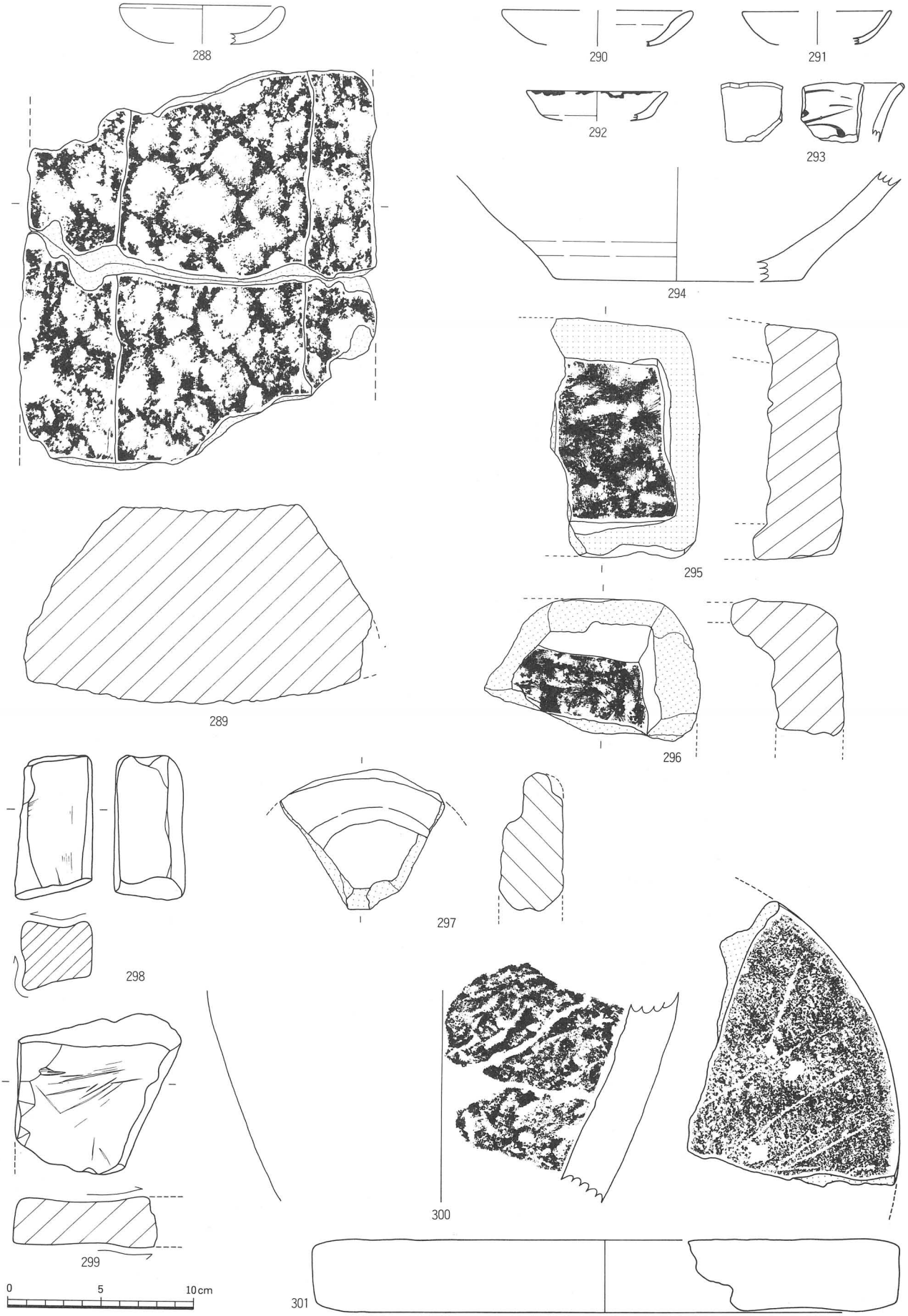
第73図　SE27 出土遺物（1/3）



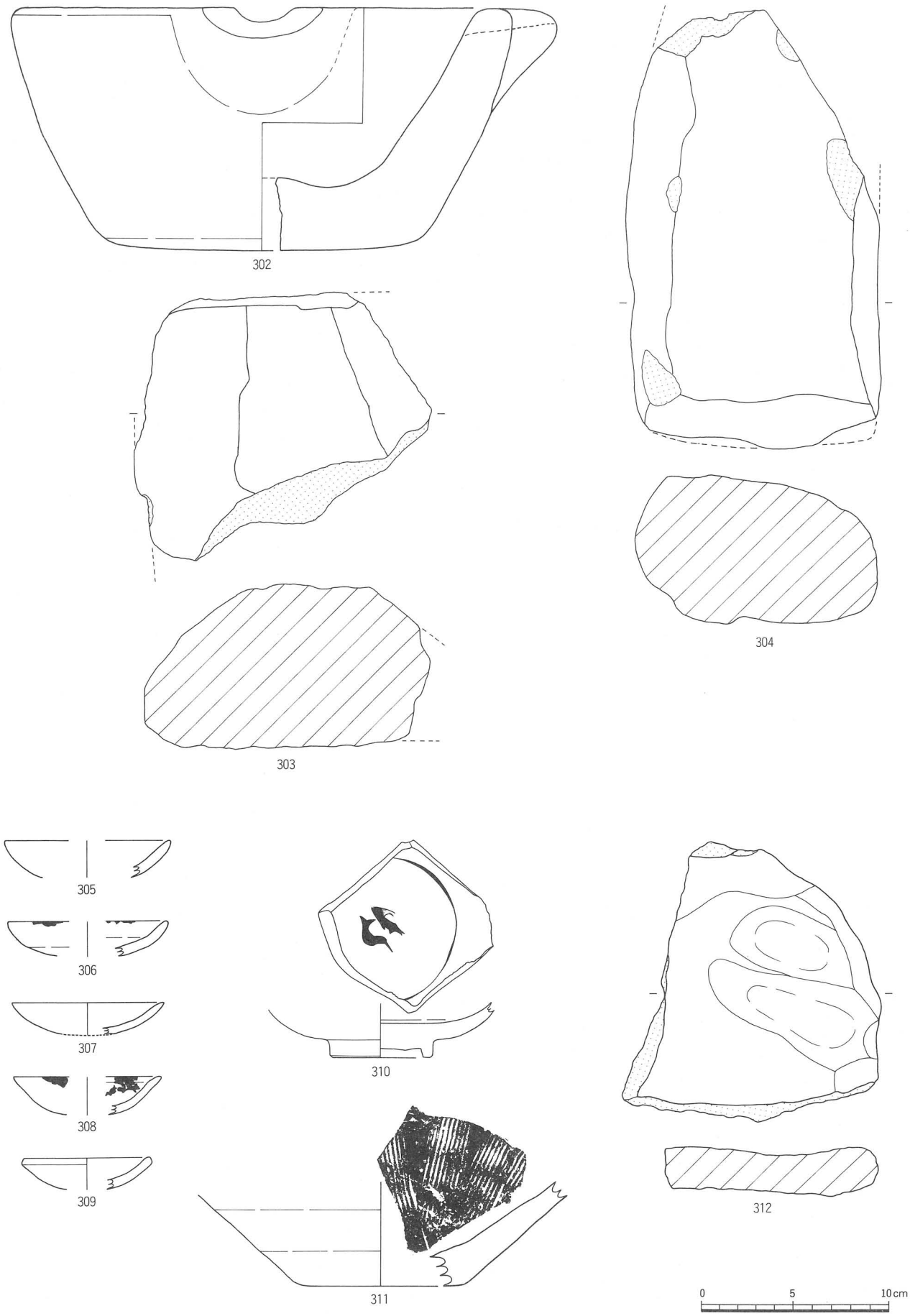
第74図　SE28 出土遺物（1/3）



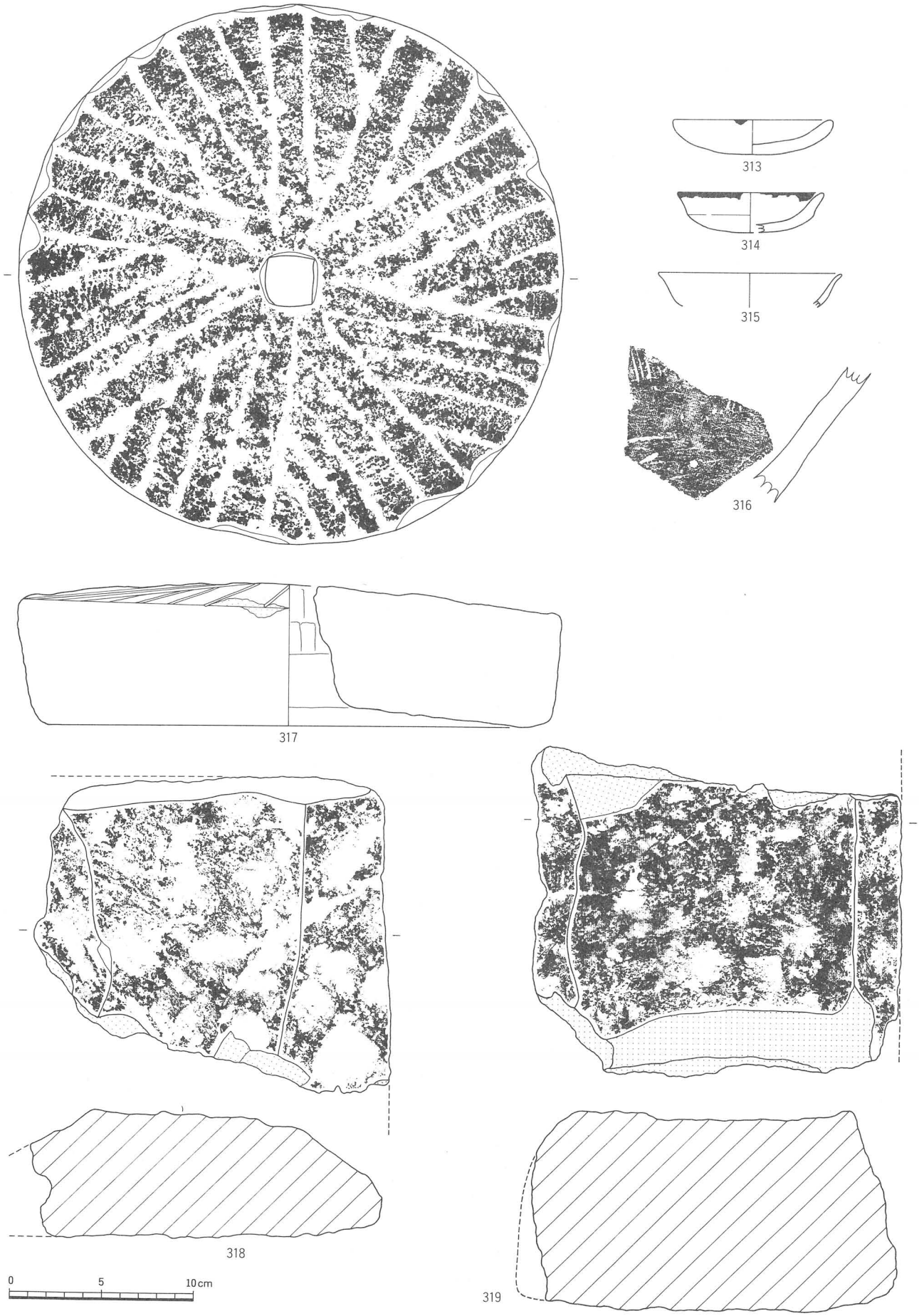
第75図　SE28(279)・SE29(280～282)・SE30(283・284)・SE31(285～287) 出土遺物 (1/3)



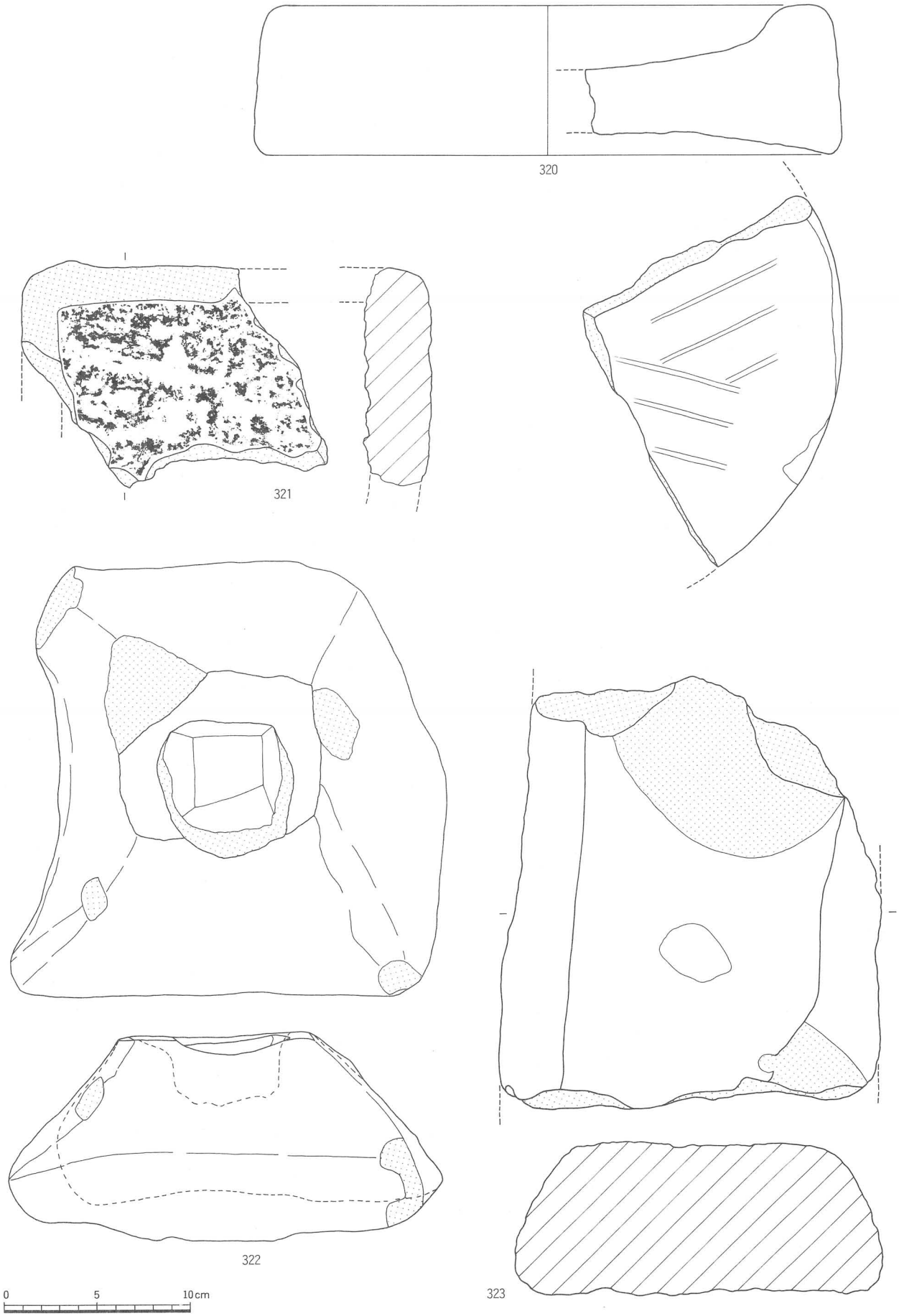
第76図　SE32(288・289)・SE33(290～301) 出土遺物 (1/3)



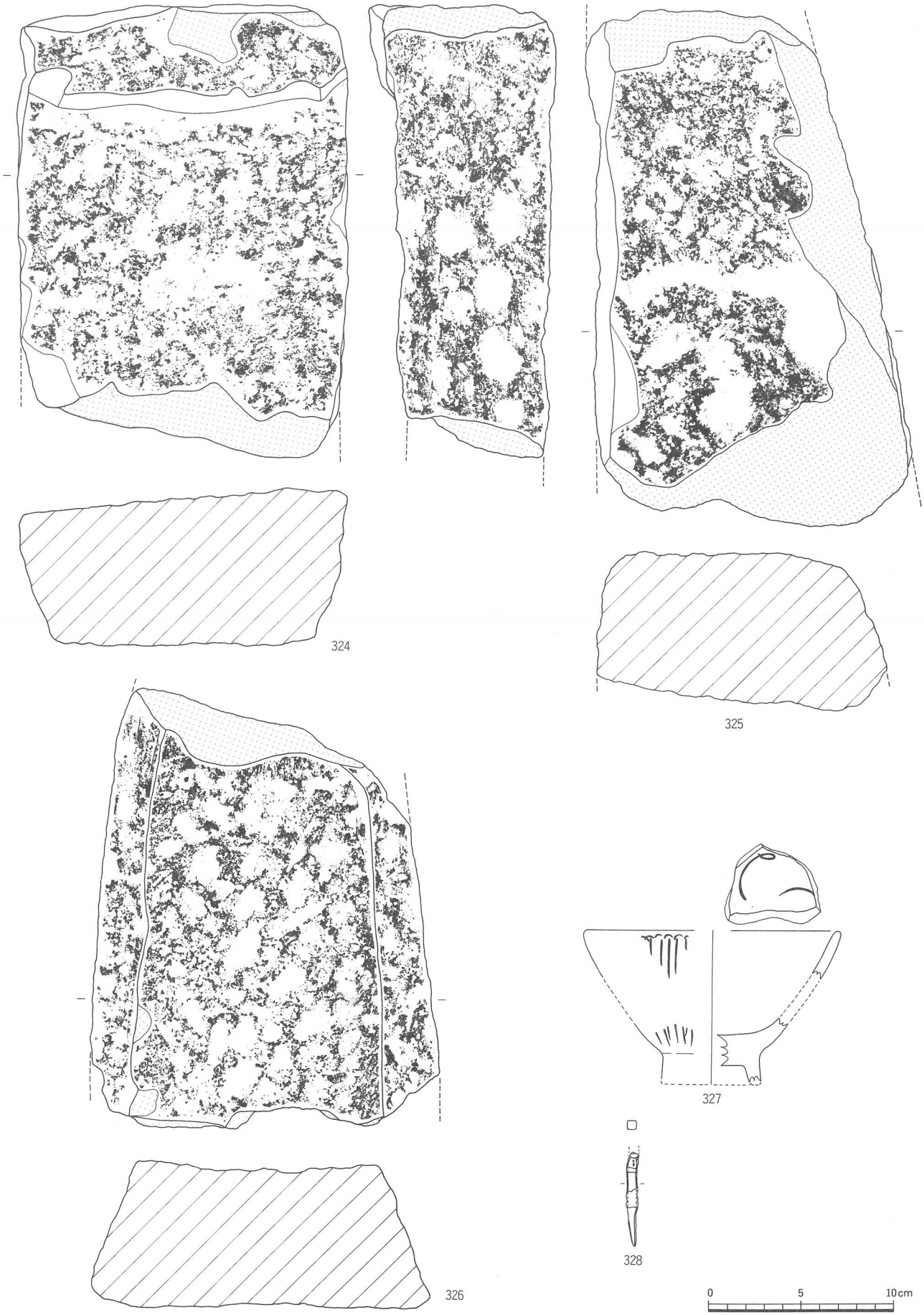
第77図　SE33(302～304)・SE34(305～312) 出土遺物 (1/3)



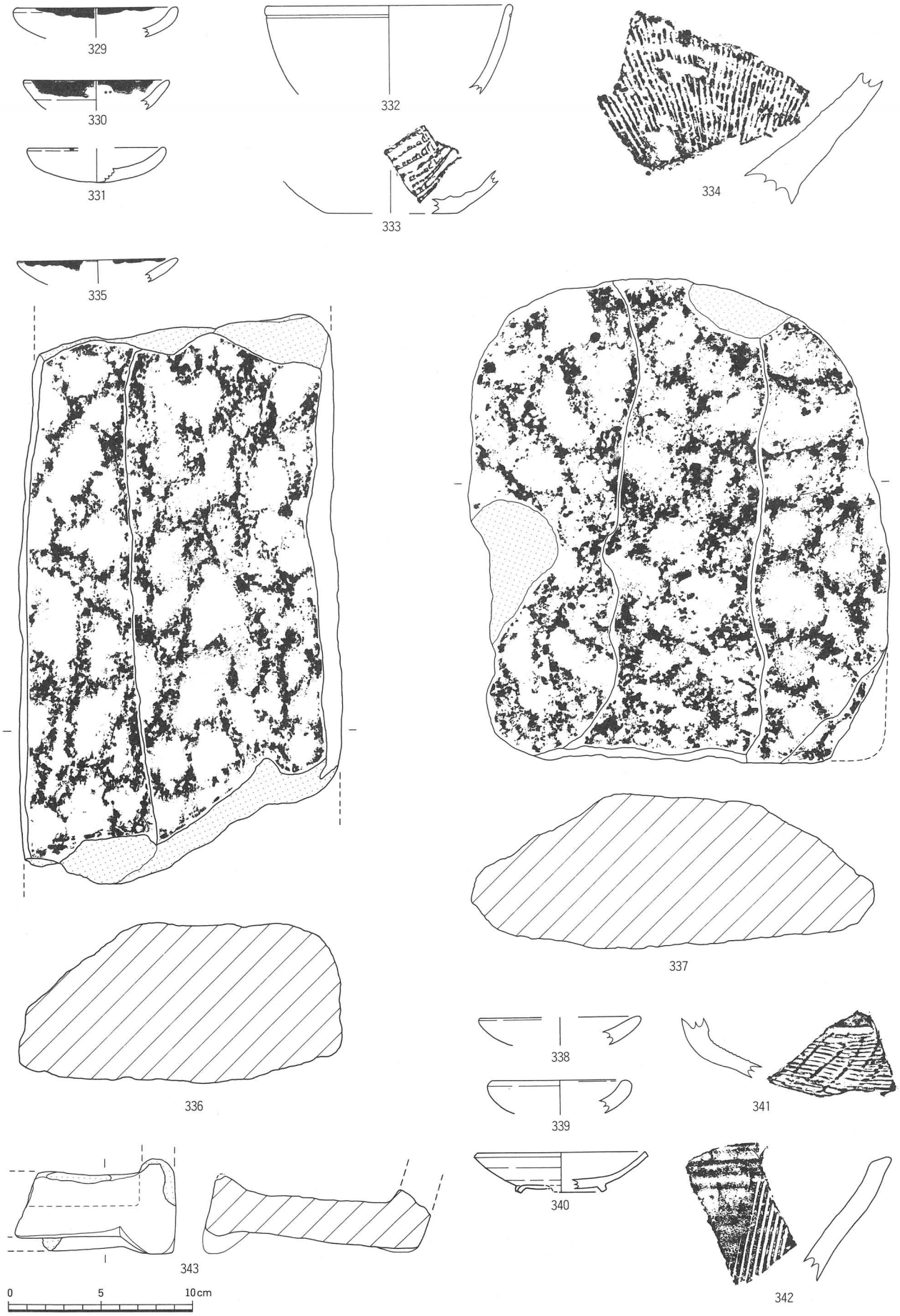
第78図　SE35(313～318)・SE36(319) 出土遺物 (1/3)



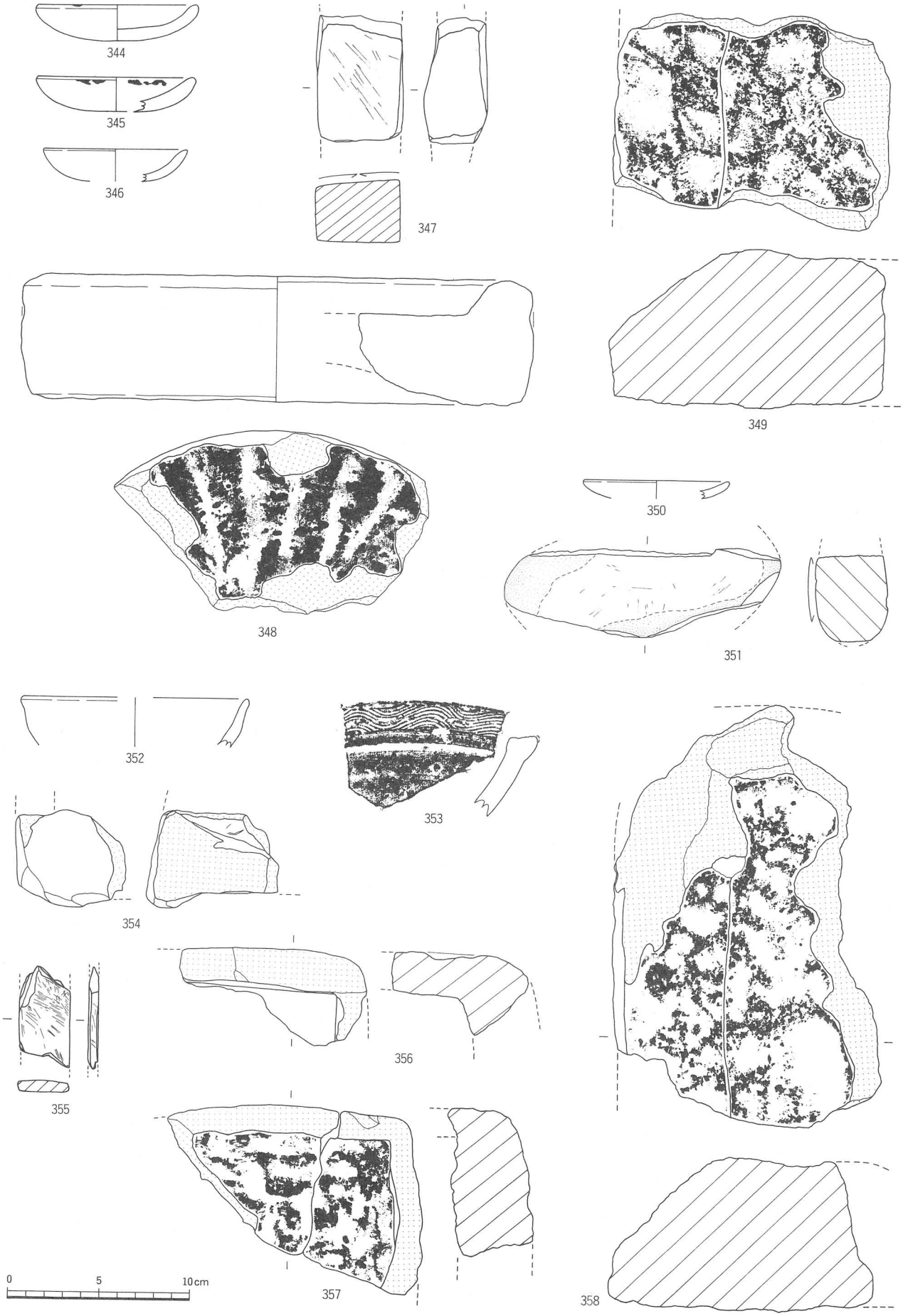
第79図　SE39(320)・SE40(321～323) 出土遺物 (1/3)



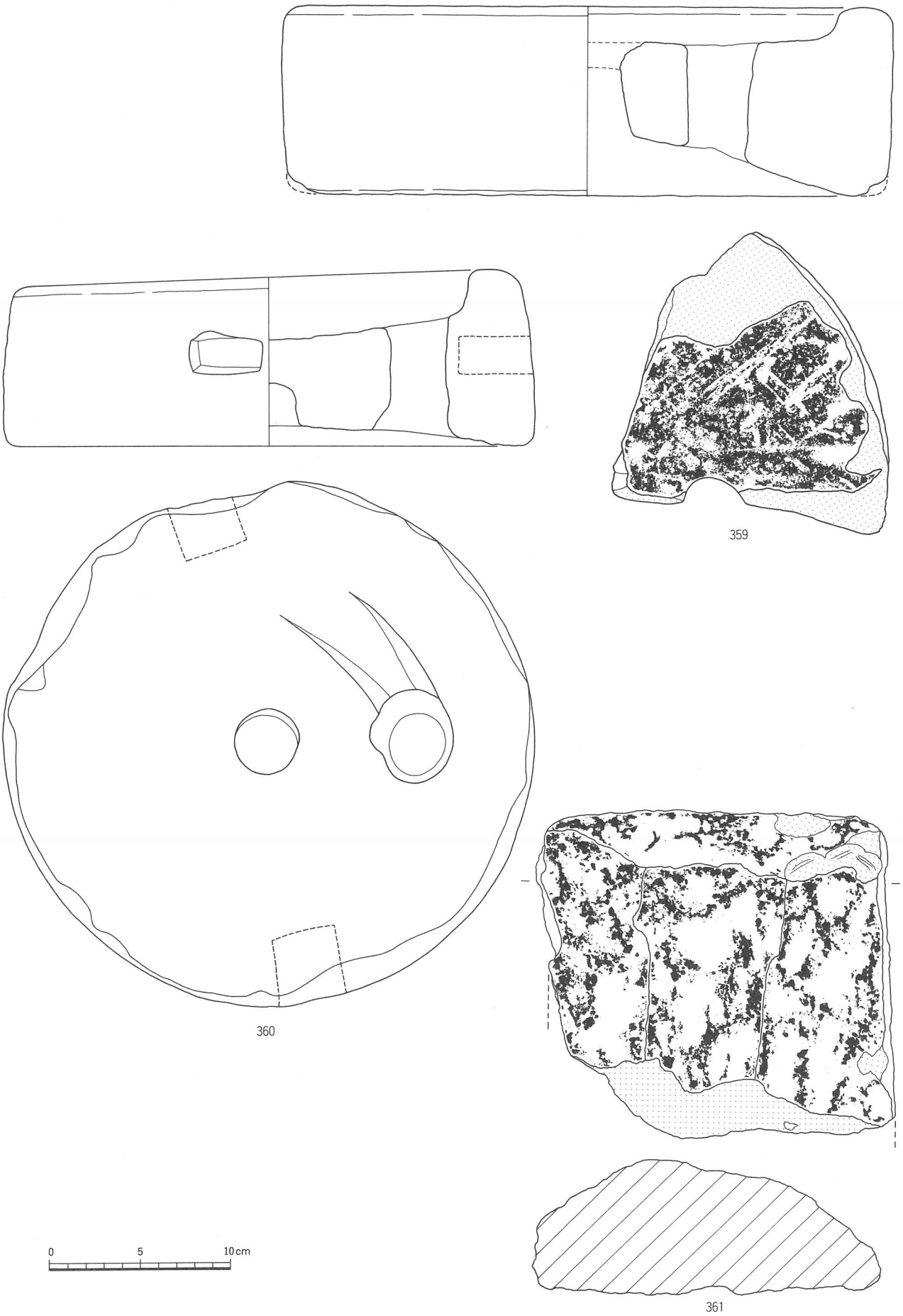
第80図　SE40(324～326)・SX27(327～328) 出土遺物 (1/3)



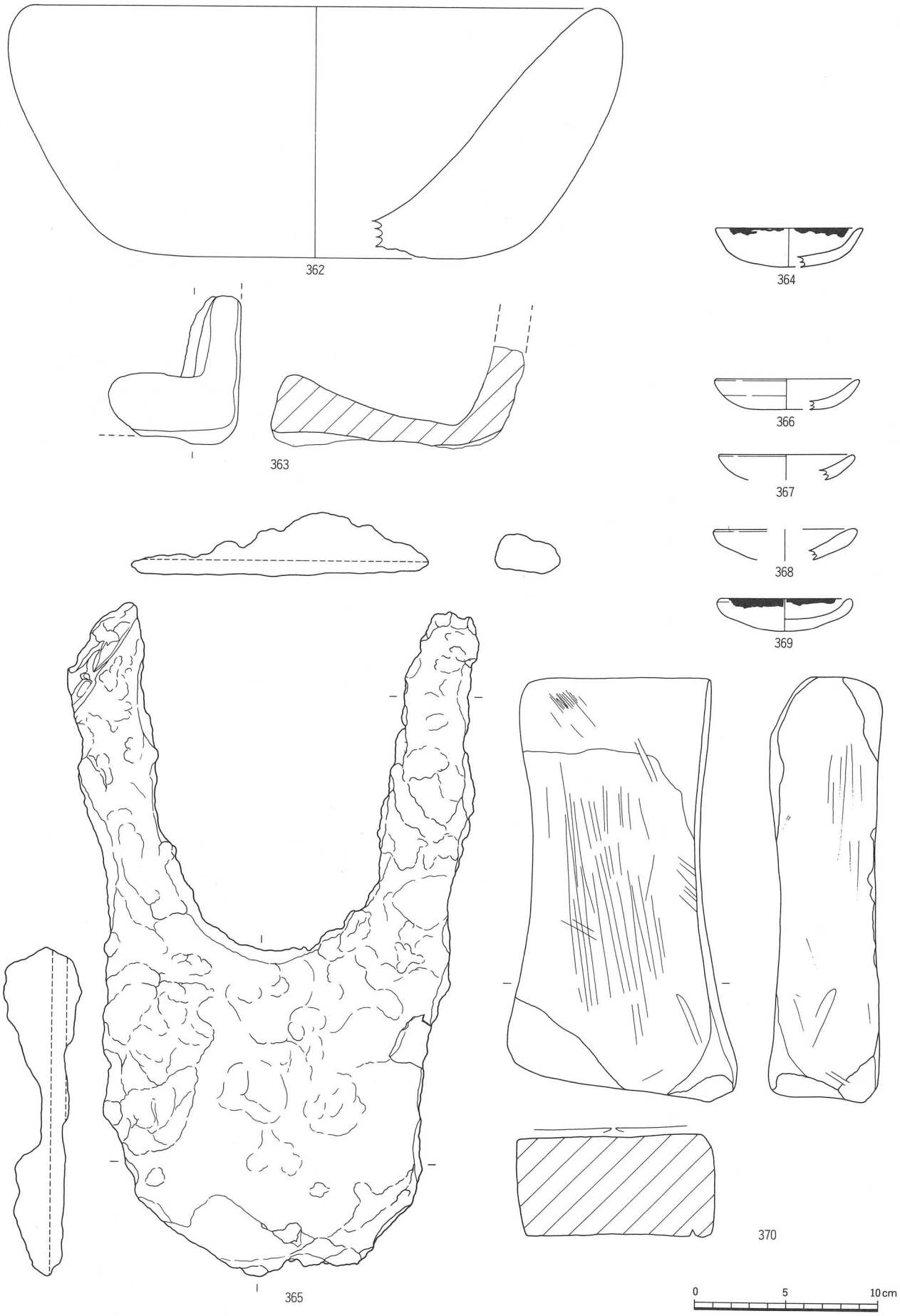
第81図　SX28(329～334)・SX29(335～337)・SX33(338～342)・SX34(343) 出土遺物 (1/3)



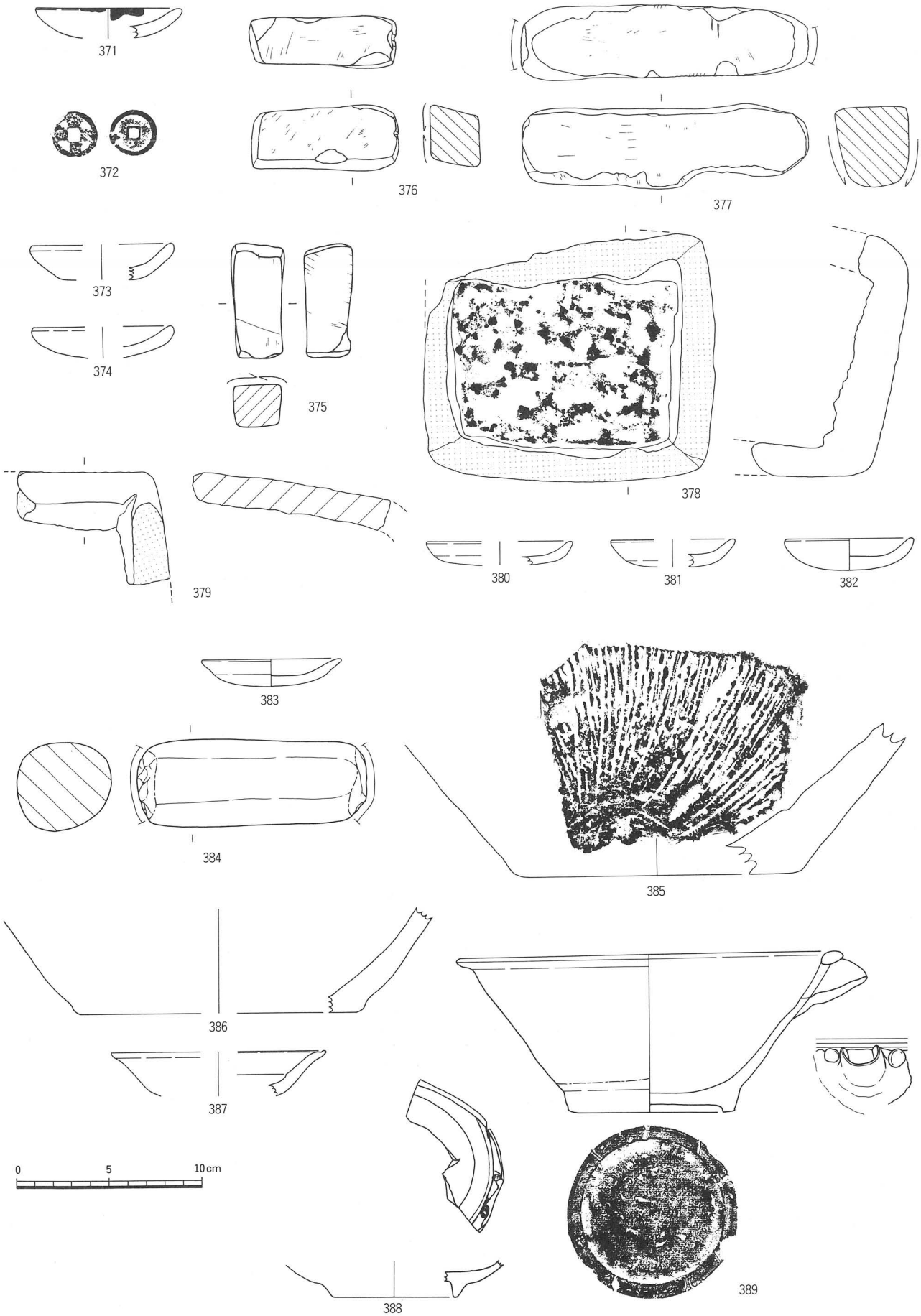
第82図　SX36(344～349)・SX43(350・351)・SX44(352～358) 出土遺物 (1/3)



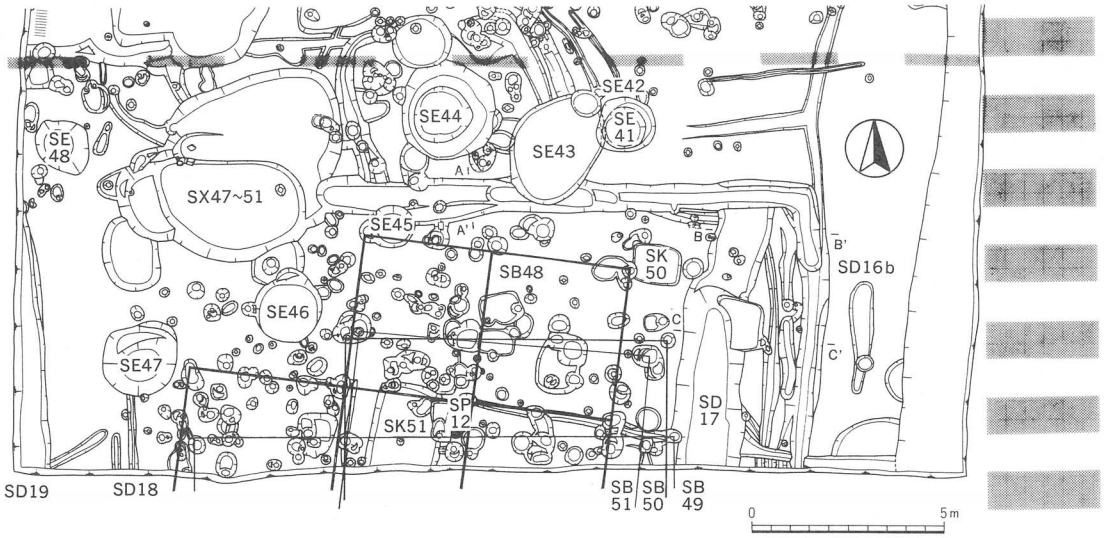
第83図　SX46(359)・SK32(360)・SK36(361) 出土遺物 (1/3)



第84図　SX37(362・363)・SK38(364)・SK40(365)・SK42(366～370) 出土遺物 (1/3)



第85図　SK47(371・372)・SD15(373～375)・SP03(376)・SP04(377・378)・SP05(379)・SP06(380)・SP07(381)・SP08(382)・SP09(383・384)・SP11(385)・SK57(386・387)・SD29(388・389) 出土遺物 (1/3)・(372-1/2)



第86図　集落区－S3区（1/200）

6　Ｓ３区（第86図）

集落区南端に位置する。掘立柱建物群ＳＢ48～51群、ＳＸ47～51群、ＳＥ41～48、ＳＤ16～19などで構成される。南側に掘立柱建物、北西側に竪穴状遺構と井戸が配置されている。小区は設定していない。

(1) 掘立柱建物

ＳＢ48（第87図）

中央に位置し、東西２間と３間の柱列を二列確認した。東西棟と考えられるが北西隅の柱穴は無く、この柱列間は北側への張出部分かまたはＳＥ46を意識したものであろうか。主軸は（N87°W）である。北側の２間柱列Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.4m、3.6mの計7.0m、南側の３間柱列Ｐ5～Ｐ8間は3.9m、3.4m、3.9mの計11.2mとなる。南北のＰ1～Ｐ5間3.9m、Ｐ3～Ｐ7間は4.0mである。柱穴は略円形で径38～70cm、深さ44～80cmを測る。

ＳＢ49（第87・92図）

南端に位置する。東西４間の柱列を一列確認した。主軸は（N90°W）である。柱列Ｐ1～Ｐ5間の柱間寸法は2.9m、3.5m、2.8m、3.4mの計12.6m。柱穴は略円形で径35～55cm、深さ58～80cmを測る。

ＳＢ50（第88・92図）

南端に位置する。東西３間の柱列を一列確認した。主軸は（N89°W）である。柱列Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.8m、2.8m、2.9mの計8.5m。柱穴は略円形で径35～50cm、深さ46～52cmを測る。

ＳＢ51（第88・92図）

南端に位置する。東西３間の柱列を一列確認した。主軸は（N85°W）である。柱列Ｐ1～Ｐ4間の柱間寸法は2.8m、2.8m、2.1mの計7.7m。柱穴は略円形で径50～80cm、深さ64～74cmを測る。

(2) 井戸

ＳＥ41（第89・92図）

北端中央に位置する。平面形は略円形で径1.45～1.6m、底面径0.9m、深さ1.93m、底面標高10.75mを測る。

ＳＥ42（第89図）

北端中央に位置する。平面形は略円形で径0.7m～0.84m、底面径0.64m、深さ1.52m、底面標高11.07mを測る。

ＳＥ43（第89・93図）

北端中央に位置する。検出後壁面の崩壊により詳細は不明。実測図は崩壊後のものである。深さ2.1m、底面標高10.56mを測る。

ＳＥ44（第89・93図）

北端中央に位置する。平面形は略円形で、内部に段を有する。径2.6～2.8m、底面径1.1～1.15m、深さ1.98m、底面標高10.68mを測る。

ＳＥ45（第89図）

中央に位置する。平面形は略円形で径1.1～1.2m、底面径0.9m、深さ1.37m、底面標高11.23mを測る。

ＳＥ46（第89・93・94図）

中央に位置する。平面形は略円形で径1.7～1.75m、底面径1.5m、深さ1.90m、底面標高10.91mを測る。

ＳＥ47（第89・94図）

南西に位置する。平面形は略円形で径1.85～1.9m。内部に段を有し、底面径0.8～1.0m、深さ2.3m、底面標高10.30mを測る。

ＳＥ48（第89・95図）

北西に位置する。平面形は略円形で径1.36～1.7m、底面径0.75～0.8m、深さ2.72m、底面標高10.11mを測る。

(3) 竪穴状遺構

ＳＸ47（第90・95図）

北西に位置する。ＳＸ48～51と複合し、このＳＸ47が最も新しい時期であるが詳細は不明。推定短軸3.1m、深さ30cmを測る。ＳＸ49と同規模か。

ＳＸ48（第90・96図）

北西に位置し、ＳＸ49を切るが詳細は不明。深さ28cmを測る。ＳＸ49と同規模か。

ＳＸ49（第90・96図）

北西に位置する。一段低くなる部分をＳＸ49と判断した。平面形は楕円形で、長軸3.8m、短軸2.7m、面積約10m^2、深さ34cmを測る。

ＳＸ50（第90図）

北西に位置するが詳細は不明。深さ30cmを測る。ＳＸ49と同規模か。

ＳＸ51（第90図）

北西に位置するが詳細は不明。深さ26cmを測る。ＳＸ49と同規模か。

(4) 土坑

ＳＫ50（第91・96図）

中央に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.25m、短軸1.06m、深さ35cmを測る。

ＳＫ51（第91・96図）

南端中央に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸不明、短軸1.86m、深さ17cmを測る。

(5) 溝

ＳＤ16（第86図）

掘立柱建物群の北面と東面を鍵状に囲む溝である。この北面部分をＳＤ16ａ、東面部分をＳＤ16ｂとした。北面部は長さ12.5m、幅0.7～1.0m、深さ20～45cmを測る。東面部は幅0.6～0.65m、深さは屈折部が40cm、浅い部分は20cmである。

ＳＤ17（第86・96図）

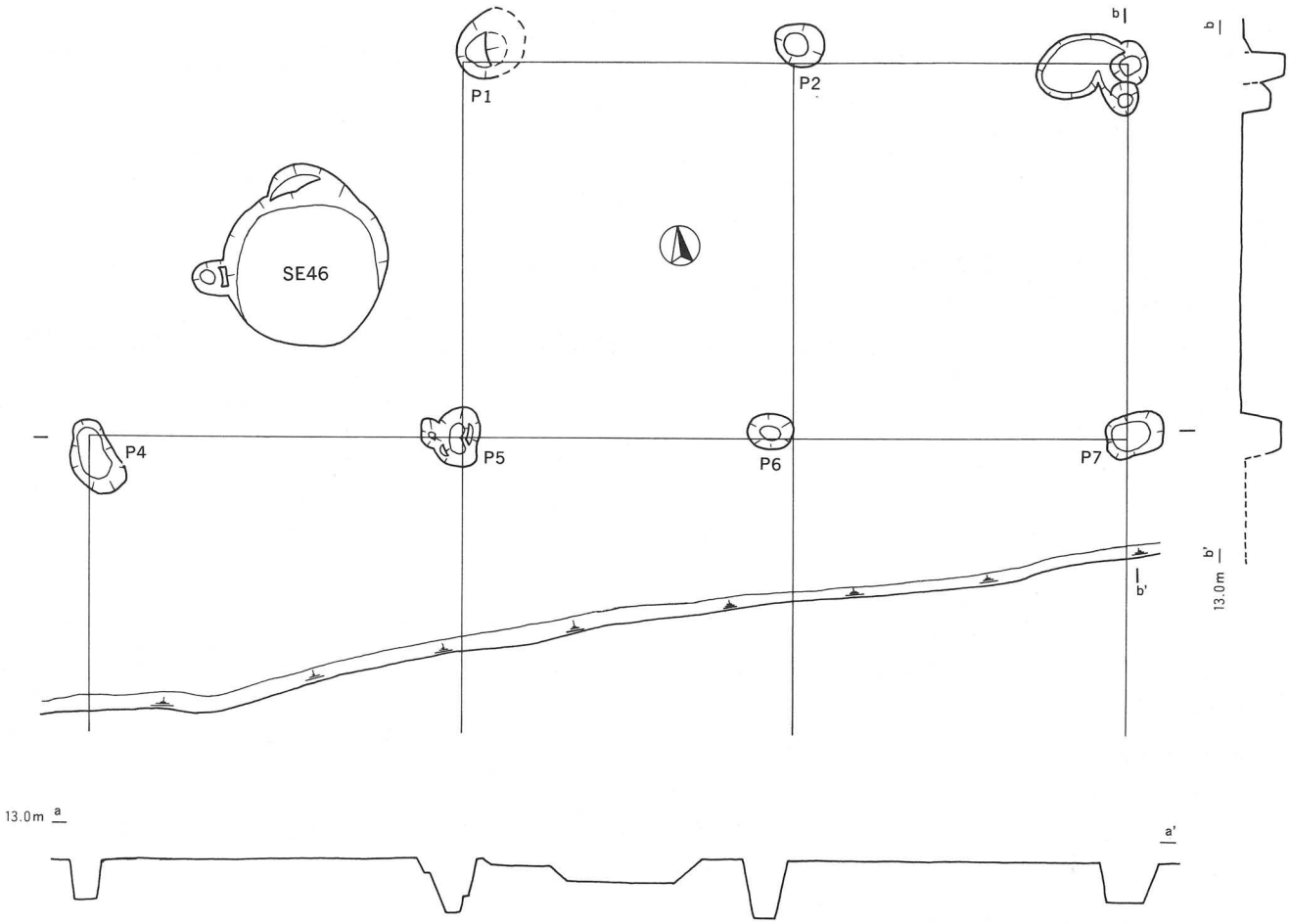
ＳＤ16ｂの西側に位置する南北溝である。幅1.6～1.9m、深さ67～70cmを測る。

ＳＤ18（第86・96図）

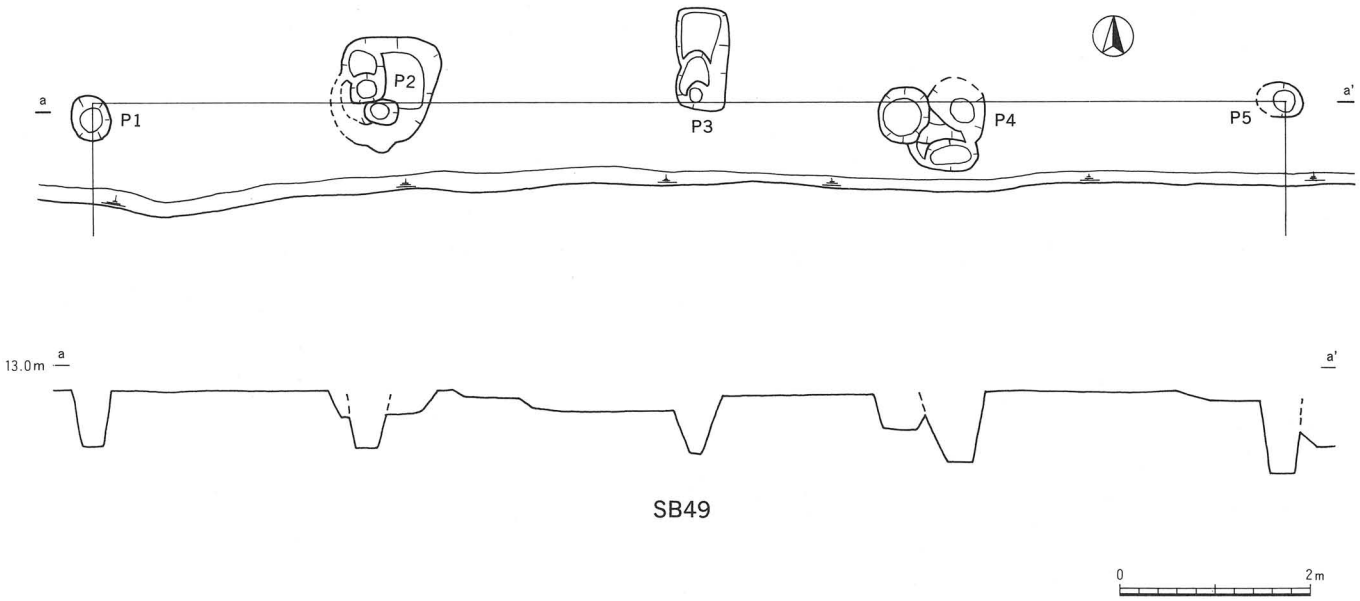
南西に位置する南北溝である。幅20cm、深さ５～８cmを測る。

ＳＤ19（第86・96図）

西端に位置する南北溝である。幅不明、深さ20～34cmを測る。

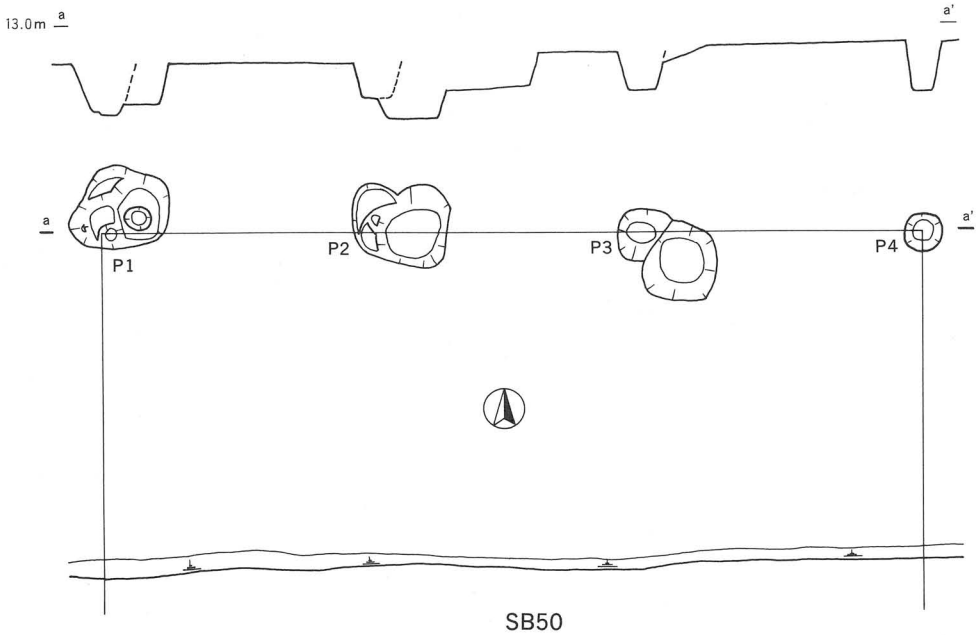


SB48

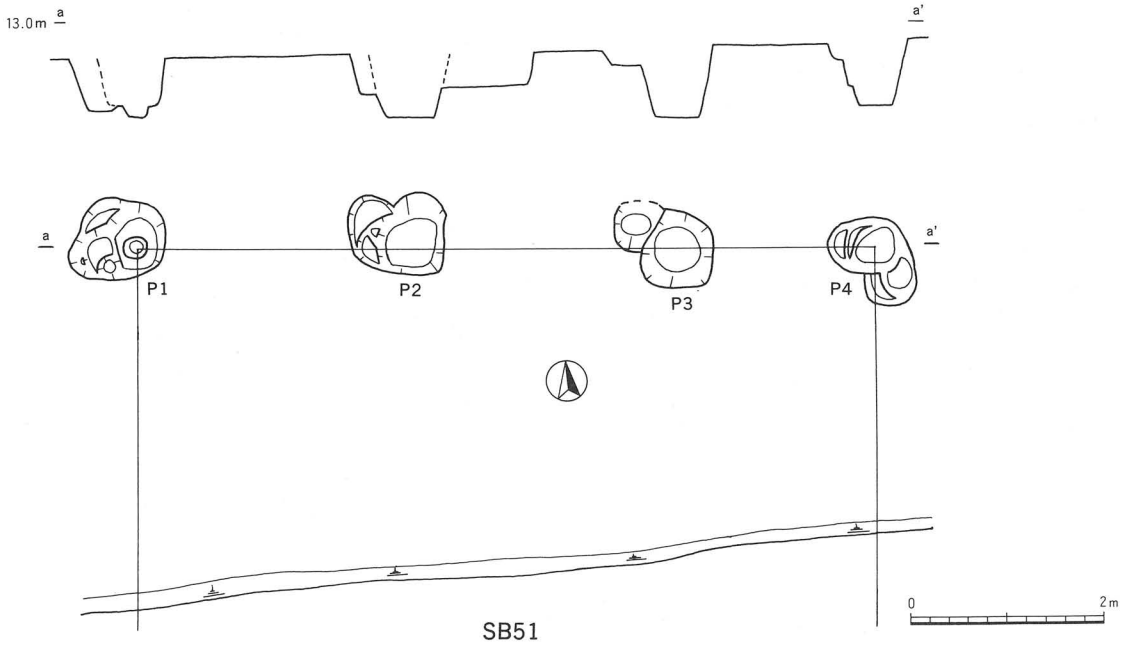


SB49

第87図　S3区　SB48・49 遺構図（1/80）

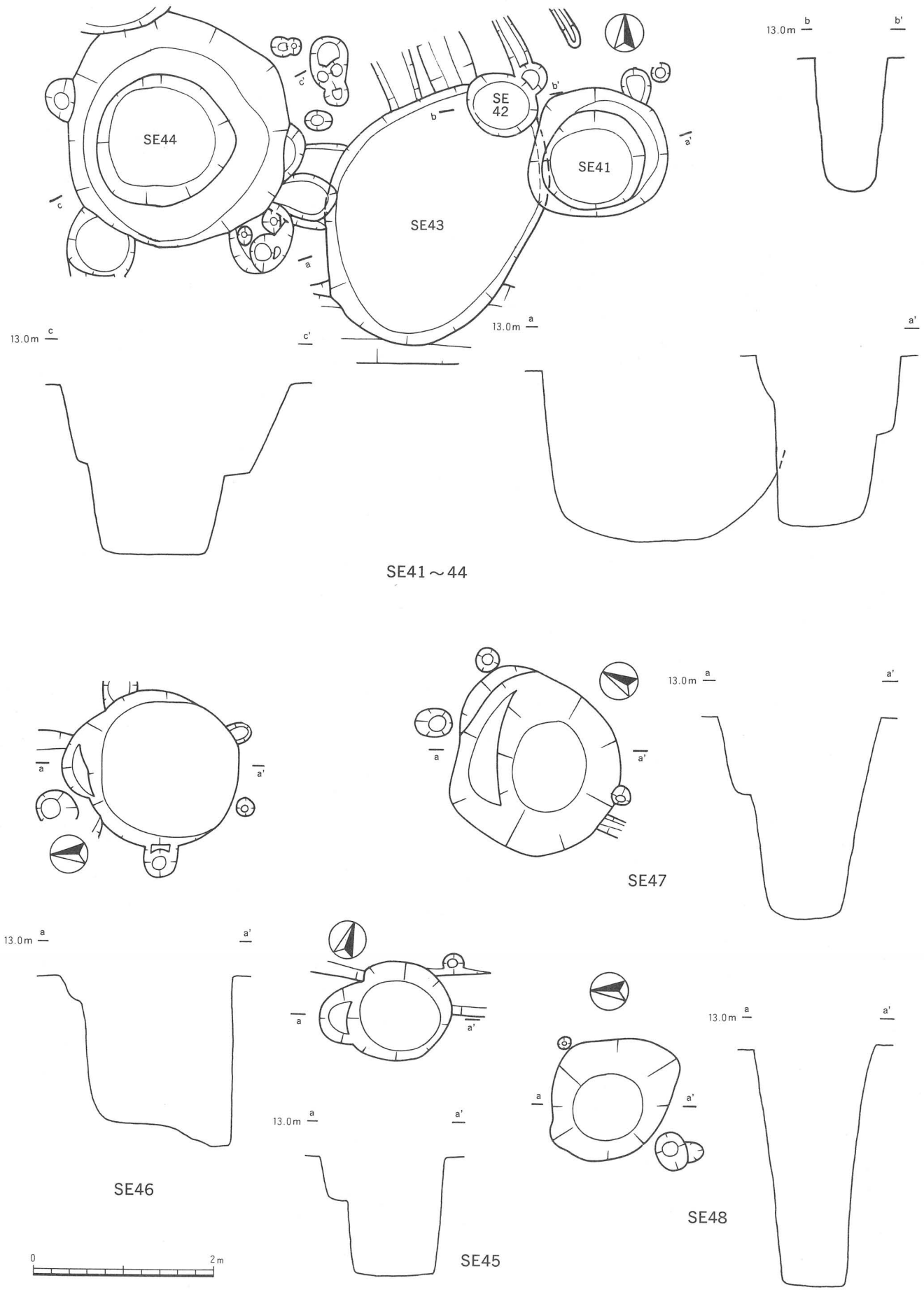


SB50

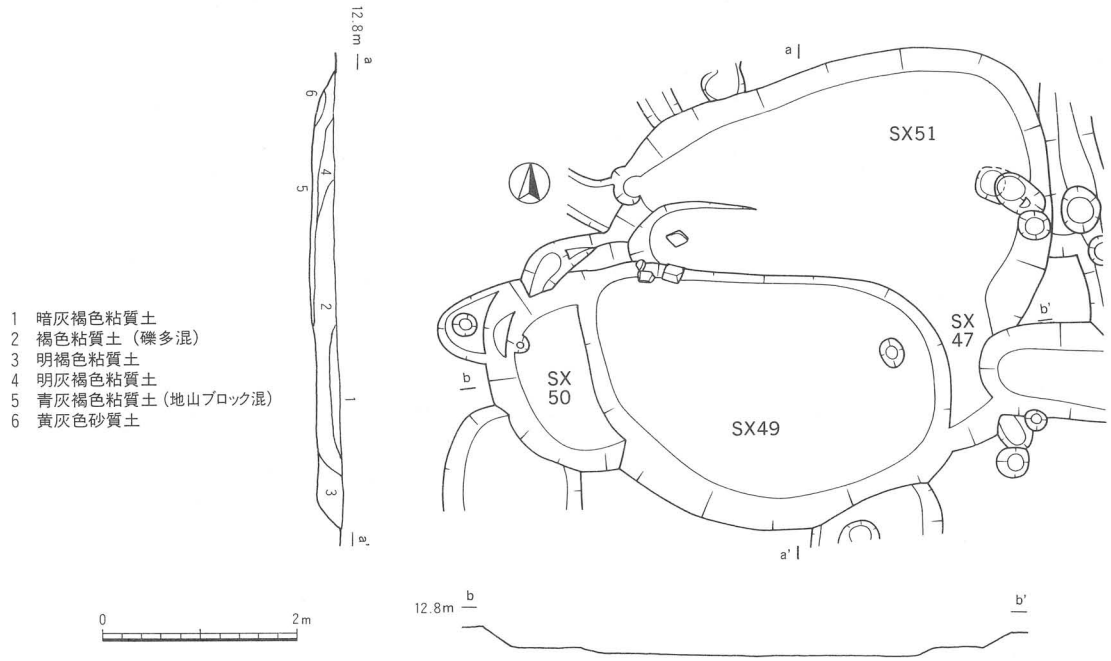


SB51

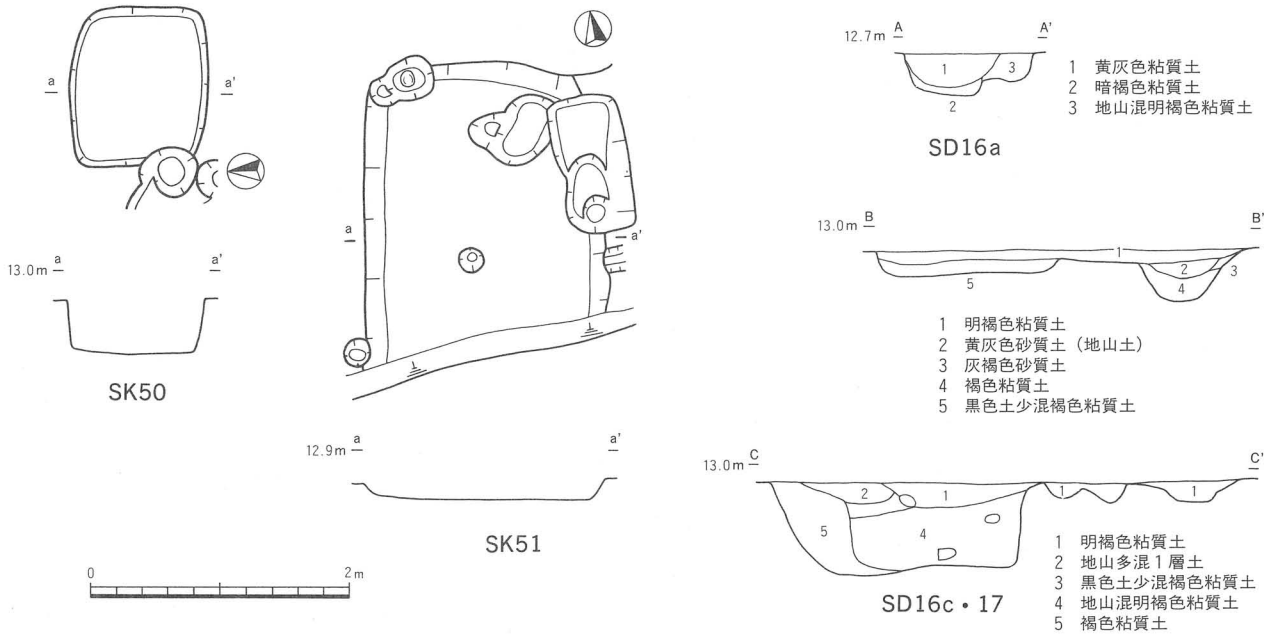
第88図　S3区　SB50・51 遺構図（1/80）



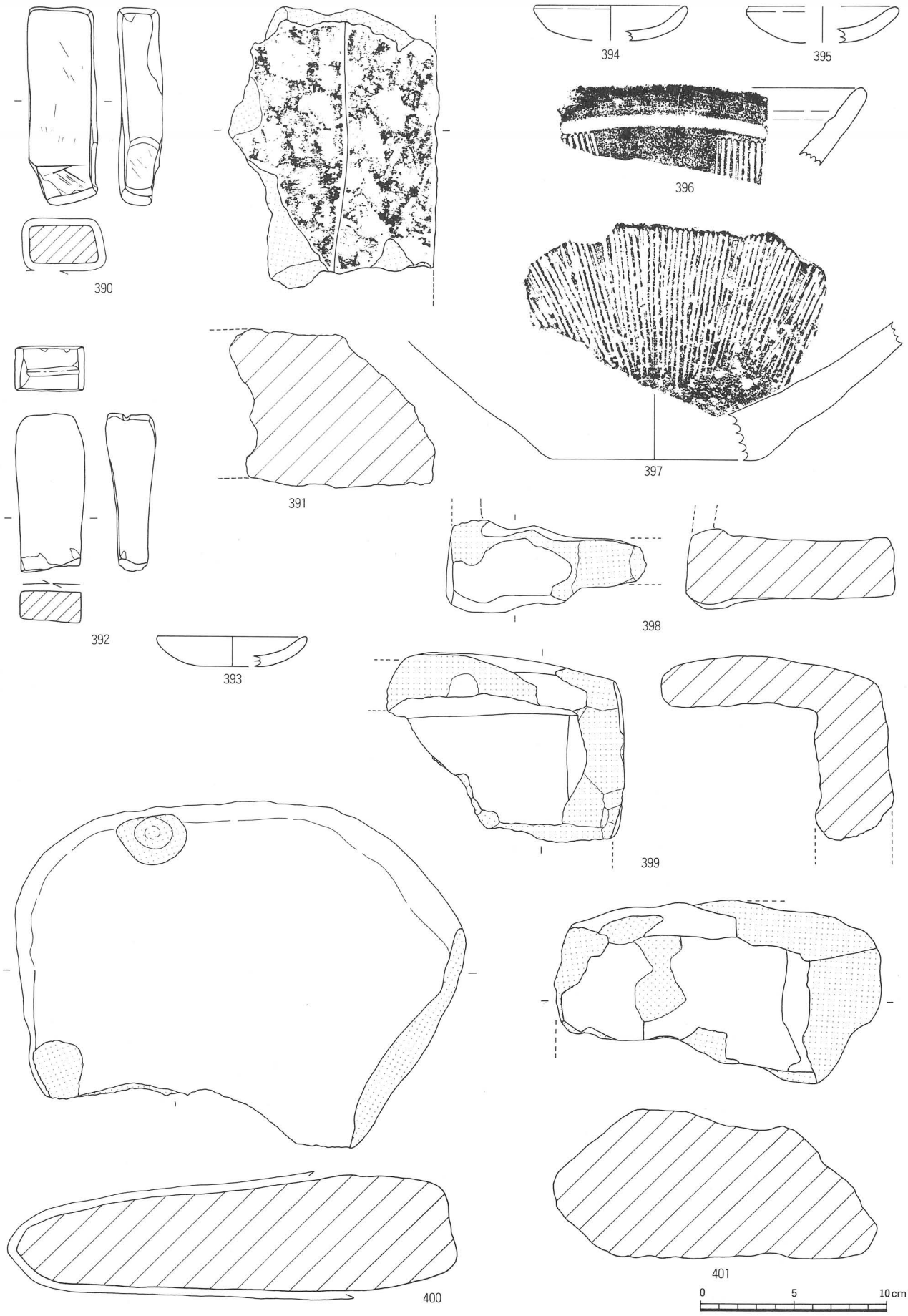
第89図　S3区　SE41～48 遺構図（1/60）



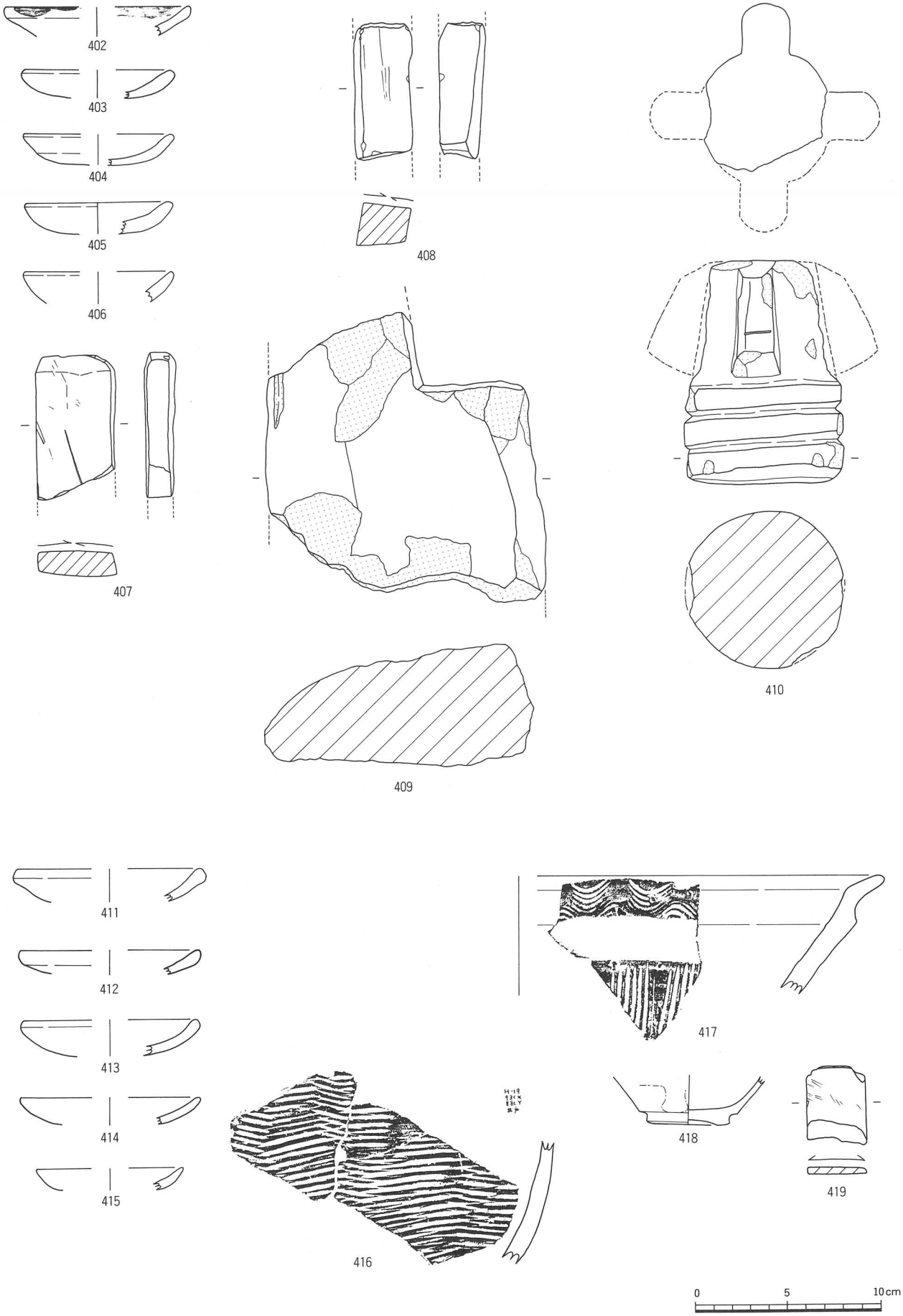
第90図　S3区　SX47～51 遺構図（1/80）



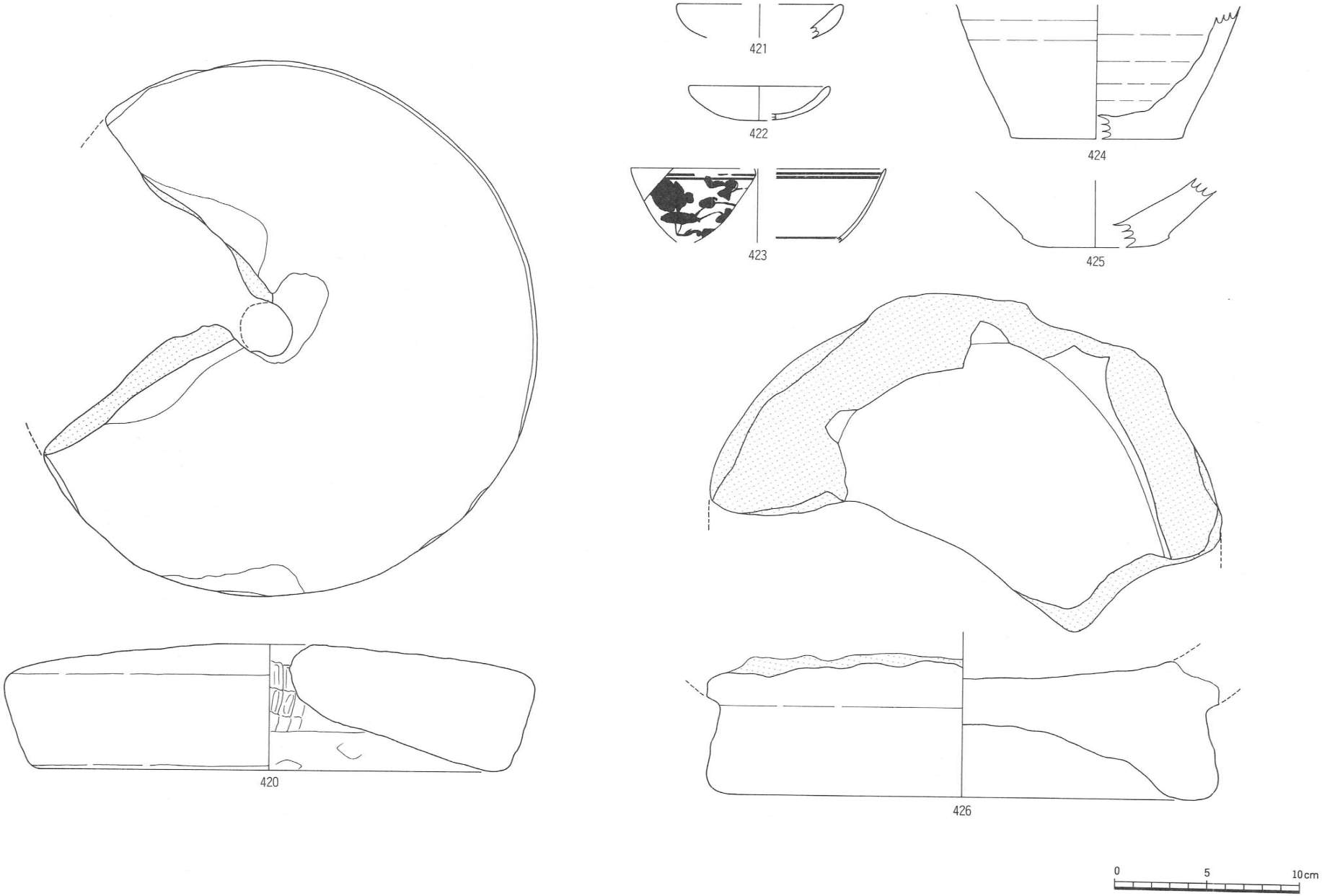
第91図　S3区　SK50・51 遺構図・SD16・17 断面図（1/80）



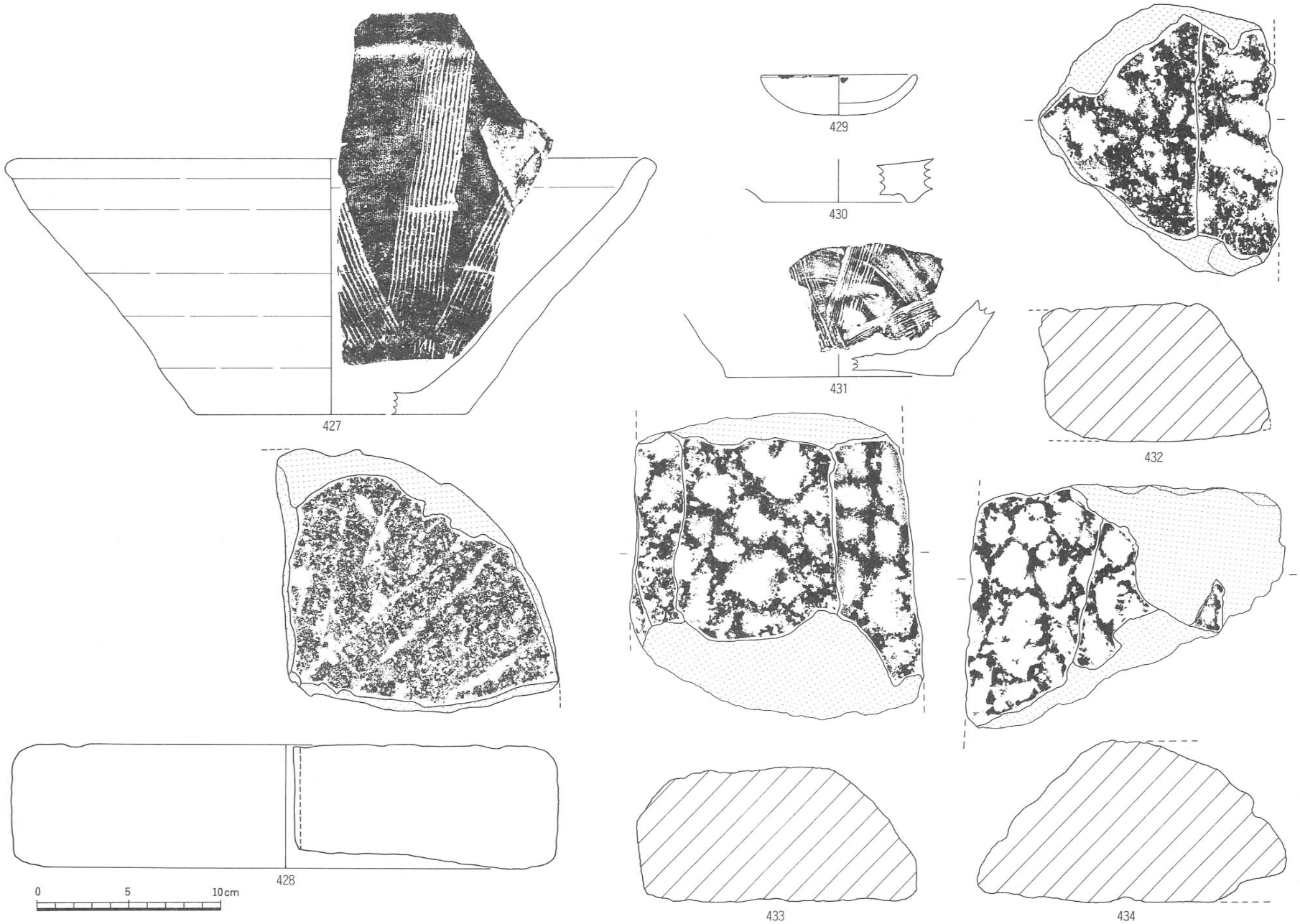
第92図　SB49-P2(390・391)・SB50-P1(392)・SB51-P1(393)・SE41(394～401) 出土遺物 (1/3)



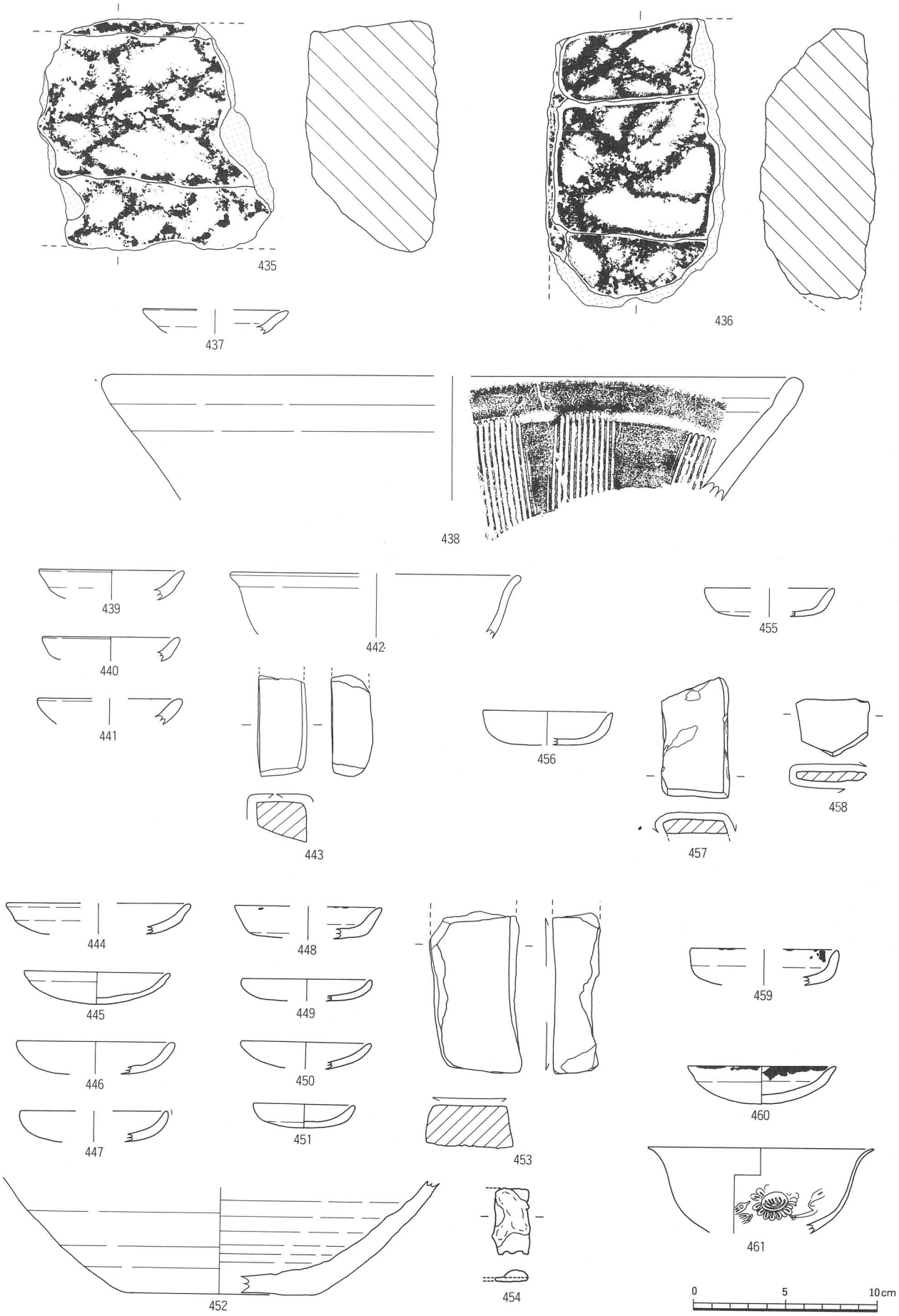
第93図　SE43(402～410)・SE44(411～416)・SE46(417～419) 出土遺物 (1/3)



第94図　SE46(420)・SE47(421～426) 出土遺物 (1/3)



第95図　SE48(427・428)・SX47(429～434) 出土遺物 (1/3)



第96図　SX47(435・436)・SX49(437)・SK50(438)・SK51(439～443)・SD17(444～454)・SD18(455)・SD19(456～458)・SP12(459)・落ち込み(460・461)　出土遺物（1/3）

7　耕作区（第５図）

東調査区にあたる。東西溝ＳＤ08と東西道ＳＳ01により南北に分かれる。北部西には掘立柱建物群ＳＢ52・53、ＳＥ49が位置する。南部西にはＳＸ52～56群、この東には耕作溝群が位置する。また全体が南北溝ＳＤ20・21・23～26により区画されている。

(1) 掘立柱建物

ＳＢ52（第97図）

北部西に位置し、ＳＢ53と複合する。梁行２間4.8m、桁行２間6.8m、床面積約33m²、主軸（Ｎ1°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.4m、3.4m、東側桁行Ｐ6～Ｐ8間3.0m、4.1mである。北側梁行Ｐ1～Ｐ4～Ｐ6間は1.6m、3.0m、南側梁行Ｐ3～Ｐ5～Ｐ8間は1.8m、3.0mである。柱穴は略円形と隅丸方形が見られる。一辺及び径は38～72cm、深さは、Ｐ5が14cmと浅いが他は46～75cmを測る。

ＳＢ49（第97図）

北部西に位置する。梁行１間3.5m、桁行２間5.6m、床面積約20m²、主軸（Ｎ1°Ｅ）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行Ｐ1～Ｐ3間の柱間寸法は3.7m、1.8m、東側桁行Ｐ4～Ｐ6間は3.8m、2.0mを測る。柱穴は略円形で径30～54cm、深さ44～60cmを測る。

(2) 柵列

ＳＡ04（第97図）

ＳＢ52・53の西面と南面を囲む。南北列は大小の柱穴がいくつか並ぶが、距離と深さからＰ1～Ｐ5が該当するものとした。Ｐ1～Ｐ5間の柱間寸法は1.55m、1.8m、1.45m、3.75m、Ｐ5～Ｐ7間は4.25m、1.45mの計5.7mを測る。南北列の方位は（Ｎ1°Ｅ）、柱穴は略円形で径24～40cm、深さ25～58cmである。

ＳＡ05（第97図）

ＳＢ53の東桁行に近接し、Ｐ1～Ｐ5が南北に並ぶ柵列である。Ｐ1～Ｐ5間は2.7m、1.6m、1.4m、1.0mの計6.7mを測る。方位は（Ｎ4°Ｅ）である。柱穴は略円形で径17～33cm、深さ16～33cmである。

(3) 井戸

ＳＥ49（第97・101図）

北部西に位置する。平面形は略円形で径2.05～2.2m、内部に段を有し底面径0.8m、深さ1.41m、底面標高11.14mを測る。

(4) 竪穴状遺構

ＳＸ52（第98図）

南部西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸4.82m、短軸不明、深さ５cmと浅い。

ＳＸ53（第98図）

南部西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸4.44m、短軸不明、深さ10cmを測る。

ＳＸ54（第98図）

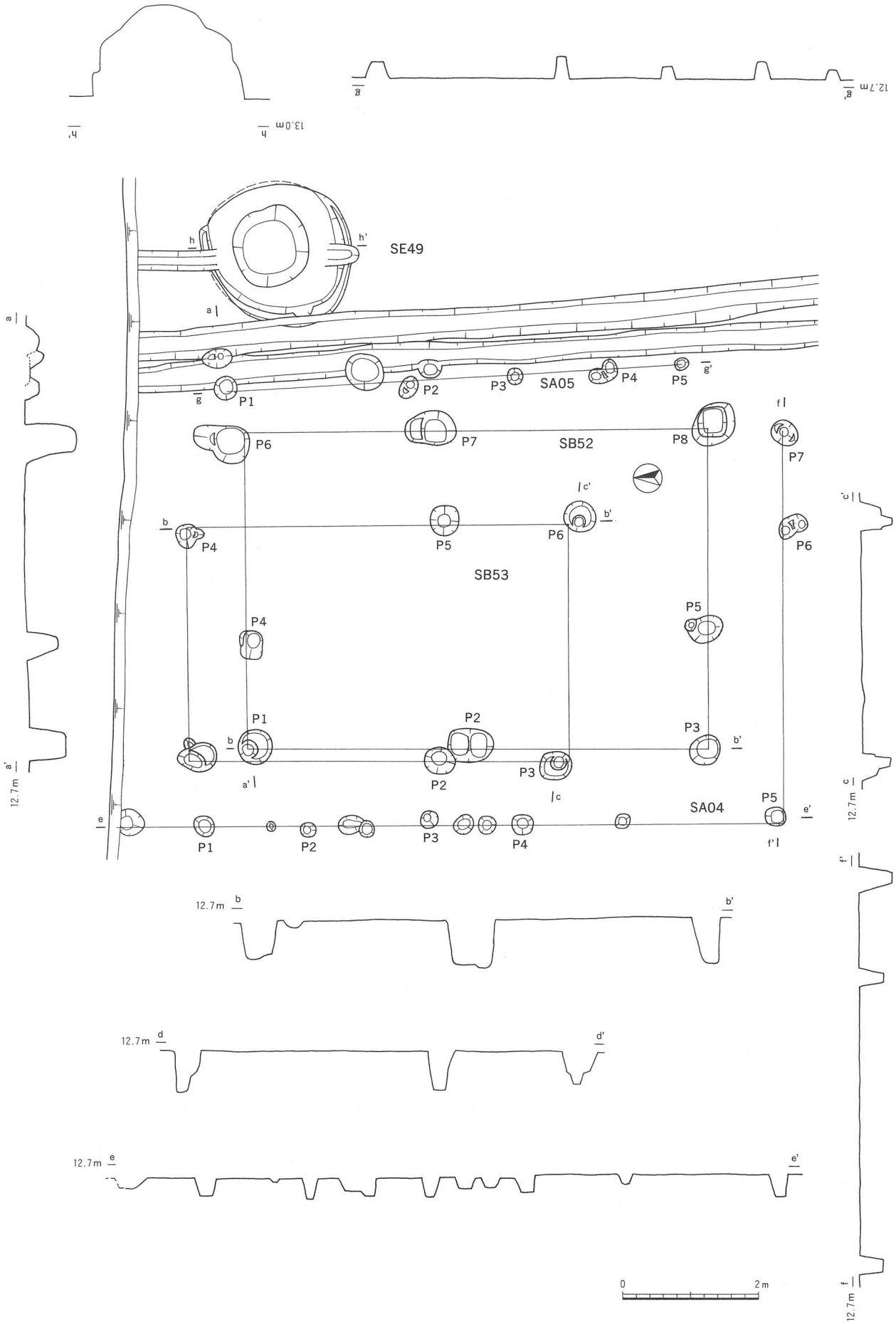
南部西に位置し複合するＳＸ53・55を切る。平面形は隅丸方形で、長軸7.3m以上、短軸2.93m、深さ20cmを測る。

ＳＸ55（第98・101図）

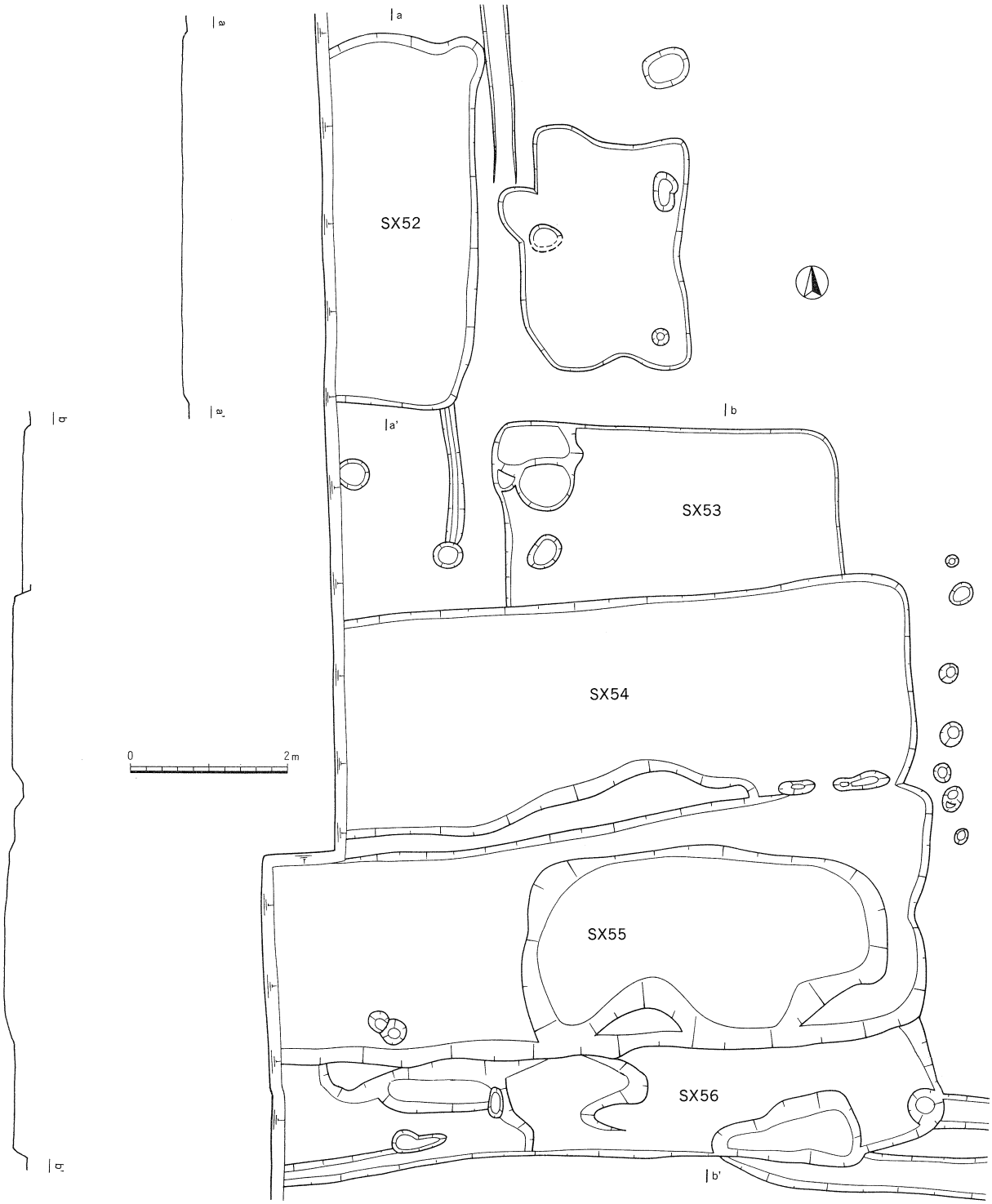
南部西に位置し、複合するＳＸ56を切る。平面形は隅丸方形で、長軸8.4m以上、短軸3.14m、深さ20cmを測る。楕円状に一段部分の深さは32cmである。

ＳＸ56（第98図）

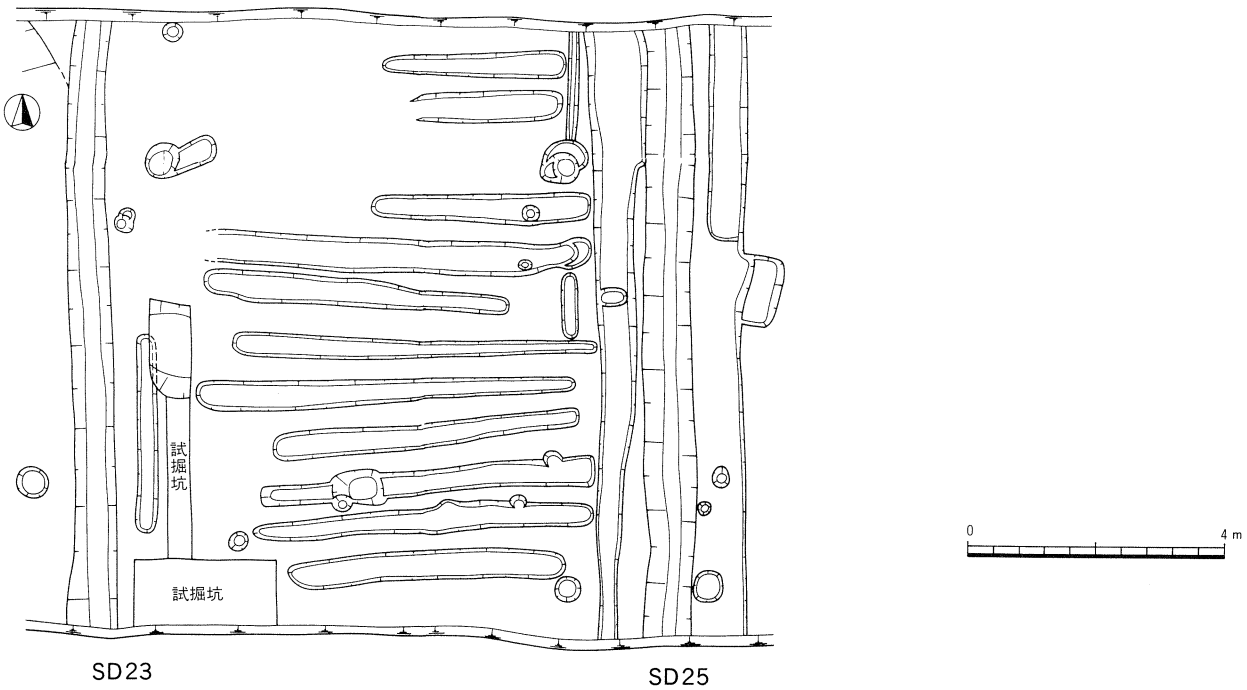
南部西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸8.4m以上、短軸不明、深さ18cmを測る。



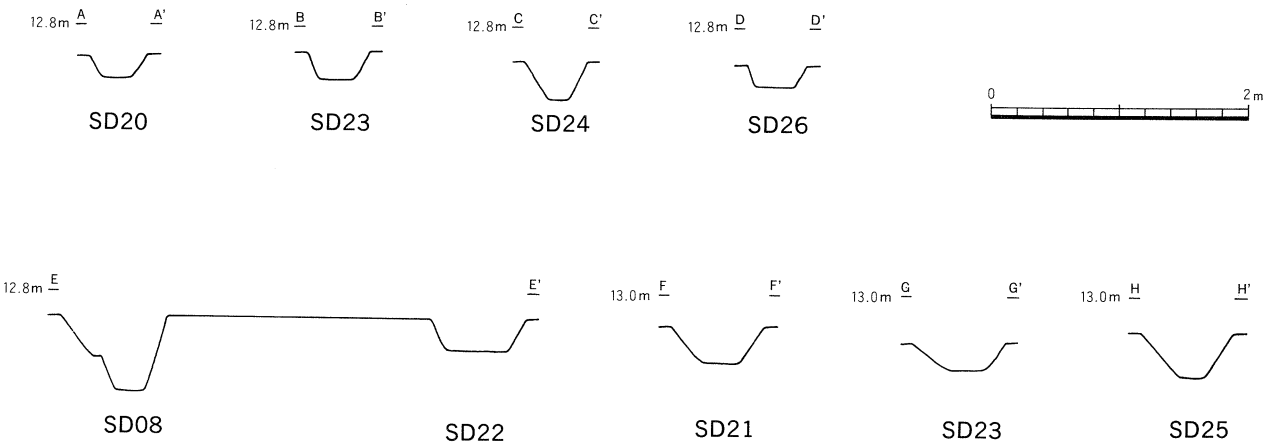
第97図　耕作区－N区 SB52・53・SA04・05・SE49 遺構図（1/80）



第98図　耕作区南部 SX52～56 遺構図（1/80）



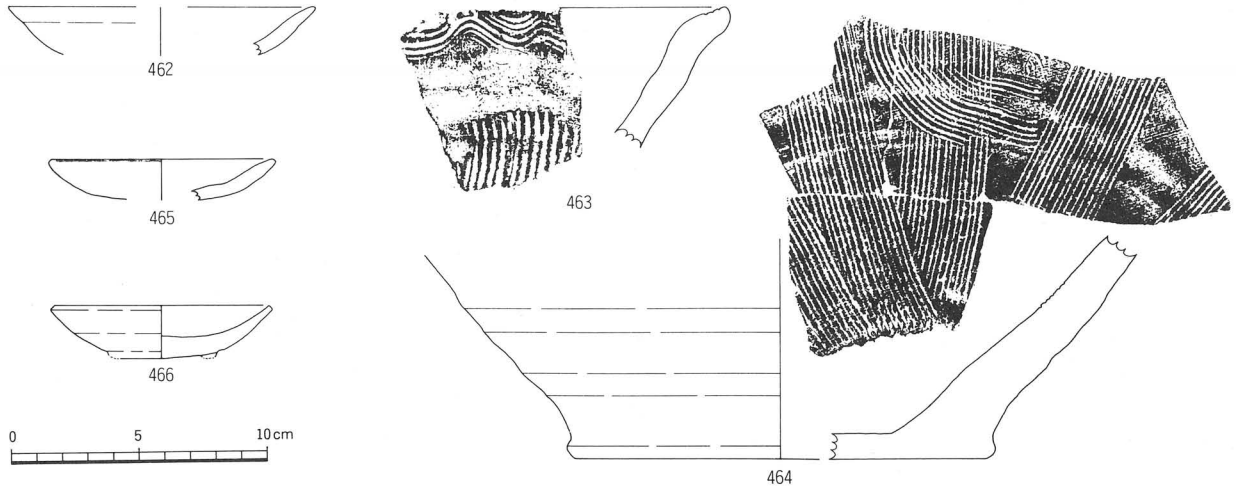
第99図　耕作区南部耕作溝（1/120）



第100図　耕作区　SD断面図（1/60）

(5) 耕作溝（第99図）

南部東の南北溝ＳＤ23とＳＤ25間の幅ほぼ８ｍの区画内で東西溝11条を検出した。溝は浅く不鮮明な部分もあるが、幅20～50cm、深さ２～９cmを測る。溝の間隔は広いもので1.1m、狭いものは10cmであるが、多くは30cm前後である。長さは短いものが2.4～4.1m、他は4.8～5.9mである。



第101図　SE49(462～464)・SX55(465)・SD25(466) 出土遺物（1/3）

(6) 溝（第５・100・101図）

耕作区の主要な区画溝には東西溝のＳＤ08・22と南北溝のＳＤ20・21・23～26がある。ＳＤ08・22はＳＳ01を挟み、間隔1.0～2.2mで並行するが、ＳＤ22は調査区東端で南へ屈曲するものと考えられる。幅50～70cm、深さは18～46cmを測り、流方向は東である。

南北溝ＳＤ20・21・23～26と集落区のＳＤ02・09はそれぞれ一定の間隔を保ち並行する。この間隔は、ＳＤ02～ＳＤ20間17m、ＳＤ09～ＳＤ21間16m、ＳＤ20～23間4.5～５m、ＳＤ21～23間７～８m、ＳＤ23～24間７～7.5m、ＳＤ23～25間７～９m、ＳＤ24～26間８m、ＳＤ25～26間６mを測る。この南北溝は遺存にもよるがほぼ同規模であり、幅40～70cm、深さ10～35cmである。

註

(1)福田アジオ　1982年「ムラの領域」『日本村落の民俗的構造』弘文堂
村落空間をムラ（集落＝定住地域）、ノラ（耕地＝生産地）、ヤマ（林野＝採集地）の三領域に区分され、各区域に対応する祭祀の存在から各領域が民衆の意識の次元で明確に区別されていたとしている。

(2)珠洲焼きについては吉岡編年の時期区分により記述した。
吉岡康暢　1994年『中世須恵器の研究』吉川引文館
出土遺物については垣内光次郎氏、藤田邦雄氏から多大な教示を得ている。

表2　中世以降の遺物一覧表

N２区

遺物番号	出土地点	器種	法量(mm) ()推径または欠損	産地	備考
31	SB03	土師器	口径 82 器高 21	在地	14 世紀末～15 世紀前半か
32	SE01	石臼	径 312 高さ 87 重さ 11.45kg	山中 水無山か	下臼・火山礫凝灰岩
33	SE02	行火			軽石凝灰岩
34	SE02	石鉢	口径 (320)	滝ケ原	凝灰岩(軟質)
35	SE03	土師器	口径 90 高さ 21	在地	15 世紀中葉
36	SE03	天目茶碗	口径 (138)	瀬戸・美濃	15 世紀中葉
37	SE03	砥石 (五輪塔)	長さ (210) 幅 173 高さ 92 重さ 3.01kg		緑色凝灰岩 火輪を転用か
38	SE03	石臼	径 305 高さ 122 重さ 15.40kg	水無山	火山礫凝灰岩
39	SE03	砥石	長さ (118) 幅 (109) 重さ 670g		緑色凝灰岩
40	SE03	石鉢	底径 (188) 重さ 3.29kg		火山礫凝灰岩
41	SE05	土師器	口径 (135)	在地	14 世紀後半
42	SE05	土師器	口径 (135)	在地	14 世紀後半
43	SE05	土師器	口径 (90) 器高 (19)	在地	14 世紀後半
44	SE05	土師器	口径 86	在地	油煤痕・14 世紀後半
45	SE05	土師器	口径 (80)	在地	14 世紀後半
46	SE05	土師器	口径 (80) 器高 (16)	在地	14 世紀後半
47	SE05	土師器	口径 (70) 器高 (14)	在地	14 世紀後半
48	SE06	土師器	口径 (96)	在地	14 世紀後半
49	SE06	土師器	口径 69 器高 20	在地	14 世紀後半
50	SE06	土師器	口径 65 器高 13	在地	14 世紀後半
51	SE08	土師器	口径 110 器高 24	在地	14 世紀後葉
52	SE08	土師器	口径 107 器高 25	在地	14 世紀後葉
53	SE08	土師器	口径 106 器高 20	在地	14 世紀後葉
54	SE08	土師器	口径 100 器高 (20)	在地	14 世紀後葉
55	SE08	白磁碗	底径 148	中国	14 世紀前半
56	SE08	摺鉢	口径 (293)	越前	
57	SX01	土師器	口径 100 器高 (18)	在地	15 世紀後葉～16 世紀前半
58	SX01	土師器	口径 84 器高 (19)	在地	15 世紀後葉～16 世紀前半
59	SX01	砥石 (五輪塔)	長さ 135 幅 100 高さ 73 重さ 1.30kg		一石五輪塔水輪 凝灰岩・16 世紀代か
60	SX01	天目茶碗	口径 (120)	瀬戸・美濃	15 世紀後半か
61	SX01	天目茶碗	口径 (120)	瀬戸・美濃	15 世紀後半か
62	SX01	石臼	径 (315) 高さ 118		上臼・火山礫凝灰岩 16 世紀
63	SX01	片口石鉢	口径 (410) 重さ 1.07kg		火山礫凝灰岩
64	SX02	土師器	口径 (76) 器高 (16)	在地	15 世紀後葉
65	SX02	土師器	口径 (80) 器高 (15)	在地	
66	SX02	土師器	口径 (70)	在地	
67	SXO2	壷底部	底径 (117)	越前	
68	SX02	壷底部	底径 98	珠洲	
69	SX02	摺鉢	口径 (400)	越前	15 世紀末～16 世紀初頭
70	SX02	土錘	径 33 穴径 13	在地	
71	SX02	行火	幅 150 高さ 112	在地	
72	SX02	石臼	径 (296) 高さ 82 重さ 4.14kg		火山礫凝灰岩
73	SX02	石臼	径 (312) 高さ 132 重さ 4.45kg	水無山	火山礫凝灰岩
74	SX02	台石	長さ 339 高さ 152 重さ 13.01kg		火山礫凝灰岩 上面磨耗
75	SX03	石鉢	口径 (325) 底径 (185)		凝灰岩・内面磨痕 火熱痕
76	SX04	土師器	口径 (90) 器高 20	在地	14 世紀末か
77	SX04	土師器	口径 (80) 器高 (18)	在地	15 世紀前葉か
78	SX04	土師器	口径 (80) 器高 (15)	在地	
79	SX04	土師器	口径 65 器高 15	在地	
80	SX04	青磁碗	高台径 60	中国	
81	SX04	中砥石	長さ (95) 幅 40 高さ 31 重さ 210g		凝灰岩
82	SX05	土師器	口径 118 器高 (20)	在地	15 世紀後葉～16 世紀前半
83	SX05	土師器	口径 82 器高 (21)	在地	15 世紀後葉～16 世紀前半
84	SX05	土師器	口径 70 器高 14	在地	
85	SX05	土師器	口径 70 器高 (16)	在地	14 世紀後葉か
86	SX05	摺鉢	底径 (176)	越前	
87	SX06	摺鉢	口径 (300)	越前	
88	SX06	石鉢	口径(272) 重さ700g		火山礫凝灰岩・火熱痕
89	SX07	土師器	口径(75)	在地	15 世紀後葉～16 世紀前半
90	SX07	土師器	口径 80 器高 18	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
91	SX07	土師器	口径 66 器高(17)	在地	15世紀後葉か
92	SX07	土師器	口径 66 器高(11)	在地	15世紀後葉か
93	SX07	摺鉢		越前	13世紀後半～14世紀初頭
94	SK01	土師器	口径(80) 器高(19)	在地	15世紀中葉～後葉か
95	SK01	中砥石	長さ(62) 幅(36) 高さ 11 重さ 24g		凝灰岩
96	SK03	土師器	口径 80 器高(18)	在地	
97	SK03	土師器	口径 76 器高(19)	在地	15世紀前葉～中葉
98	SD01	土師器	口径(138) 器高(24)	在地	15世紀前半
99	SD01	土師器	口径 73 器高(16)	在地	15 世紀後葉～16 世紀前半
100	SD01	土師器	口径 72 器高 20	在地	15 世紀後葉～16 世紀前半
101	SD01	天目茶碗	口径112	瀬戸・美濃	15世紀後半
102	SD03	土師器	口径 74 器高(20)	在地	
103	SD04	土師器	口径 79 器高(21)	在地	15世紀前葉～中葉
104	SD04	土師器	口径(94) 器高(21)	在地	15世紀前葉～中葉
105	SP01	土師器	口径(80) 器高(15)	在地	
106	SP02	土師器	口径(92) 器高(17)	在地	14世紀後葉
107	N２区落	土師器	口径(80) 器高(14)	在地	14世紀後葉
108	N２区落	土師器	口径(72)	在地	
109	N２区落	摺鉢		珠洲	Ⅳ期後半 14世紀中葉

N１区

遺物番号	出土地点	器種	法量(mm) ()推径または欠損	産地	備考
110	SE09	土師器	口径(80) 器高(18)	在地	14世紀後葉か
111	SE10	土師器	口径(90) 器高(18)	在地	15世紀中葉～後葉
112	SE10	甕		珠洲	Ⅱ期 13世紀前半
113	SE10	行火	幅(180) 高さ 150	蓮代寺か	軽石凝灰岩
114	SE10	花瓶		瀬戸・美濃	
115	SE10	行火	高さ 150	滝ケ原	軽石凝灰岩
116	SE11	土師器	口径 80 器高(21)	在地	15世紀前葉～中葉
117	SE11	土師器		在地	
118	SE11	摺鉢	口径410	珠洲	卸目幅50mm・12目 Ⅴ期後半15世紀前半
119	SE11	摺鉢	口径(384)	珠洲	Ⅴ期後半15世紀前半
120	SE11	摺鉢	口径(346)	越前	卸目幅33mm・13目 15世紀前半
121	SE11	摺鉢	底径(140)	珠洲	
122	SE13	土師器	口径 86 器高 21	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
123	SE15	土師器	口径(80) 器高(16)	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
124	SE15	行火	幅 (163)		軽石凝灰岩
125	SE15	石臼	径 (300) 高さ 70 重さ 1.16kg		上臼・火山礫凝灰岩 摺面凹凸 火熱痕
126	SE15	石臼	径 (350) 高さ 86 重さ 1.95kg		上臼・凝灰岩 摺面磨耗
127	SE16	土師器	口径(90) 器高(20)	在地	14世紀後半
128	SE18	皿	高台径 40	肥前	砂目陶 17世紀第2四半期
129	SE18	摺鉢		珠洲	卸目幅27mm 8目 Ⅵ期 15世紀後半
130	SE18	摺鉢		越前	卸目幅38mm 13目 15世紀後半
131	SE19	茶臼	径 (195) 高さ(90) 重さ 2.17kg	畿内か	上臼 安山岩質凝灰岩
132	SE19	縁石	長さ(198) 幅 215 高さ 75	辰口岩本か	軽石凝灰岩
133	SE20	甕	口径(400)	越前	15世紀中葉～後半
134	SE20	石臼	径 (304) 高さ 80 重さ 4.18kg	水無山か	上臼 火山礫凝灰岩
135	SE21	石臼	径 (314) 高さ 77 重さ 4.10kg		上臼 凝灰岩
136	SE22	甕	底部 底径	信楽	15世紀中葉～後半
137	SE23	石鉢か	長さ(183) 幅 (115)		緑色凝灰岩 煤付着・火熱痕
138	SE23	茶臼	径 205 高さ 114 重さ 3.61kg		上臼 安山岩質凝灰岩
139	SE23	砥石 (石臼)	径(300) 高さ(92) 重さ 2.65kg		上臼 緑色凝灰岩
140	SE23	茶臼	径(400) 摺面径 190 高さ105 重さ3.61kg	在地	下臼 火山礫凝灰岩

141	ＳＥ２３	茶臼	摺面径 181 高さ102 重さ 10.63kg	在地	下臼 細粒凝灰岩
142	ＳＥ２３	石臼	径 320 高さ 130 重さ 13.00kg	水無山	上臼 火山礫凝灰岩
143	ＳＸ０８	甕	口径(404)	越前	16世紀前半か
144	ＳＸ０８	石鉢	平面方形 一辺 285 高さ 191 重さ3.73kg		内面煤付着 凝灰岩
145	ＳＸ０８	摺鉢	底径(175)	珠洲	Ⅵ～Ⅶ期15世紀後半
146	ＳＸ１０	天目茶碗	口径 130	瀬戸・美濃	大窯段階 15世紀末
147	ＳＸ１４	縁石	長さ(328) 幅 223 高さ 90		軽石凝灰岩
148	ＳＸ１４	行火			Ｄ字型・軽石凝灰岩
149	ＳＸ１４	五輪塔	長さ(140) 幅(125)		地輪・火山礫凝灰岩
150	ＳＸ１４	縁石	長さ(115) 幅 215 高さ 118		軽石凝灰岩
151	ＳＸ１６	土師器	口径 72 器高 17	在地	15世紀後葉～16世紀後半
152	ＳＸ１６	摺鉢	底径 150	珠洲	
153	ＳＸ１６	行火			Ｄ字型・軽石凝灰岩
154	ＳＸ１６	行火			Ｄ字型・軽石凝灰岩
155	ＳＸ１６	石鉢	口径(320) 高さ 139		内面磨耗・煤付着 火山礫凝灰岩
156	ＳＸ１６	石臼	径 (324) 高さ 99 重さ 2.40kg		上臼 火山礫凝灰岩
157	ＳＸ１６	縁石	長さ(163) 幅 185 高さ 68		軽石凝灰岩
158	ＳＸ１６	鉄鍋			耳部
159	ＳＫ０５	石臼	径 (330) 高さ 123 重さ 4.65kg	水無山か	上臼 火山礫凝灰岩
160	ＳＫ０８	土師器	口径 76 器高 16	在地	15世紀中葉～後葉
161	ＳＫ１１	行火	幅 (130) 高さ 123		軽石凝灰岩
162	ＳＫ１３	摺鉢	口径(370)	越前	
163	ＳＫ１３	土師器	口径(80)	在地	15世紀後葉～16世紀後半
164	ＳＫ１３	摺鉢	底径(140)	珠洲	
165	ＳＫ２６	土師器	口径(120) 器高(22)	在地	14世紀後半
166	ＳＤ０７	白磁 皿	口径(110)	中国	15世紀前半
167	ＳＤ０７	土師器	口径 (80) 器高(21)	在地	15世紀後葉～16世紀後半
168	ＳＤ０８ａ	土師器	口径 (96) 器高(18)	在地	15世紀後葉～16世紀後半
169	ＳＤ０８ａ	土師器	口径 80 器高 22	在地	14世紀末～15世紀初
170	ＳＤ０８ａ	土師器	口径(80) 器高(17)	在地	14世紀後半
171	ＳＤ０８ａ	土師器	口径 70 器高(15)	在地	14世紀後半
172	ＳＤ０８ａ	青磁 皿	高台径 50	中国	稜花皿・15世紀
173	ＳＤ０８ｂ	土師器	口径 72 器高(20)	在地	15世紀前半か
174	包含層	石臼	径 315 高さ 110 重さ 12.44kg		上臼 火山礫凝灰岩
175	ＳＫ５２	徳利	底径 85 器高(202)	九谷か	
176	ＳＫ５２	碗	高台径 50	肥前	染付磁・コンニャク印判 17世紀末～18世紀前半
177	ＳＫ５２	皿	口径(209) 高台径(90) 器高 (47)	肥前	染付磁・蛇の目釉剥ぎ 17世紀末～18世紀前半
178	ＳＫ５２	甕			
179	ＳＫ５３	皿	高台径(39)	肥前	砂目陶 17世紀第2四半期
180	ＳＫ５４	皿	口径 127 高台径 47 器高 39	肥前	染付磁・蛇の目釉剥ぎ 17世紀末～18世紀前半
181	ＳＫ５４	筒形 碗	高台径 34	肥前	染付磁
182	ＳＫ５４	摺鉢	底径 140	肥前	見込砂目
183	ＳＫ５５	土師器	口径 80 器高 16 底径 37	在地	
184	ＳＫ５５	皿	口径 109 高台径 36 器高 34	肥前	染付磁・蛇の目釉剥ぎ 17世紀末～18世紀前半
185	ＳＫ５５	皿	口径(220) 器高 34	肥前	刷毛目唐津

Ｓ１区

遺物番号	出土地点	器 種	法 量 (mm) ( ) 推径または欠損	産地	備 考
186	SB25P1	土師器	口径 80 器高 16	在地	油煤痕 ・15世紀前葉～中葉
187	SB25P1	土師器	口径 68 器高 13	在地	
188	ＳＥ２５	土師器	口径 78 器高 16	在地	15世紀後葉～16世紀後半
189	ＳＥ２５	土師器	口径 78 器高(19)	在地	15世紀後葉～16世紀後半
190	ＳＥ２５	天目茶碗	口径 114	瀬戸・美濃	16世紀前半
191	ＳＥ２５	天目茶碗	口径 112	瀬戸・美濃	16世紀前半
192	ＳＥ２５	甕	底径 200	越前	
193	ＳＥ２５	五輪塔	長さ(364) 幅(198) 高さ157 重さ14.37kg		地輪か 火山礫凝灰岩
194	ＳＥ２６	土師器	口径(80) 器高(15)	在地	
195	ＳＥ２６	天目茶碗	口径126	瀬戸・美濃	
196	ＳＸ２１	土師器	口径 80 器高 20	在地	15世紀中葉～後葉か
197	ＳＸ２１	摺鉢	底径 154	珠洲	
198	ＳＸ２１	石鉢	口径 320 重さ 910g		凝灰岩
199	ＳＸ２３	土師器	口径 76 器高 16	在地	油煤痕・14世紀後葉か
200	ＳＸ２４	土師器	口径 80	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀後半
201	ＳＸ２４	土師器	口径 80 器高(17)	在地	15世紀後葉～16世紀後半
202	ＳＸ２４	土師器	口径 70 器高 22	在地	15世紀後葉～16世紀後半
203	ＳＸ２５	土師器	口径 80 器高(18)	在地	15世紀後葉～16世紀後半
204	ＳＸ２５	皿	口径 117 器高(28) 高台径 66	瀬戸・美濃	灰釉・16世紀前半
205	ＳＸ２５	挟か	長さ(94) 幅 15		
206	ＳＸ２６	甕	口径(400)	越前	15世紀中葉
207	ＳＸ２６	行火			軽石凝灰岩
208	ＳＫ２７	土師器	口径 82 器高 22	在地	油煤痕・15世紀前葉～中葉
209	ＳＫ２７	摺鉢	底径 100	珠洲	
210	ＳＫ２７	摺鉢	口径(420)	珠洲	Ⅵ期 15世紀後半
211	ＳＫ２８	壷	口径 124	珠洲	Ⅴ期14世紀後葉～15世紀前半か
212	ＳＫ２９	天目茶碗	口径(156)	瀬戸・美濃	16世紀前半
213	SD10a	土師器	口径 70 器高 14	在地	15世紀後葉～16世紀後半
214	SD10a	土師器	口径 60 器高 14	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀後半
215	SD10a	青磁 皿		中国	稜花皿
216	SD10a	摺鉢	口径(420)	珠洲	Ⅵ期 15世紀後半
217	SD10a	甕		越前	16世紀初頭
218	ＳＤ１１	土師器	口径 90 器高(19)	在地	油煤痕・15世紀中葉～後葉
219	ＳＤ１１	土師器	口径(90) 器高(23)	在地	
220	ＳＤ１１	土師器	口径(80) 器高(16)	在地	15世紀中葉～後葉
221	ＳＤ１１	青磁 碗	口径(130)	中国	16世紀初頭
222	ＳＤ１１	青磁 碗	高台径 42	中国	二次整形・15世紀前半
223	ＳＤ１１	天目茶碗	口径(156)	瀬戸・美濃	
224	ＳＤ１１	土錘	長さ 36 径(36)		
225	ＳＤ１１	行火	幅 156 奥行(111)		軽石凝灰岩
226	ＳＤ１１	行火蓋			軽石凝灰岩
227	ＳＤ１１	鉄釘	長さ 51 断面方形 6		
228	ＳＤ１１	行火	幅 212 高さ 152 奥行191 重さ1.97kg		軽石凝灰岩
229	ＳＤ１３	土師器	口径 82 器高 22	在地	15世紀後葉～16世紀後半
230	ＳＥ２４	碗	口径 113 器高 51 高台径 40	瀬戸・美濃か	染付磁・明治期
231	ＳＥ２４	碗	口径 109 器高 48 高台径 38	瀬戸・美濃か	染付磁・明治期か
232	ＳＥ２４	摺鉢	底径 124	越前	
233	ＳＥ２４	摺鉢	底径(170)	珠洲	
234	ＳＫ５６	碗	口径 158 器高 70 高台径 76	肥前	染付磁
235	ＳＫ５６	筒形 碗	口径 79 器高 71 高台径 42	肥前	陶胎染付 18世紀末～19世紀初頭
236	SD27a	皿	口径(117) 高台径 76	肥前	染付磁・18世紀中頃
237	SD27a	碗	口径 84 器高 43 高台径 32	瀬戸・美濃	染付磁 19世紀
238	SD27a	皿	口径(126)	肥前	砂目陶・17世紀前半
239	SD27a	皿	高台径 55	肥前	砂目陶・17世紀前半
240	SD27a	皿	口径 231 器高 35 高台径 131	肥前	染付磁 19世紀
241	SD27a	皿	高台径 43	肥前	染付磁・蛇の目釉剥ぎ 17世紀末～18世紀前半
242	ＳＤ２７	皿	口径 130 器高 37 高台径 60		染付磁
243	SD27a	汽車土瓶	口径 84 器高 75 底径 74		書「豊橋」
244	SD27a	土人形	高さ57 幅50 厚さ47		女性座像
245	SD27a	土製宝珠	高さ54 幅54 厚さ12		
246	SD27a	土人形	高さ53 幅91 厚さ37		天神
247	SD27b	石鉢	口径(274)		砂岩
248	SD27b	中砥石	長さ150 幅42 高さ20		凝灰岩
249	SD27b	寛永通宝	径 25 重さ 3.6g		
250	SD27b	寛永通宝	径 24 重さ 2.46g		

251	SD28a	碗	口径 74 器高 41 高台径 31	瀬戸・美濃	染付磁 19世紀後半
252	SD28a	水滴	長さ60 幅46 高さ28	京焼か	陶製

S2区

遺物番号	出土地点	器種	法量(mm) ()推径または欠損	産地	備考
253	SB28P6	天目茶碗	口径 124	瀬戸・美濃	15世紀後半
254	SB34P6	行火			軽石凝灰岩
255	SB39P3	天目茶碗	口径 120	瀬戸・美濃	15世紀末頃
256	SB41P2	行火			軽石凝灰岩
257	SB41P2	行火			軽石凝灰岩
258	SB47P2	土師器	口径 88 器高 20	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
259	SB47P10	土師器	口径(80) 器高 14	在地	15世紀後葉～16世紀前半
260	SE27	土師器	口径(84) 器高(16)	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
261	SE27	土師器	口径 84 器高(16)	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
262	SE27	土師器	口径 78 器高 20	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
263	SE27	天目茶碗	口径 116	瀬戸・美濃	15世紀末頃
264	SE27	石臼	径(310) 高さ 80 重さ 4.84kg		下臼・火山礫凝灰岩
265	SE27	石臼	径 270 摺面径 188 高さ 103 重さ9.35kg		下臼・火山礫凝灰岩
266	SE27	石臼	径 305 高さ 82 重さ5.45kg		下臼・火山礫凝灰岩 15世紀前半
267	SE28	天目茶碗	底径 42	瀬戸・美濃	
268	SE28	甕	底径 156	加賀	
269	SE28	摺鉢		珠洲	V期14世紀後葉～15世紀前葉
270	SE28	摺鉢		越前	卸目幅2.1cm・7目
271	SE28	行火	奥行 108		軽石凝灰岩
272	SE28	行火			軽石凝灰岩
273	SE28	行火	幅 153		軽石凝灰岩
274	SE28	行火	奥行 113		軽石凝灰岩
275	SE28	行火			軽石凝灰岩
276	SE28	縁石	長さ(210) 幅 155 高さ 75		軽石凝灰岩
277	SE28	縁石	長さ(180) 幅 175 高さ 64		軽石凝灰岩
278	SE28	縁石	長さ(187) 高さ 66		軽石凝灰岩
279	SE28	五輪塔			地輪か・緑色凝灰岩
280	SE29	青磁 碗	口径(128)	中国	14世紀中葉～後半
281	SE29	中砥石	長さ(74) 幅 45 高さ 43 重さ240g		凝灰岩
282	SE29	不明	長さ28 径9 重さ		石灰岩(軟質)
283	SE30	土師器	口径 80 器高(19)	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
284	SE30	土師器	口径(76) 器高(15)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
285	SE31	石臼	径(324) 高さ 104 重さ 2.95kg	金沢山間部 or水無山か	上臼・火山礫凝灰岩 15世紀後半～16世紀前半
286	SE31	石臼	径(320) 重さ 2.95kg	水無山か	上臼・火山礫凝灰岩
287	SE31	石鉢	高さ 142		平面方形・凝灰岩
288	SE32	土師器	口径(90) 器高(21)	在地	15世紀前半か
289	SE32	縁石	長さ(221) 幅 188 高さ 108 重さ3.52kg		軽石凝灰岩
290	SE33	土師器	口径(102) 器高(19)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
291	SE33	土師器	口径(80) 器高(18)	在地	
292	SE33	土師器	口径(77) 器高(16)	在地	油煤痕・15世紀中葉
293	SE33	青磁 皿		中国	15世紀後半～16世紀前半
294	SE33	摺鉢	底径(136)	珠洲	IV～V期
295	SE33	行火	高さ 132		軽石凝灰岩
296	SE33	行火			軽石凝灰岩
297	SE33	行火蓋			軽石凝灰岩
298	SE33	荒砥石	長さ(80) 幅 42 高さ 38 重さ 195g		砂岩
299	SE33	荒砥石	長さ(89) 幅(89) 高さ(28) 重さ 195g		砂岩
300	SE33	石鉢			軽石凝灰岩
301	SE33	石臼	径(320) 高さ 40		下臼 火山礫凝灰岩
302	SE33	片口石鉢	径(271) 高さ 133		火山礫凝灰岩(軟質)
303	SE33	縁石	長さ(145) 幅(162) 高さ 90		軽石凝灰岩
304	SE33	縁石	長さ(240) 幅 135 高さ 80 重さ1.85kg		軽石凝灰岩
305	SE34	土師器	口径(90) 器高(20)	在地	15世紀中葉～後葉
306	SE34	土師器	口径 86 器高(20)	在地	油煤痕・15世紀中葉～後葉
307	SE34	土師器	口径 82 器高(18)	在地	15世紀中葉～後葉
308	SE34	土師器	口径 80 器高(21)	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
309	SE34	土師器	口径 68 器高(17)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
310	SE34	青磁 碗	高台径 56	中国	見込 双魚文ｽﾀﾝﾌﾟ15世紀前半
311	SE34	摺鉢	底径(90)	珠洲	IV期
312	SE34	円盤状 陶製品	径(90)		越前甕底部 火熱痕 煤付着
313	SE35	土師器	口径 86 器高 19	在地	油煤痕・15世紀中葉～後葉
314	SE35	土師器	口径 79 器高 22	在地	油煤痕・15世紀前葉～中葉
315	SE35	皿	口径 100	瀬戸・美濃	端反皿・灰釉・16世紀初
316	SE35	摺鉢		珠洲	
317	SE35	石臼	径 299 高さ 72 重さ 9.64kg	水無山か	下臼・火山礫凝灰岩
318	SE35	縁石	長さ(176) 幅 175 高さ 71 重さ 1.70kg		軽石凝灰岩
319	SE36	縁石	長さ(183) 幅(210) 高さ 112 重さ3.72kg		軽石凝灰岩
320	SE39	石臼	径(320) 高さ 82	水無山か	上臼・火山礫凝灰岩
321	SE40	行火			軽石凝灰岩
322	SE40	砥石 (五輪塔)	長さ 210 幅 236 高さ 113 重さ5.00kg		火山礫凝灰岩
323	SE40	縁石	長さ(238) 幅 208 高さ 95 重さ 3.05kg		軽石凝灰岩
324	SE40	縁石	長さ(249) 幅 178 高さ 102 重さ3.05kg		軽石凝灰岩
325	SE40	縁石	長さ(285) 幅 170 高さ 90 重さ 2.73kg		軽石凝灰岩
326	SE40	縁石	長さ(242) 幅 190 高さ 81 重さ 2.53kg		軽石凝灰岩
327	SX27	青磁 碗	口径(140) 器高(85) 高台径(54)	中国	15世紀後半～16世紀初頭
328	SX27	鉄釘	長さ(51) 重さ 17g 断面方形 5.1×4.7		
329	SX28	土師器	口径 90 器高(18)	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
330	SX28	土師器	口径 80 器高(18)	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
331	SX28	土師器	口径(75) 器高(19)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
332	SX28	青磁 碗	口径(134)	中国	15世紀前半
333	SX28	卸皿	底径(73)	瀬戸・美濃	15世紀前葉～中葉
334	SX28	摺鉢		珠洲	
335	SX29	土師器	口径 88	在地	油煤痕
336	SX29	縁石	長さ(315) 幅 177 高さ 89 重さ 3.62kg		軽石凝灰岩
337	SX29	縁石	長さ(266) 幅 220 高さ 85 重さ 3.79kg		軽石凝灰岩
338	SX33	土師器	口径(90) 器高(16)	在地	15世紀中葉～後葉
339	SX33	坩堝	口径 80	在地	
340	SX33	白磁 皿	口径 96 器高 22 高台径 50	中国	高台抉り込み 15世紀中葉～後葉
341	SX33	甕		珠洲	I期新
342	SX33	摺鉢		越前	
343	SX34	行火	奥行 118		軽石凝灰岩
344	SX36	土師器	口径 90 器高 20	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
345	SX36	土師器	口径 88 器高 19	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
346	SX36	土師器	口径 80 器高(18)	在地	
347	SX36	中砥石	長さ(70) 幅 47 高さ 35 重さ 164g		凝灰岩
348	SX36	石臼	径(281) 高さ 70		上臼 火山礫凝灰岩
349	SX36	縁石	長さ(118) 幅(152) 高さ 88		軽石凝灰岩
350	SX43	土師器	口径 80 器高(11)	在地	15世紀中葉～後葉か
351	SX43	中砥石か	長さ 151 高さ 40		凝灰岩
352	SX44	天目茶碗	口径(127)	瀬戸・美濃	
353	SX44	摺鉢		珠洲	V期前半 14世紀後葉～15世紀初頭
354	SX44	行火			軽石凝灰岩
355	SX44	仕上砥石	長さ(56) 幅28 厚さ6	京都産	泥岩
356	SX44	行火			軽石凝灰岩
357	SX44	行火	幅(104)		軽石凝灰岩
358	SX44	縁石	長さ(233) 高さ 84		軽石凝灰岩
359	SX46	石臼	径(333) 高さ 105		上臼・火山礫凝灰岩

360	SK32	石臼	径293　高さ98 重さ8.66kg		上臼・火山礫凝灰岩
361	SK36	縁石	長さ(183) 幅191 高さ75		軽石凝灰岩
362	SK37	石鉢	径(333)　高さ(139)		火山礫凝灰岩
363	SK37	行火	奥行120		軽石凝灰岩
364	SK38	土師器	口径80　器高(22)	在地	油煤痕・15世紀前葉～中葉
365	SK40	鋤先	長さ372　幅220 厚さ(15)　重さ		鉄製
366	SK42	土師器	口径80　器高17	在地	15世紀前葉～中葉
367	SK42	土師器	口径75	在地	
368	SK42	土師器	口径(80)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
369	SK42	土師器	口径75　器高18	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
370	SK42	砥石	長さ235 幅125 高さ60　重さ2.30kg		中砥石か 緑色凝灰岩
371	SK47	土師器	口径80　器高16	在地	油煤痕
372	SK47	銅銭 (2枚)	径24　重さ3.5g 径24　重さ3.5g		2枚重・銭銘不明
373	SD15	土師器	口径(75)　器高(19)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
374	SD15	土師器	口径(75)　器高(18)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
375	SD15	中砥石	長さ(63)　幅29 高さ26　重さ70g		凝灰岩
376	SP03	中砥石	長さ(80)　幅36 高さ28　重さ115g		凝灰岩
377	SP04	荒砥石	長さ155 幅45 高さ40　重さ500g		砂岩
378	SP04	行火	幅158　高さ(138)		軽石凝灰岩
379	SP05	行火			軽石凝灰岩
380	SP06	土師器	口径(80)　器高(13)	在地	
381	SP07	土師器	口径(68)　器高(15)	在地	15世紀中葉～後葉
382	SP08	土師器	口径(70)　器高(18)	在地	
383	SP09	土師器	口径77　器高15	在地	14世紀後葉
384	SP09	磨石	長さ126 長径51 短径49　重さ500g		火山礫凝灰岩
385	SP11	摺鉢	底径(155)	珠洲	
386	SK57	甕	底径(160)	越前	
387	SK57	皿	口径(116)	肥前	陶器
388	SD29	皿	高台径(68)	肥前	染付磁・蛇の目釉剥ぎ 17世紀末～18世紀前半
389	SD29	片口鉢	口径210 器高87	山口 須佐	須佐唐津

S3区

遺物番号	出土地点	器種	法量(mm) ( )推径または欠損	産地	備考
390	SB49P2	荒砥石	長さ(109) 幅37 高さ22　重さ177g		細粒砂岩
391	SB49P2	縁石	長さ(155) 高さ87		軽石凝灰岩
392	SB50P1	中砥石	長さ(88)　幅38 高さ25　重さ115g		凝灰岩
393	SB51	土師器	口径82　器高(17)	在地	15世紀中葉～後葉
394	SE41	土師器	口径82　器高(19)	在地	15世紀中葉～後葉
395	SE41	土師器	口径(80)　器高(20)	在地	15世紀中葉～後葉
396	SE41	摺鉢		越前	15世紀後半
397	SE41	摺鉢	底径(110)	珠洲	卸目幅1.6cm・6目
398	SE41	行火			軽石凝灰岩
399	SE41	行火			軽石凝灰岩
400	SE41	砥石か	長さ243 幅(187) 高さ64　重さ3.34kg		凝灰岩
401	SE41	縁石	幅(176)　高さ64		軽石凝灰岩
402	SE43	土師器	口径(100)	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
403	SE43	土師器	口径(80)　器高(16)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
404	SE43	土師器	口径(80)　器高(17)	在地	14世紀後葉
405	SE43	土師器	口径80　器高(18)	在地	15世紀中葉～後葉
406	SE43	土師器	口径(80)	在地	15世紀中葉～後葉
407	SE43	中砥石	長さ(79)　幅43 高さ14　重さ86g		凝灰岩
408	SE43	中砥石	長さ(75)　幅30 高さ23　重さ85g		凝灰岩
409	SE43	縁石	幅146　高さ68		軽石凝灰岩
410	SE43	宝篋印塔	高さ123 底径85		相輪部 凝灰岩
411	SE44	土師器	口径(100)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
412	SE44	土師器	口径(96)	在地	15世紀後葉～16世紀前半
413	SE44	土師器	口径(94)　器高(20)	在地	15世紀中葉～後葉
414	SE44	土師器	口径(96)	在地	15世紀中葉～後葉
415	SE44	土師器	口径(80)	在地	15世紀中葉～後葉
416	SE44	甕		珠洲	
417	SE46	摺鉢	口径(395)	珠洲	Ⅵ期新・15世紀後半
418	SE46	天目茶碗	高台径45	瀬戸・美濃	15世紀末～16世紀前半
419	SE46	仕上砥石	長さ(42)　幅32 高さ4　重さ11g	京都産	泥岩
420	SE46	石臼	径290　高さ68 重さ5.26kg		下臼・火山礫凝灰岩 SE47出土と接合
421	SE47	土師器	口径(96)	在地	
422	SE47	土師器	口径(71)　器高19	在地	15世紀後葉～16世紀前半
423	SE47	碗	口径(140)	中国	染付磁・16世紀初頭
424	SE47	壷	底部　底径	珠洲	
425	SE47	甕	底部　底径	越前	
426	SE47	砥石 (石臼)	底部径279 長さ280 幅183　重さ2.59kg		下臼・凝灰岩 転用品
427	SE48	摺鉢	口径(344)　器高140 底径(80)	越前	卸目幅2.9cm 12目 15世紀中葉か
428	SE48	石臼	径(300)　高さ66		下臼 火山礫凝灰岩
429	SX47	土師器	口径86　器高22	在地	油煤痕・15世紀後葉～16世紀前半
430	SX47	青磁 盤	高台(84)	中国	14世紀前半
431	SX47	摺鉢	底径125	珠洲	Ⅲ期 13世紀後半
432	SX47	縁石	高さ75		軽石凝灰岩
433	SX47	縁石	幅154　高さ75		軽石凝灰岩
434	SX47	縁石	高さ88		軽石凝灰岩
435	SX47	縁石	幅127　高さ88		軽石凝灰岩
436	SX47	縁石	幅148　高さ64		軽石凝灰岩
437	SX49	土師器	口径(80)	在地	15世紀前葉～中葉か
438	SK50	摺鉢	口径(384) 底径(80)	越前	卸目幅3.6cm 12目 15世紀後半か
439	SK51	土師器	口径80	在地	15世紀前葉～中葉
440	SK51	土師器	口径76	在地	
441	SK51	土師器	口径(80)	在地	
442	SK51	青磁 碗	口径(160)	中国	14世紀末～15世紀初頭
443	SK51	中砥石	長さ(56)　幅27 高さ22　重さ51g		凝灰岩
444	SD17	土師器	口径(100) 器高17	在地	14世紀後葉
445	SD17	土師器	口径80　器高18	在地	14世紀後葉
446	SD17	土師器	口径86　器高(18)	在地	14世紀後葉
447	SD17	土師器	口径(80)　器高(17)	在地	14世紀後葉
448	SD17	土師器	口径(80)　器高(18)	在地	油煤痕・14世紀後葉
449	SD17	土師器	口径(70)　器高(12)	在地	14世紀後葉
450	SD17	土師器	口径70　器高(19)	在地	14世紀後葉
451	SD17	土師器	口径54　器高13	在地	14世紀後葉
452	SD17	壷	底径(250) 器高13	珠洲	Ⅱ期か
453	SD17	荒砥石	長さ(90)　幅50 高さ26　重さ		細粒砂岩
454	SD17	不明	(20×36)　厚さ(2)		鉄製品
455	SD18	土師器	口径(70)　器高(16)	在地	14世紀末～15世紀初頭か
456	SD19	土師器	口径70　器高19	在地	14世紀末～15世紀初頭か
457	SD19	仕上砥石	長さ(67)　幅34	京都	泥岩
458	SD19	中砥石	長さ(32)　幅39		凝灰岩
459	SP12	土師器	口径(80)　器高(20)	在地	油煤痕
460	落ち込み	土師器	口径80　器高21	在地	油煤痕 15世紀前葉～中葉
461	落ち込み	青白磁 坏	口径123	中国	大型品・内面刻花文様

耕作区

遺物番号	出土地点	器種	法量(mm) ( )推径または欠損	産地	備考
462	SE49	土師器	口径(120) 器高(20)	在地	14世紀後葉
463	SE49	摺鉢		珠洲	Ⅴ期後半 15世紀前半
464	SE49	摺鉢	底径(164)	越前	卸目幅3.3cm・15目
465	SX55	土師器	口径83　器高(17)	在地	油煤痕
466	SD25	白磁 皿	口径(85)　器高21 高台径21	瀬戸・美濃	15世紀後半

第4章　ま　と　め

第１節　出土陶磁器類の組成

長池キタノハシ遺跡の中世期に使用されたと考えられる製品の破片数量により他の遺跡との対比を見てみたい。遺物は13世紀～16世紀代の時間幅を持つが中世前期の遺物はごく少数であり、14世紀後半以降の中世後期に主体がある。本遺跡出土の陶磁器の組成は、在地製品である土師質土器が67.1％と最も多く、以下珠洲焼10.2％、越前焼8.5％、中国製品6.7％、瀬戸・美濃焼3.7％、加賀焼3.3％、信楽焼0.4％である。珠洲・越前・加賀焼の合計は22％となる。

まず近隣の同時期と考えられる遺跡の組成を下表に提示する。

普正寺遺跡(1)（犀川河口の港湾集落・14世紀中葉～15世紀中葉） 土師質土器70％、珠洲・越前焼等23.6％、中国製品2.9％、瀬戸・美濃焼3.2％、加賀焼1.0％、瓦質土器0.3％
白山町遺跡(2)（門前町的な基幹集落・14世紀後葉～16世紀） 土師質土器77.5％、珠洲焼5.1％、越前焼5.4％、中国製品4.6％、瀬戸・美濃焼5.8％、加賀焼1.0％、瓦質土器0.4％
木越光琳寺遺跡(3)（河北潟縁辺部の集落・14世紀～16世紀） 土師質土器57.3％、珠洲・越前焼等29％、中国製品6.5％、瀬戸・美濃焼６％、瓦質土器1.1％、朝鮮製品0.1％
小川新遺跡(4)（扇状地端部の集落・15世紀後葉～16世紀後葉） 土師質土器34.3％、珠洲・越前焼等49.8％、輸入製品11.9％、瀬戸・美濃焼3.6％、瓦質土器0.4％、朝鮮製品0.1％

本遺跡の出土陶磁器組成比はやや特異な小川新遺跡を除く後期集落がほぼ共通してもつ組成に類似するものである。土師質土器、珠洲・越前・加賀焼、瀬戸・美濃焼の比率は普正寺遺跡に近似し、朝鮮製品の出土は確認されていないが中国製品の比率は木越光琳寺遺跡とほぼ同率となる。調理用具の鉢における比率は普正寺遺跡が珠洲焼85.7％・越前焼9.9％、木越光琳寺遺跡は珠洲焼66.5％・越前焼31.8％である。本遺跡の珠洲焼58％・越前焼39％は後者に近い。こうしてみると両遺跡の中間的様相を示すようであるが、珠洲焼生産の衰退を印象づける鉢の組成比(5)から全体的には木越光琳寺遺跡に接近し、16世紀前半頃まで存続する一般農村遺跡の状況を反映したものと言えそうである。

	製品			点数
中国	青磁	碗		21
		皿		9
		鉢		1
		盤		1
		計		32
	白磁	碗		1
		皿		6
		坏		3
		その他		1
		計		10
	青白磁	坏		1
	染付	碗		1
	天目茶碗			1
中国製品合計				87
国産	瀬戸・美濃焼	灰釉	皿	4
			卸皿	2
			丸碗	2
			盤	3
		緑釉	皿	1
		鉄釉	皿	1
			碗	8
			壺	1

	製品			点数
国産	瀬戸・美濃焼	鉄釉	茶入	1
		天目茶碗		25
		計		48
	珠洲焼	甕		29
		壺		41
		擂鉢		58
		その他		4
		計		132
	越前焼	甕		62
		壺		8
		擂鉢		39
		その他		1
		計		110
	加賀焼	甕		39
		擂鉢		2
		その他		2
		計		43
	信楽焼	壺		5
	瓦質土器	不明		1
	土師質土器	皿		869
国産製品合計				1,208
総計				1,295

表３　中世後期出土陶磁器破片数量表

	甕(%)	壺(%)	擂鉢(%)
珠洲焼	22.3	76.0	58.0
越前焼	47.7	14.8	39.0
加賀焼	30.0	0	2.0
信楽焼	0	9.2	0

附表　甕･壺･鉢の比率

第２節　土師質土器の分類

すべてが皿である土師質土器は各遺構から少量が出土する状況であるが、代表的なものを抽出・分類し所属時期について藤田分類・編年(6)や他の遺跡からの出土例と比較し検討したい。藤田氏は12世紀～16世紀前半にかけての加賀国出土資料を対象に、調整手法と器形からＡ～Ｆのタイプに分類し、11世紀末葉～16世紀前半を組成・法量・形態・胎土・色調等の変化からⅠ～Ⅵ期に分け編年を提示されている。

Ⅰ類（51・52・53）外反する口縁部にヨコナデを施し、体部下半に稜をもち、底部は平底になる。口径は106～110㎜、器高20～24㎜である。器形が全体にゆがむ52・53はＥタイプ、51はＡタイプと考えられ、野々市町末松遺跡Ａ６埋納ピット(7)、金沢市普正寺遺跡(8)地山面出土土器に類例が求められる。Ⅳ－Ⅰ期・14世紀後葉～末に位置づけられ、本遺跡では最も古い段階の土師器皿である。

Ⅱ類　口縁部にヨコナデを施し、体部下半に稜をもち、底部が平底ぎみのものをＡ類（31・169）、体部中央あたりに稜をもち底部は丸底となり、外反し立ち上がる口縁やナデの幅の狭いものをＢ類（103・116・208・314・364・460）とした。法量はＡ・Ｂ類とも口径79～82㎜、器高21～22㎜と極めて斉一化している。Ａタイプに含まれ、Ｂ類は器形、法量とも普正寺遺跡遺跡中・上層面出土土器に類似性をもつことから、Ⅳ－Ⅱ期・15世紀前葉～中葉に位置づけられよう。Ａ類は平底でやや古相と考えられることから14世紀末～15世紀初頭頃に比定しておきたい。本遺跡でのⅠ類とⅡ類の共伴事例はみられない。

Ⅲ類　口縁部にヨコナデを施すが、ナデは弱く体部中央あたりには僅かの稜を確認できる。Ａタイプに含まれ、底部から口縁部への屈曲が強く平底になるものをＡ類（199・448・455）とし、屈曲が弱く丸底となるものをＢ類（35・94・306）とするが、完形品は無く推定法量はＡ類が口径76～80㎜、器高16～18㎜、Ｂ類は口径80～90㎜、器高19～21㎜となり違いがみられる。平底のＡ類はⅠ類・Ⅱ－Ａ類の時期に比定しておきたい。Ｂ類は丸底でⅣ類と同様なヘルメット形の形態をもちⅡ－Ｂ類の後出的な様相を示す。小松市銭畑遺跡７号溝(9)・高堂遺跡６号溝(10)に類例がみられる。Ⅲ類は15世紀中葉～後葉に位置づけておきたい。

Ⅳ類　丸底の底部から口縁部が内湾ぎみに立ち上がるヘルメット形の形態をもつ。口縁部に弱いナデを施すものも見られるが不鮮明なものが多い。体部に弱い指圧痕が残るものもみうけられる。器形はⅢ－Ｂ類と似るが稜はみられない。Ａタイプに含まれ、厚手のものＡ類（167・258・288・429）は口径80～90㎜、器高20～22㎜、やや薄手の口縁が肥厚しながら立ち上がるＢ類（83・202）は口径70～82㎜、器高21～22㎜である。本遺跡ではⅤ類と共伴する事例が多い。Ａ類は鶴来町白山町遺跡(11)・小松市銭畑遺跡７号溝に類例がみられる。Ⅳ類は15世紀後葉～16世紀前半の位置づけとしたい。

Ⅴ類　丸底の底部から口縁部が内湾ぎみに立ち上がるヘルメット形の形態をもつが、Ⅳ類より内湾は緩くなる。Ａタイプに含まれ、口縁端部のナデと体部に指圧痕を残すものが顕著にみうけられる。底部から口縁部にかけて一様の器厚を保つＡ類（188・213・229・262・331・344・369）は口径70～78㎜、器高14～20㎜の小ぶりなものと口径82～90㎜、器高20～22㎜のものがある。体部下半から肥厚する口縁部をもつＢ類（82・160・403）の完形品はないが、口径76～80㎜、器高16㎜の小ぶりなものと口径118㎜、器高20㎜のものがある。口縁端部で玉縁状に肥厚するものや小さく屈曲するＣ類（261・411・412）も完形品はなく推定口径は84～100㎜である。Ａ～Ｃ類はともに共伴する事例が多い。また15世紀後半以降増加するとされる瀬戸・美濃焼の天目茶碗との共伴も目立ち、Ⅳ類より新相の印象を受ける。Ａ類は白山町遺跡に類例がみられる。Ⅴ類は15世紀後葉～16世紀前半に比定されよう。

Ⅵ類（90・283・308）口縁端部をナデにより外反させる丸底のもの。口径80㎜、器高18～21㎜であり、Ａタイプに含まれよう。Ⅴ類と共伴することから15世紀後半～16世紀前半の所産であろう。

以上土師質土器の分類を試みたが、調整技法や胎土、色調について十分な検討は行っていない。15世紀後半頃から一定量出現する京都系土師器の出土が本遺跡では不明な点や流通圏など検討課題は残るが、15世紀以降の資料数は少なく今後の資料増加をまちたい。

第３節　中世後期における遺構変遷と集落構造

遺構の変遷については、遺構の切り合い関係、遺構の相関関係、掘立柱建物の主軸方向、出土遺物を総合して検討し、主要遺構変遷表と第102図掘立柱変遷図を作成した。作成にあたって遺物の少ない掘立柱建物はセット関係と考えられる井戸の時期を帰属させている。Ⅰ期は14世紀後葉～15世紀中葉頃、Ⅱ期は15世紀後葉～16世紀前半頃に比定される。また、Ⅰ期(1)は14世紀後葉～15世紀初頭頃、(2)・(3)は１５世紀前葉頃～１５世紀中葉頃、Ⅱ期(1)は15世紀後葉

～16世紀初頭頃、(2)は16世紀前半頃に相当するものであろうか。掘立柱建物の時期分類をはじめ狭い時期幅のなかで遺構の複合関係から各時期区分に帰属させたが、細分しすぎたきらいはある。試案であることを了承していただきたい。では、各時期の概要を以下に述べることとする。

Ⅰ期－(1)は集住化した最初の段階であり、掘立柱建物は北部の総柱建物ＳＢ09・20を中心として分布するものと、空間地を挟み南へ20m余り距離を隔て、南部の限られた範囲に分布するものがある。掘立柱建物の分布には企画性がみられ村立ての段階ですでに配置の制約、つまり一定の敷地割りが成立していたものと考えられる。以降Ⅱ期－(2)まで継承される。北部北端Ｎ２区の井戸群ＳＥ04・06～08は本期に属し、この北方には関連する掘立柱建物群の存在が想定できる。この時期に限られた一時的なものであるが耕作区にはＳＢ52・53とＳＥ49が存在する、井戸と掘立柱建物の併存関係を示す事例である。この段階の終わり頃にはすでにＳＤ08ａが掘削されていたもようである。

Ⅰ期－(2)では集落区全般に掘立柱建物が展開するが集落中央部の空間地は残る。前期と同様の建物の分布に加え新たに南部の南側に東西棟の総柱建物ＳＢ45とＳＢ49が展開する。

Ⅰ期－(3)は前期同様、集落区全般に掘立柱建物が展開し、集落中央部の空間地西側にはＳＢ26がみられるが、依然東側には同様の区域が残る。本期頃から柱穴の大きな掘立柱建物と竪穴状遺構の構築が始まるようである。またこの段階で東西溝ＳＤ08ｂ・22と南北に並行する溝ＳＤ02・09・20・21・23～26が掘削された可能性が高く、道の整備や集落区と耕作区の境界の明確化、計画性をもつ耕作区の区割りを意図したものであろう。竪穴状遺構の出現と併せ、土地利用と生活空間の変化を促したひとつの画期と言え、安定した集落の状況が窺われる。

Ⅱ期－(1)には北部北側での掘立柱建物は見られなくなるが、本期の竪穴状遺構ＳＸ05・06の存在はこの北方で建物の存在を示唆する。集落中央部の空間地に大型の東西棟ＳＢ23が建てられる。竪穴状遺構の構築が活発化し、とくに集落区北部地区の北西部と南部地区南西部の２箇所に、掘立柱建物を避け互いが幾度も複合して集中し分布する(12)。土地利用の制約から主屋の背面(敷地の裏側)に配置されたことによる集中化と考えられ、井戸との複合事例の多さからも頷けるものである(13)。

Ⅱ期－(2)での掘立柱建物と竪穴状遺構の分布は前期と同じ様相を呈する。中央部に方形区画溝ＳＤ10・11に囲まれたＳＢ22が出現する。他の掘立柱建物群は３～７棟が複合しているのに対しこの方形区画内での複合はＳＢ22・23の２棟と少ない。空間地として存在してきた区域としては当然のことでもあるが、建物の建築が制限されてきたことは特別な意識が働いていた区域としても推察できよう。占有範囲が大きいことや、集落中央部で方形区画溝を有し唯一継承された総柱建物であることから集落を象徴するお堂などの宗教施設か、または集落を指導する有力農民層の屋敷地とも想定できる。区画は溝の内側で南北17.7m、東西16.0m、面積約283m^2（86坪）の規模をもつ。建物SB22はやや北側に位置し、敷地内には井戸ＳＥ25・竪穴状遺構ＳＸ23・橋ＳＧ01・柵ＳＡ02の施設を有する好事例である。

集落は背面を接し合う敷地がこの方形区画を中心として南北にほぼ対称に形成されている(14)。これは敷地割と敷地への出入り方向に関して推察の一助となろう。第３章第３節１で行った小区の設定は、概ね最小単位の敷地に相当するものと考えられ、敷地への出入り方向はＮ２②区←北、Ｎ２①区←東、Ｎ１区・Ｓ１区←前面の道ＳＳ01、Ｓ２区の①・③区←東、②区←西？、Ｓ３区←南と推定できる。このことは進入路つまり道の存在を肯定するものでもあり、報告では道ＳＳ02の可能性を想定した(15)。

集落は本期を境にして廃絶するが、近世17世紀前半には復活し現在の長池町に至っている。図版１調査区全景に観られるように現長池町へ伸びるＳＤ08の線形が宅地の境界と一致することや住宅の方位が掘立柱建物と同様なことは非常に興味深く、中世後期の地割が連綿と現在も生きている証ではないだろうか。

以上簡単ではあるが気のついたことを述べまとめとした。筆者の力量と理解不足のため、遺物や遺構の年代について齟齬を生じているかも知れない。おわびするとともに、今後の課題としたい。大方の御批判・御叱正を願うものである。

表４　中世後期主要遺構変遷表(試案)

地　区	Ⅰ　期 (14世紀後葉～15世紀中葉)			Ⅱ　期 (15世紀後葉～16世紀前半)		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	
N２①	SB03 SE01 SD03	SB02 SE02 SK03 SD04	SB01 SE03 SK01 SD02		SX02 SD01	SX01
N２②	SE04 SE06～08	SE05		SX05・06	SX07	SD05・06
N１①	SB06 SD03	SB05	SB04			SX08
N１②	SB09 SE09・16 SD08a →	SB10 SE11	SB11 SE10 SX09・13 SD08b →	SB08・12 SE15 SX11・15 SK09 SD07	SB07・13・14 SE12 SX10・14 SK08	 SX12 → SD08
N１③	SB16・20 SE21 SK26	SB18・21	SB15 SE19 SX17 SK13	SB17 SE20 SX18～20 SK14	SB19 SE22	 SX16
S１①			SX24	SB23 SX22・21 SK27	SB22 SE25 SX23 SD10・11	
S１②			SB26 SX26	SB24・25 SE26 SD13	 SX25	
S２①	SB27・31・34 SE29	SB29・36	SB32 SE28	SB28・33 SE30	SB30・35 SE27・31	
S２②	SB37・43 SE32	SB42 SE36	SB40	SB41 SE34 SX27～29 SK41・42・43	SB38・44 SE35	SB39 SE33
S２③		SB45	SB46 SX35 SK47	SB47 SE40 SX33・34 SX40 SK48	 SX36 SX39・41・42 SK49	
S２④				SX45・46	SX43	SX44
S３		SB49 SD17・18	SB50 SE48 SX49 SD16・19	SB51 SE41 SE45	SB48 SE43・44 SE46・47 SX47	
耕作区	SB52・53 SE49		 SD20～26 →	 SX55		

Ⅰ 期（1）

Ⅱ 期（1）

Ⅰ 期（2）

Ⅱ 期（2）

Ⅰ 期（3）

第102図　掘立柱建物変遷図（試案）

註

(1)　垣内光次郎　1984年「陶磁器の組成と機能分担」『普正寺遺跡』石川県立埋蔵文化財センター

(2)　垣内光次郎　1985年「中世　北加賀の陶磁器流通成について」『鶴来町白山遺跡・白山町墳墓遺跡(Ⅱ)』石川県立埋蔵文化財センター

(3)　垣内光次郎　1998年「出土陶磁器類の組成について」『木越光琳寺遺跡』石川県立埋蔵文化財センター

(4)　川畑　誠　1992年「平成元年度出土遺物の検討」『小川』石川県立埋蔵文化財センター

(5)　註(1)で組成比の変化は珠洲焼の生産衰退とあわせ遺跡の存続期間の違いと捉えられている。

(6)　藤田邦雄 1989年「中世土器素描」『北陸の考古学「』石川考古学研究会
　　藤田邦雄 1997年「中世加賀国の土師器様相」『中・近世の北陸』北陸中世研究会

(7)　註(6)1989文献。

(8)　垣内光次郎ほか　1984年『普正寺遺跡』石川県立埋蔵文化財センター

(9)　望月精司　1993年『銭畑遺跡「』小松市教育委員会

(10)　藤田邦雄　1990年「中世の遺構と遺物」『小松市高堂遺跡』石川県立埋蔵文化財センター

(11)　西野秀和ほか1985年『鶴来町白山遺跡・白山町墳墓遺跡(Ⅱ)』石川県立埋蔵文化財センター

(12)　Ｎ１区②区のＳＸ09～13など複合を繰返す竪穴状遺構は、富山県福光町梅原胡摩堂遺跡の中世後期段階で多くの類例がみられ、松任市宮永松原市遺跡で一例報告されている。
　　富山県文化振興財団　1994年『発掘調査報告（遺構編）』
　　木田清　1994年『松任市宮永松原市遺跡』松任市教育委員会

(13)　垣内光次郎　1988年「第２次調査のまとめ」『佐々木アサバタケ遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
　　宅地内の井戸と竪穴状遺構の隣接性や宅地構造の対称性について指摘されている。

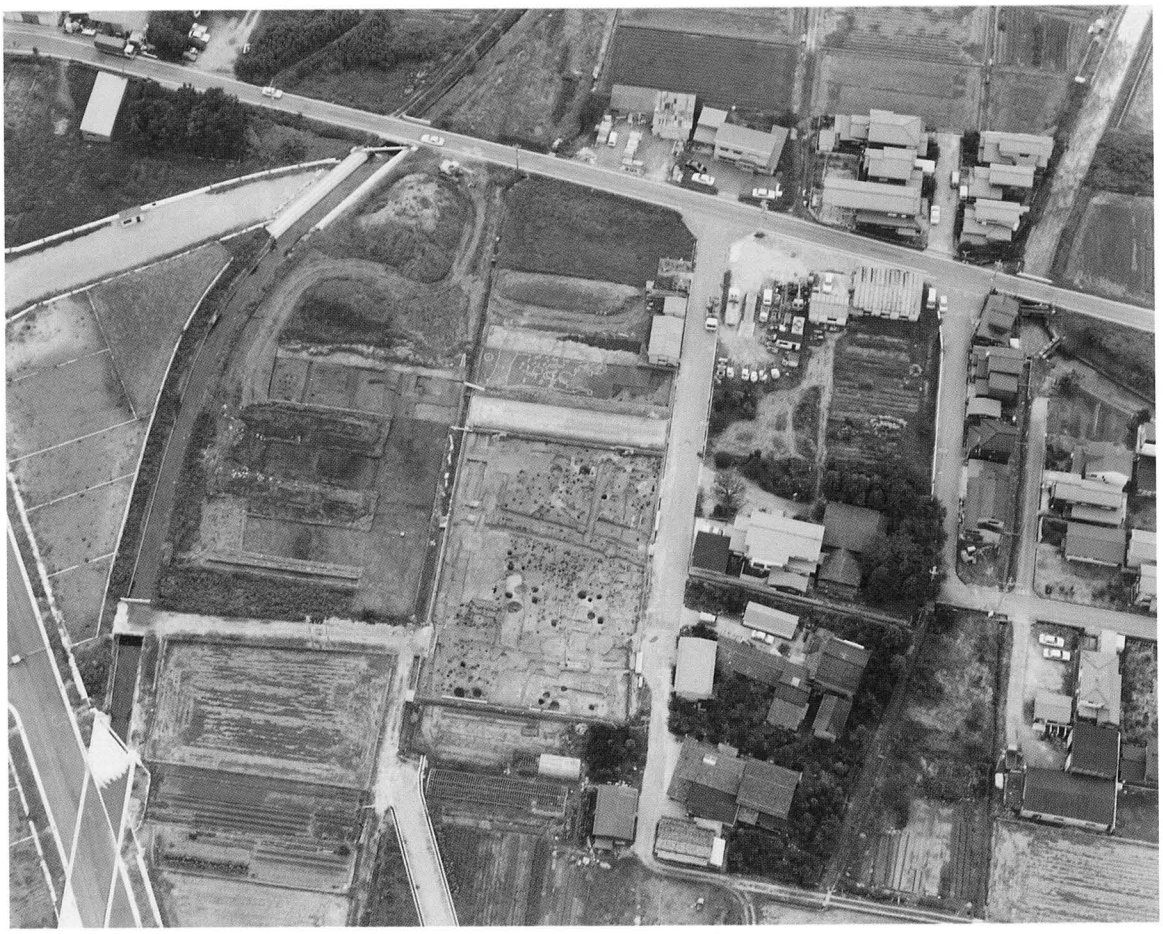
(14)　註(13)に同じ。

(15)　限られた範囲の調査で集落の全貌は明らかではないが、大胆に想像すれば約50～60m四方を基本とした区画状に道が存在していたのではなかろうか。集落区の東西道ＳＳ01の南端ラインを基準にするとＮ１区の南北長は約27m、Ｓ１①区＋Ｓ２①区の南北長は約30mであり、これらの２倍したものが基本区画長となり得るのではと想定した。他の事例も含め今後の検討課題である。

参考文献

吉岡　康暢　　1991年『日本海域の土器・陶磁［古代編］』　六興出版
藤田　邦雄　　1997年「中世加賀国の土師器様相」『中・近世の北陸』北陸中世研究会
垣内光次郎　　1997年「加賀国の陶磁器流通」『中・近世の北陸』北陸中世研究会
田島　正和　　1997年「遺構からみた加賀国」『中・近世の北陸』北陸中世研究会
前川　　要　　1996年「中世の家族と住居」『家族と住まい』考古学による日本歴史15　雄山閣出版
吉岡　康暢　　1994年『中世須恵器の研究』　吉川弘文館
北陸中世土器研究会　　1993年『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター　　1997年『研究紀要第５輯』

遺跡周辺（南より、中央付近が長池町と本遺跡）



平成２年度（1990年）調査区全景（北より）

集落区　N2・N1・S1区（←北）

N2区 東（西より）
SB01・02

N2区 西（西より）
SX01～07・SE04～08

SX01～03（東より）

SE02

SE01

SE03

SX04・SE06

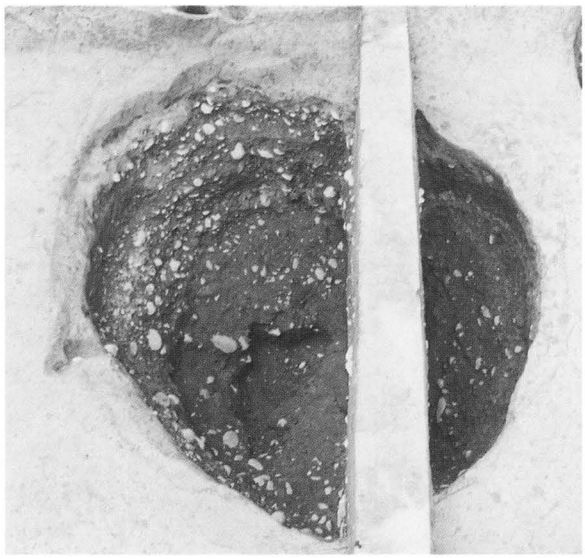
SE08

SK01

SK03

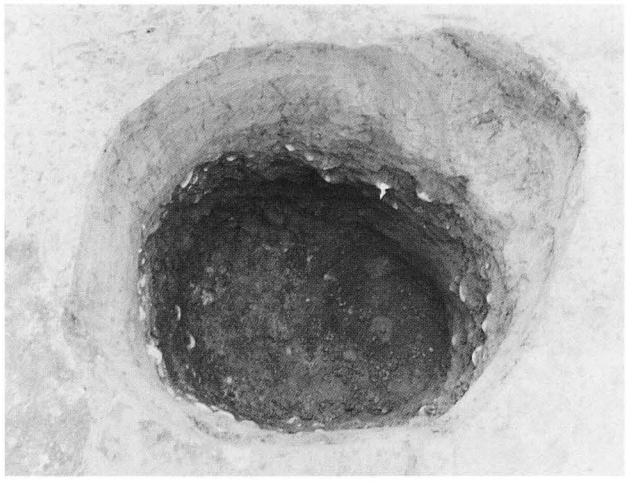
N1区 南（西より）
中央SB09～14群

N1区 西（北より）SB15～26群



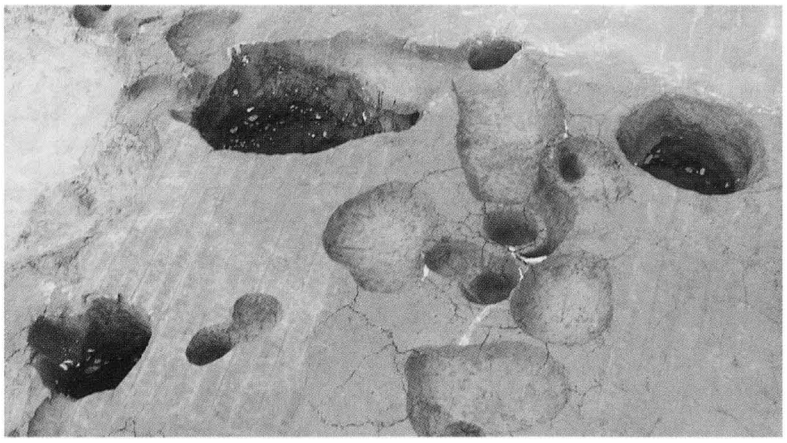
SE09

SE10

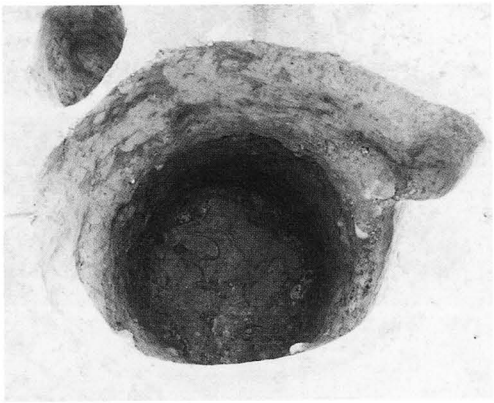


SE12

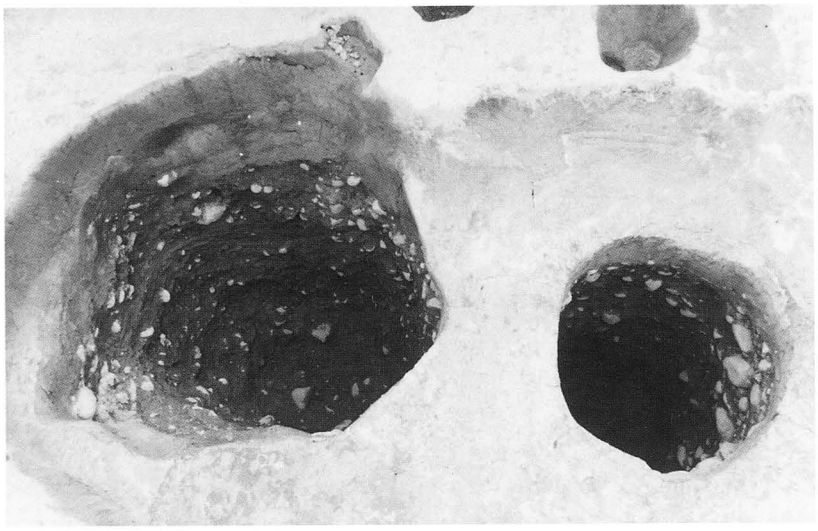
SE13



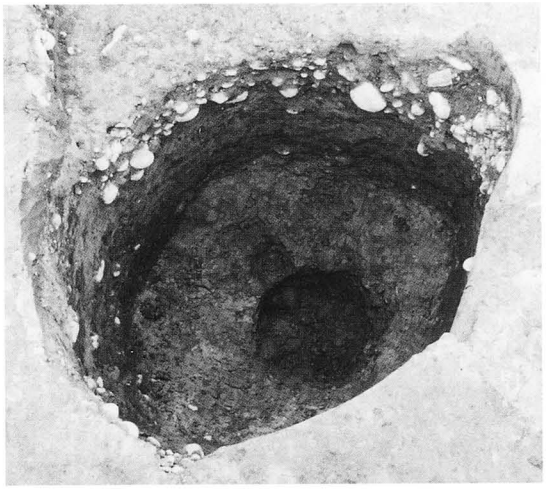
SE17　SE15　SE16



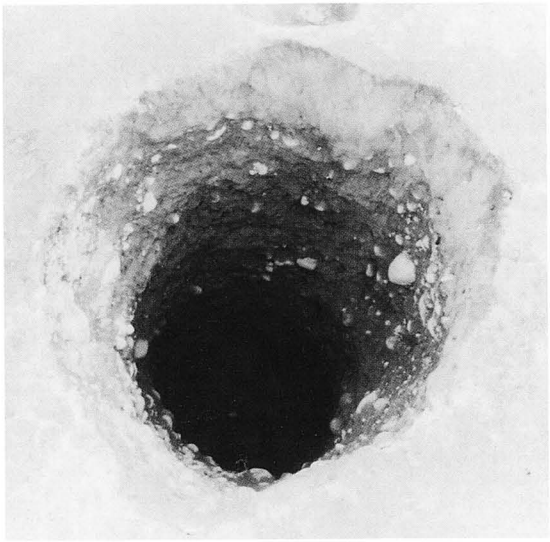
SE18



SE19　SE20

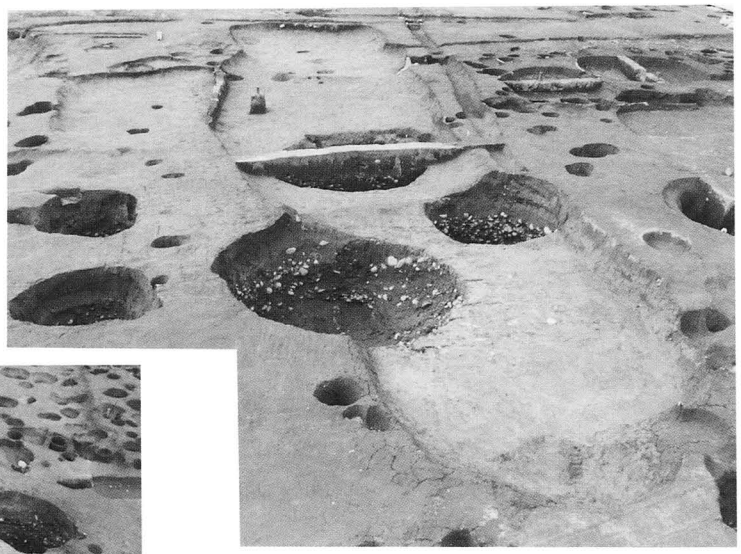


SE21



SE22

SX08



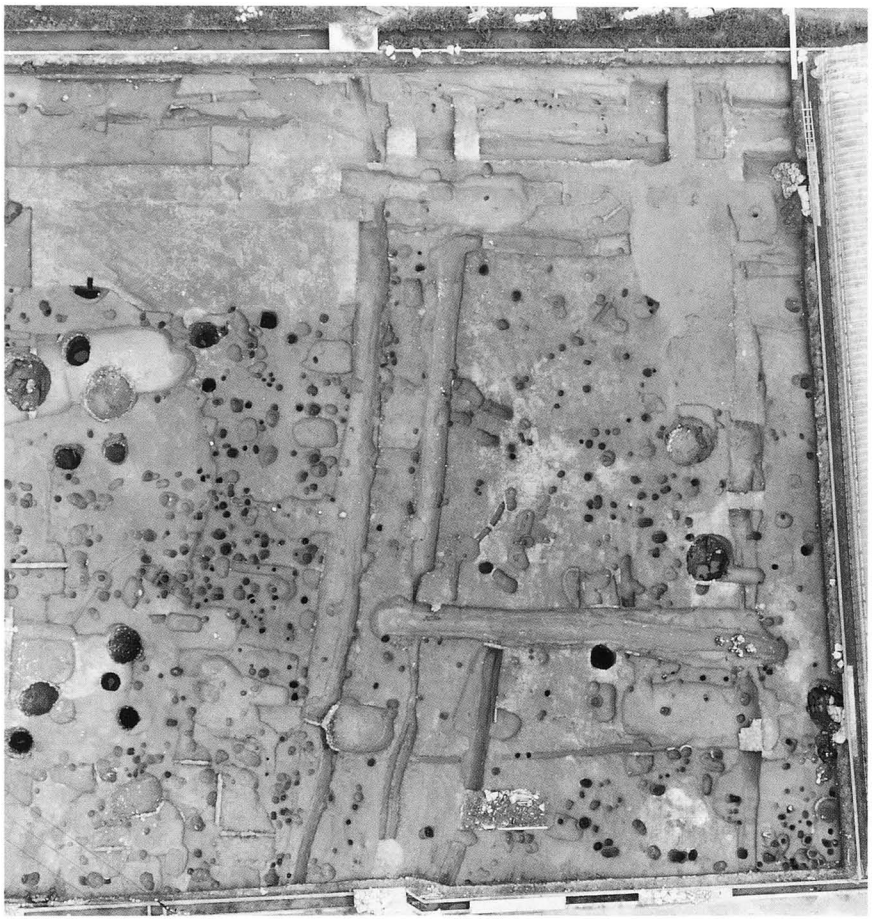
SX09～13・SE09～14（南より）

SX14～20・SE19～23（西より）

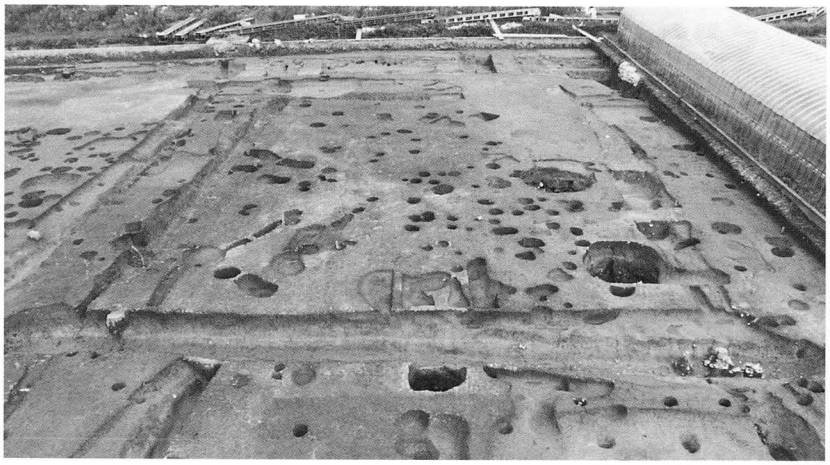
SK05

SK06

SK08



NI区 南・SI区

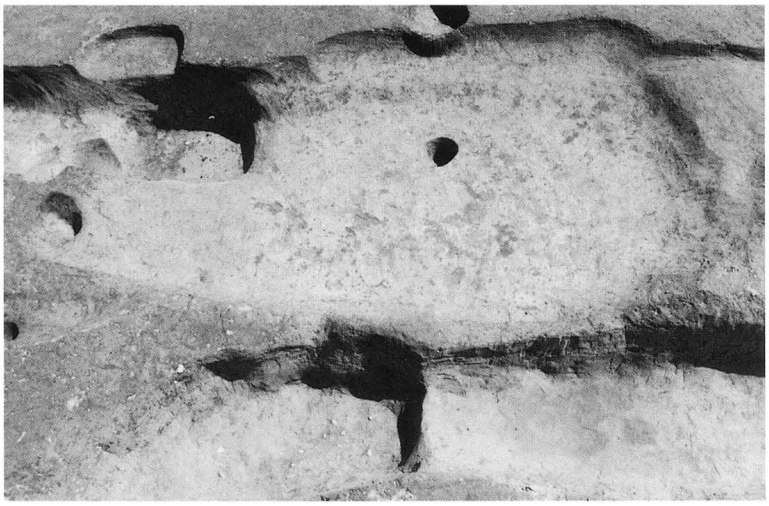


SB22・23・方形型区画溝 SD10・11（西より）

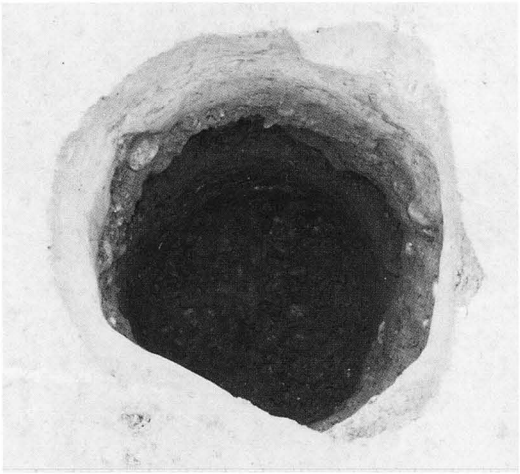
SB24

SD08・SS01（西より）

SE25

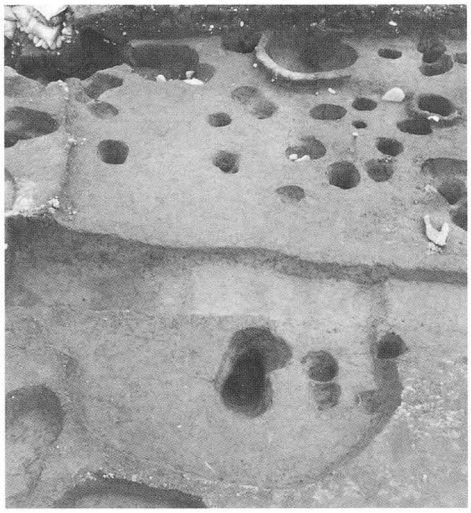


SX21・22

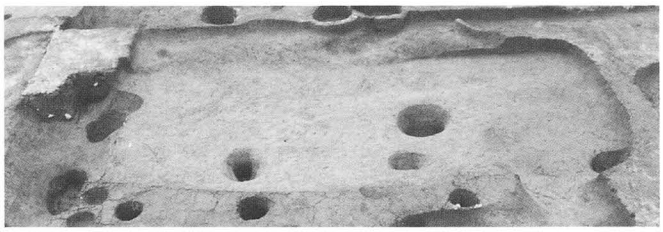


SE26

SX24

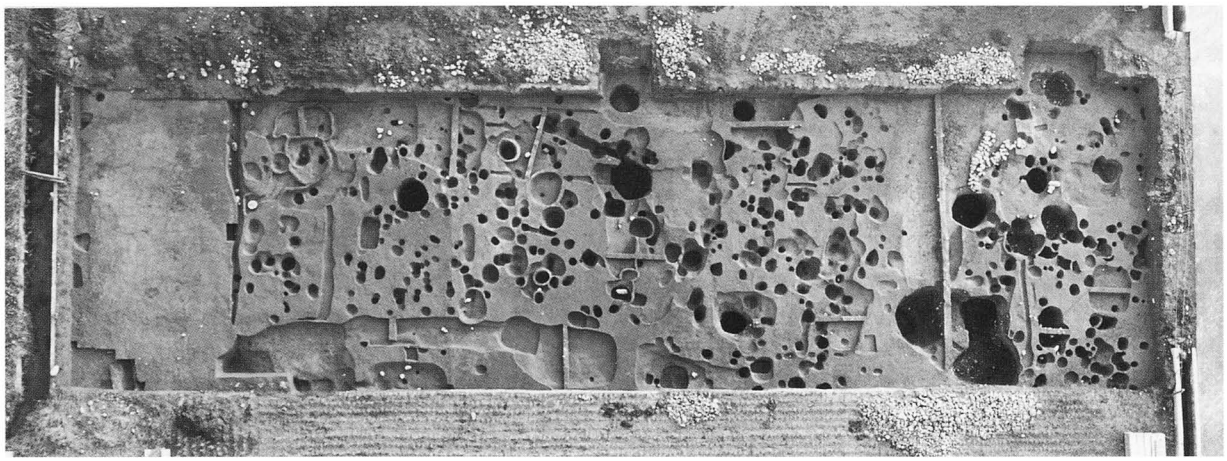


SX26



SX25

SK27

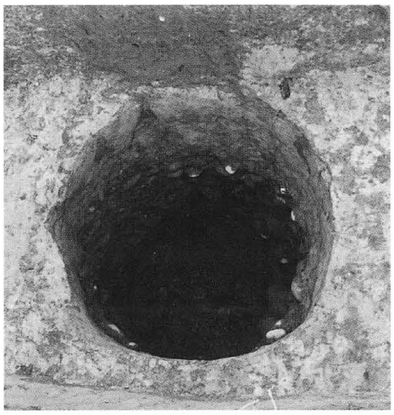


S2区 北（↓北・平成３年度調査区全景）

S2区 南・S3区（西より）

SE27

SE28



SE29

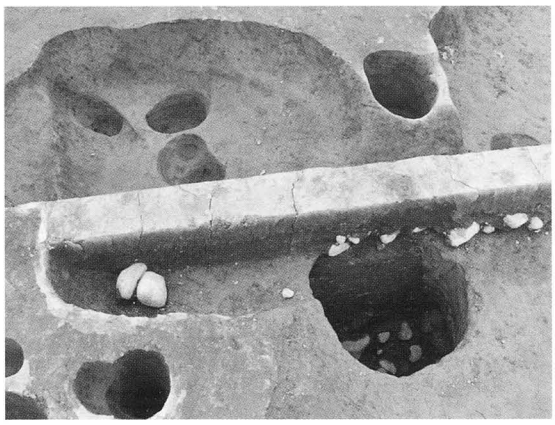
SE30

SE35　SE34

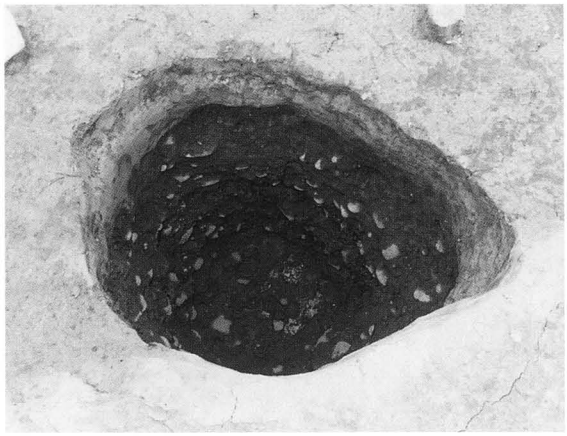
SE36

SE39

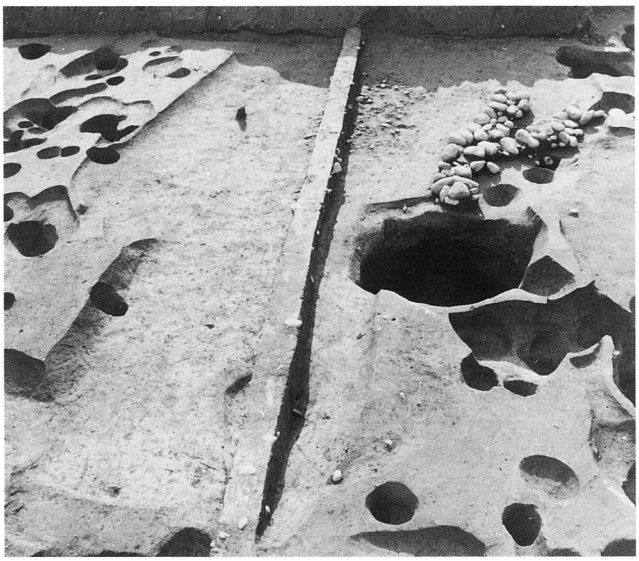
SE38・SK44



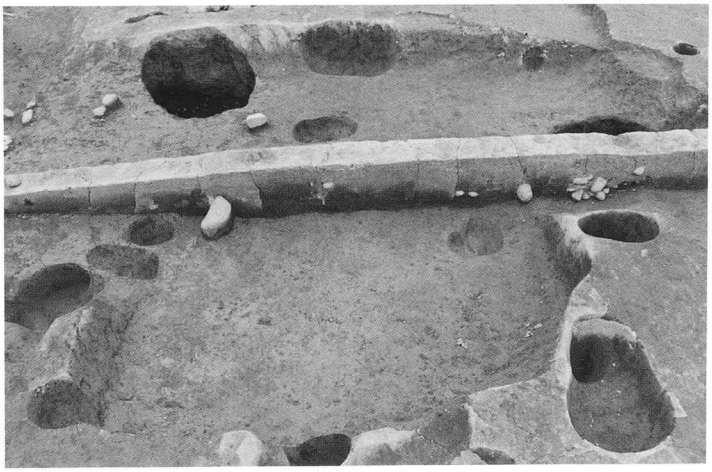
SK45・SE39



SE40



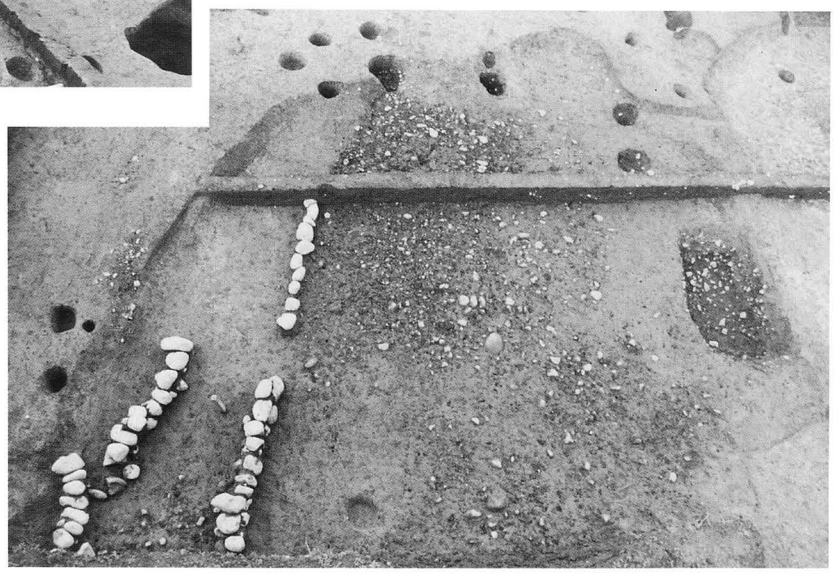
SX27～29（北より）



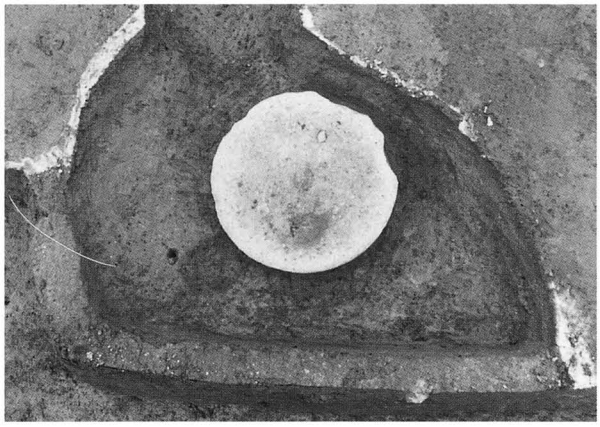
SX33・SK47（下）

SX33～42・SK49（左下）

SX34～46（東より）

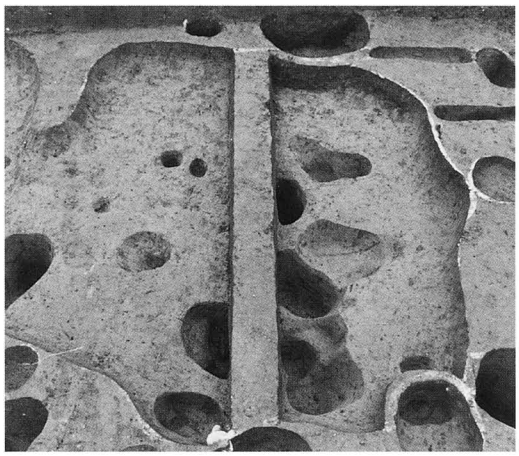


SX43～46
（南より）



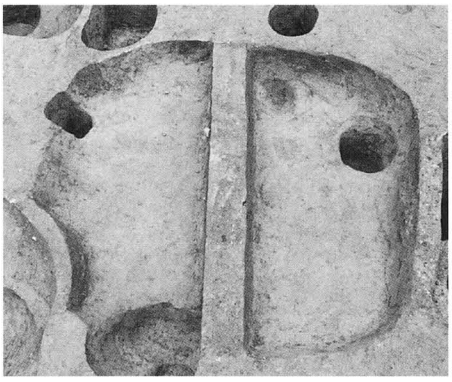
SK32

SK33・34



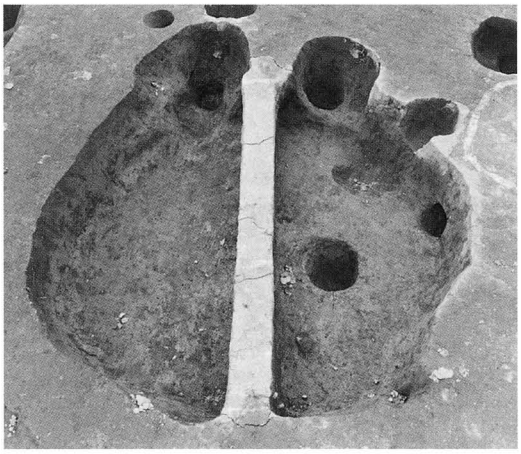
SK35

SK40

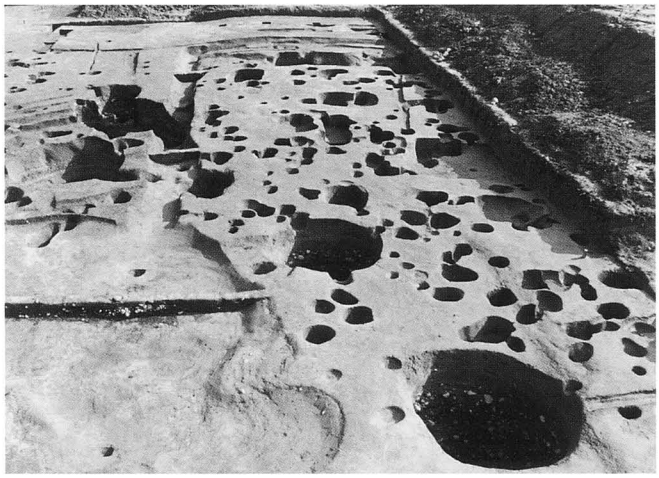


SK41

SK43

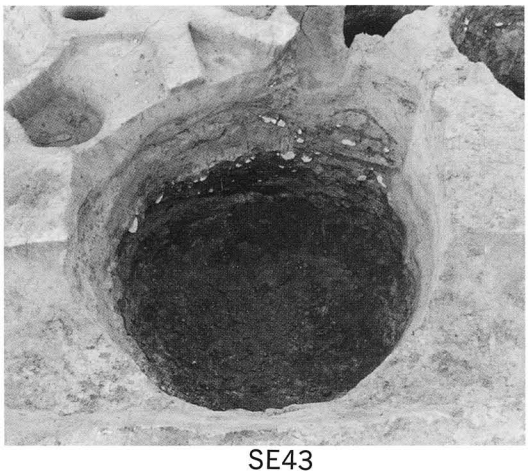


SK45



S3区　SB48～51（西より）

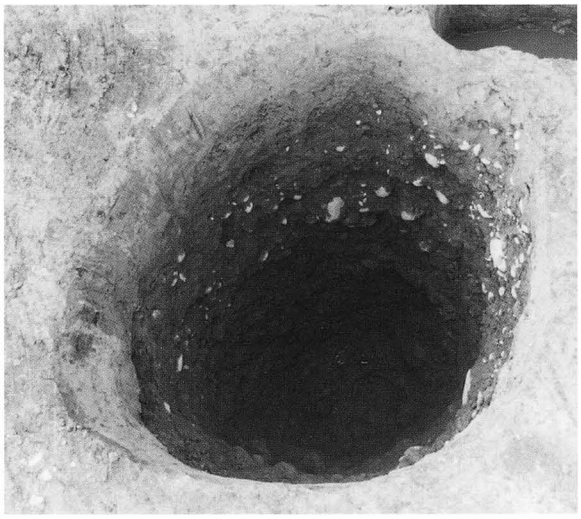
SE42・41



SE43

SE44

SE45



SE48

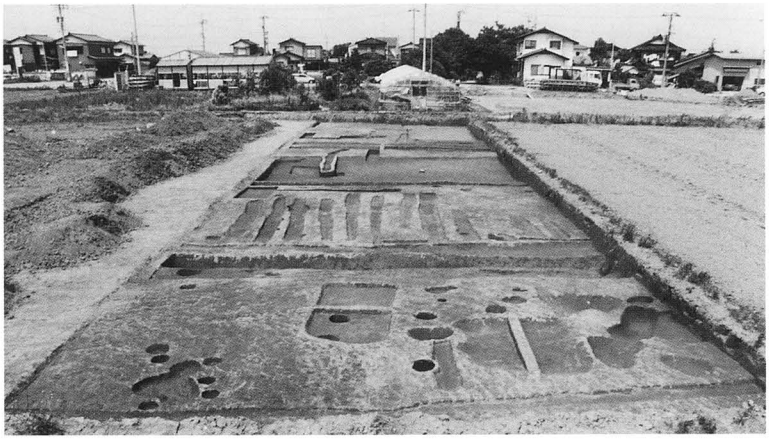
SX47～51（西より）

SK50

SI01

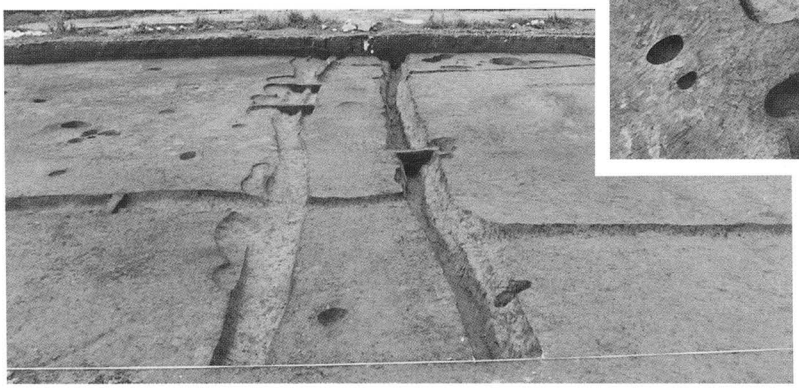
耕作区（北より）、SB52・53

SE49



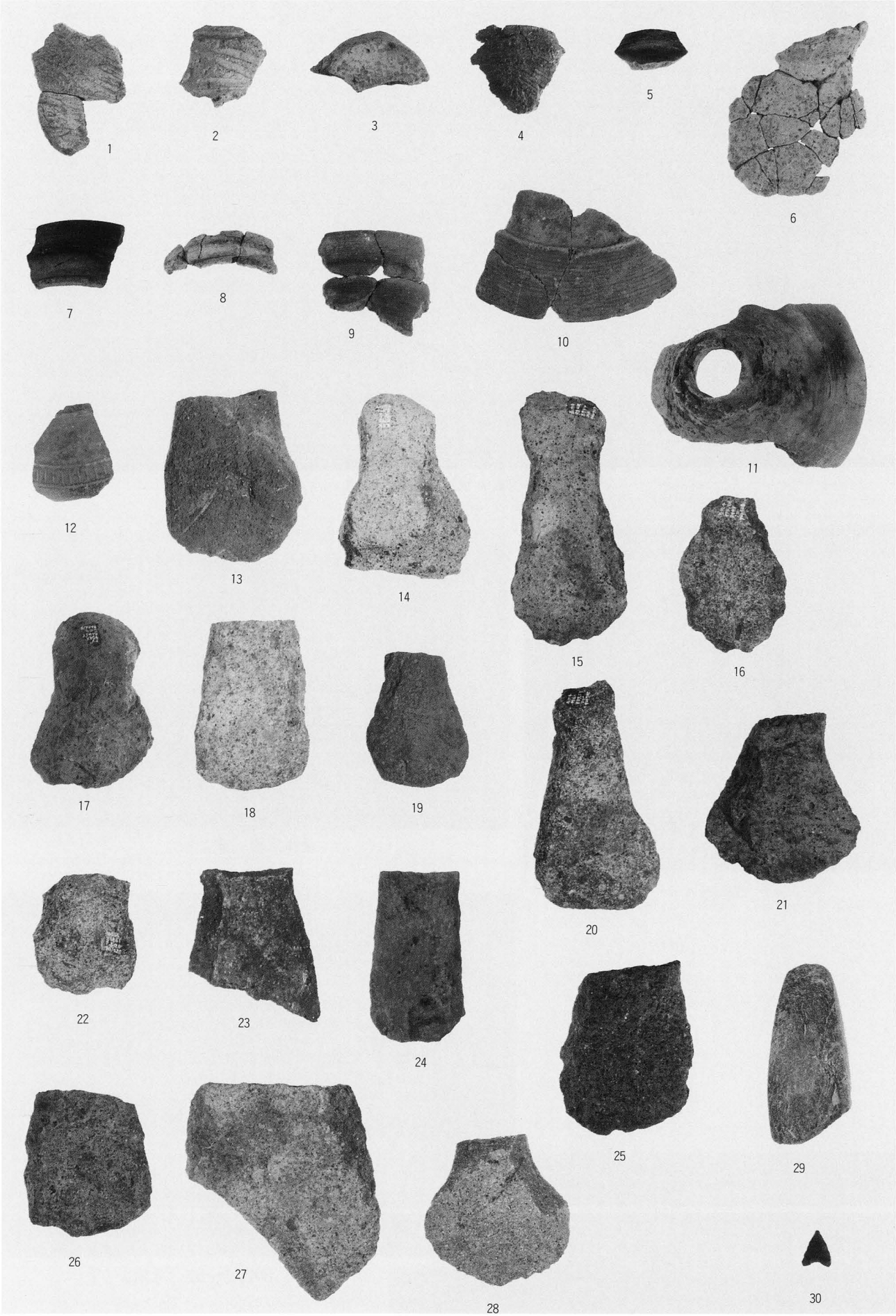
耕作区南（東より）

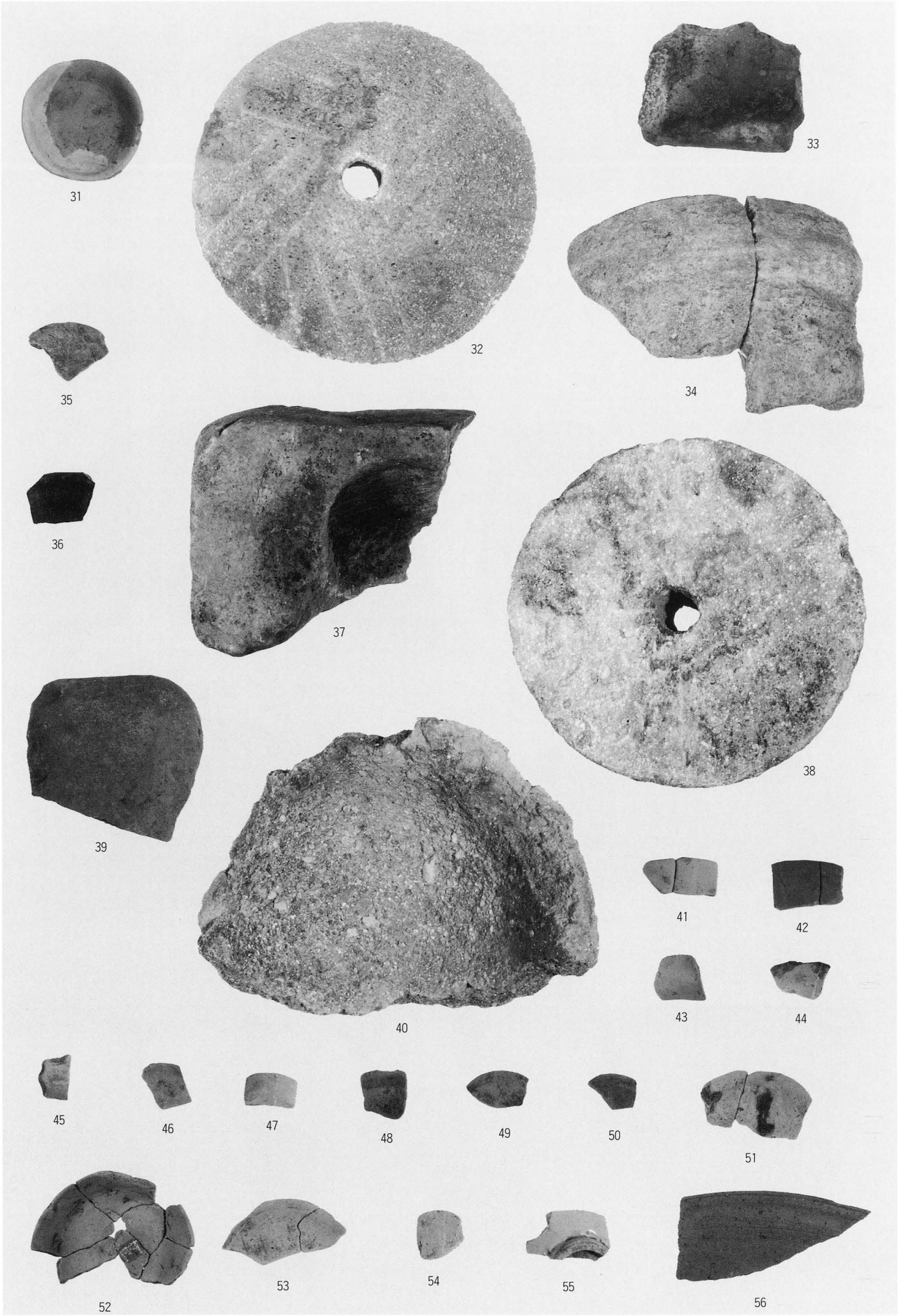
SX53～56（北東より）



SD08・22・SS01（東より）

図版14


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
29
26
27
28
30


31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56

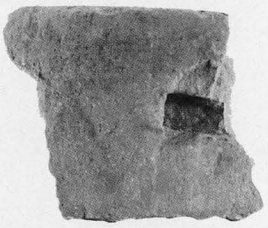
57

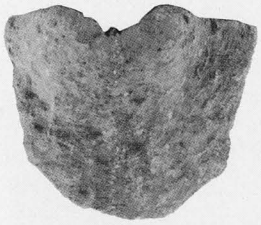
58

59

60

61


62


63

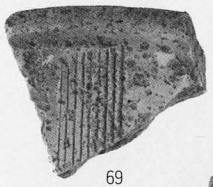
64

65

66

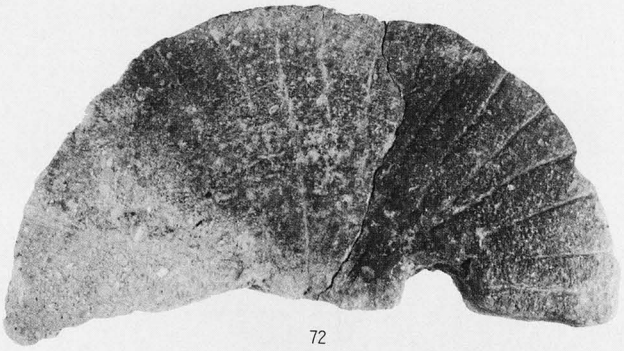
67

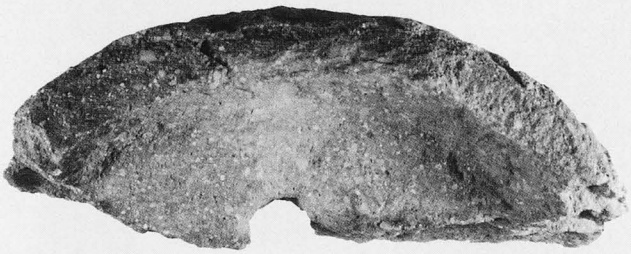
68


69

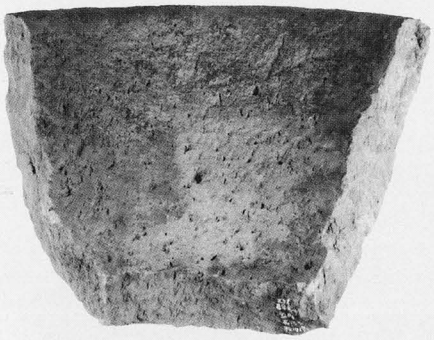
70

71


72


73

74


75

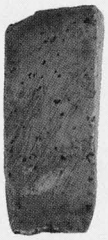
76

77

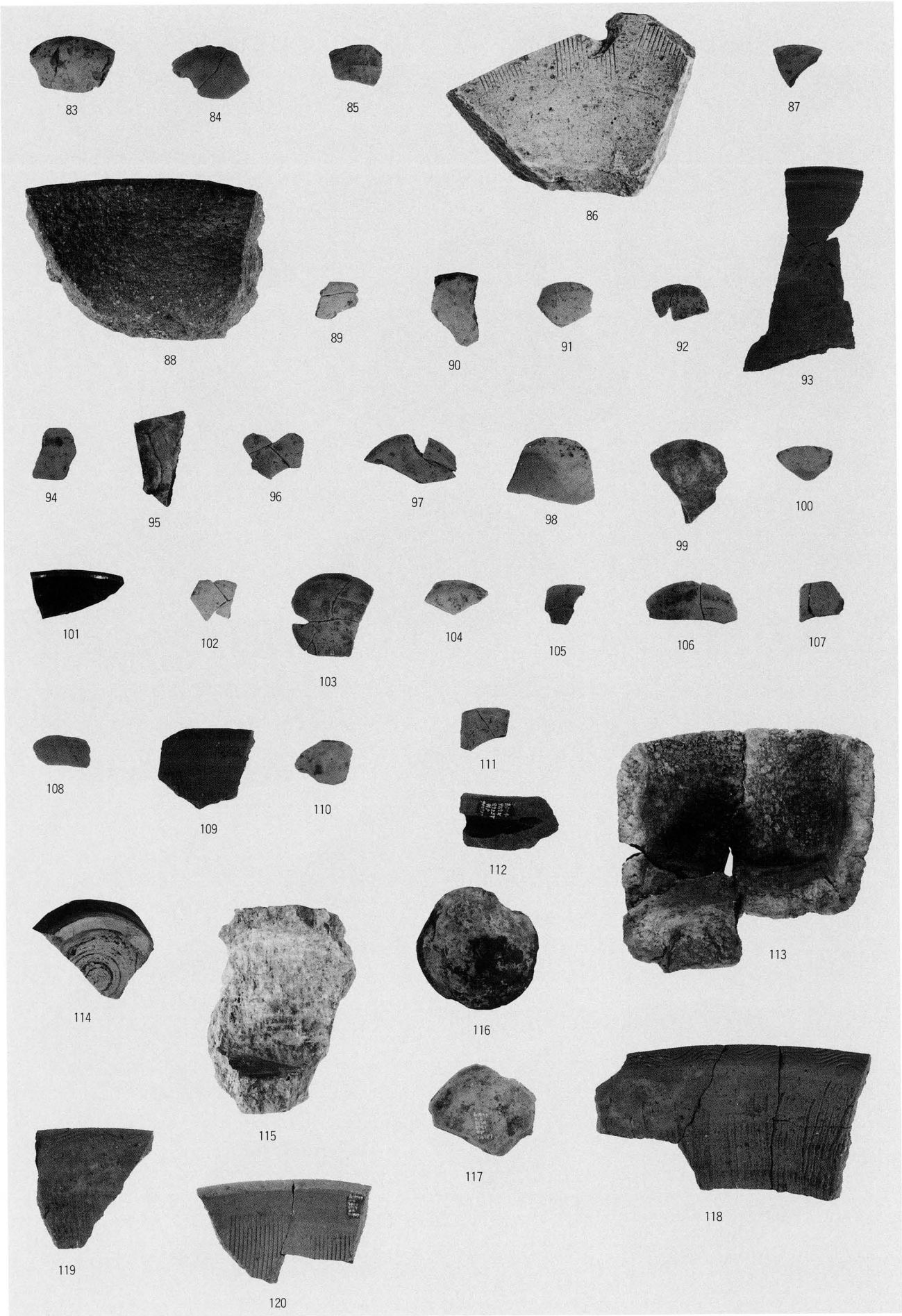
78

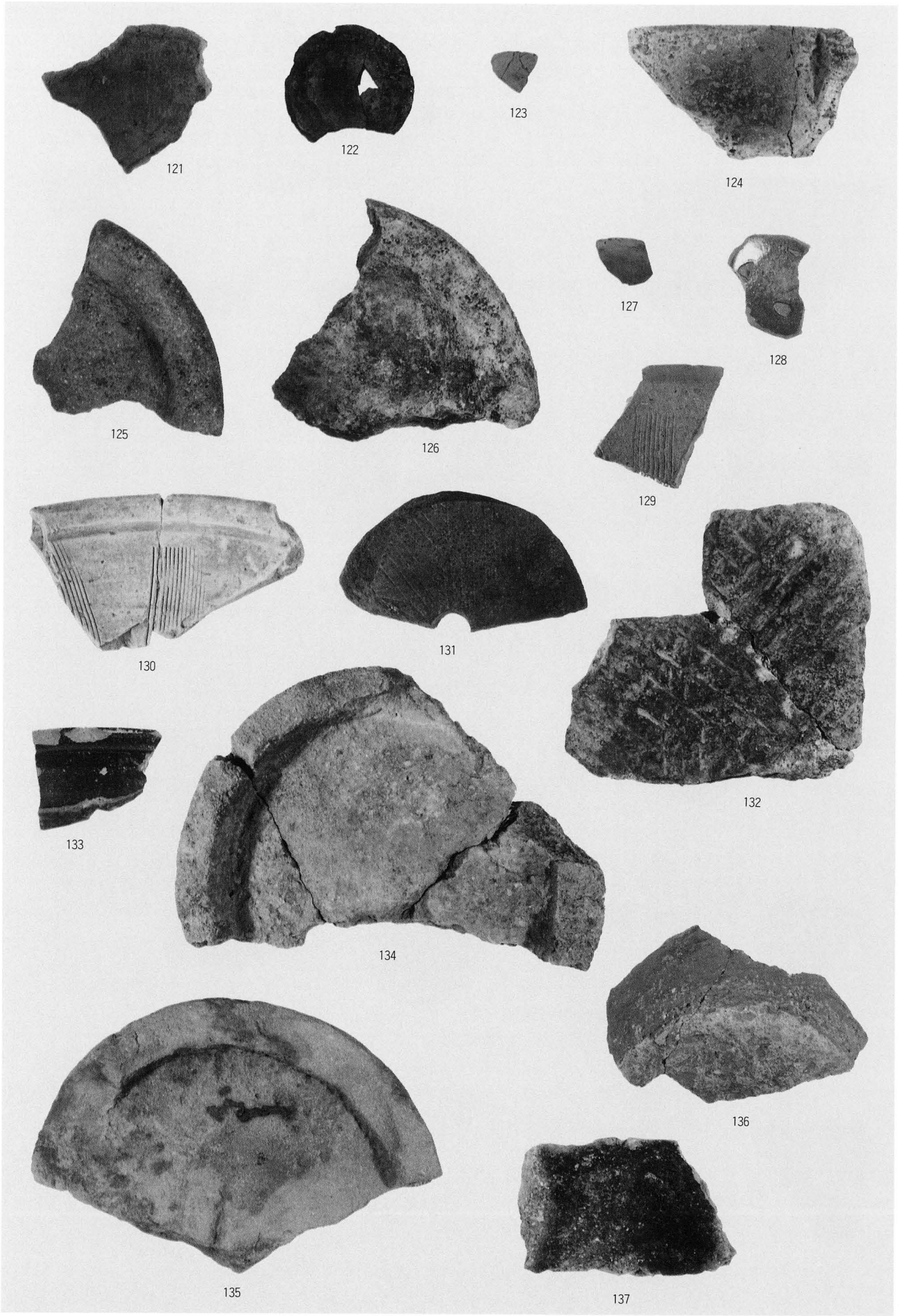
79

80

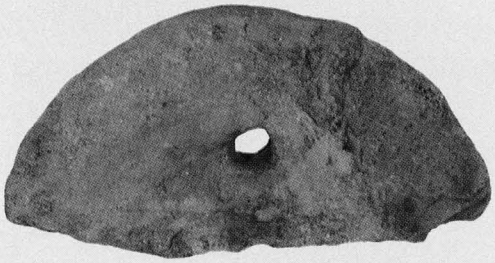

81

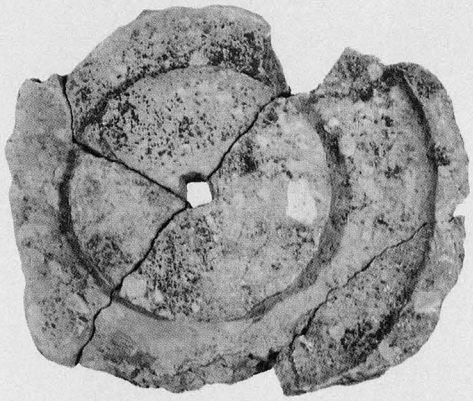
82


83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120

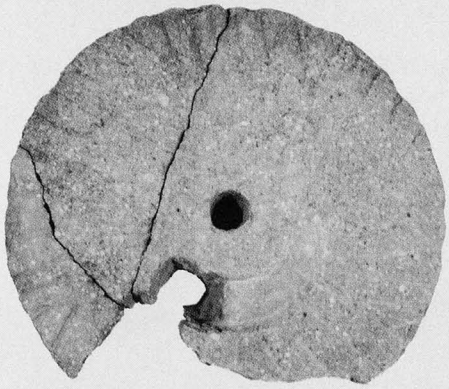

121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137

138


139

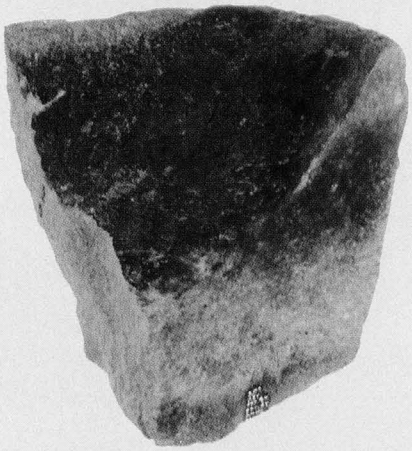

140

141

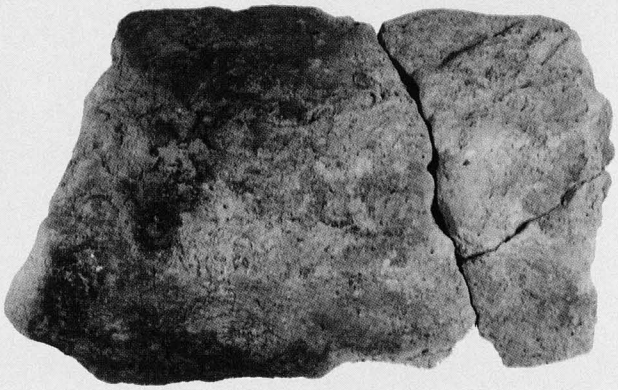

142

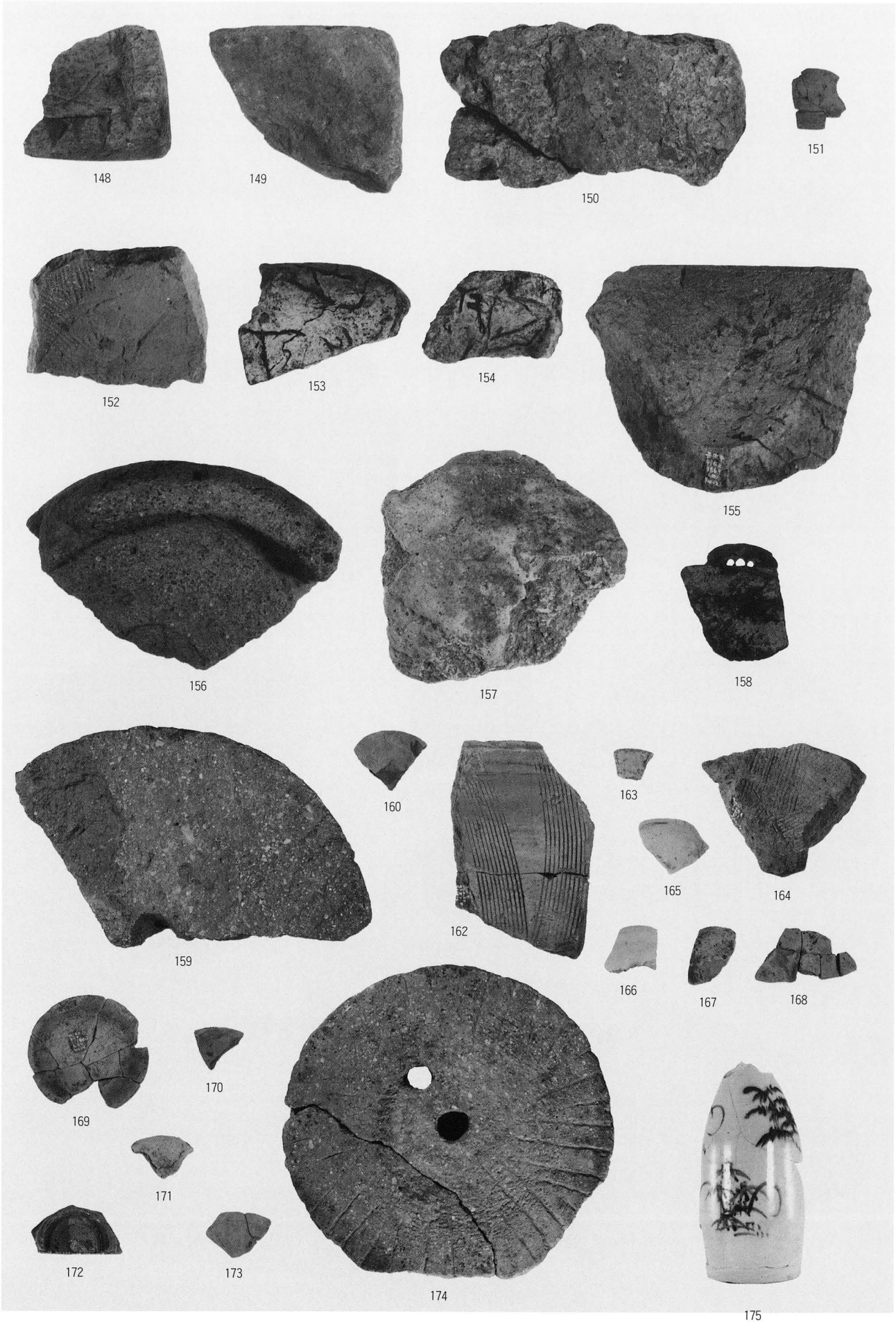
143

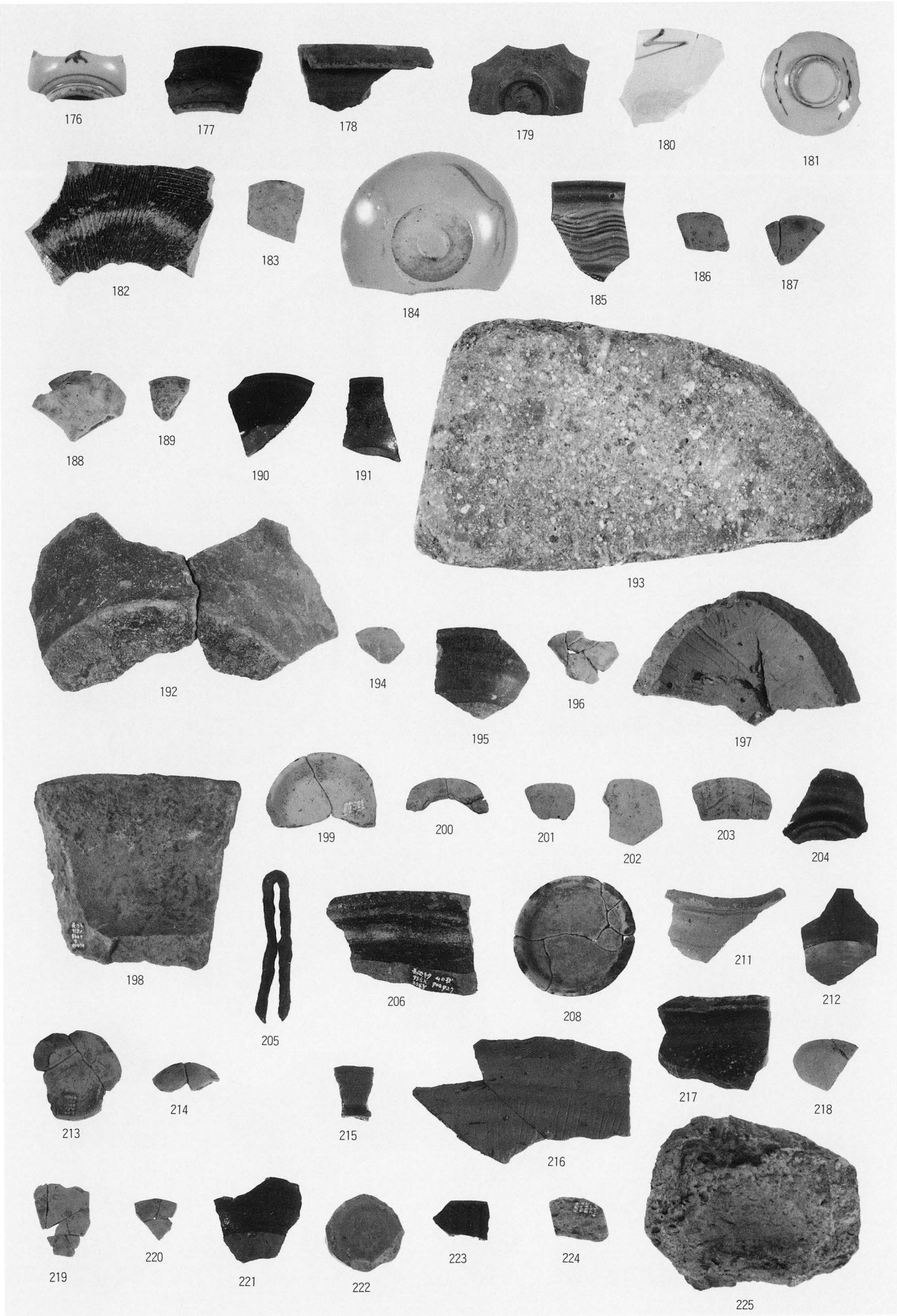
146

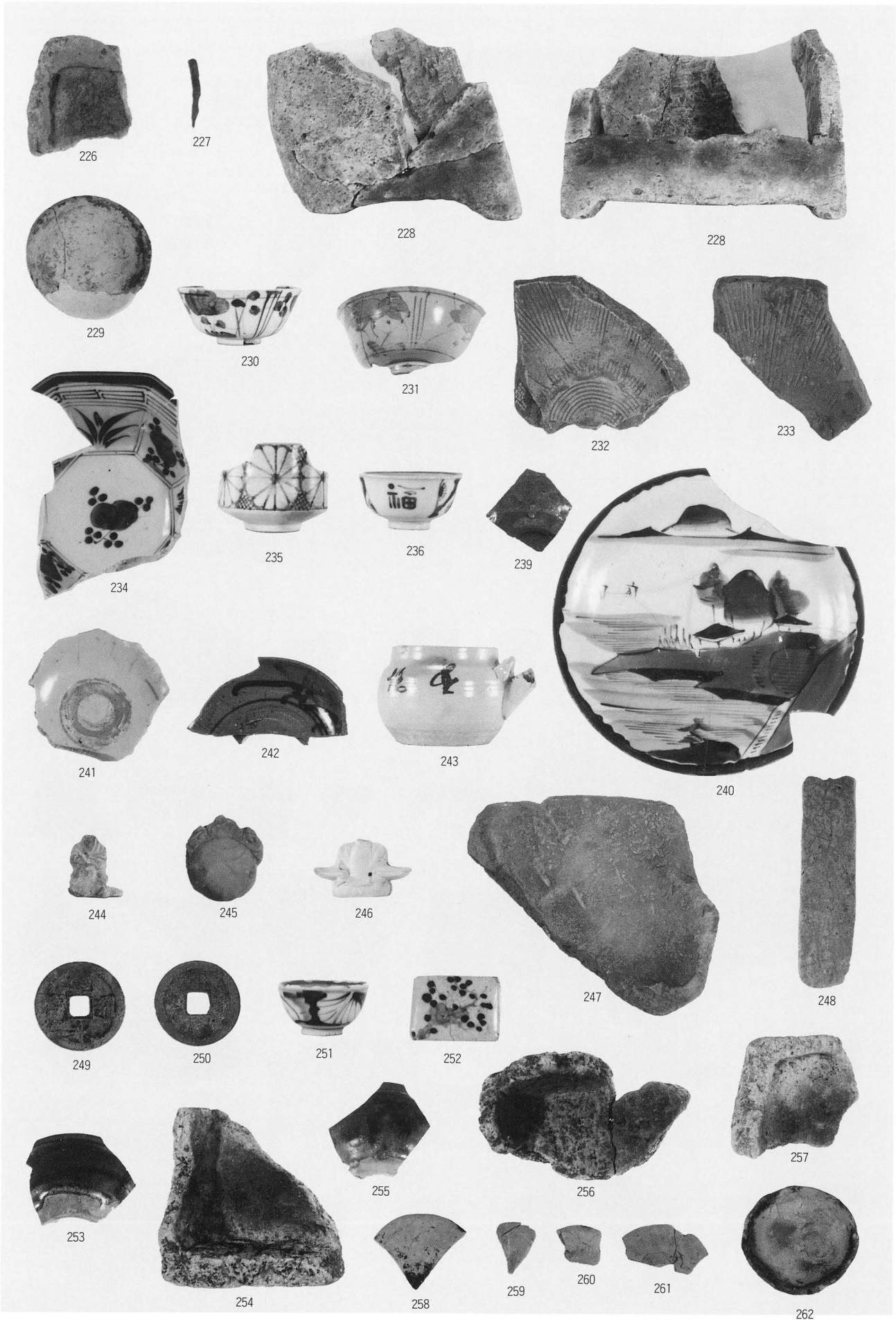

144

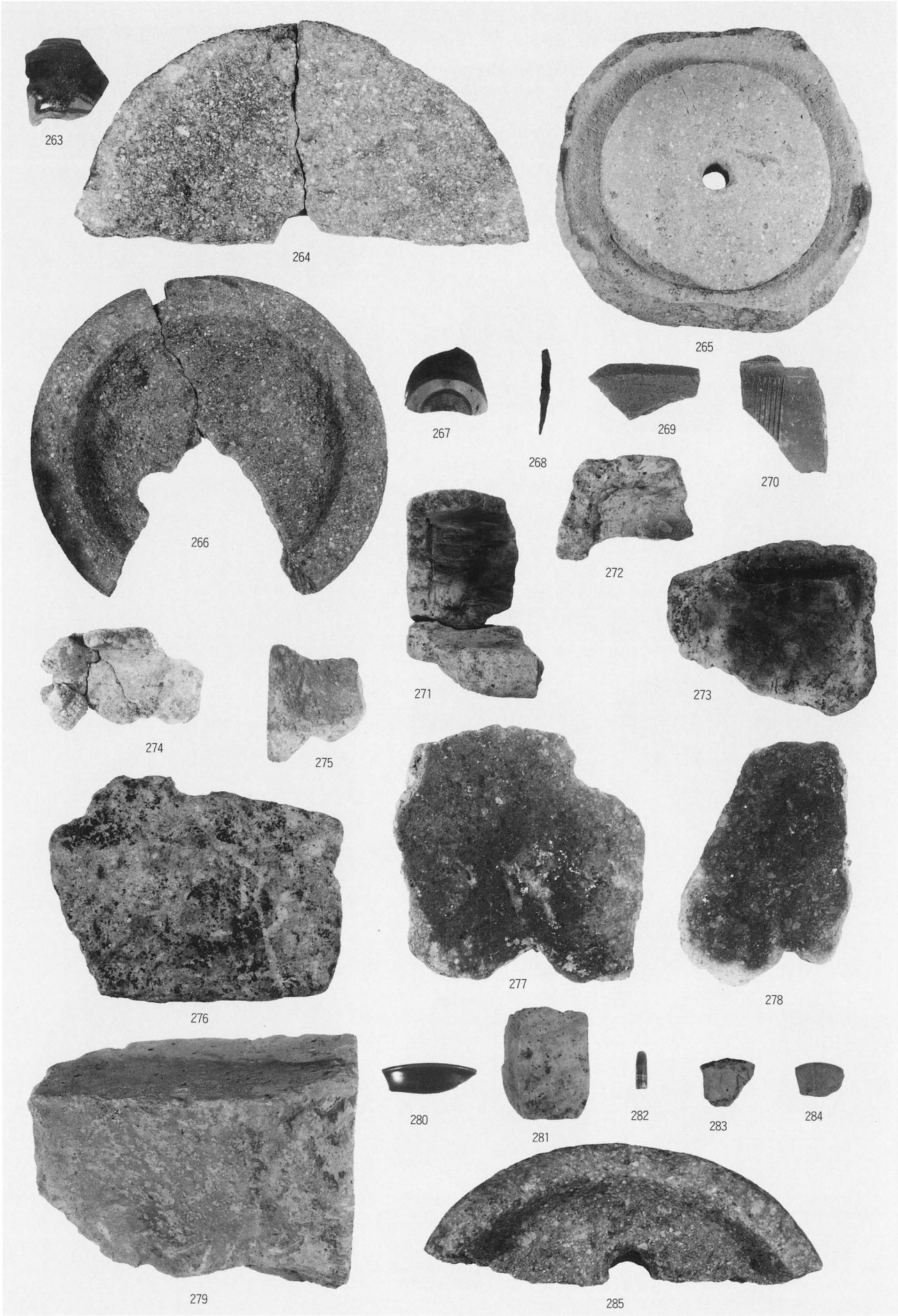
145

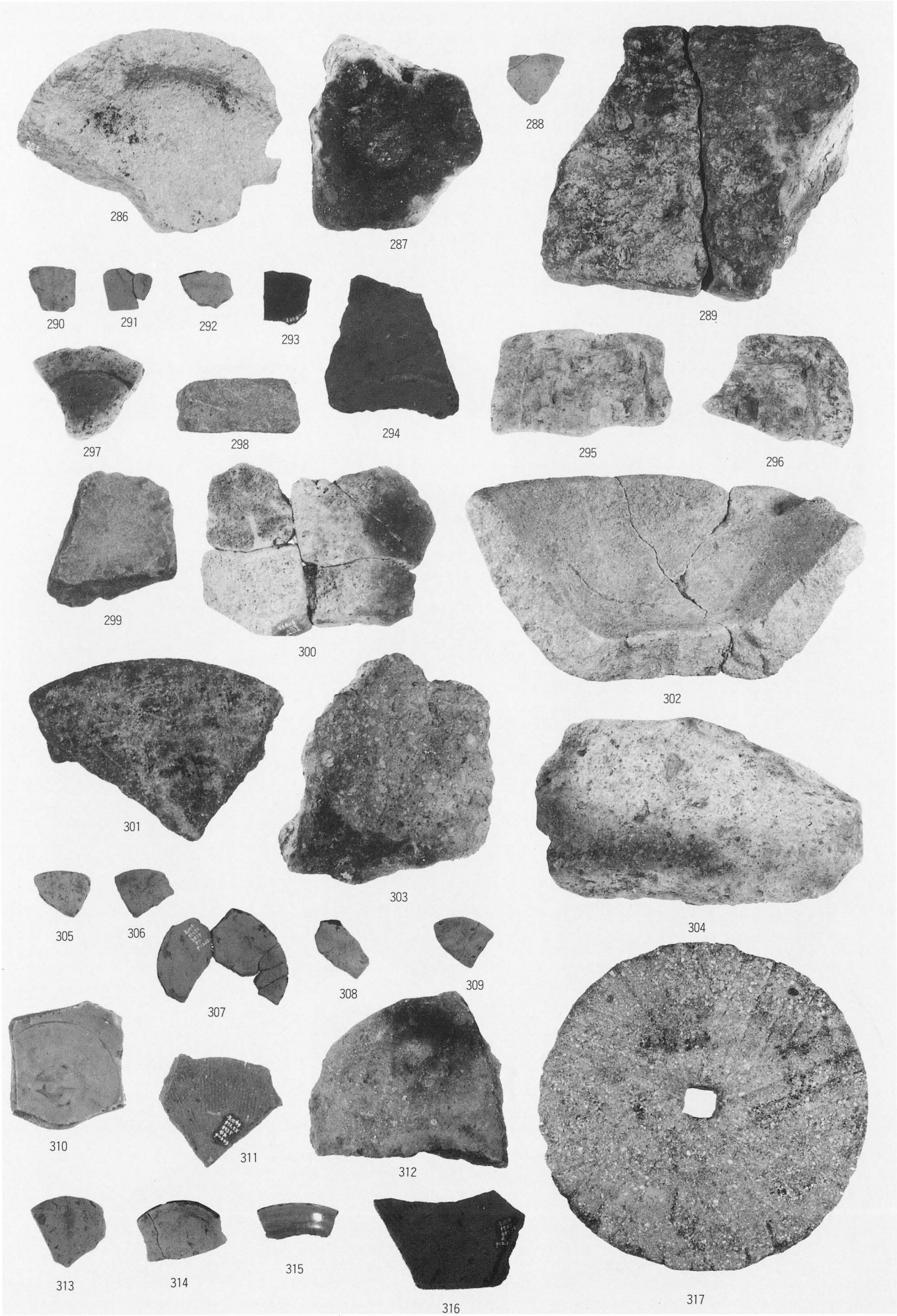

147


148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175

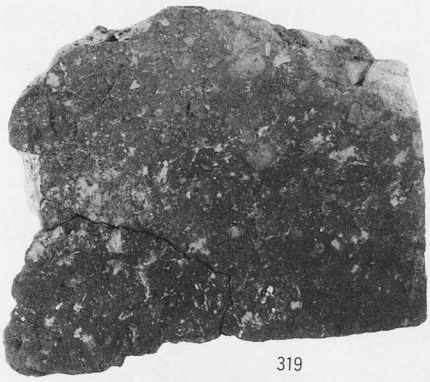

176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
208
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225


226
227
228
228
229
230
231
232
233
234
235
236
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262

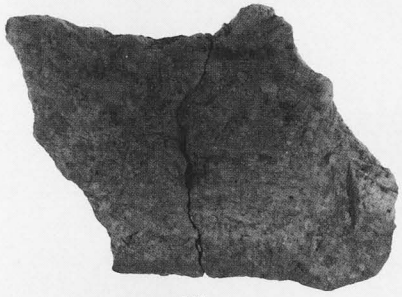

263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285


286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317

318


319

320


321

323

322

322

324

325

326

327

328

329

330

331

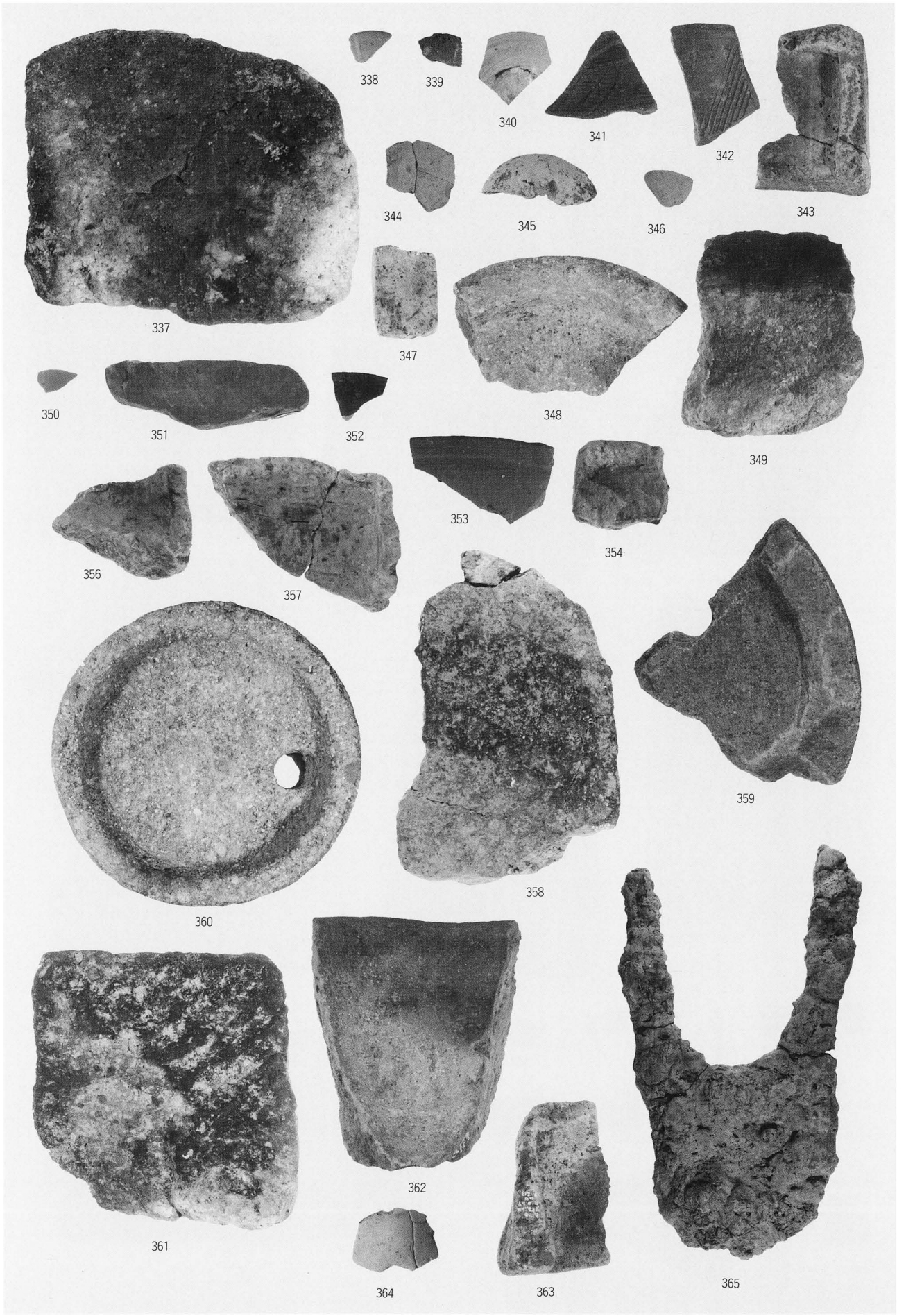
332

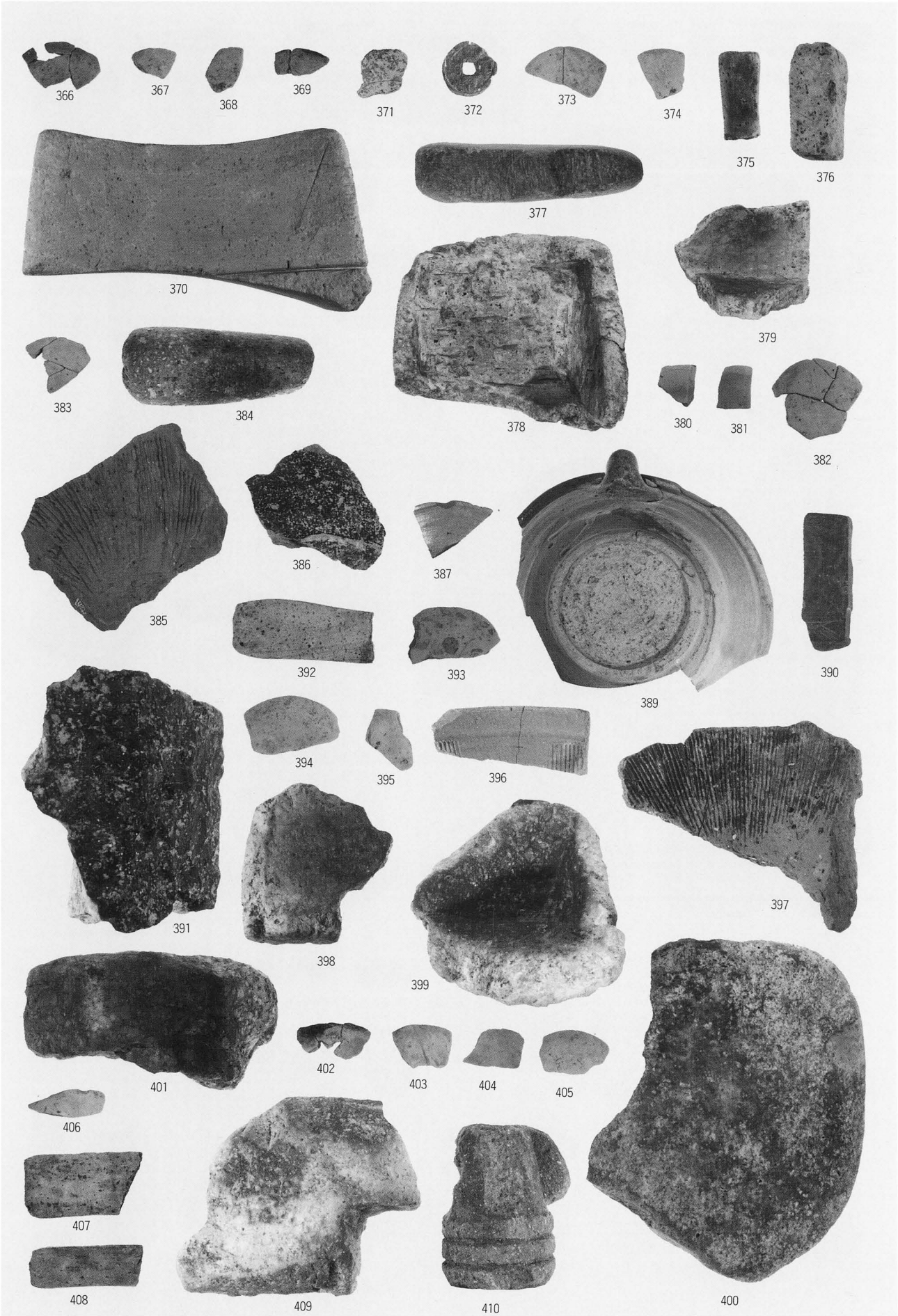
333

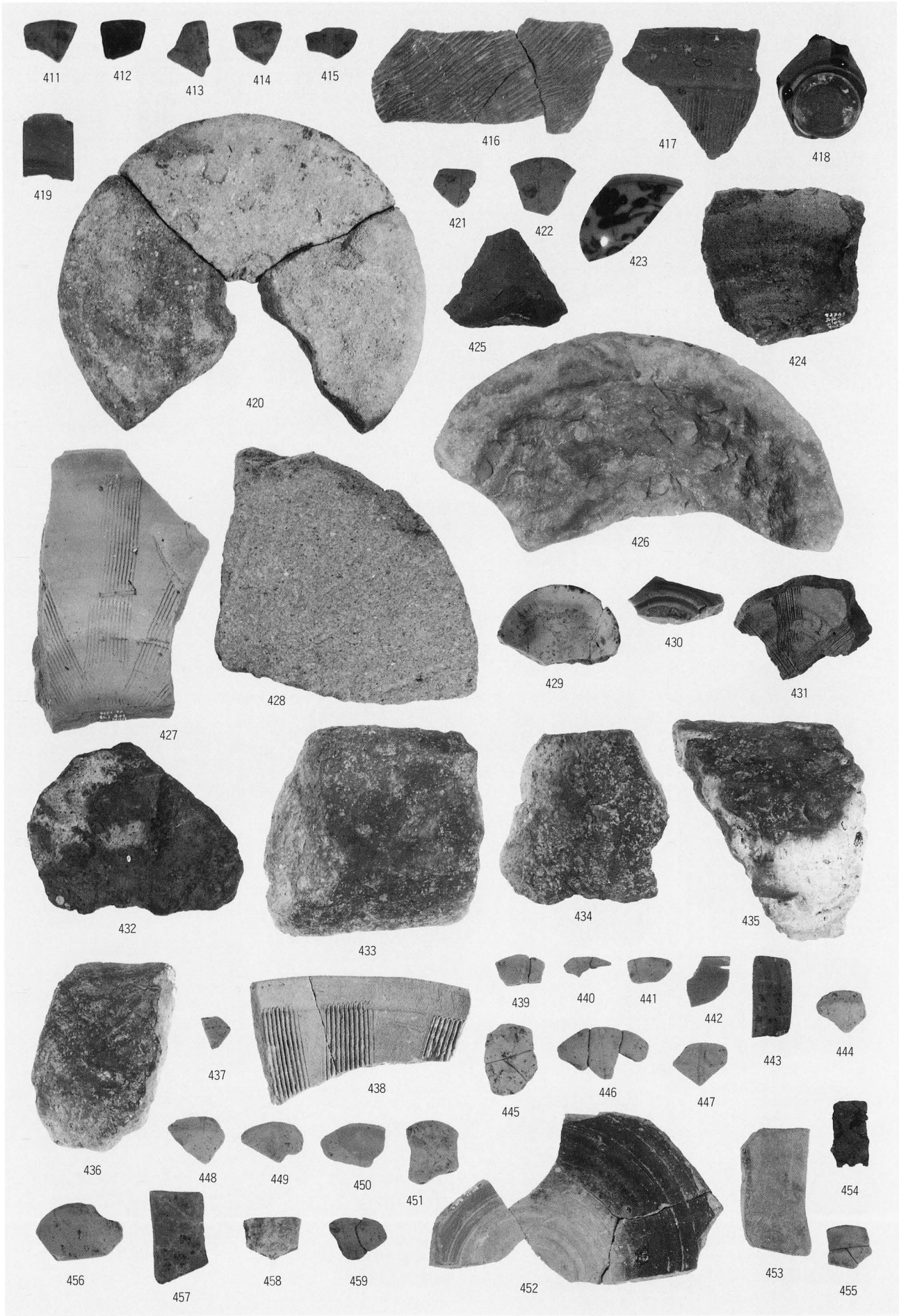
334

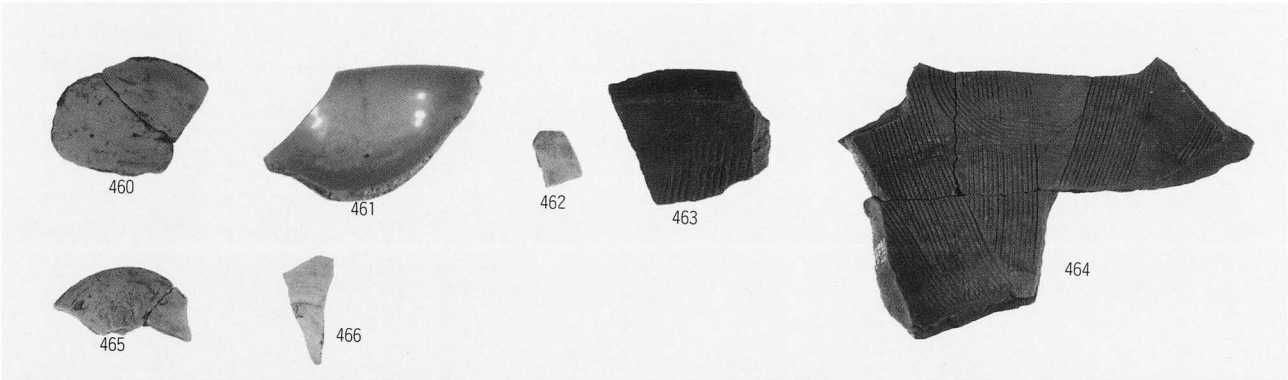
335

336


337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365


366
367
368
369
371
372
373
374
375
376
370
377
379
378
383
384
380
381
382
385
386
387
389
390
392
393
394
395
396
391
397
398
399
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
400


411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459



報　告　書　抄　録

フリガナ	ナガイケ								
書名	長池キタノハシ遺跡								
副書名	御経塚第二土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ								
巻次									
シリーズ名									
編著者名	吉田　淳								
編集機関	石川県野々市町教育委員会								
所在地	〒921-8815 石川県石川郡野々市町本町５丁目４－１　TEL 076-246-2344								
発行年月日	2000年３月31日(平成12年)								
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡No.	°′″	°′″				
ナガイケ 長池キタノハシ	イシカワケンイシカワグン 石川県石川郡 ノノイチマチナガイケマチ 野々市町長池町	17344	16025	36度 32分 22秒	136度 35分 55秒	1990年 5月17日～12月13日 1991年10月29日～12月16日	4000m² 420m²	土地区画整理事業に係る緊急発掘調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項		
長池キタノハシ	その他	縄文				土器、打製石斧	集落地と耕作地が区分され、集住化する中世後期の農村集落遺跡。		
	集落	弥生	竪穴建物3			土器			
	集落	中世	掘立柱建物53　井戸47 竪穴状遺構56　柵列5 土坑51　溝25　道1			土師器、青磁、白磁、陶器 石臼、行火、石鉢、砥石 囲炉裏縁石			
	その他	近世～近代	土坑6　溝3			陶磁器、銭貨			

長池キタノハシ遺跡

発　　行　　2000年３月31日（平成12年）
編集発行　　野々市町教育委員会
〒921-8815
石川県石川郡野々市町本町５丁目4－1
印　　刷　　株式会社　笠間製本印刷所